

550.9-Se72ㄗ



1200500746470

5509  
72



始



221

A-677

14  
65

550.9  
SE 72

船舶安全法關係法令集

東京 大矢書店 發兌

目次

船舶安全法(昭和八年法律第十一號).....一頁

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定施行期日ノ件(昭和九年二月勅令第十二號).....七

船舶安全法施行令(昭和九年二月勅令第十三號).....七

船舶安全法施行規則(昭和九年二月遞信省令第四號).....九

船舶安全法施行規則ニ外國船舶ニ準用ノ件(昭和九年二月遞信省令第五號).....五二

船舶設備規程(昭和九年二月遞信省令第六號).....五三

船舶滿載吃水規程(昭和九年二月遞信省令第七號).....五二

船舶區畫規程(昭和九年二月遞信省令第八號).....九二

木船構造規程(昭和九年二月遞信省令第九號).....一三五

船舶構造規程(昭和九年二月遞信省令第十號).....一三五

造船規程中改正(昭和九年二月遞信省令第十一號).....一五九

危險物船舶運送及貯藏規則(昭和九年二月遞信省令第十四號).....一一五

明治三十二年省令第十九號(商法第五百六十二條ニ掲グル書類)中改正(昭和九年二月遞信省令第十五號).....一三〇

救命艇手適任證書交付規則(昭和九年二月遞信省令第十六號).....一三三

船用品取締規則(昭和九年二月遞信省令第十七號).....一三五

船用品檢查試驗規則中改正(昭和九年二月遞信省令第十八號).....一四五

船燈試驗規程(昭和九年二月遞信省令第十九號).....一四八



信號器試驗規程(昭和九年二月遞信省令第二十號)……………二六六

救命器具試驗規程(昭和九年二月遞信省令第二十一號)……………二六七

消火器試驗規程(昭和九年二月遞信省令第二十二號)……………二七九

火災警報裝置試驗規程(昭和九年二月遞信省令第二十三號)……………二八一

防毒面試驗規程(昭和九年二月遞信省令第二十四號)……………二八六

船舶法施行細則中改正(昭和九年二月遞信省令第二十七號)……………二八八

遠洋航路補助法施行細則中改正(昭和九年二月遞信省令第二十八號)……………二八八

船用品検査試驗規則中改正(昭和九年二月遞信省令第二十九號)……………二八八

漁船特殊規則(昭和九年二月遞信省令)……………二八九

漁船特殊規則(昭和九年二月遞信省令)……………二九〇

船舶氣象觀測報告規則(昭和九年二月遞信省令第一號)……………三〇九

船舶職員法中改正(昭和八年法律第十二號)……………三一

昭和八年法律第十二號(船舶職員法中改正)施行期日ノ件(昭和九年二月勅令第十八號)……………三一三

船舶職員法施行細則中改正(昭和九年二月遞信省令第二十五號)……………三一五

船舶職員試驗規程中改正(昭和九年二月遞信省令第二十六號)……………三二四

海事諸法臺灣施行令中改正(昭和九年二月勅令第十四號)……………三二九

法律

朕帝國議會ノ協贊ヲ經テル船舶安全法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和八年三月十四日

法律第十二號(官報 昭和八年三月十五日)

船舶安全法

第一條 日本船舶ハ本法ニ依リ其ノ堪航性ヲ保持シ且人命ノ安全ヲ保持スルニ必要ナル施設ヲ爲スニ非ザレバ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第二條 船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 船體

二 機關

三 帆裝

四 排水設備

昭和八年三月 法律 第十二號 船舶安全法

五 操舵、繫船及揚錨ノ設備

六 救命及消防ノ設備

七 居住設備

八 衛生設備

九 航海用具

十 危險物其ノ他ノ特殊貨物ノ積附設備

十一 荷役其ノ他ノ作業ノ設備

十二 電氣設備

十三 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ定ムル事項

前項ノ規定ハ左ニ掲グル船舶ニハ之ヲ適用セズ

一 總噸數五噸未満ノ船舶

二 權限ヲ以テ運轉スル舟其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ定ムル船舶

第三條 遠洋區域ヲ航行スル船舶又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數百五十噸以上ノ船舶ハ命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス但シ漁獵、曳船、海難救助、淺濶又ハ測量ニノミ使用スル船舶其ノ他主務大臣ニ於テ特ニ滿載吃水線ヲ標示スル必要ナシト認ムル船舶ハ此ノ限

ニ在ラズ

第四條 左ニ掲グル船舶ハ無線電信法ニ依ル無線電信ヲ施設スルコトヲ要ス

一 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル總噸數千六百噸以上ノ船舶

二 遠洋區域又ハ近海區域ヲ航行スル旅客船(十二人ヲ超ユル旅客定員ヲ有スル船舶)

三 總噸數百噸以上ノ漁船

前項ノ規定ニ依リ無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ト雖モ航海ノ目的其ノ他ノ事情ニ依リ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ之ヲ施設スルコトヲ要セズ

第五條 船舶所有者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項各號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線、第四條ノ船舶ニ付無線電信ニ關シ命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ區別ニ依ル検査ヲ受クベシ

一 初メテ航行ノ用ニ供スルトキ又ハ第十條ニ規定スル有効期間滿了シタルト

キ行フ精密ナル検査(定期検査)  
 二 定期検査ト定期検査トノ中間ニ於テ命令ノ定ムル時期ニ行フ簡易ナル検査(中間検査)  
 三 臨時ニ特殊ノ用途ニ使用スルトキ行フ検査(特殊船舶検査)  
 四 前各號ノ外主務大臣ニ於テ特ニ必要アリト認メタルトキ行フ検査(臨時検査)

主務大臣ハ命令ノ定ムル所ニ依リ中間検査ヲ受クルコトヲ免除スルコトヲ得

第六條 本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル以上ノ船舶ノ製造者ハ第二條第一項ノ規定ノ適用アル船舶ニ付同條第一項第一號、第二號及第四號ニ掲グル事項、第三條ノ船舶ニ付滿載吃水線ニ關シ船舶ノ製造ニ著手シタル時ヨリ検査製造検査ヲ受クベシ但シ主務大臣ニ於テ已ムコトヲ得ズ又ハ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

本法施行地ニ於テ製造スル長サ三十メートル未滿ノ船舶ノ製造者ハ其ノ船舶ニ付

命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ製造検査ヲ受クルコトヲ得

本法施行地ニ於テ製造スル船舶用機關ノ製造者ハ備附クベキ船舶ノ特定前ト雖モ其ノ機關ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ検査ヲ受クルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ検査ニ合格シタル事項ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ前條ノ検査ヲ省略ス

第七條 第五條又ハ前條第一項若ハ第二項ノ規定ニ依リ検査ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

前條第三項ノ規定ニ依リ検査ハ船舶用機關ノ所在地ヲ管轄スル管海官廳之ヲ行フ

第八條 主務大臣ノ認定シタル日本ノ船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)ノ検査ヲ受ケ船級ノ登録ヲ爲シタル船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノハ其ノ船級ヲ有スル間第二條第一項第一號乃至第五號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項及滿載吃水線ニ關シ管海官廳ノ検査ヲ受ケ之ニ合格シ

タルモノト看做ス

第九條 管海官廳ハ定期検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ其ノ航行區域(漁船ニ付テハ從業制限)、最大搭載人員、制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ヲ定メ船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ特殊船舶検査ニ合格シタル船舶ニ對シテハ特殊船舶検査證書ヲ交付ス

管海官廳ハ第六條ノ規定ニ依リ検査ニ合格シタル船舶又ハ船舶用機關ニ對シテハ合格證明書ヲ交付ス

前條ノ船舶ニ付船級協會ノ定メタル制限汽壓及滿載吃水線ノ位置ハ管海官廳ニ於テ之ヲ定メタルモノト看做ス

第十條 船舶検査證書ノ有効期間ハ四年トス但シ命令ヲ以テ定ムル小形船ニ付テハ四年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間トス

船舶検査證書ハ主務大臣ノ特ニ定ムル場合ニ於テハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

船舶検査證書ハ中間検査又ハ臨時検査ニ

合格セザル船舶ニ付テハ之ニ合格スル迄其ノ效力ヲ停止ス

第八條ノ船舶ノ受有スル船舶検査證書ハ其ノ船舶ガ當該船級ノ登録ヲ抹消セラレ又ハ旅客船ト爲リタルトキハ其ノ有效期間滿了ス

第十一條 船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケタル者検査ニ對シ不服アルトキハ其ノ事由ヲ具シ主務大臣ニ再検査ヲ申請スルコトヲ得

再検査ヲ申請シタル者ハ主務大臣ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ關係部分ノ原狀ヲ變更スルコトヲ得ズ

第十二條 管海官廳ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ船舶ニ臨檢セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スベキ證書ヲ携帯スベシ

管海官廳ハ本法ニ違反シタル事實アリト認ムルトキハ船舶ノ航行停止其ノ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條 船舶乗組員二十人未滿ノ船舶ニ

在リテハ其ノ二分ノ一以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ乗組員十人以上ガ命令ノ定ムル所ニ依リ當該船舶ノ堪航性又ハ居住設備衛生設備其ノ他ノ人命ノ安全ニ關スル設備ニ付重大ナル缺陷アル旨ヲ申立テタル場合ニ於テハ管海官廳ハ其ノ事實ヲ調査シ必要アリト認ムルトキハ前條第二項ノ處分ヲ爲スコトヲ要ス

第十四條 日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ左ニ提グルモノニハ勅令ヲ以テ本法ノ全部又ハ一部ヲ準用ス

一 本法施行地ノ各港間又ハ湖川港灣ノミヲ航行スル船舶

二 日本船舶ヲ所有シ得ル者ノ借入レタル船舶ニシテ本法施行地ト其ノ他ノ地トノ間ノ航行ニ從事スルモノ

三 前各號ノ外本法施行地ニ在ル船舶

第十五條 主務大臣ニ於テ前條第三號ニ掲グル船舶ノ所屬地ノ本法ニ該當スル法令ヲ相當ト認メタルトキハ之ニ基キタル船舶ノ堪航性又ハ人命ノ安全ニ關スル證書ハ本法ニ依リ交付シタル證書ト同一ノ效

力ヲ有ス

前項ノ規定ハ本法ニ依リ交付シタル證書ノ效力ヲ認メザル國ニ屬スル船舶ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十六條 船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關シ條約ニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

第十七條 滿載吃水線ノ標示ヲ隱蔽、變更又ハ抹消シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 船舶所有者又ハ船長左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ船舶所有者及船長ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シ又ハ特殊船舶検査證書ヲ受有セズシテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用シタルトキ

二 航行區域ヲ超エ又ハ從業制限ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタルトキ

三 制限汽壓ヲ超エテ汽罐ヲ使用シタルトキ

四 最大搭載人員ヲ超エテ旅客其ノ他ノ

者ヲ搭載シタルトキ

五 滿載吃水線ヲ超エテ載荷シタルトキ

六 無線電信ノ施設ヲ要スル船舶ヲ其ノ

施設ナクシテ航行ノ用ニ供シタルトキ

七 中間検査ヲ受クベキ場合ニ於テ之ヲ

受ケズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタル

トキ

八 前各號ノ外船舶検査證書ニ記載シタ

ル條件ニ違反シテ船舶ヲ航行ノ用ニ供

シ又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル條

件ニ違反シテ船舶ヲ特殊ノ用途ニ使用

シタルトキ

九 管海官廳ノ許可ヲ受ケズシテ検査ヲ

受ケタル事項ニ變更ヲ爲シ又ハ其ノ事

項ニ變更アリタルニ拘ラズ適當ノ措置

ヲ爲サズシテ船舶ヲ航行ノ用ニ供シタ

ルトキ

第十九條 詐偽其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ第

九條ニ掲グル證書ヲ受ケタル者ハ一年以

下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 船舶所有者又ハ船長第十二條又

ハ第十三條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタ

ルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條 正當ノ事由ナクシテ當該官吏

ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ガ若ハ忌避シ又ハ其ノ

尋問ニ對シテ答辯ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ陳

述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處

ス

第二十二條 船舶乗組員虚偽ノ申立ヲ爲シ

管海官廳ヲシテ第十三條ノ規定ニ依ル調

査ヲ爲サシメタルトキハ五百圓以下ノ罰

金ニ處ス

第二十三條 船級協會ノ職員第八條ニ掲グ

ル船舶ニ付第二條第一項第一號乃至第五

號、第十號乃至第十二號ニ掲グル事項又

ハ滿載吃水線ノ検査ニ關シ賄賂ヲ收受シ

又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年

以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ

又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ一年以

上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ

沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スル

コト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第二十四條 船級協會ノ職員ニ前條ニ掲グ

ル検査ニ關シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束

シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以

下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ

其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二十五條 本法及本法ニ基ク命令ニ依リ

船舶所有者ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ

法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法

人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用シ國

又ハ道府縣市町村其ノ他ノ公共團體ガ船

舶所有者ナルトキハ之ヲ適用セズ

第二十六條 本法及本法ニ基ク命令中船舶

所有者ニ關スル規定ハ船舶共有ノ場合ニ

在リテ船舶管理人ヲ置キタルトキハ之ヲ

船舶管理人ニ、船舶貸借ノ場合ニ在リテ

ハ之ヲ船舶借入人ニ適用シ又船長ニ關ス

ル規定ハ船長ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ者

ニ之ヲ適用ス

第二十七條 船舶ノ衝突豫防ニ關シ船舶ノ

遵守スベキ船燈ノ表示、航法、信號其ノ他

必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ船舶ニハ海軍艦船ヲモ包含ス

第二十八條 危險物ノ運送禁止、遭難者救

助、救命艇手、操練及操舵命令ニ關スル事

項並ニ危險及氣象ノ通報其ノ他船舶航行

上ノ危險防止ニ關シ必要ナル事項ハ命令

ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 前二條ニ規定スル事項ヲ除ク

ノ外地方長官ハ第二條第一項ノ規定ヲ適

用セザル船舶ノ堪航性及人命ノ安全ニ關

シ主務大臣ノ認可ヲ受ケ必要ナル規則ヲ

設クルコトヲ得

附則

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項

第十一號ニ關スル規定、同條同項第十二

號ニ關スル規定、第二十七條ノ規定並ニ

他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ

定ム

第三十一條 船舶検査法、船舶滿載吃水線

法、船舶無線電信施設法及明治六年第二

百九十二號布告ハ前項ノ一般規定施行ノ

日ヨリハ海上衝突豫防法ハ第二十七條ノ

規定ノ施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十二條 第二條第一項ノ規定ハ左ニ掲

グル船舶ニハ當分ノ内之ヲ適用セズ

一 總噸數二十噸未満ノ帆船

二 總噸數二十噸未満ノ漁船

三 平水區域ノミヲ航行スル帆船

第三十三條 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載

吃水線ノ標示ヲ要セザリシ船舶ニシテ本

法ニ依リ其ノ標示ヲ要スルモノニ付テハ

命令ノ定ムル所ニ依リ滿載吃水線ニ關ス

ル検査ヲ受クル迄之ヲ標示セザルコトヲ

得

第三十四條 本法施行前ニ生ジタル事項ニ

付テハ仍舊法ニ依ル但シ船級協會ノ認定

其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項ニ付テハ此

ノ限ニ在ラズ

第三十五條 船舶検査法ニ依リ船舶検査證

書若ハ假證書ヲ受有スル船舶又ハ之ヲ受

有セズシテ航行ノ用ニ供スル船舶ニハ左

ノ各號ノ一ニ該當スルニ至ル迄船舶檢

査、滿載吃水線及無線電信施設ニ關シ仍

舊法ニ依ル

一 航行期間滿了ノ爲船舶検査法ニ依リ

検査ヲ受クベキトキ

二 船舶検査法ニ依リ船舶検査證書又ハ

假證書ヲ受有セズシテ航行ノ用ニ供シ

得ザルニ至リタルトキ

三 船舶滿載吃水線法ニ依リ滿載吃水線

ノ指定ヲ受クベキトキ

第三十六條 前條ノ船舶同條各號ノ一ニ該

當スルニ至リタルトキハ命令ノ定ムル所

ニ依リ検査ヲ受クベシ

前項ノ検査ニ合格シタル船舶ニハ船舶檢

査證書ヲ交付ス但シ其ノ有効期間ハ四

年以内ニ於テ管海官廳ノ定メタル期間ト

ス

前項ノ有効期間ノ滿了ハ第五條第一項ノ

規定ノ適用ニ付テハ之ヲ第十條ニ規定ス

ル有効期間ノ滿了ト看做ス

第三十七條 他ノ法令中航路定限、遠洋航

路、近海航路、沿海航路又ハ平水航路トア

ルハ各之ヲ航行區域、遠洋區域、近海區

域、沿海區域又ハ平水區域トス

(參照)

明治六年八月第二十九號布告ハ危害船舶檢ノ法

則ナリ

第三十條 本法施行ノ期日ハ第二條第一項第十一號ニ關スル規定 同條同項第十二號ニ關スル規定 第二十七條ノ規定並ニ他ノ一般規定ニ付各別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

朕船舶安全法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和九年一月三十一日  
内閣總理大臣 子爵齋藤 實  
逓信大臣 南 弘

勅令第十三號(官報二月一日)  
船舶安全法施行令

第一條 船舶安全法第一條乃至第五條、第七條第一項、第八條、第九條第一項第二項、第四項、第十條乃至第十二條、第十六條乃至第二十一條、第二十三條乃至第二十六條及第二十九條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條各號ノ一ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第二條 船舶安全法第十三條、第二十二條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同

法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス

第三條 逓信大臣漁船ニ關シ左ニ掲グル事項ニ付法律勅令ノ制定改廢案ヲ閣議ニ提出シ若ハ省令ノ制定改廢ヲ爲サントスルトキ又ハ漁船ニ關シ船舶安全法第二十九條ノ認可ヲ爲サントスルトキハ豫メ農林大臣ニ議スベシ

一 船舶ノ構造設備及之ニ關スル法ノ適用範圍

二 滿載吃水線ノ標示及無線電信施設ニ關スル法ノ適用範圍

三 船舶ノ從業制限

四 船舶検査ノ種類、時期及機關

附則

本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

外國船舶検査規則ハ之ヲ廢止ス

船舶安全法第三十二條乃至第三十六條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第一號又ハ第二號ニ掲グルモノニ、同

勅令

朕船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和九年一月三十一日  
内閣總理大臣 子爵齋藤 實  
逓信大臣 南 弘

勅令第十二號(官報二月一日)

船舶安全法第二條第一項第十二號ニ關スル規定及同法第三十條ノ一般規定ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

(參照)

昭和八年三月十五  
日公布 法律第十一號船舶安全法抄錄  
第二條第一項  
船舶ハ左ニ掲グル事項ニ付命令ノ定ムル所ニ依リ施設スルコトヲ要ス  
十二 電氣設備

勅令 第十二號 第十三號 船舶安全法施行令

勅令 第十三號 船舶安全法施行令

法第三十二條及第三十三條ノ規定ハ日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ同法第十四條第三號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス  
日本船舶ニ非ザル船舶ニシテ船舶安全法第十四條第三號ニ掲グルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ本令施行後一年ヲ限り本令ニ依ラザルコトヲ得

昭和九年二月一日  
逓信大臣 南 弘

省 令

●逓信省令第四號(官報號外)  
船舶安全法施行規則左ノ通定ム

昭和九年二月一日

逓信大臣 南 弘

船舶安全法施行規則

目次

- 第一章 總則
- 第二章 構造及設備
- 第三章 満載吃水線
- 第四章 無線電信
- 第五章 航行區域
- 第六章 最大搭載人員
- 第七章 制限汽壓
- 第八章 検査ヲ行フ場合
- 第九章 検査申請ノ手續
- 第十章 検査ノ執行
- 第十一章 検査ノ方法
- 第一節 製造検査
- 第二節 定期検査
- 第三節 中間検査
- 第四節 特殊船検査及臨時検査
- 第五節 雜則

逓信省令第四號 船舶安全法施行規則

第十二章 検査ノ準備

- 第十三章 證書
- 第十四章 再検査
- 第十五章 船舶乗組員ノ不服申立
- 第十六章 船級協會
- 第十七章 航海上ノ危険防止
- 第十八章 雜則
- 第十九章 罰則

附則

船舶安全法施行規則

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ國際航海ト稱スルハ別ニ告示スル區域内ノ航海ヲ除クノ外一國ト他ノ國トノ間ノ航海ヲ謂フ  
各殖民地、海外領土、保護領又ハ宗主權若ハ委任統治ノ下ニ在ル地域ハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ一國ト看做ス

第二條 本令ニ於テ短國際航海ト稱スルハ航海中海岸ヨリ二百海里ヲ超エザル國際航海ヲ謂ヒ長國際航海ト稱スルハ短國際航海以外ノ國際航海ヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ漁船ト稱スルハ左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ヲ謂フ  
一 専ラ漁獵ニ従事スル船舶

二 漁獵ニ従事スル船舶ニシテ漁獲物ノ

保藏又ハ製造設備ヲ有スルモノ  
三 専ラ漁獵場ヨリ漁獲物又ハ其ノ化製品ヲ運搬スル船舶  
四 専ラ漁業ニ關スル試験、調査、指導若ハ練習ニ従事スル船舶又ハ漁業ノ取締ニ従事スル船舶ニシテ漁獵設備ヲ有スルモノ

前項第一號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ従事スル船舶ヲ、前項第二號ノ船舶ニハ其ノ附屬漁船ヲ以テ漁獵ニ従事シ且其ノ漁獲物ノ保藏又ハ製造ニ従事スル船舶ヲモ包含ス

第四條 本令ニ於テ移民船ト稱スルハ船舶安全法施行地内ノ港ニ於テ移民若ハ三等旅客五十人以上又ハ移民及三等旅客ヲ併セ五十人以上ヲ搭載シ近海區域外ノ港又ハ別ニ告示スル地方ニ到ル船舶ヲ謂フ  
前項ノ移民トハ移民保護法第一條ニ該當スル者ヲ謂ヒ三等旅客トハ一室ニ八人以上ヲ雜居スル者ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ臨時旅客ト稱スルハ臨時ニ搭載シ得ル者ニシテ近海區域又ハ別ニ告示スル區域ニ於テハ漁夫、木材積取人夫、移住民其ノ他之ニ準スル者又ハ軍



隊、沿海區域ニ於テハ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ謂フ

第六條 本令ニ於テ甲板旅客ト稱スルハ近海又ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ガ船舶安全法施行地ヲ除クノ外東ハ東經百八十度、西ハ同四十度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯三十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域、紅海、黃海又ハ渤海灣ニ於テ船舶ノ暴露甲板上ニ搭載スル旅客ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ船舶ノ長サト稱スルハ船舶ノ上甲板梁上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ船尾材ノ後面ニ至ル長サヲ謂フ

第八條 本令ノ規定ニ依リ申請、届出又ハ證書若ハ證明書ノ返還ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外船舶所有者又ハ船長之ヲ爲スベシ

第二章 構造及設備

第九條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ハ倉庫船、繫留船、被曳船其ノ他之ニ準ズル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第十條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ船舶ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ鋼船ノ船體ニ付テハ鋼船構造規程、木船ノ船體ニ付テハ木船構造規程、機關ニ付

テハ船舶機關規程、設備及屬具ニ付テハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル

第十一條 船舶安全法第三條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ヲ標示スベキ船舶ハ前條ノ規定ニ依リノ外其ノ船體及設備ニ付國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程及船舶區畫規程、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 船舶安全法第二條第一項ノ規定ニ依リ漁船ニ付特ニ施設スベキ事項及其ノ標準ハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル

第三章 滿載吃水線

第十三條 水先船、専ラ漁業ニ關スル試驗、調査、指導若ハ練習ニ從事スル船舶、漁業ノ取締ニ從事スル船舶又ハ肋骨ヲ有セズ且推進機關ヲ有セザル木船、「ジアンク」其ノ他ノ原始的構造ノ木船ハ滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要セズ

第十四條 汽船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ  
一 夏期滿載吃水線  
二 冬期滿載吃水線

三 冬期北大西洋滿載吃水線

四 熱帶滿載吃水線

五 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

帆船ノ滿載吃水線ハ季節及區域ニ應ジ左ノ種類ニ分ツ

一 海水滿載吃水線

二 冬期北大西洋滿載吃水線

三 前各號ニ掲グル滿載吃水線ニ對應スル各淡水滿載吃水線

滿載吃水線ノ位置ノ決定竝ニ船舶ニ標示スベキ滿載吃水線ノ種類及標示ノ方法ハ船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ル

第十五條 國際航海ニ從事スル旅客船ハ前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ外區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ要ス

區畫滿載吃水線ノ位置ノ決定及標示ノ方法ハ船舶區畫規程ノ定ムル所ニ依ル

第十六條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ特ニ旅客室ヲ貨物搭載場所トシテ使用スルコトアルベキモノハ當該場所ノ使用狀態ニ對應スル二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示スルコトヲ得

第十七條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船

前項ノ規定ハ區畫滿載吃水線ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十九條 船舶ガ船積港ヲ發航シタル後不可抗力ニ因リ豫定ノ航路ヲ變更シ又ハ航海ヲ遲延シタル爲其ノ吃水ガ當該季節及區域ニ付定メラレタル滿載吃水線ヲ越ユルニ至リタルトキト雖モ其ノ儘其ノ目的港迄航行スルコトヲ得

第二十條 滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ其ノ標示ヲ要セザルモノト爲リタルトキ又ハ木材滿載吃水線ヲ標示シ得ザルニ至リタルトキハ船舶所有者又ハ船長ハ當該標示ヲ抹消スベシ但シ臨時ニ標示ヲ要セザルモノト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ存續スルコトヲ得

第二十一條 前條ノ規定ニ依リ滿載吃水線ノ標示ノ全部ヲ抹消スベキ場合ニ於テハ乾舷甲板ヲ標示スル水平線及圓標ノ中心ヲ通過スル水平線ニ限り之ヲ存置スルモ妨ナシ

第四章 無線電信

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル船舶ハ無線電信ヲ施設セザルコトヲ得但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一 旅客船ニシテ海岸ヨリ二十海里ヲ越エザル區域内又ハ相次グ二港間ノ外海ニ於ケル距離二百海里ヲ超エザル航路ノミヲ航行スルモノ  
二 旅客船ニシテ別表第一號ニ定ムル區域内ノミヲ航行スルモノ  
三 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ海岸ヨリ百五十海里ヲ超エザル區域内ノミヲ航行スルモノ  
四 無線電信ヲ施設スルコト實際上不可能ナル原始的構造ノ船舶ニシテ管海官廳ノ認可ヲ受ケタルモノ

第二十三條 船舶安全法第四條第一項ノ規定ニ依リ無線電信ヲ施設スベキ船舶ト雖モ左ノ各號ノ場合ニ該當スルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ一定期間ヲ限り無線電信ヲ施設セザルコトヲ得  
一 無線電信ノ施設ヲサシテ航行スルコトヲ得ル航路ニ就航スル爲他ヨリ同航路ニ於テ無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

二 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ航路、噸數又ハ旅客定員ノ變更ノ爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルモ直ニ之ヲ爲スコト能ハザル事由アルトキ

三 無線電信ノ施設ヲ要セザル船舶ガ臨時ニ旅客定員ヲ變更シタル爲其ノ施設ヲ要スルモノト爲リタルトキ  
前項第二號又ハ第三號ノ場合ニ於テ當該船舶ガ國際航海ニ從事スルモノナルトキハ臨時ニ之ニ從事スル場合ヲ除クノ外前項ノ規定ハ之ヲ適用セズ  
第二十四條 第二十二條第四號ノ認可ヲ受ケントストキハ其ノ事由ヲ具シタル申請書ヲ、前條ノ認可ヲ受ケントストキハ其ノ事由及期間ヲ記載シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

第五章 航行區域

第二十五條 航行區域ヲ分チテ左ノ四種トス  
一 平水區域  
二 沿海區域  
三 近海區域  
四 遠洋區域  
第二十六條 平水區域ハ湖川港内及左ニ掲グル各區域トス  
第一區 神奈川縣三浦郡千駄崎ヨリ同郡笠島ヲ經テ千葉縣君津郡富津崎ニ至ル線内

第二區 靜岡縣清水市三保崎ヨリ同縣田方郡御濱崎ニ至ル線内  
第三區 愛知縣渥美郡伊良湖崎ヨリ三重縣志摩郡菟島ヲ經テ同郡松ヶ鼻ニ至ル線内  
第四區 和歌山縣東牟婁郡駒崎ヨリ同郡太地崎ニ至ル線内  
第五區 和歌山縣有田郡宮崎ヨリ同縣海草郡田倉崎ヲ經テ兵庫縣津名郡生石鼻ニ至ル線及同郡江崎燈臺ヨリ眞方位三百三十度ニ引キタル線内  
第六區 兵庫縣加古郡加古川ヨリ兵庫縣飾磨郡男鹿島及香川縣小豆郡大角鼻ヲ經テ同縣大川郡馬ノ鼻ニ至ル線、愛媛縣温泉郡響山ヨリ山口縣大島郡平郡島ヲ經テ同縣熊毛郡長島東端ニ至ル線及同島小山ノ鼻ヨリ同郡掛取崎ニ至ル線内  
第七區 山口縣熊毛郡島田川ヨリ同縣都濃郡笠戸島火振崎ヲ經テ同縣佐波郡向島翁崎ニ至ル線及同島牛ヶ頸ヨリ同縣吉敷郡丸尾崎ニ至ル線内  
第八區 愛媛縣西宇和郡女岬崎ヨリ同縣東宇和郡大崎ヲ經テ同縣北宇和郡赤崎鼻ニ至ル線内

第九區 大分縣東國東郡美濃崎ヨリ同縣北海部郡關崎、同郡沖無指島、同郡保戸島及同縣南海部郡大島ヲ經テ同郡鶴見崎ニ至ル線内  
第十區 山口縣厚狹郡宇部岬ヨリ福岡縣企救郡尾上川口ニ至ル線及ニ福岡縣遠賀郡沖田崎ヨリ同縣企救郡馬島及山口縣豐浦郡六連島ヲ經テ同郡村崎鼻ニ至ル線内  
第十一區 山口縣大津郡今岬ヨリ同郡青海島西北端ニ至ル線及同島東端ヨリ同縣阿武郡虎ヶ崎ニ至ル線内  
第十二區 福岡縣糸島郡西浦三崎ヨリ同縣糟屋郡志賀島大崎ニ至ル線内  
第十三區 福岡縣糸島郡串崎ヨリ佐賀縣東松浦郡神集島及同郡加部島ヲ經テ同郡波戸崎ニ至ル線内  
第十四區 佐賀縣東松浦郡值賀崎ヨリ同郡向島、長崎縣北松浦郡黒島及同郡青島ヲ經テ同郡津崎ニ至ル線内  
第十五區 長崎縣上縣郡唐洲崎ヨリ同縣下縣郡海崎ニ至ル線及同郡折瀬鼻ヨリ眞方位零度ニ引キタル線内  
第十六區 長崎縣北松浦郡大瀬崎ヨリ同郡平戸島魚見崎ニ至ル線及同島坊山崎

ヨリ同郡黒島ヲ經テ同郡七郎崎ニ至ル線内  
第十七區 長崎縣北松浦郡向後崎ヨリ同縣西彼杵郡番所崎ニ至ル線内  
第十八區 長崎縣西彼杵郡三重崎ヨリ同郡野母崎ニ至ル線内  
第十九區 長崎縣南高來郡瀬詰崎ヨリ熊本縣天草郡天草下島大島崎ニ至ル線、同島鶴崎ヨリ同郡下須島「ビシヤゴ」岬ノ鼻ニ至ル線、同島尾崎ヨリ鹿兒島縣出水郡長島大崎ニ至ル線及同島南端ヨリ眞方位九十度ニ引キタル線内  
第二十區 鹿兒島縣揖宿郡金比羅ノ鼻ヨリ同縣肝屬郡小根占崎ニ至ル線内  
第二十一區 鹿兒島縣大島郡奄美大島神ノ鼻ヨリ同郡加計呂麻島「カネンテ」崎ニ至ル線及同島西端ヨリ同郡江仁屋離、同郡奄美大島曾津高崎及同郡枝手久島戸倉崎ヲ經テ同郡奄美大島倉木崎ニ至ル線内  
第二十二區 島根縣知夫郡知夫島帶ヶ崎ヨリ同郡西ノ島漕廻鼻ニ至ル線、同島東端ヨリ同縣海士郡中ノ島北端ニ至ル線及同島木樽ヶ崎ヨリ同縣知夫郡知夫島東端ニ至ル線内

第二十三區 島根縣八東郡地藏崎ヨリ島取縣西伯郡日野川口ニ至ル線内  
第二十四區 京都府與謝郡鷺崎ヨリ同縣加佐郡博奕崎ニ至ル線内  
第二十五區 福井縣敦賀郡立石崎ヨリ同郡「ワカ」崎ニ至ル線内  
第二十六區 石川縣鳳至郡沖波鼻ヨリ同縣鹿島郡觀音崎ニ至ル線内  
第二十七區 青森縣東津輕郡明神崎ヨリ同縣下北郡貝崎ニ至ル線内  
第二十八區 宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ同縣桃生郡宮戸島壹ノ崎ニ至ル線内  
第二十九區 北海道上磯郡葛登支岬ヨリ同縣田郡函館山大鼻岬ニ至ル線内  
第三十區 北海道壽都郡辨慶岬ヨリ同縣谷郡尻別川口ニ至ル線内  
第三十一區 北海道高島郡高島岬ヨリ同縣小樽郡神威古潭ニ至ル線内  
第三十二區 北海道釧路郡尻羽岬ヨリ同縣厚岸郡大黒島ヲ經テ同郡「ルムセシマ」岬ニ至ル線内  
第三十三區 臺北州野柳半島龜頭鼻ヨリ同州基隆島ヲ經テ同州鼻頭角ニ至ル線内  
第三十四區 澎湖廳馬港要港區域内

第三十五區 高雄州貓鼻頭ヨリ同州鶯變鼻ニ至ル線内  
第二十七條 沿海區域ハ左ニ掲グル各區域トス  
一 北海道本島、北海道國後島、同擇捉島、同色丹島、同志勃島、同禮文島、同利尻島、同奥尻島、本州、青森縣久六島、島根縣隱岐列島、山口縣見島、四國、九州、長崎縣五島列島、熊本縣天草島、鹿兒島縣甌列島、同縣大隅群島、臺灣本島、澎湖列島、臺北州彭佳嶼、臺東廳火燒島及同廳紅頭嶼ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域  
二 千葉縣安房郡野島崎ヨリ東京府神津島ヲ經テ靜岡縣賀茂郡石室崎ニ至ル線内ノ區域  
三 秋田縣由利郡鹽越鼻ヨリ石川縣鮎倉島ヲ經テ石川縣鳳至郡猿山崎ニ至ル線内ノ區域  
四 山口縣豐浦郡觀音崎ヨリ慶尙南道蔚崎ニ至ル線及長崎縣北松浦郡生月島北端ヨリ慶尙南道古突山半島南東端ニ至ル線内ノ區域

五 北海道宗谷郡野寒岬ヨリ樺太西能登呂岬ニ至ル線及北海道宗谷郡各岬ヨリ樺太中知床岬ニ至ル線内ノ區域  
 六 東京府野島、父島及母島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域  
 七 鹿兒島縣奄美群島ノ各海岸ヨリ二十海里以内ノ區域  
 八 沖繩縣沖繩島及同縣島尻郡ノ各島ノ海岸ヨリ二十海里以内ノ區域  
 第二十八條 近海區域ハ東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域トス  
 近海區域ハ之ヲ左ノ三區ニ分ツ  
 第一區 東ハ東經百七十五度、西ハ同百十三度、南ハ北緯二十一度、北ハ同六十三度ノ線ニ依リ限ラレタル區域  
 第二區 東ハ東經百三十度、西ハ同百二度、南ハ北緯四度、北ハ同二十七度ノ線ニ依リ限ラレタル區域及暹羅海灣  
 第三區 東ハ東經百七十五度、西ハ同九十四度、南ハ南緯十一度、北ハ北緯二十一度ノ線ニ依リ限ラレタル區域ヨリ第一區ノ區域ヲ除キタル區域

第二十九條 遠洋區域ハ總テノ水面ヲ包含スル區域トス  
 第三十條 管海官廳船舶ノ航行區域ヲ定ムルニ當リ船舶ノ種類、構造、設備、大小若ハ用途又ハ季節ニ依リ必要アリト認ムルトキハ區域ヲ制限シ又ハ之ニ期間ヲ附スルコトヲ得  
 第三十一條 管海官廳ハ第二級船ニ付テハ遠洋ノ航行區域ヲ、第三級船ニ付テハ近海以上ノ航行區域ヲ、第四級船ニ付テハ沿海以上ノ航行區域ヲ定ムルコトヲ得ズ  
 第三十二條 管海官廳總噸數二百噸未満ノ旅客船ニ付沿海ノ航行區域ヲ定ムル場合ニハ左ニ掲グル區間ヲ包含セシムルコトヲ得ズ  
 一 北海道宗谷郡各岬ヨリ同斜里郡知床岬ニ至ル區間  
 二 擇捉島沿岸  
 三 北海道十勝郡大津川口ヨリ同幌泉郡襟裳岬ニ至ル區間  
 四 青森縣下北郡尻矢崎ヨリ同縣三戸郡馬淵川口ニ至ル區間  
 五 宮城縣宮城郡花淵崎ヨリ福島縣雙葉郡請戸川口ニ至ル區間

六 茨城縣東茨城郡大洗岬ヨリ千葉縣長生郡大東崎ニ至ル區間  
 七 靜岡縣榛原郡御前崎ヨリ愛知縣渥美郡伊良湖崎ニ至ル區間  
 第三十三條 船舶安全法施行地外ノ各港間又ハ湖川港内ノミヲ航行スル船舶ノ航行區域ハ管海官廳ニ於テ第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ準ジ之ヲ定ムルコトヲ得  
 第三十四條 平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ當該區域ヨリ其ノ船舶ノ最速力ヲ以テ二時間以内ニ又平穩ナル季節ニ限り四時間以内ニ往復シ得ベキ平水區域外ニ航行スルコトヲ得  
 第三十五條 特殊ノ用途ニ使用スル船舶ハムコトヲ得ザル事由アルトキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域外ニ航行スルコトヲ得  
 第三十六條 前二條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ  
 前條ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ  
 第三十七條 船舶左ノ各號ノ一ニ該當スル

トキハ管海官廳ノ認可ヲ受ケ其ノ航行區域ヲ超エテ之ヲ回航スルコトヲ得  
 一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ  
 二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ  
 三 航行區域外ニ在ル船舶ヲ航行區域内ニ回航スルトキ  
 四 航行區域變更ノ爲船舶ヲ航行區域外ニ回航スルトキ  
 前項ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ  
 第一項各號ノ場合ニ於テ旅客又ハ貨物ヲ搭載セントスルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スベシ  
 第三十八條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ航行區域ヲ變更セントスルトキハ申請書ニ新舊航行區域ヲ列記シ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ  
 第三十九條 漁船ノ從業制限ハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

第六章 最大搭載人員  
 第四十條 最大搭載人員ハ管海官廳ニ於テ船舶ノ航行區域、設備等ニ應ジ旅客、船員及其ノ他ノ者ニ付各別ニ之ヲ定ム  
 旅客、船員及其ノ他ノ者ハ各其ノ最大搭載人員ヲ超エ又ハ其ノ搭載場所ニ對スル定員ヲ超エテ之ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ傷病船員ノ補充、海難救助其ノ他已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ臨時ニ搭載シタル人員ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
 第四十一條 最大搭載人員算定ノ標準ハ船舶設備規程ノ定ムル所ニ依ル但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規程ノ定ムル所ニ依ル  
 第四十二條 船舶ニ搭載スル人員ハ十二年未滿ノ者二人ヲ以テ一人ニ換算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セズ  
 第四十三條 左ニ掲グル者ハ旅客ト看做サズ  
 一 船舶所有者、船舶管理人、船舶借入人及船荷上乗人  
 二 税關吏員、検査吏員、通信吏員、水先人其ノ他船員ニ非ズシテ船内ニ於テ業務ニ從事スル者  
 第四十四條 第五十七條第一項第二號第三號又ハ第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ

受ケ之ニ合格シタル船舶ハ船舶検査證書ニ記載スル最大搭載人員ノ外特殊船舶検査證書ニ記載スル人員ヲ搭載スルコトヲ得但シ臨時ノ遊覽其ノ他ノ團體旅客ヲ搭載スル船舶ニ付テハ其ノ運送區域ガ平水區域ニ非ザルトキハ當該船舶ノ總噸數二百噸以上、航行豫定時間六時間未滿ニシテ且管海官廳ニ於テ離島其ノ他交通不便ナル地方ノ旅客運送上已ムコトヲ得ズト認メタル場合ニ限ル  
 第四十五條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ最大搭載人員ヲ變更セントスルトキハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶検査手帖ヲ添ヘ之ヲ最寄管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ  
 第四十六條 旅客室ニハ其ノ見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依リ表示ヲ爲スベシ  
 一 一等室及二等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示スベシ但シ總出入口其ノ他適當ノ場所ニ等級ノ表示ヲ爲ストキハ各室ニ之ヲ表示セザルモ妨ナク又其ノ定員ガ總噸數ト同一ナル室ニハ之ヲ表示セザルモ妨ナシ  
 二 三等室ニハ各室ニ其ノ等級及定員ヲ表示シ且雜居客棚ヲ設ケタル室ニ在リ



第六十五條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ左ニ掲グル圖面ヲ添付スベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ其ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

- 一 船體中央橫截面圖(縱通板各條ノ幅ヲモ記載スベシ)
- 二 船體中心線縱截面ノ諸材構造配置圖
- 三 甲板及艙内平面ノ諸材構造配置圖
- 四 甲板平面圖
- 五 船體線圖
- 六 排水量曲線圖(最上層全通甲板迄ノ各吃水ニ對スル全排水量及每一センチメートル排水量ヲ示スモノ)

前項第五號及第六號ノ圖面ハ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ニ、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スルモノナルコトヲ要ス

第六十六條 前條第一項ニ掲グル圖面ノ外木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ甲板積木材貨物ノ積附及定著ニ要スル裝置並ニ其ノ配置ヲ示ス圖面ヲ、區畫滿載吃水線ノ指定ヲ受ケントスルトキハ左ノ書類ヲ船舶検査申請書ニ添付スベシ

- 一 限界線迄ノ各吃水ニ對スル浮力ノ中

心ヨリ縱ノ「メタセンター」ニ至ル高サヲ示ス曲線圖

- 二 限界線迄ノ各吃水ニ對スル船舶ノ長サノ中央ヨリ吃水面ノ中心(浮泛中心)ニ至ル距離ヲ示ス曲線圖
- 三 限界線迄ノ橫截面積ヲ示ス曲線圖
- 四 可許長曲線圖
- 五 可許長計算表

第六十七條 製造検査ヲ受ケタル船舶ニ付初メテ定期検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ其ノ合格證明書ヲ添付スベシ但シ製造検査ニ引續キ定期検査ヲ受ケントスル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ヲ船舶ニ備付クル場合ニ於テ検査ヲ受ケントスルトキ亦前項ニ同ジ

第六十八條 船舶安全法第八條ニ掲グル船舶ニ付管海官廳ノ検査ヲ受ケントスルトキハ船舶検査申請書ニ當該船級協會ノ検査ニ關スル證明書ヲ添付スベシ

第六十九條 製造検査ヲ受ケントスルトキハ船舶ノ製造者ハ製造著手前製造検査申請書(第一號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請書ニハ製造仕様書並ニ船體及機關ノ各部ノ構造及配置ヲ示ス圖面ヲ添付スベシ

第七十條 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケントスルトキハ船舶用機關ノ製造者ハ機關検査申請書(第三號書式)ヲ管海官廳ニ提出スベシ

船舶用機關ノ製造中ヨリ前項ノ検査ヲ受ケントスルトキハ機關検査申請書ニ製造仕様書及機關ノ構造ヲ示ス圖面ヲ添付シ製造著手前之ヲ管海官廳ニ提出スベシ

第七十一條 第十六條ノ規定ニ依リ二箇以上ノ區畫滿載吃水線ヲ標示セントスル船舶ニ付テハ船舶検査申請書ニ貨物ヲ搭載スルコトアルベキ旅客室ノ詳細ナル關係事項ヲ記載シタル書類ヲ添付スベシ

第七十二條 第七十五條ノ規定ニ依リ休暇日ニ検査ヲ受ケントスルトキハ成ルベク二日前迄ニ其ノ旨ヲ管海官廳ニ申出ヅベシ

第十章 検査ノ執行

第七十三條 検査ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ

船舶検査執行地ハ別ニ之ヲ告示ス

第七十四條 検査ハ申請ニ依リ船舶検査執行地外ニ於テ之ヲ行フコトアルベシ但シ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケントスルトキハ検査申請者ハ其ノ事由ヲ申請書ニ附記スベシ

第七十五條 逓信大臣ノ特ニ指定シタル船舶検査執行地ニ於テハ急速ノ検査ヲ必要トスル場合ニ限り休暇日ト雖モ検査ヲ行フ

管海官廳ハ事務ノ都合ニ依リ前項ノ船舶検査執行地外ニ於テモ臨時ニ休暇日検査ヲ行フコトアルベシ

第七十六條 船舶ノ検査ヲ行フトキハ検査事項ニ應ジ船長又ハ機關長、若シ船長又ハ機關長差支アルトキハ之ニ代リテ其ノ職務ヲ行フ船舶職員之ニ立會フベシ

前項ニ掲グル者ノ乗組マザル船舶ノ検査、製造検査又ハ船舶用機關ノ検査ヲ行フトキハ検査申請者ハ適當ノ者ヲ指定シテ之ニ立會ハシムベシ

第七十七條 前條ニ依リ検査ニ立會ヒタル者ハ検査ニ必要ナル援助ヲ爲シ又ハ書類ヲ査閱ニ供スベシ

第七十八條 検査ニ立會フ者ナキトキ又ハ検査ニ立會ヒタル者前條ノ規定ニ違反シタルトキハ管海官廳ハ検査ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第七十九條 管海官廳ハ検査ノ爲ニ必要アリト認ムルトキハ第六十四條乃至第七十一條ニ掲グル書類ノ外必要ナル書類ノ提出ヲ命ズルコトヲ得

第八十條 検査申請者已ムコトヲ得ザル事由アルトキハ事由ヲ具シタル書面ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託センコトヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ其ノ検査ヲ他ノ管海官廳ニ引繼又ハ囑託スルコトヲ得

第八十一條 管海官廳滿載吃水線ヲ定メタルトキハ船舶滿載吃水線指定書(第四號書式)ヲ検査申請者ニ交付ス

検査申請者船舶滿載吃水線指定書ノ交付ヲ受ケタルトキハ船舶ニ滿載吃水線ヲ標示シ書面又ハ口頭ヲ以テ管海官廳ニ標示ノ検査ヲ受ケントスル期日及場所ヲ申出ヅベシ

第八十二條 管海官廳定期検査、中間検査、特殊船検査又ハ臨時検査ヲ了シタルトキハ船舶検査手帖ヲ封緘シ之ヲ船長ニ交付ス

船長ハ船舶検査手帖ヲ船内ニ保管スベシ

船舶検査手帖ハ管海官廳又ハ帝國領事官ニ於テ檢閱スル場合ヲ除クノ外何人ト雖モ之ヲ開封スルコトヲ得ズ

第八十三條 船舶検査手帖ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ニ再交付ヲ申請スベシ

船舶検査手帖ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキハ船長ハ之ト引換ニ舊手帖ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

船舶検査手帖ノ封緘ヲ毀損シタルトキハ船長ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ最寄管海官廳ヨリ更ニ其ノ封緘ヲ受クベシ

第十一章 検査ノ方法

第一節 製造検査

第八十四條 製造検査ニ於テハ船體、機關及設備ノ設計、材料並ニ工事ニ付検査ヲ行フ

第八十五條 製造検査申請者ハ工事著手前製造仕様書及圖面ニ依リ設計ニ付検査ヲ

受ケ且左ノ各號ノ時期ニ於テ工事ニ付検査ヲ受クベシ

- 一 船體
  - (一) 龍骨ヲ据附クルトキ並ニ船首材及船尾材ヲ建立セントスルトキ
  - (二) 肋骨組成中及組成後建立セントスルトキ
  - (三) 内龍骨、縦通材及梁ヲ取附ケントスルトキ
  - (四) 甲板及外板ヲ敷張リタルトキ
  - (五) 水壓試験ヲ執行スルトキ
  - (六) 外板ヲ張り了リ未ダ船底包板又ハ塗料ヲ施サザルトキ
  - (七) 船體完成シタルトキ
  - (八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ
- 二 機關
  - (一) 諸軸、諸桿又ハ「タービン」汽機ノ「ローター」ノ粗削ヲ爲シタルトキ
  - (二) 發動機ノ氣槽又ハ汽罐ニ使用スル

- 鋼板ノ「マーキング」ヲ行ヒタルトキ
    - (三) 發動機ノ氣槽若ハ汽罐ノ各部ヲ曲縁、鍛接又ハ銲接シタルトキ
    - (四) 發動機ノ氣槽又ハ汽罐ノ各部ノ組立ヲ爲シ銀孔ヲ仕上ゲタルトキ
    - (五) 汽機、發動機、空氣壓縮機若ハ「ポンプ」ノ要部、船尾管、推進器又ハ復水器ノ仕上ヲ了リタルトキ
    - (六) 汽機、發動機、空氣壓縮機、氣槽、汽罐、過熱器、復水器、「ポンプ」又ハ減速裝置ノ組立ヲ了リタルトキ
    - (七) 水壓試験ヲ執行スルトキ
    - (八) 其ノ他管海官廳ニ於テ指定シタルトキ
- 前項第二號ノ發動機ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ヲ、汽罐ニハ補汽罐ヲ、諸軸ニハ船舶ノ推進ニ關係アル補發動機ノ「クランク」軸ヲモ包含ス
- 第二節 定期検査
- 第八十六條 定期検査ニ於テハ左ノ各號ニ掲グル事項ニ付精密ナル検査ヲ行フ

- 一 船體及ビ機關
  - 二 設備及屬具
  - 三 滿載吃水線
  - 四 無線電信施設
- 第八十七條 船體ニ關スル定期検査ニ於テハ二重底、水槽、油槽及活魚箱ノ水壓試験、外板、水密隔壁、軸路及水密戸ノ水密試験並ニ水密戸ノ閉閉裝置、載貨門、載貨門、舷窓及上甲板上諸開口ノ閉鎖裝置ノ效力試験ヲ行フ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水密試験ヲ省略スルコトヲ得
- 第八十八條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ新ニ使用スル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ船舶機關規程ニ依リ、既ニ使用シタル機關又ハ其ノ部分ニ付テハ左表ニ依リ水壓試験ヲ行フ但シ左表第一欄及第三欄ニ掲グルモノヲ除クノ他管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ付テハ水壓試験ヲ省略スルコトヲ得

欄別	試驗壓力
一 新ニ重大ナル修繕ヲ施シタル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ガ毎平方七厘以下ナルトキハ其ノ二倍ノ壓力、毎平方七厘ヲ超スルトキハ其ノ二・五倍ノ壓力ニ付テハ其ノ二・五倍ノ壓力ヲ加ヘタル壓力
二 重大ナル修繕ヲ施サザル汽罐	汽罐ノ制限汽壓ニ毎平方五厘ヲ加ヘタル壓力
三 主汽管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
四 止給水管及副給水管	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
五 復水器ノ管取附部	復水器ノ頂部上ニ米ル水高壓力ニ相當スル壓力
六 噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管並ニ燃料油加熱器及其ノ附屬具	常用最大壓力ノ二倍、中大ナル壓力
七 前機ニ掲グルモノヲ除キ機關室ニ在ル油管	每平方厘二厘
八 燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管	常用最大汽壓ノ二倍
九 蒸氣過熱器	汽罐ノ制限汽壓ノ二倍
十 潤滑油裝置	常用最大壓力ノ二倍
十一 壓縮空氣管	常用最大壓力ノ一・五倍

- 十二 冷却裝置
    - 常用最大壓力ノ二倍
  - 十三 銲接又ハ無銲接ノ氣槽
    - 制限壓力ノ一・五倍
  - 十四 鋼板又ハ銲接ノ氣槽
    - 制限壓力ノ二倍
  - 十五 油槽
    - 頂部上ニ一・五米ノ水高壓力ニ相當スル壓力、但シ強壓油槽ニ付テハ其ノ常用壓力ノ二倍
- 第八十九條 定期検査ニ於テハ左ノ設備及屬具ニ付效力試験ヲ行フ但シ已ムコトヲ得ザル事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
- 一 排水裝置
  - 二 消防裝置
  - 三 操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ裝置
  - 四 羅針儀、測量器其ノ他ノ航海用具
  - 五 端艇揚卸裝置
  - 六 汽笛又ハ汽角
  - 七 信號器
  - 八 端艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命器具
  - 九 照明裝置
- 第九十條 定期検査ハ船舶ヲ入渠又ハ上渠セシメテ之ヲ行フ但シ検査申請者ヨリ特ニ申請アリタル場合ニ於テ管海官廳之ヲ

正當ト認メタルトキハ其ノ指定スル時期迄入渠又ハ上渠ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ノ規定ニ拘ハラズ總噸數五十噸未満ノ木船ニ付テハ据船ノ儘又ハ湖川ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル状態ニ於テ定期検査ヲ行フコトヲ得

第九十一條 汽船ノ第一回定期検査ニ於テハ速力試験ヲ執行ス

汽船ノ第二回以後ノ定期検査ニ於テハ前回速力試験執行後速力ニ直接關係アル事項ニ變更ヲ加ヘタル場合ニ在リテハ速力試験ヲ、其ノ他ノ場合ニ在リテハ試運轉ヲ執行ス但シ旅客船ニ非ザル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ試運轉ヲ省略スルコトヲ得

第九十二條 管海官廳船舶ノ定期検査ヲ執行シタルトキハ其ノ構造、材料、工事及現狀ニ應ジ且左表ニ掲グル長サ及速力ヲ標準トシ船舶ノ資格ヲ定ム但シ海難救助船、漁業ノ取締ニ從事スル船舶其ノ他特殊ノ用途ニ使用スル船舶ニ付テハ左表ニ依ラザルコトヲ得



三 主トシテ日本ト外國トノ間ヲ航行スル汽船ニ於テハ食料品其ノ他ノ雜品置場、庖廚、船艙等鼠ノ棲息スル場所ハ硫黃燻蒸其ノ他適當ノ方法ヲ以テ鼠ノ驅除ヲ行ヒ溢水道ハ海水ヲ以テ洗滌シ便所其ノ他不潔ナル場所ハ消毒藥液ヲ以テ消毒ヲ行ヒ飲料水槽ハ石灰乳ヲ以テ洗滌シ又ハ蒸汽ヲ通ジテ掃除スルコト

四 水槽及水槽ニ使用スル二重底ハ其ノ出入口ヲ開キテ水ヲ排出シ内部ヲ掃除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

五 入渠又ハ上架シタル船舶ハ舵ヲ扛舉又ハ取外シ舵針及鍍金等ヲ検査スルニ支障ナカラシメ且鋼船ニ在リテハ船底外部ニ附著セル海藻、介殼等ヲ落シ又木船ニ在リテハ船底包板及毛紙ノ幾分ヲ取去リ外板ノ現狀、隙隙及固著釘ヲ検査スルニ支障ナカラシムルコト

六 鋼船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ中心線ノ兩側ニ於テ兩舷トモ船底内張板ヲ一條宛取離スコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船底ノ長サノ五分ノ一間内張板トモ數ヲ取離スコト

内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

七 木船ニ於テ鐵釘又ハ鐵螺釘ヲ用ウルトキハ最下層梁ノ位置ニ於テ兩舷トモ鐵釘又ハ鐵螺釘ヲ六本以上宛抜取ルコト但シ該釘ガ外板ヲ貫通セザルトキハ兩舷トモ該部ノ外板ヲ一枚宛取離スコト

木船ニ於テ龍骨、船首材及船尾材ノ固著釘ガ鐵釘又ハ鐵螺釘ナルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ鐵釘又ハ鐵螺釘ヲ拔取ルコト

八 木船ニ於テハ上部外板、彎曲部外板其ノ他ノ外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

九 汽罐ノ下部ヲ検査シ得ル準備ヲ爲スコト

十 船首尾艙ハ燃料油ノ積載ニ使用スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

十一 二重底、水槽、油槽及活魚艙ノ水壓

試驗ノ準備ヲ爲スコト

十二 第八十七條ニ掲グル水密試驗ノ準備ヲ爲スコト

十三 滿載吃水線ノ標示ヲ検査スルニ必要ナル足場及型板ヲ準備スルコト

第百七條 第二種準備ハ前條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一 鋼船ニ於テハ船ノ首尾ヲ通ジ彎曲部ニ於テ内張板ヲ一條宛取離シ且二重底、深水槽及深油槽ノ部分ニ於ケル内張板ヲ全部取離スコト

木船ニ於テハ首尾ヲ通ジテ底部肋材ヲ検査スルニ最モ適當ナル位置ニ於テ兩舷トモ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離シ且首尾ヲ通ジテ兩舷トモ甲板間ノ内張板又ハ外板ヲ一條宛取離スコト

二 木船ニ於テハ水線部外板中管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ木釘ヲ拔取ルコト但シ木釘ナキ部分ニ於テハ錐揉スルカ又ハ内張板若ハ外板ヲ取離スコト

三 二重底ハ燃料油ヲ積載スルモノト雖モ其ノ出入口ヲ開キ油ヲ排出シテ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

第百八條 第三種準備ハ前二條ノ外左ノ各號ニ依ルベシ

一 鋼船ニ於テハ艙内内張板ノ大部分ヲ取離シ且艙内ニ防熱裝置ヲ施セル部分アルトキハ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ内張板ヲ取離シ防熱部ノ一部ヲ露出スルコト

木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ船底ノ長サノ五分ノ一間内張板トモ數ヲ取離スコト

二 石炭庫内ノ内張板ヲ全部取離スコト

三 木船ニ於テハ首尾ニ於テ兩舷トモ上部外板ヲ一條宛取離スコト

四 鋼船ニ於テハ船體内外ノ要部ヲ錆落スルコト

五 鋼船ニ於テハ梁上側板ヲ検査スル爲メ其ノ上面ノ木甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

木船ニ於テハ梁端ヲ検査スル爲メ梁壓材ニ接スル甲板ヲ管海官廳ノ指示スル部分ニ於テ取離スコト

六 鋼船ニ於テハ外板、肋板、隔壁、鋼甲板、二重底諸板其ノ他要部ニ於ケル鋼板ハ其ノ厚サヲ検査スル爲メニ試孔ヲ穿ツコト

七 深油槽ハ其ノ出入口ヲ開キ内部ヲ掃除シ危險性瓦斯ヲ排除シ検査ニ支障ナカラシムルコト

八 木船ニ於テハ船底包板及毛紙ヲ全部取去ルコト

九 櫓及斜櫓ノ楔ヲ拔取ルコト但シ櫓又ハ斜櫓ガ鋼製ニシテ二重張板ヲ有スルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百九條 機關ニ關スル定期検査ニ於テハ左ノ各號ノ準備ヲ爲スベシ但シ製造検査又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル機關ヲ船舶ニ初メテ備附ケタル場合ノ定期検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依ルベシ

一 往復動汽機

(一) 「ピストン」及滑弁ヲ取出スコト

(二) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

二 「タービン」汽機

「タービン」筒上半及「ローター」ヲ扛舉スルコト

三 發動機

(一) 「ピストン」ヲ取出シ其ノ冷却部ヲ検査シ得ル様解放スルコト

(二) 氣筒蓋附屬ノ諸弁ヲ取外シ蓋ノ冷却部ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト

(三) 「クランク」軸ノ受金ノ上半竝ニ十字頭栓及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト

(四) 消音器ヲ掃除スルコト

四 推進器及推進軸系

(一) 各軸受ノ上半又ハ覆金及推力受ヲ取外スコト

(二) 船尾管後端軸受部内面上部ト螺旋軸トノ間隙ヲ測定シ得ル様爲シ置クコト

五 減速裝置

(一) 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且各軸ヲ回轉シ得ル様爲シ置クコト

(二) 齒車箱ノ上半ヲ解放スルコト

(三) 液体ニ依ル動力傳導裝置ノ翼車ヲ検査シ得ル様爲シ置クコト



六 汽罐

- (一) 罐内ノ水ヲ排出シ人孔蓋、泥孔蓋及覗孔蓋ヲ取外シ且火側及水側ヲ充分掃除スルコト
  - (二) 火床棧ヲ取出スコト
  - (三) 煙室扉ヲ開キ置クコト
  - (四) 安全弁、寒汽弁、給水制限弁及放水弁ノ弁匣ヲ開キ置クコト
- 七 給水装置
- (一) 給水「ポンプ」ノ「ブランチヤ」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ置クコト
  - (二) 給水濾器及給水加熱器ヲ開キ置クコト
- 八 復水装置
- (一) 復水器蓋ヲ開キ置クコト
  - (二) 抽氣「ポンプ」及循環「ポンプ」ノ「バケツト」又ハ扇車ヲ取出スコト
- 九 吸水、排水及冷却ノ装置
- (一) 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」ヲ開キ置クコト

- (二) 浚水「ポンプ」及冷却「ポンプ」ノ「ブランチヤ」又ハ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣ヲ開キ扇車「ポンプ」ナルトキハ扇車ヲ取出スコト
  - (三) 芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト
  - (四) 油、清水又ハ空氣ノ冷却器ヲ開キ置クコト
- 十 潤滑油装置
- 潤滑油「ポンプ」及其ノ弁匣並ニ油濾器ヲ開キ置クコト
  - 十一 空氣壓縮機、氣槽及掃除空氣「ポンプ」
  - (一) 空氣壓縮機ノ「ピストン」ヲ取出シ且弁匣及冷却器蓋ヲ開キ置クコト
  - (二) 氣槽ノ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト
  - (三) 掃除空氣「ポンプ」ノ「ピストン」ヲ取出シ弁匣ヲ開キ置クコト
  - 十二 油槽
  - 油ヲ排出シ人孔又ハ検査孔ヲ開キ内部ヲ掃除スルコト
  - 十三 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機

- 十四 水壓試驗
- 第八十八條ニ掲グル水壓試驗ノ準備ヲ爲スコト
- 十五 機關備品
- 適當ノ場所ニ陳列スルカ又ハ近寄り易キ場所ニ整備シ置クコト
- 第一百十條 設備及屬具ニ關スル定期検査ノ準備ハ左ノ各號ニ依ルベシ
- 一 屬具中取離サザレバ検査シ得ザルモノハ之ヲ取離シ消防、操舵、繫船、揚錨及揚貨ノ機具、手用浚水「ポンプ」並ニ船口、載炭口、通風器、載貨門、載炭門、船樓端ノ開口其ノ他ノ開口ノ閉鎖裝置ハ所屬具ヲ取離シ置キ錨鎖、索、船燈、信號器、救命器具其ノ他ノ航海用具ハ總テ之ヲ適當ノ場所ニ陳列シ置クコト
- 二 端艇ハ所屬具ヲ備ヘ水上ニ浮ベ置クコト
- 三 帆船ノ帆類ハ所定ノ位置ニ取附ケ展開シ得ベキ準備ヲ爲スコト
- 四 第八十九條ニ掲グル效力試驗ノ準備ヲ爲スコト
- 五 操舵機、揚錨機其ノ他ノ甲板補機ノ氣筒又ハ汽筒及軸受ヲ開キ置クコト

- 六 應急用動力設備、點燈設備、水密戸閉閉裝置及荷役設備ノ原動機ノ要部ヲ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ解放スルコト
- 第七十一條 初メテ滿載吃水線ニ關スル検査ヲ受ケントストキハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ船體ノ構造及現狀ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ
- 第一百十二條 中間検査ニ於テハ第六條第五號及第七十條第一號乃至第四號ニ掲グル準備ヲ爲スベシ
- 機關ヲ備フル船舶ノ中間検査ニ於テハ前項ノ準備ノ外左ノ準備ヲ爲スベシ
- 一 往復動汽機
- 「クランク」軸ノ受金ノ上半、汽筒蓋、滑弁匣蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」軸ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
- 二 「タービン」汽機
- 「タービン」筒ノ上半ヲ打擧シ「ローター」軸ノ受金ノ上半ヲ取外シ且「ローター」ヲ回轉セシメ得ル様爲シ置クコト
- 三 發動機
- 「クランク」軸ノ受金ノ上半、氣筒蓋及「クランク」栓ノ受金ヲ解放シ且「クランク」

- 四 推進器及推進軸系
- 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト
- 五 減速装置
- 各軸受金ノ上半ヲ取外シ且減速齒車ノ齒ヲ全般ニ互リ検査シ得ル様爲シ置クコト
- 六 汽罐
- 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ管海官廳ニ於テ必要アリト認ムル場合ノ外火床棧ハ取外サザルモ妨ナシ
- 七 吸水及排水ノ装置
- 最大吃水線以下ニ於テ船外ニ通ズル弁及「コック」並ニ浚水「ポンプ」ノ蓋及弁匣又ハ扇車匣ノ上半ヲ開キ置キ且芥除箱及泥芥箱ヲ掃除スルコト
- 八 潤滑油装置
- 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト但シ二重装置ナルトキハ其ノ一方ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ
- 九 空氣壓縮機及掃除空氣「ポンプ」ノ蓋並ニ弁匣ヲ開キ置クコト但シ二箇以上ヲ

- 備フルトキハ一箇ニ付準備ヲ爲スニ止ムルモ妨ナシ
- 十 船舶ノ推進ニ關係アル補發動機及救命艇用發動機
- 主發動機ニ準ジ準備ヲ爲スコト
- 十一 機關備品
- 定期検査ニ準ジ準備ヲ爲スコト
- 第一百十三條 特殊船検査及臨時検査ニ於テハ管海官廳ノ指示スル所ニ依リ必要ナル準備ヲ爲スベシ
- 第一百十四條 船舶用機關ノ出來上リ検査ニ於テハ第九條ニ準ジ當該機關ノ検査ニ必要ナル準備ヲ爲スベシ
- 第一百十五條 管海官廳ハ前十條ニ規定スル検査ノ準備ニ付船舶ノ大小、用途、年齢、構造、前検査ノ成績又ハ現狀ニ依リ適當ニ増減セシムルコトヲ得
- 第一百十六條 検査申請者検査ニ必要ナル準備ヲ爲サザルトキハ第七十八條ノ規定ヲ準用ス
- 第十三章 證書
- 第一百十七條 船舶検査證書ヲ分テテ甲種船舶検査證書(第五號書式)、乙種船舶検査證書(第六號書式)及漁船検査證書(第七號書式)ノ三種トス

甲種船舶検査證書ハ満載吃水線ノ標示ヲ要スル船舶ニ、乙種船舶検査證書ハ満載吃水線ノ標示ヲ要セザル船舶ニ、漁船検査證書ハ漁船ニ之ヲ交付ス

第百十八條 左ニ掲グル船舶ニ付テハ船舶検査證書ノ有効期間ハ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム但シ漁船ニ付テハ漁船特殊規則ノ定ムル所ニ依ル

一 推進機關ヲ有セザル長サ二十メートル未滿ノ帆船  
二 旅客船ニ非ザル長サ二十メートル未滿ノ船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有シ且汽罐ヲ有セザルモノ

第百十九條 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ガ其ノ適用ヲ受クル船舶ト爲リタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ當該船舶ノ現狀ニ應ジ三年以内ニ於テ管海官廳之ヲ定ム

第百二十條 特殊船舶検査證書ヲ分テテ甲種特殊船舶検査證書(第八號書式)、乙種特殊船舶検査證書(第九號書式)、丙種特殊船舶検査證書(第十號書式)及漁船特殊検査證書(第十一號書式)ノ四種トス

甲種特殊船舶検査證書ハ移民船ニ、乙種特殊船舶検査證書ハ臨時旅客ヲ搭載スル船舶ニ

ニ、丙種特殊船舶検査證書ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニ、漁船特殊検査證書ハ第五十七條第二項ノ規定ニ依リ特殊船舶検査ヲ受ケタル漁船ニ之ヲ交付ス

特殊船舶検査證書ノ有効期間ハ當該航海ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ搭載スル船舶ニシテ管海官廳ニ於テ其ノ設備、航路、季節等ノ狀況ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ付テハ其ノ運送區域及旅客ノ種類ガ同一ナル場合ニ限り前項ノ有効期間ハ二航海以上ニ互リ之ヲ定ムルコトヲ得

第百二十一條 合格證明書(第十二號書式)ハ製造検査ヲ受ケタル船舶又ハ船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタル船舶用機關ニ之ヲ交付ス

第百二十二條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ハ其ノ有効期間滿了後五月迄ハ仍其ノ效力ヲ有ス

一 船舶安全法施行地外ニ於テ船舶検査證書ノ有効期間滿了シタル場合ニ於テ當該船舶ヲ同法施行地内ノ目的港迄回航スルトキ

二 船舶安全法施行地ニ在ル船舶ガ船舶検査證書ノ有効期間滿了シ又ハ航海中其ノ有効期間滿了スベキ場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ受ケ検査ヲ受ケズシテ引續キ短期ノ航海ヲ爲ストキ

前項第一號ノ場合ニ於テハ船長ハ船舶安全法施行地内ノ最初ニ到達シタル港ニ在ル管海官廳ニ遲滞ナク其ノ事實ヲ届出ツベシ

第一項第二號ノ認可ヲ受ケントスルトキハ船長ハ事由ヲ具シタル申請書ニ船舶ノ運航豫定表並ニ次回定期検査ヲ受ケントスル場所及期日ヲ記載シタル書面ヲ添付シ之ヲ最寄管海官廳ニ提出スベシ

前項ノ申請アリタルトキハ管海官廳ハ船舶ガ當該航海ニ適スルヤ否ヤヲ調査シ差支ナシト認ムルトキハ期間ヲ附シテ之ヲ認可ス

第一項第一號ノ航海ヲ終了シ同項第二號ノ認可ヲ受ケザルトキ又ハ同項第二號ノ航海ヲ終了シタルトキハ船舶検査證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第百二十三條 第五十三條ノ規定ニ依リ定期検査ヲ行ヒタルトキハ船舶検査證書ノ有効期間ハ滿了シタルモノト看做ス

第百二十四條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者又ハ船長ハ船舶検査證書及特殊船舶検査證書ヲ管海官廳ニ提出スベシ

一 船舶ニ付検査ヲ受クルトキ  
二 繫船シタルトキ

前項ノ場合ニ於テハ當該船舶ガ管海官廳ヨリ前項ノ規定ニ依リ提出シタル證書ノ返付ヲ受クルニ非ザレバ船舶検査證書ノ有効期間内ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得ズ

第百二十五條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證書ノ受有者ハ遲滞ナク其ノ事由ヲ具シ船舶検査手帖ヲ添へ最寄管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スベシ

合格證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ當該證明書ノ受有者ハ其ノ事由ヲ具シ原證明書ヲ交付シタル管海官廳ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第百二十六條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生ジタルトキハ船長ハ船舶検査手帖ヲ添へ遲滞ナク最寄管海官廳ニ其ノ書換ヲ申請スベシ

前項ノ場合ニ於テ變更ヲ生ジタル事項ガ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ニ記載スベキモノナルトキハ船長ハ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ當該管海官廳ノ檢閱ニ供スベシ

第百二十七條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 船舶ガ滅失若ハ沈没シ又ハ解撤セラレタルトキ  
二 船舶ガ検査ヲ受クルコトヲ要セザルモノト爲リタルトキ

三 船舶検査證書ノ有効期間滿了シタルトキ  
第百二十八條 左ニ掲グル場合ニ於テハ遲滞ナク特殊船舶検査證書ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

一 前條ノ規定ニ依リ船舶検査證書ヲ返還シタルトキ  
二 船舶ガ其ノ特殊ノ用途ニ使用セラレザルニ至リタルトキ

三 特殊船舶検査證書ノ有効期間滿了シタルトキ  
第百二十九條 船舶用機關ヲ船舶ニ備附ケタルトキハ其ノ合格證明書ノ受有者ハ遲

滞ナク之ヲ最寄管海官廳ニ返還スベシ

第百三十條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶所有者若ハ船長又ハ合格證明書ノ受有者ハ舊船舶検査證書、舊特殊船舶検査證書又ハ舊合格證明書ヲ新證書又ハ新證明書ト引換ニ當該管海官廳ニ返還スベシ

一 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ書換ヲ受ケタルトキ  
二 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ノ毀損ニ因リ其ノ再交付ヲ受ケタルトキ

第百三十一條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書又ハ合格證明書ヲ返還スル義務アル者其ノ所在分明ナラザルトキ又ハ死亡シタルトキハ現ニ之ヲ保管スル者ニ於テ前四條ノ規定ニ依ル手續ヲ爲スベシ

第百三十二條 船長ハ船舶検査證書、特殊船舶検査證書及回航認可證書ヲ船内ノ見易キ場所ニ掲ケ置クベシ

第百三十三條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書ノ英譯書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ最寄管海官廳ニ申請スベシ  
第百三十四條 前條ノ英譯書ハ原證書ヲ返還スルトキ之ヲ當該管海官廳ニ返還スベシ

シ但シ第三百三十條第二號ノ規定ニ依リ原證書ヲ返還スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十五條 左ニ掲グル場合ニ於テハ船舶検査證書ヲ受有セザル船舶ト雖モ之ヲ航行ノ用ニ供スルコトヲ得

一 日本船舶ヲ所有スルコトヲ得ザル者ニ船舶ヲ讓渡スル目的ヲ以テ之ヲ船舶安全法施行地外ニ回航スルトキ

二 船舶ヲ修繕シ又ハ検査ヲ受クル爲之ヲ工場所在地又ハ検査ヲ受クル場所ニ回航スルトキ

三 船舶法施行細則第四條第一項各號ニ該當スルトキ

四 繫船ノ繫留地ヲ變更スル爲之ヲ回航スルトキ

前項第一號、第二號又ハ第四號ノ場合ニ於テハ事由ヲ具シタル申請書ヲ管海官廳ニ提出シ其ノ認可ヲ受クベシ但シ船舶安全法施行地外ニ於テ製造セラレ又ハ國籍ヲ取得シ其ノ他同法ノ規定ニ依リ検査ヲ受クベキモノト爲リタル日本船舶ノ前項第二號ノ規定ニ依リ回航スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十六條 前條第一項各號ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ同條第二項但書ノ場合ニ於テ帝國領事官又ハ當該官廳ノ發給シタル堪航性ヲ證スル書面ヲ受有スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第三百三十七條 第三十七條第二項又ハ第三百三十五條第二項ノ規定ニ依リ申請書ノ提出アリタルトキハ管海官廳ハ當該船舶ニ付其ノ回航ノ適否又ハ旅客若ハ貨物搭載ノ適否ヲ調査シ之ヲ適當ト認ムルトキハ回航認可證書(第十三號書式)ヲ交付ス

第三百三十八條 回航認可證書ノ有効期間ハ回航ニ必要ナル期間ヲ標準トシ管海官廳之ヲ定ム

船舶ガ目的地ニ到達シタルトキハ回航認可證書ハ其ノ效力ヲ失フ

第三百二十九條 船舶検査證書又ハ特殊船舶検査證書滅失シタルトキ又ハ之ヲ返還スベキ場合ニ於テ返還セザルトキハ其ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス但シ其ノ有効期間滿了後ハ此ノ限ニ在ラズ

第三百四十條 船舶検査證書、特殊船舶検査證書、其ノ英譯書又ハ回航認可證書ハ急速ヲ必要トスル場合ニ限り申請ニ依リ休暇日ト雖モ其ノ交付、再交付又ハ書換ヲ爲スコトアルベシ

第十四章 再検査  
第四百一十一條 船舶安全法第十一條ノ規定ニ依リ再検査ヲ申請セントスルトキハ申請書ニ前検査ニ對スル不服ノ事項及其ノ事由ヲ記載シタル書類ヲ添附シ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第四百一十二條 逓信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由ナシト認メタルトキ又ハ申請者ガ關係部分ノ原狀ヲ變更シタルトキハ申請ヲ却下ス

逓信大臣ニ於テ前條ノ申請ヲ理由アリト認メタルトキハ特ニ指命シタル者ヲシテ再検査ヲ行ハシメ前検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ更ニ當該管海官廳ヲシテ検査ノ種類ニ應ジ必要ナル證書又ハ證明書ヲ申請者ニ交付セシム

第四百一十三條 前條第二項ノ規定ニ依リ逓信大臣ノ指命シタル者ガ再検査ヲ結了

シタル場合ニ於テ逓信大臣ノ決定前關係部分ノ原狀ヲ變更セントスルトキハ再検査ノ申請者ハ前検査ヲ行ヒタル管海官廳ヲ經由シテ逓信大臣ニ申請書ヲ提出シ其ノ許可ヲ受クベシ

第十五章 船舶乗組員ノ不服申立  
第四百四十四條 船舶乗組員船舶安全法第十三條ノ規定ニ依リ申立ヲ爲サントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル管海官廳宛ノ申立書ニ職務及氏名ヲ連記シ之ヲ當該船長ニ提出スベシ

一 重大ナル缺陷アリトスル事項及其ノ現狀

二 申立ヲ爲スニ至ル迄ノ顛末

第四百四十五條 船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ之ニ對スル意見書及船舶検査手帳ヲ添附シ遲滞ナク之ヲ當該管海官廳ニ提出スベシ

船舶ガ管海官廳所在地ニ在ラザル場合ニ於テ前條ノ規定ニ依リ申立書ノ提出アリタルトキハ船長ハ遲滞ナク前項ノ書類ヲ其ノ後最初ニ到達スベキ港ニ在ル管海官廳ニ郵便其ノ他適當ノ方法ニ依リ提出スベシ

第四百四十六條 船舶ノ發航直前ニ於テ第四百四十四條ノ規定ニ依リ申立書ノ提出アリタルトキハ申立ノ事項ガ貨物ノ過載、積附其ノ他船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キモノナル場合ヲ除ク外船舶ガ管海官廳所在地ニ在ル場合ト雖モ船長ハ前條第一項ノ規定ニ拘ラズ同條第二項ノ規定ニ依リコトヲ得

第四百四十七條 管海官廳申立書ヲ審査シ船舶ガ當該管海官廳所在地ニ在ル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當事者ノ出頭ヲ求メ又ハ船舶ニ臨檢シテ其ノ事實ヲ調査ス

管海官廳申立理由ナシト認ムルトキハ其ノ旨ヲ船長及申立人ニ通告ス

第十六章 船級協會  
第四百四十八條 船舶安全法第八條ノ規定ニ依リ検査ノ業務ニ從事スル爲逓信大臣ノ認定ヲ受ケントスル船級協會ハ營利ヲ目的トセザル法人ナルコトヲ要ス

第四百四十九條 船級協會前條ノ認定ヲ受ケントスルトキハ申請書ニ左ニ掲グル事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

一 主タル事務所並ニ出張所ノ名稱及所在地

二 役員ノ氏名

三 検査員ノ氏名及履歷

四 定款又ハ寄附行爲

五 船級登録及検査ニ關スル規定

六 手数料及旅費ニ關スル規定

第四百五十條 逓信大臣ノ認定ヲ受ケタル船級協會(以下單ニ船級協會ト稱ス)検査員ヲ選任セントスルトキ又ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲グル規定ヲ變更セントスルトキハ逓信大臣ノ認可ヲ受クベシ

前條第一號又ハ第二號ニ掲グル事項ニ變更アリタルトキハ船級協會ハ逓信大臣ニ其ノ旨ヲ届出ツベシ

第四百五十一條 船級協會船舶安全法第八條ノ規定ニ依リ船舶検査ヲ行ヒタルトキハ遲滞ナク當該検査報告書、乾舷計算表及該検査ニ基キ發行シタル證書ノ原本並ニ検査依頼者ヨリ差出シタル圖面ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第四百五十二條 逓信大臣前條ノ書類ヲ審査シ船級協會ノ行ヒタル検査ヲ適當ナラズト認ムルトキハ之ガ改訂ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令ヲ爲スコトアルベシ

第五百五十三條 船級協會ハ一月毎ニ船舶安全法第八條ノ規定ニ依ル検査ノ業務ニ關スル報告書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

第十七章 航海上ノ危険防止

第五百五十五條 本章中第五百五十六條乃至第五百五十九條ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海區域又ハ遠洋區域ヲ航行スルモノニ、其ノ他ノ規定ハ特ニ定ムル場合ヲ除クノ外總テノ船舶ニ之ヲ適用ス

第五百五十六條 船舶ハ其ノ搭載シタル救命艇又ハ救命筏ニ左ノ員數ヲ割當ツルニ足ル救命艇手續證書ヲ受有スル船員ヲ乘組マシムベシ但シ臨時旅客又ハ甲板旅客搭載ノ爲特ニ之ヲ乘組マシムル必要ヲ生ジタルトキハ管海官應又ハ帝國領事官ノ認可ヲ受ケ當該所要員數ノ一部又ハ全部ヲ減シ相當ノ技能ヲ有スル船員ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一 定員四十人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ二人  
二 定員四十人以上六十一人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ三人

三 定員六十二人以上八十五人以下ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ四人

四 定員八十六人以上ノ救命艇又ハ救命筏ニ付テハ五人

前項ノ船員ノ割當員數ニ付テハ事情ニ應ジ船長之ヲ定ム  
船長ハ救命艇又ハ救命筏ニ其ノ指揮者トシテ甲板部職員又ハ第一項ニ規定スル船員ヲ配置シ且右指揮者ガ故障アル場合ニ於テ之ニ代リテ指揮スル者ヲ定メ置クベシ

船長ハ前項ノ指揮者ヲシテ其ノ指揮スル救命艇又ハ救命筏ノ乗組員ノ名簿ヲ所持セシムベシ  
船長ハ發動機ヲ有スル救命艇ニハ發動機ヲ運轉シ得ル者ヲ、無線電信又ハ探照燈ノ設備ヲ有スル救命艇ニハ其ノ設備ヲ操作シ得ル者ヲ配置スベシ

船長ハ救命艇、救命筏、救命浮器其ノ他ノ救命設備ガ何時ニテモ使用シ得ルコトヲ確ムル爲甲板部職員ヲ指定シ置クベシ  
救命艇手續證書ノ交付、書換又ハ返還ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第五百五十七條 船長ハ非常ノ出來事ニ對スル船員ノ特別任務ニ付テ左ノ事項ニ關スル

船員ノ擔當ヲ定メ發航前之ヲ記載シタル召集表ヲ作成シ船員室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

一 水密戸、弁等ノ閉鎖

二 救命艇、救命筏及救命浮器ノ艙裝

三 端艇鈎ニ取附ケタル救命艇ノ卸方

四 前號以外ノ救命艇、救命筏及救命浮器ノ一般準備

五 旅客ノ召集

六 火災ノ消防

召集表ニ於テハ事務部員ニ對シ左ノ事項ニ關スル擔當ヲ指定スベシ  
一 旅客ニ警報スルコト  
二 旅客ガ著衣シ救命胴衣ヲ適當ニ著用セルコトヲ確ムルコト  
三 旅客ヲ集合所ニ集合セシムルコト  
四 通路及階段ニ於ケル秩序ヲ維持シ旅客ノ行動ヲ統制スルコト  
召集表ニハ全船員ヲ各員割當ノ救命艇及消防持場ニ呼出ス爲ノ一定ノ信號ヲ記載スベシ

第五百五十八條 船長ハ發航前甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ區畫スル水密隔壁ニ取附ケル水密蝶番戸ヲ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第五百五十九條 機關室内ノ水密隔壁ニ取外シ得ル板戸ヲ設クル船舶ニ在リテハ船長ハ發航前該板戸ヲ其ノ位置ニ取附クルコトヲ要シ航行中ハ緊急ノ必要アル場合ヲ除クノ外之ヲ取外スベカラズ

前項ノ板戸ハ其ノ接合部ガ水密ヲ保ツ様之ヲ取附クベシ  
第六十條 船長ハ作業上必要アル場合ヲ除クノ外航行中水密隔壁ニ取附クル一切ノ水密戸ヲ閉ヂ置キ之ヲ開キタルトキハ迅速ニ閉ヂ得ル様常ニ準備シ置クベシ

第六十一條 船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要フル何レカノ舷窓ノ下縁ガ發航ノ際ノ吃水線ノ上方ニ於テ同吃水線ヨリ船ノ幅ノ千分ノ二十五ニ一・三七メートルヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ且船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ船長ハ發航前該舷窓ノ在ル甲板間ノ總テノ舷窓ヲ水密ニ閉ヂ且錠ヲ下スコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

船舶ガ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル熱帯ニ在ル場合又ハ熱帶季節ニ季節熱帯ニ在ル場合ニ於テハ前項ノ規定ノ適用ニ付ト

ハ一・三七メートルトアルハ之ヲ一・〇六五メートルト爲スコトヲ得

船舶所有者又ハ船長ハ第一項ノ規定ヲ適用スベキ極限ノ平均吃水ノ指定ヲ管海官應ニ申請スルコトヲ得

船舶區畫規程ニ依リ錠前附ナルコトヲ要スル舷窓ハ第一項ニ規定スルモノ以外ノモノト雖モ船長ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ非ザレバ航行中ノ開放スベカラズ

第六十二條 前條第一項ノ場合ニ於テハ船長ハ舷窓ノ鍵ヲ保管シ其ノ他必要ナル處置ヲ爲スベシ

前條第四項ノ舷窓ニ錠ヲ下シタルトキハ船長ハ其ノ鍵ヲ保管スル等其ノ同意ヲ得ルニ非ザレバ之ヲ開キ得ザル様必要ナル處置ヲ爲スベシ

第六十三條 船長ハ發航前航行中近寄り難キ場所ニ在ル舷窓及其ノ蓋ヲ水密ニ閉ヂ船長ハ發航前限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載炭門ヲ水密ニ閉ヅルコトヲ要シ航行中ハ之ヲ開放スベカラズ

第六十四條 灰乘筒、芥乘筒其ノ他之ニ類似ノモノニシテ其ノ船内開口ガ限界線

下ニ在ルモノニ付テハ之ヲ使用セザルトキハ船長ハ筒ニ取附ケタル自動不還弁及開口ノ蓋ヲ縮附ケ置クベシ

第六十五條 船長ハ端艇操練ノ爲實行可能ナルトキハ每週一回船員ノ召集ヲ行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行フベシ  
端艇操練ヲ行フニ當リテハ異リタル場所ニ備附ケタル救命艇及救命筏ヲ順次ニ使用スベシ

第六十六條 船長ハ水密戸、舷窓、弁等ニ排水孔、灰乘筒及芥乘筒ノ閉鎖裝置ノ操作ノ操練ヲ每週一回行フベシ又航海ガ一週間ヲ超ユルトキハ發航前之ヲ行ヒ爾後航海中少クとも每週一回之ヲ行フベシ但シ主横置隔壁ニ於ケル水密ナル動力戸及蝶番戸ニシテ航海中開閉スルコトアルモノハ毎日之ヲ操作スベシ

水密戸、之ニ附屬スル機構及表示器並ニ區畫室ノ水密ヲ保ツニ必要ナル弁ハ航海中少クとも每週一回定期ニ之ヲ點檢スベシ  
第六十七條 前二條ニ定ムル操練及點檢ハ船員ガ其ノ任務ヲ完全ニ了解習熟スル

様且救命設備及其ノ附屬具ガ常ニ即時ノ使用ノ爲準備セラルル様之ヲ行フベシ  
第六十八條 船長ハ航海ガ一週間ヲ超ニルトキハ其ノ初期ニ於テ旅客ノ召集ヲ行フベシ  
旅客召集ノ危急信號ハ汽笛又ハ汽角ニ依リ短聲六發以上ノ連發ト之ニ續ク長聲一發トス

前項ノ信號ハ短國際航海ニ從事スル船舶ヲ除クノ外船舶ニ於テ操作セラレ電氣裝置ニ依リ船内ニ普及スル他ノ信號ヲ以テ之ヲ補足スルコトヲ要ス  
旅客召集ノ危急信號其ノ他旅客ニ關係アル信號ハ種種ノ國語ヲ以テ其ノ意味ヲ明記シ旅客室其ノ他適當ノ場所ニ掲ゲ置クベシ

第六十九條 船長ハ火災ヲ速ニ發見スル爲有效ナル巡視制度ヲ設クベシ  
第七十條 操舵命令ハ船舶ノ前進中其ノ船首ヲ轉ズル方向ヲ直接ニ示ス語ヲ使用スベシ  
第七十一條 流水、委棄物、熱帶暴風雨(ハリケーン)、「タイフーン」、「サイクロン」及之ト同様ノ性質ヲ有スルモノ其ノ

他航海ニ直接ノ危険ヲ及ボスモノニ遭遇シタルトキハ船長ハ適當ト認ムル通信方法ニ依リ之ヲ附近ノ船舶及最モ速ニ通信シ得ベキ海岸局ニ通報スベシ  
前項ノ通報ハ別ニ告示スル様式ニ依ルベシ  
第七十二條 無線電信ヲ施設シタル船舶全強風以上ノ風力ヲ感知シタルトキハ之ヲ附近ノ船舶ニ通報スベシ  
第七十三條 船舶ハ重大且急迫ノ危険ニ陥リ即時ノ救助ヲ要スルトキニ限り緊急信號及遭難信號ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ヲ除クノ外船舶ガ救助ヲ要スルトキ又ハ後ニ緊急信號若ハ遭難信號ヲ發スルノ必要アルニ至ルベキコトノ警告ヲ發セントスルトキハ緊急信號ヲ使用スベシ  
緊急信號又ハ遭難信號ヲ發シタル後救助ヲ要セザルコトヲ認メタルトキハ該船舶ハ直ニ其ノ旨ヲ一切ノ關係局ニ通報スベシ  
第七十四條 船長無線電信ニ依リ遭難信號ヲ接受シタルトキハ能ク限リノ速力ヲ以テ遭難者ノ救助ニ赴クベシ但シ遭難者

ニタルトキハ其ノ日時又之ヲ行フコトヲ得ザリシトキハ其ノ事由  
六 航行中無線電信ノ補助電源ノ全能力ヲ維持シタルコト及緊急自働受信機ヲ試験シタルコト  
第七十七條 船舶検査證書ノ有効期間内ニ於テ船舶ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ旨管海官廳ニ届出ヅベシ  
一 入渠又ハ上架セントスルトキ(漁船ノ上架ヲ除ク)  
二 船體若ハ機關ノ要部又ハ重要ナル設備若ハ屬具ニ損傷ヲ生ジタルトキ又ハ之ヲ修繕若ハ變更セントスルトキ  
第七十八條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタルモノ又ハ同日以後旅客船ニ變更シタルモノニ付テハ船舶所有者ハ之ヲ本令施行後初メテ國際航海ニ使用スルニ先チ傾斜試験ヲ行ヒ復原性ニ關スル要項ヲ決定スベシ但シ復原性ニ關スル十分ノ資料ヲ有シ管海官廳ニ於テ更ニ傾斜試験ヲ行フノ必要ナシト認メタル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
前項ノ傾斜試験ハ船舶ノ空艙状態ニ於ケ

ノ所在ニ到達シタル船舶ヨリ救助ノ必要ナキ旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
遭難船舶ノ船長ハ遭難信號ニ應答シタル船舶ノ船長ト能ク限リ協議シタル上適當ト認ムル船舶ヲ選定シ救助ヲ要請スルコトヲ得  
前項ニ依リ救助ヲ要請セラレタル船舶ノ全部ガ其ノ要請ニ應ジ救助ニ赴ク旨ノ通報ヲ接受シタルトキハ他ノ船舶ハ救助ニ赴クコトヲ要セズ  
無線電信ニ依リ遭難信號ヲ接受シタル船舶ノ船長ハ已ムコトヲ得ザル事由ニ因リ救助ニ赴クコト能ハザルカ又ハ特殊ノ事情ニ依リ救助ニ赴クコト不合理若ハ不必要ト認メ救助ニ赴カザルトキハ直ニ其ノ旨遭難船舶ノ船長ニ通報スベシ  
第七十五條 北大西洋橫斷ノ航海ニ定期ニ船舶ヲ就航セシムル船舶所有者ハ其ノ協定シタル航路中船舶ヲシテ探ラシムベキ常用ノ航路及其ノ變更ニ付廣告ヲ爲スベシ  
第十八章 雜則  
第七十六條 國際航海ニ從事スル船舶ノ

ル重心ノ位置ヲ算定シ得ル状態ニ於テ之ヲ行フベシ  
傾斜試験ヲ行ハントスルトキハ之ヲ管海官廳ニ届出ヅベシ  
第七十九條 前條ノ船舶ニハ其ノ復原性ニ關スル要項ヲ記載シタル書類ヲ備フベシ  
前項ノ書類ハ少クトモ左ノ事項ヲ記載シタルモノナルコトヲ要ス  
一 傾斜試験ノ成績  
二 空艙状態ニ於ケル船舶ノ重心ノ位置  
三 横「メタセンター」ノ位置ヲ示ス曲線圖(最高區畫滿載吃水線迄ノ各吃水ニ對シ龍骨ノ上面ヨリ横「メタセンター」ニ至ル垂直距離ヲ示スモノ)  
第八十條 船舶安全法第十二條第一項ノ證書(第十四號書式)ハ船舶所有者又ハ船長ノ請求アルトキハ之ヲ示スベシ  
第八十一條 船舶ノ検査ヲ受クルトキハ検査申請者ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ別表第二號ニ定ムル検査手数料ヲ納付スベシ  
検査申請者ノ都合ニ依リ検査ノ申請ヲ取下ゲ又ハ船舶ガ検査ヲ要セザルモノト爲

船長ハ旅客船ニ在リテハ左ノ各號、總噸數千六百噸以上ノ船舶ニシテ旅客船ニ非ザルモノニ在リテハ第六號ニ掲グル事項ヲ航海日誌ニ記載スベシ  
一 第七十四條ニ定ムル遭難者ノ救助ニ赴カザリシトキハ其ノ事由  
二 第七十八條、第七十九條、第一百六十一條又ハ第六十三條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル水密艙番戶、取外シ得ル板戶、舷窓、舷門、載貨門又ハ載炭門ヲ碇泊中閉閉シタルトキハ其ノ日時  
三 甲板間ニ於ケル石炭庫ヲ區畫スル水密隔壁ニ設クル水密戶ヲ閉閉シタルトキ及第七十九條若ハ第六十條ノ規定ニ依リ航行中開放スルコトヲ禁ゼラレタル取外シ得ル板戶又ハ水密戶ヲ航行中緊急ノ必要上又ハ船舶ノ作業上閉閉シタルトキハ其ノ日時  
四 第六十六條ニ定ムル水密戶等ノ操作ノ操練及之ガ點檢ヲ行ヒタルトキハ其ノ日時及點檢ニ當リテ發見シタル缺陷  
五 第六十五條ニ定ムル端艇操練ヲ行

リタル場合ト雖モ検査著手後ナルトキハ  
検査手数料ヲ徴收ス

第百八十二條 船舶検査證書、特殊船舶検査  
證書又ハ其ノ英譯書ノ交付、再交付若ハ  
書換ヲ受ケントスルトキ、合格證明書又  
ハ回航認可證書ノ交付若ハ再交付ヲ受ケ  
ントスルトキ又ハ船舶検査手帖ノ再交付  
ヲ受ケントスルトキハ別表第三號ニ定ム  
ル手数料ヲ納付スベシ

第百八十三條 前二條ノ手数料ハ其ノ金額  
ニ相當スル收入印紙ヲ手数料納付書ニ貼  
附シテ之ヲ納付スベシ

検査手数料納付書ニハ船舶ノ名稱、總噸  
數、検査ノ種類、旅客船ト旅客船ニ非ザル  
モノトノ區別及手数料額ヲ記載スベシ  
前項ニ掲グル事項ノ外臨時検査ヲ受ケタ  
ル場合又ハ休暇日ニ於テ検査ヲ受ケタル  
場合ニハ臨檢回数ヲ、船體ノ製造検査ヲ  
受ケタル場合ニハ船舶ノ長サヲ、機關ノ  
製造検査ヲ受ケタル場合又ハ船舶安全法  
第六條第三項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケタ  
ル場合ニハ往復動汽機ニ付テハ汽筒ノ徑  
ノ和ヲ、發動機ニ付テハ汽筒ノ徑ノ和及  
單働式又ハ複働式ノ別ヲ、「タービン」汽  
機ニ付テハ軸馬力ヲ、汽罐ニ付テハ受熱

面積ヲ記載スベシ但シ船舶安全法第六條  
第三項ノ規定ニ依リ船舶ノ機關ノ部分品  
ノ検査ヲ受ケタル場合ニハ臨檢回数ノミ  
ヲ記載スベシ

第百八十四條 船舶検査執行地外ニ於テ管  
海官廳ノ検査ヲ受ケルトキハ検査申請者  
ハ當該管海官廳ノ指定スル所ニ從ヒ検査  
官吏ノ出張ニ要スル成規ノ旅費ヲ納付ス  
ベシ

船舶法施行細則第五十三條第一項ノ場合  
ニ於テ出張シタル検査官吏ノ検査ヲ受ケ  
タルトキハ其ノ旅費ハ相互ニ通算ス

第百八十五條 本章ノ規定ニ依ル手数料及  
旅費ハ官廳又ハ公共團體ニ對シテハ之ヲ  
徴收セズ

第十九章 罰則

第百八十六條 船舶所有者又ハ船長第四十  
六條、第百二十四條、第百三十六條、第百  
五十六條第一項又ハ第百七十七條ノ規定  
ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十七條 船長左ノ各號ノ一ニ該當ス  
ルトキハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第四十七條第一項第二項、第五十一  
條、第八十二條第二項、第八十三條第三  
項、第百二十二條第二項、第百三十二

條、第百四十五條又ハ第百五十七條第  
一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第百四十四條ノ規定ニ依ル申立書ノ  
提出アリタル場合ニ於テ申立ノ事項ガ  
船舶ノ發航直前ニ非ザレバ分明シ難キ  
モノナルニ拘ラズ第百四十五條第一項  
ノ規定ニ依ル措置ヲ執ラザリントキ

附則  
第百八十八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨ  
リ之ヲ施行ス

第百八十九條 船舶検査法施行細則、船舶  
滿載吃水線法施行規則、船舶無線電信施  
設法施行規則、船舶検査規程、木船検査規  
程、漁船検査規程及船舶滿載吃水線規程  
ハ之ヲ廢止ス

第百九十條 船舶安全法第三十三條ニ掲  
グル船舶ハ同法第三十六條第一項ノ検査ヲ  
受ケル迄滿載吃水線ヲ標示セザルコトヲ  
得

第百九十一條 船舶安全法第二條第一項ノ  
規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニシテ本令施  
行ノ際現ニ船舶検査法ニ依リ検査申請中  
ノモノニ付テハ検査ヲ行ハズ

第百九十二條 昭和六年七月一日以後ニ龍  
骨ヲ据附ケ本令施行ノ際現ニ製造中ノ旅

認メタルトキハ検査ノ方法及準備ニ付  
第一號ニ依ルコトヲ得

船舶安全法第三十三條ニ掲グル船舶前項  
ノ検査ヲ受ケ滿載吃水線ヲ標示スベキ場  
合ニ於テ特ニ急速ノ發航ヲ必要トスル事  
情アルトキハ當該管海官廳ノ認可ヲ受ケ  
其ノ指定スル時期迄滿載吃水線ヲ標示セ  
ザルコトヲ得

第百九十四條 國際航海ニ從事スル旅客船  
ニシテ船舶安全法第三十五條ニ掲グル  
モノハ同法ニ依リ検査ヲ受ケル迄第百  
五十六條ノ規定ニ拘ラズ救命艇手適任證  
書ヲ受有スル船員ヲ乗組マシメザルコト  
ヲ得

第百九十五條 船舶検査法ニ依リ定メタル  
船舶ノ資格ガ第九十二條ノ表ニ掲グル船  
舶ノ長サ又ハ速度ニ依リ變更ヲ要スル場  
合ト雖モ當該船舶ノ用途其ノ他ノ事情ニ  
依リ管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認  
メタルトキハ當該船舶ノ現狀ニ變更ナキ  
限り仍從前ノ資格ヲ存續セシムルコトヲ  
得

第百九十六條 鋼船ノ船體ニ關シ施設スベ  
キ事項及其ノ標準ニ付テハ第十條ノ規定

客船ニシテ國際航海ニ從事スベキモノ又  
ハ昭和七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ  
本令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國  
際航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ構  
造、設備及滿載吃水線ニ關シ本令ニ依リ  
検査ヲ行フ

昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ本  
令施行ノ際現ニ製造中ノ船舶ニシテ國際  
航海ニ從事スベキモノニ付テハ其ノ無線  
電信施設ニ關シ本令ニ依リ検査ヲ行フ

第百九十三條 船舶安全法第三十六條第一  
項ノ規定ニ依ル検査ハ左ノ各號ニ依ル  
一 船舶検査法ニ依リ定メタル特別検査  
ノ有効期間ガ滿了シタル船舶及同法ニ  
依リ特別検査ヲ行ハザル船舶ノ受クベ  
キ検査ニ付テハ定期検査ニ關スル規定  
ヲ準用ス

二 前項ノ有効期間ガ滿了セザル船舶ト  
雖モ申請ニ依リ管海官廳ニ於テ差支ナ  
シト認ムルモノニ付行フ検査ニ付テハ  
定期検査ニ關スル規定ヲ準用ス

三 前二號ニ該當セザル船舶ノ受クベキ  
検査ニ付テハ中間検査ニ關スル規定ヲ  
準用ス但シ管海官廳ニ於テ必要アリト

ニ拘ラズ當分ノ内仍造船規程第一編ノ定  
ムル所ニ依ル

別表第一號  
無線電信施設免除區域表

- 一 北海道各港間及樺太各港間ノ區域並ニ北  
海道ト樺太トノ間ノ航路ニ當ル樺太海灣及  
「オホツク」海
- 二 山口縣大津郡川尻岬ヨリ慶尚南道釜山ニ  
至ル線及長崎縣長崎ヨリ全羅南道馬羅島ヲ  
經テ同道珍島ニ至ル線内ノ區域
- 三 北緯三十七度以北ノ黃海
- 四 臺北州富貴角ヨリ中華民國福建省福州ニ  
至ル線及高雄州鶯鷹鼻ヨリ香港ニ至ル線内  
ノ區域
- 五 東經九十四度ノ「アジア」沿岸ヨリ西貢  
ニ至ル沿岸線、西貢ヨリ北緯四度三十分東經  
百十度ノ地點「パラワン」島ノ南端「パルマ  
ス」島（ミアンガス）、緯度零度東經百四十  
度ノ地點、緯度零度東經百四十八度ノ地點  
及南緯十度東經百四十八度ノ地點ヲ經テ  
「ヨーク」岬ニ引キタル線、「ヨーク」岬ヨリ  
「ポルトダーウィン」（「チャールズ」岬）ニ至  
ル「オーストラリア」ノ北沿岸線並ニ「チャ  
ールズ」岬ヨリ「アシモア」リフ（「イースト」  
島）、南緯十度東經百九度ノ地點、「クリスマ  
ス」島、北緯二度東經九十四度ノ地點及北緯  
十度東經九十四度ノ地點ヲ經テ東經九十四

度ノ「アジア」ノ沿岸迄引キタル各線内ニ在  
リテ「オーストラリア」聯邦及亞米利加合衆  
國ノ領域ヲ除キタル區域  
六 香港ヨリ北緯十七度東經百十度ノ地點ニ  
至ル線同地點ヨリ正南へ北緯十度ニ至ル線  
及同地點ヨリ西貢ニ至ル線ノ西方ノ支那海  
及東京灣  
七 赤道、西經百三十度ノ線、南緯三十四度ノ

線及「オーストラリア」ノ沿岸線ニ依リ圍マ  
レタル南太平洋ヨリ「オーストラリア」ノ領  
域ヲ除キタル區域  
八 「マダガスカル」島、「レユニオン」島及  
「モーリシアス」島ノ各港間ノ航路ニ當ル印  
度洋  
九 「モロッコ」國「カサブランカ」、「アルジェ  
リア」ノ「オラン」及其ノ中間ノ各港間ノ航  
路ニ當ル北大西洋及地中海一部

十 諸國「ウトシレ」ヨリ和蘭國「テキセル」  
ニ至ル線ノ東方ニシテ「ソグイェト」社會主  
義共和國聯邦ノ領域ヲ除キタル「バルチツ  
ク」海及其ノ接續海  
十一 亞米利加合衆國ノ領域ヲ除キタル「カ  
リビアン」海  
備考  
第十一ノ區域ニ付テハ帆船ノ航海ニ限ル

別表第二號 検査手數料表

製 造 檢 査	船 體ノ長サ(米)		體 一 隻ニ付		往 汽 筒ノ徑ノ和(米)		復 汽 筒ノ徑ノ和(米)		往 汽 筒ノ力		受 熱 面 積(平方 米)		汽 筒一箇ニ付		氣 筒ノ徑ノ和(米)		發 動 機 一 箇ニ付	
	五	十	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇
船體ノ長サ(米)	二〇未滿	二〇以上	三〇未滿	三〇以上	四〇未滿	四〇以上	五〇未滿	五〇以上	六〇未滿	六〇以上	七〇未滿	七〇以上	八〇未滿	八〇以上	九〇未滿	九〇以上	一〇〇未滿	一〇〇以上
體 一 隻ニ付	七圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
往 汽 筒ノ徑ノ和(米)	一〇未滿	一〇以上	一五未滿	一五以上	二〇未滿	二〇以上	二五未滿	二五以上	三〇未滿	三〇以上	三五未滿	三五以上	四〇未滿	四〇以上	四五未滿	四五以上	五〇未滿	五〇以上
復 汽 筒ノ徑ノ和(米)	一〇未滿	一〇以上	一五未滿	一五以上	二〇未滿	二〇以上	二五未滿	二五以上	三〇未滿	三〇以上	三五未滿	三五以上	四〇未滿	四〇以上	四五未滿	四五以上	五〇未滿	五〇以上
往 汽 筒ノ力	一〇未滿	一〇以上	一五未滿	一五以上	二〇未滿	二〇以上	二五未滿	二五以上	三〇未滿	三〇以上	三五未滿	三五以上	四〇未滿	四〇以上	四五未滿	四五以上	五〇未滿	五〇以上
受 熱 面 積(平方 米)	一〇未滿	一〇以上	一五未滿	一五以上	二〇未滿	二〇以上	二五未滿	二五以上	三〇未滿	三〇以上	三五未滿	三五以上	四〇未滿	四〇以上	四五未滿	四五以上	五〇未滿	五〇以上
汽 筒一箇ニ付	五圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
氣 筒ノ徑ノ和(米)	〇・五未滿	〇・五以上	一・〇未滿	一・〇以上	一・五未滿	一・五以上	二・〇未滿	二・〇以上	二・五未滿	二・五以上	三・〇未滿	三・〇以上	三・五未滿	三・五以上	四・〇未滿	四・〇以上	四・五未滿	四・五以上
發 動 機 一 箇ニ付	五圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓

推 進 機 關 有 ス ル 船 舶 ノ 檢 査	總 噸 數		推 進 機 關 有 セ ザ ル 船 舶 ノ 檢 査		特 殊 船 舶 檢 査		臨 時 檢 査 同 二 付		中 間 檢 査		定 期 檢 査		總 噸 數	
	五	十	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇	一〇	二〇
總 噸 數	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上
推 進 機 關 有 ス ル 船 舶 ノ 檢 査	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
特 殊 船 舶 檢 査	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
臨 時 檢 査 同 二 付	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
中 間 檢 査	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
定 期 檢 査	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓	一〇圓
總 噸 數	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上	一〇未滿	一〇以上















第十三號書式(第九七種)

四航路可證書

船舶所有者住所  
氏名又ハ名稱  
九八船舶安全法施行規則第 條第 號ニ該當スルニ因リ  
（該書若ハ貨物ノ搭載ヲ許サレタルトキ又ハ之ヲ略セラレタルトキハ其ノ旨ヲ記入  
ス）  
ヨリ  
ア照テ  
送附スルコトヲ證明シ本館書ヲ交  
付ス  
本證書ハ 年 月 日限り其ノ效力ヲ失フ  
管海官廳印

第十四號書式(第九八種)

第 號

官 氏 名

船舶検査官吏之證

逓 信 省

●逓信省令第五號(官報號外)  
船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準用ノ件  
左ノ通定ム  
昭和九年二月一日  
逓信大臣 南 弘

船舶安全法施行規則ヲ外國船舶ニ準  
用ノ件

第一條 左ニ掲グル規定ヲ除クノ外船舶安  
全法施行規則ハ日本船舶ニ非ザル船舶  
(以下外國船舶ト稱ス)ニシテ同法第十四  
條各號ニ掲グルモノニ之ヲ準用ス但シ本  
令ニ於テ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在  
ラズ

- 一 製造検査ニ關スル規定
- 二 船舶安全法第六條第三項ノ規定ニ依  
ル船舶用機關ノ検査ニ關スル規定
- 三 第二百五十五條乃至第七十六條
- 四 船舶安全法第十四條第三號ニ掲グル  
外國船舶ニ付テハ第十五章ノ規定
- 第二條 船舶安全法第十四條第三號ニ掲グ  
ル外國船舶ニ付テハ左ノ各號ニ依  
ル
- 一 船舶安全法第十五條第一項ノ規定ニ  
依リ同法ニ依リ交付シタル證書ト同一

ノ效力ヲ有スル證書ヲ受有スル船舶ニ  
付テハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外當該  
證書ガ有效ナリヤ否ヤヲ査閲シ管海官  
廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ當該  
船舶ノ現狀ガ證書ニ記載シタル條件ニ  
違反スルコトナキヤ否ヤヲ確ムルニ必  
要ナル検査ヲ行フ

二 前號ニ該當セザル船舶ニ付テハ管海  
官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ日本船舶  
ニ付テハ検査ニ準ジ検査ヲ行フ

第三條 外國船舶ノ積量ハ左ノ各號ニ依  
ル

- 一 船舶ガ其ノ所屬地ノ當該官廳ノ交付  
シタル船舶國籍證書又ハ船舶検査證書  
ヲ受有スルトキハ之ニ記載シタル積量  
ニ依ル
  - 二 前號ノ證書ヲ受有セザル船舶ニ付テ  
ハ船舶積量測定法ニ依リ算定シタル積  
量ニ依ル
- 管海官廳ハ帝國政府トノ間ニ船舶積量ニ  
關スル互認協定ナキ國ニ屬スル船舶ニ付  
テハ前項第一號ノ規定ニ拘ラズ船舶積量  
測定法ニ依リ之ヲ測定スルコトヲ得

逓信省令第六號 船舶設備規程

附 則

第四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ  
施行ス

第五條 船舶安全法施行規則第九十條、  
第九十一條、第九十三條及第九十九  
五條ノ規定ハ同法第十四條第一號又ハ第  
二號ニ掲グル外國船舶ニ、同規則第九  
十六條ノ規定ハ同法第十四條各號ニ掲グ  
ル外國船舶ニ之ヲ準用ス

第六條 船舶安全法第十四條第三號ニ掲グ  
ル外國船舶ニシテ同法第三十三條ニ該當  
スルモノハ本令施行後一年ヲ限り滿載吃  
水線ヲ標示セザルコトヲ得

第七條 昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据  
附ケ國際航海ニ從事スル旅客船又ハ昭和  
七年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航  
海ニ從事スル船舶ニシテ船舶安全法第十  
四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テハ其  
ノ構造、設備及滿載吃水線ニ關シ、昭和六  
年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケ國際航海  
ニ從事スル船舶ニシテ同條各號ニ掲グル  
外國船舶ニ付テハ無線電信施設ニ關シ本  
令施行後三月ヲ限り本令ニ依ラザルコト  
ヲ得

第八條 前條ノ船舶ヲ除クノ外船舶安全法  
第十四條第三號ニ掲グル外國船舶ニ付テ  
ハ其ノ構造、設備、滿載吃水線及無線電信  
施設ニ關シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認  
ムルトキハ本令施行後一年ヲ限り本令ニ  
依ラザルコトヲ得

●逓信省令第六號(官報號外)  
船舶設備規程左ノ通定ム  
昭和九年二月一日

逓信大臣 南 弘

船舶設備規程

目 次

- 第一編 救命設備
- 第一章 總則
- 第二章 端艇
- 第三章 船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ  
救命器具ノ數量
- 第一節 第一種船ノ端艇、救命筏及  
救命浮器
- 第二節 第二種船ノ端艇、救命筏及  
救命浮器
- 第三節 第三種船ノ端艇、救命筏、救  
命浮器、救命浮環又ハ救命  
胴衣

第四節 第四種船ノ端艇、救命筏及救命浮器  
 第五節 第五種船ノ端艇、救命筏及救命浮器  
 第六節 救命胴衣、救命浮環及救命索發射器  
 第四章 端艇及救命筏ノ附屬品  
 第五章 端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示  
 第六章 乘艇裝置  
 第二編 消防設備  
 第一章 總則  
 第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備  
 第三章 旅客船ニ非ザル船舶及沿海區域以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備  
 第三編 居住及衛生設備  
 第一章 旅客室  
 第二章 旅客定員  
 第三章 旅客ニ關スル設備  
 第四章 船員室等  
 第五章 衛生設備  
 第四編 航海用具等  
 第一章 錨、錨鎖及索

第二章 操舵設備  
 第三章 航海用具其ノ他ノ屬具  
 第五編 特殊貨物ノ積附設備  
 第一章 火藥庫  
 第二章 甲板積木材貨物ノ積附  
 第三章 穀類貨物ノ積附  
 第六編 電氣設備  
 第一章 總則  
 第一節 通則  
 第二節 機械及器具  
 第三節 電線、電路及附屬設備  
 第二章 配線工事  
 第三章 特殊場所ニ於ケル設備  
 附則  
 船舶設備規程  
 第一編 救命設備  
 第一章 總則  
 第一條 本編ノ規定ノ適用ニ付テハ船舶ヲ分チテ左ノ六種トス  
 第一種船 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船  
 第二種船 沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船  
 第三種船 平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船

第四種船 近海以上ノ區域ニ於テ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル旅客船  
 第五種船 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ沿海以上ノ航行區域ヲ有スルモノ  
 第六種船 旅客船ニ非ザル船舶ニシテ平水ノ航行區域ヲ有スルモノ  
 第二條 救命艇ヲ分チテ左ノ五種トス  
 一 第一級甲型救命艇 内部浮体ノミヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇  
 二 第一級乙型救命艇 内部浮体及外部浮体ヲ有シ固定舷側ヲ有スル無甲板救命艇  
 三 第二級甲型救命艇 内部浮体及外部浮体ヲ有シ舷側ノ上部ヲ疊込ミ得ル無甲板救命艇  
 四 第二級乙型救命艇 固定水密舷壁又ハ疊込ミ得ル水密舷壁ヲ有スル有甲板救命艇  
 五 發動機附救命艇 第一級救命艇ニシテ發動機ヲ備フルモノ  
 第三條 端艇ト稱スルハ救命艇及容積一・四立方メートル以上ノ普通艇、傳馬船其ノ他ノ艇舟ヲ謂フ

第四條 救命設備トシテ船舶ニ備フベキ救命艇、救命筏、救命浮器、救命浮環、救命胴衣、救命索發射器、救命筏及信號紅焰ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス  
 第二章 端艇  
 第五條 救命艇ノ容積又ハ面積ノ算定竝ニ救命艇、救命筏及救命浮器ノ定員ノ算定ニ付テハ試驗規程ニ依ル  
 第六條 發動機附救命艇ハ燃料ヲ十分ニ備ヘ何時ニテモ直ニ使用シ得ル状態ニ置キ且之ヲ迅速ニ水上ニ卸ス爲メ適當ナル裝置ヲ備フベシ  
 第七條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ構造ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノナルコトヲ要ス  
 第八條 普通艇ノ容積ハ其ノ外部ニ於テ長さ及幅ヲ測リ長サノ中央ニ於テ内部ノ深サヲ測リ之ヲ相乘シタルモノノ十分ノ六トス  
 傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ容積ハ前項ノ長さ、幅及深サヲ相乘シタルモノノ十分ノ七トス  
 第九條 普通艇、傳馬船其ノ他ノ艇舟ノ定員ハ其ノ容積ニテ算定シタルモノ・二八三ニテ除シ之ヲ定ム

第十條 沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ備フル端艇ノ定員ハ第五條又ハ前條ノ規定ニ依ル定員ノ一・一倍トス  
 第三章 船舶ニ備フベキ端艇其ノ他ノ救命器具ノ數量  
 第一節 第一種船ノ端艇、救命筏及救命浮器  
 第十一條 第一種船ニハ其ノ長さニ應ジ第一號表(イ)欄ニ掲グル組數ノ端艇ヲ備フベシ但シ最大搭載人員ヲ收容スルニ必要ナル端艇ノ數ヨリ多キコトヲ要セズ  
 管海官廳ニ於テ已ムコトヲ得ズト認ムル場合ニ於テハ端艇組數ヲ第一號表(ロ)欄ニ掲グルモノ迄減ズルコトヲ得  
 第十二條 前條ノ端艇組數各組ニハ第一級救命艇一隻ヲ取附クルコトヲ要ス  
 前項ノ救命艇ノ合計定員ガ船舶ノ最大搭載人員ニ達セザルトキハ之ニ達スル迄救命艇ヲ増備スベシ  
 第十三條 長國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ救命筏ガ前條第一項ノ救命艇ノ内側ニ配置セララル増

備艇ヨリモ一層迅速且有效ニ利用セララルト認ムルトキハ該増備艇ニ代ヘ救命筏ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ニ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ  
 第十四條 長國際航海ニ從事スル第一種船ニ於テ救命艇ノ數十三隻ヲ超ユルトキハ中一隻、十九隻ヲ超ユルトキハ中二隻ヲ發動機附救命艇ト爲スベシ  
 第十五條 長國際航海ニ從事セザル第一種船ニ在リテハ第十二條第一項ノ規定ニ依ル増備艇ニ代ヘ救命筏又ハ救命浮器ヲ備フルコトヲ得但シ救命艇ノ總容積ヲ第一號表(ホ)欄ニ掲グル最小容積未滿ト爲スコトヲ得ズ  
 第十六條 長國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ最大搭載人員ノ百分ノ二十五ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備ヘ短國際航海ニ從事スル第一種船ニ在リテハ前條ノ規定ニ依ルモノノ外最大搭載人員ノ百分ノ十ヲ收容シ得ベキ救命浮器ヲ備フベシ  
 第二節 第二種船ノ端艇、救命筏及救命浮器  
 第十七條 第二種船ニハ其ノ長さニ應ジ





八 海錨一箇  
 九 繫索一筋  
 十 植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器一箇(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル様装置シタルモノナルコトヲ要ス)  
 十一 定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇  
 十二 水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱  
 十三 小型附屬品ヲ格納スルニ適當ナル箱一箇  
 第二級乙型救命艇ニハ前項各號ニ掲グル附屬品ノ外海水「ポンプ」二箇ヲ備フベシ  
 第三十四條 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ救命艇ニハ前條ノ規定ニ依ル附屬品ノ外左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ  
 一 定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇  
 二 定員一人ニ付半キログラムノ割合ノ煉乳  
 第三十五條 發動機附救命艇ニハ第三十三條ノ規定ニ依ル附屬品ヲ備ヘ且鈎竿一本ヲ増備スベシ但シ權ノ數ハ腰掛ノ數ノ二分ノ一ニ止メ權及帆ハ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ  
 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ前項ノ規定ニ依ル附屬品ノ外前條各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ  
 第三十六條 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ發動機附救命艇ニハ無線電信設備ヲ爲シ且探照燈ヲ備フベシ  
 探照燈ハ八〇ワット以上ノ燈、有效ナル反射鏡及光源ヲ備ヘ明キ色ノ物體ヲ一八〇メートルノ距離ニテ約一八メートルノ幅ニ互リ合計六時間有效ニ照明シ得ルコトヲ要シ且連續三時間使用シ得ルモノナルコトヲ要ス  
 無線電信及探照燈ニ要スル動力ガ同一動源ヨリ供給セラルトキハ該動源ハ兩設備ノ同時ノ操作ニ對シ十分ナルコトヲ要ス  
 第三十七條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ノ附屬具ニ付テハ第三十三條ノ規定ヲ準用ス  
 沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ普通艇ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ  
 一 權(各腰掛ニ付一挺)、豫備權二挺、操舵權一挺、權栓又ハ權架一組半及鈎竿一本  
 二 各栓孔ニ對シ栓二箇(適當ナル自働弁ヲ取附クルトキハ栓ヲ要セズ)、浚波一箇及桶一箇  
 三 舵一箇及舵柄又ハ索附橫舵柄一箇  
 四 繫索一筋  
 第三十八條 傳馬船其ノ他ノ舳舻ニハ權、舵及其ノ附屬品ニ代ヘ權二挺、權一挺ヲ備フルノ外前條第二項各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ  
 第三十九條 救命筏ニハ左ノ各號ニ掲グル附屬品ヲ備フベシ  
 一 權四挺  
 二 權架五箇  
 三 繫索一筋  
 四 救命焰一箇  
 五 海錨一箇  
 六 植物性又ハ動物性ノ油四・五リットルヲ容レタル容器(該容器ハ水面ニ容易ニ油ヲ撒布シ得ル構造ヲ有シ且海錨ニ取附ケ得ル様装置シタルモノナルコトヲ要ス)

七 定員一人ニ付一リットルノ割合ノ飲料水ヲ容レ且紐附ノ杓ヲ備ヘタル水密容器一箇  
 八 水密容器ニ容レタル信號紅焰一二箇及水密容器ニ容レタル燐寸一箱  
 第四十條 長國際航海ニ従事スル第一種船ノ救命艇ニハ前條各號ニ掲グル附屬品ノ外定員一人ニ付一キログラムノ割合ノ糧食ヲ容レタル氣密容器一箇ヲ備フベシ  
 沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ救命筏ニハ前條第四號乃至第八號ノ附屬品ヲ備フルコトヲ要セズ  
 第五章 端艇其ノ他ノ救命器具ノ積附及標示  
 第四十一條 已ムコトヲ得ザル場合ニ於テハ端艇ハ上下ニ重ネテ積附ケ又他ノ端艇内ニ重ネテ積附クルコトヲ得但シ之ヲ進水セシムルニ當リ吊リ上グルコトヲ要スル積附ハ動力ニ依ル吊上装置ヲ備ヘザル場合ニ於テハ之ヲ爲スコトヲ得ズ  
 第四十二條 端艇鈎下ニ重ネテ配置シタル端艇ノ外其ノ内側ニ端艇又ハ救命筏ノ積附ヲ必要トスルトキハ之ヲ甲板上ニ横ニ積附クルコトヲ得但シ其ノ積附ハ端艇又ハ救命筏ガ之ヲ進水セシムル暇ナキ場合ニ於テハ船舶ヨリ離レテ容易ニ浮ビ得ル様之ヲ爲スベシ  
 端艇内側ニ配置スル場合ニ於テハ其ノ成ルベク多數ヲ甲板ノ一側ヨリ他側ニ移動シ進水セシムル爲メ管海官廳ノ適當ト認ムル移動裝置ヲ設クベシ  
 第四十三條 端艇ハ其ノ揚卸ニ當リ相互ニ妨害セザル様特殊ノ方法ヲ講ズル場合ニ限リ之ヲ二層以上ノ甲板ニ積附クルコトヲ得  
 第四十四條 端艇ハ進水ニ際シ推進器ニ接近シ危險ヲ生ズル虞アル位置又ハ船舶ノ前部部ニ之ヲ積附クルコトヲ得ズ  
 第四十五條 端艇鈎ハ管海官廳ノ適當ト認ムル形式ノモノニシテ端艇ノ揚卸操作ガ他ノ端艇ノ揚卸操作ニ依リ妨害セラレザル様之ヲ配置スベシ  
 第四十六條 端艇鈎ニ配置セラレタル端艇ニハ何時ニテモ使用シ得ル吊索ヲ備附ケ且端艇ヲ吊索ヨリ迅速ニ取外ス爲メノ裝置ヲ設クベシ  
 第四十七條 國際航海ニ従事スル第一種船及甲板旅客ヲ搭載スル第四種船ノ端艇揚卸裝置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス但シ短國際航海ニ従事スル船舶ニシテ最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ四・五メートル以下ノモノニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得  
 一 端艇鈎、滑車、吊索其ノ他ノ一切ノ裝具ハ船舶ガ何レカノ側ニ一五度傾キタル場合ニ於テモ滿載狀態ノ端艇ヲ安全ニ卸シ得ル程度ノ強ク力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス  
 二 吊索ハ船舶ガ最小航海吃水ニ於テ反對ニ一五度傾キタル場合ニ水面ニ達スル長サノモノナルコトヲ要ス  
 三 端艇鈎ニハ旅客ヲ除クノ外機裝品及艇手ノ全部ヲ搭載シタル端艇ヲ吊卸可能ナル最大傾斜ニ逆ヒ振出スニ十分ナル力ヲ有スル裝置ヲ備フベシ  
 四 二隻以上ノ端艇ガ同一組ノ端艇鈎ニ依リ取扱ハルル場合ニ於テハ各端艇ニ付各別ニ吊索ヲ備フベシ但シ捲返ス爲メノ機械裝置ヲ備ヘ且吊索ニ鋼索ヲ使用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ  
 五 前條ノ場合ニ於テハ端艇ノ揚卸裝置ハ各端艇ヲ順次迅速ニ卸シ得ルモノナルコトヲ要シ且鋼索ヲ捲返ス爲メノ機械

裝置ヲ備フルトキハ尙手動捲返裝置ヲ備フベシ

第四十八條 鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ船舶ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ規定ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ傳馬船其ノ他ノ舳舟ニ用ウル端艇鈎ノ徑ハ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノト爲スコトヲ得

一 前條ノ規定ノ適用ヲ受クル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$10.2 \sqrt{\frac{W(H+15)}{12.5}} \text{ 一リヤートル}$$

W ハ人(端艇ノ定員一人ニ付七五キログラムノ割合トス)及鑛裝品ヲ滿載シタルトキノ端艇ノ重量キログラム

H ハ上部支點ヨリ測リタル端艇鈎ノ高さメートル

S ハ端艇鈎上部突出ノ徑メートル

右算式ヲ適用スルニ當リテハ尙左ノ規定ニ依ル

(一) 端艇鈎ガ二箇以上ノ端艇ノ揚卸ニ使用セラルル場合ニ於テハWハ各端艇ノ重量中最大ナルモノトス

(二) Wヲ當該端艇ノ定員ニテ除シタル數ガ一〇〇未滿ナル場合ニ於テハWハ端艇ノ定員ニ一〇〇ヲ乘シタルモノト看做ス

二 前條ノ規定ノ適用ヲ受ケザル船舶ニ用ウル鋼製普通型端艇鈎ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

$$12.4 \sqrt{\frac{L \times H \times D(H+15)}{174}} \text{ 一リヤートル}$$

L ハ外板ノ外面ト船首材トノ交點ヨリ船尾ニ於ケル之ニ相當スル點迄測リタル端艇ノ長さメートル

B ハ外板ノ外面ヨリ外面迄測リタル端艇ノ最大幅メートル

D ハ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ舷端迄測リタル端艇ノ深サメートル

H 及 Sハ前條ノ規定ニ依ル

第四十九條 救命筏及救命浮器ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ容易且迅速ニ之ヲ進水セシメ得ル様備置クベシ

第五十條 救命浮環ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ容易且迅速ニ取外シテ投ゲ得ル様之ヲ備置クベシ

船舶ノ各舷ニ備フル救命浮環中少クトモ一箇ニハ長サ二七・五メートル以上ノ救命索ヲ取附ケ置クベシ

第五十一條 救命焰ハ必要ナル取附具ヲ附シ其ノ屬スル救命浮環ノ附近ニ之ヲ備置クベシ

第五十二條 救命胴衣ハ容易ニ使用シ得ル様旅客室、船員室其ノ他適當ノ場所ニ配置スベシ

一 船ニ備フル救命胴衣ノ種類ハ二種ヲ超ユルコトヲ得ズ

第五十三條 端艇、救命筏及救命浮器ニハ其ノ定員並ニ之ヲ搭載スル船舶ノ名稱及船籍港ヲ標示シ且端艇ニハ其ノ寸法ヲ標示スベシ

前項ノ標示ハ見易キ場所ニ明瞭且耐久ナル文字ヲ以テ之ヲ爲シ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

第五十四條 救命浮環ニハ船名ヲ標示スベシ

第一種船ニ在リテハ救命浮環ノ備附場所ヲ示スベキ適當ナル標示ヲ爲スベシ

第五十五條 救命胴衣ヲ備附ケタル箇所ニハ明瞭ナル標示ヲ爲シ且旅客室毎ニ救命胴衣ノ著用法説明書ヲ掲ゲ置クベシ

第六章 乘艇裝置

第五十六條 本章ノ規定ハ國際航海ニ從事スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第五十七條 乘艇甲板ニハ旅客ノ乘艇ニ對スル適當ナル設備ヲ爲スベシ

各組ノ端艇鈎ニハ適當ナル梯子ヲ備置クベシ

第五十八條 各區畫室及各甲板ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル出入設備ヲ設クベシ

第五十九條 船舶ノ各部分殊ニ端艇ノ備附アル甲板ニハ安全上十分ナル電燈其ノ他ノ照明設備ヲ爲スベシ

最低航海吃水線ヨリ端艇甲板迄ノ高サガ九・一五メートルヲ超ユル船舶ニ在リテハ端艇ノ吊出若ハ吊卸作業中又ハ吊卸直後ニ於テ必要ニ應ジ船舶ヨリ端艇ヲ照明スル爲適當ナル設備ヲ設クベシ

前二項ノ安全照明設備ハ照明用主機械ニ故障ヲ生ジタル場合ニ於テ隔壁甲板以上ノ箇所ニ備ヘタル獨立ノ動源ニ依リ照明シ得ベキモノナルコトヲ要ス

第六十條 旅客又ハ船員ニ供用スル各主要區畫室ノ出口ハ常ニ非常燈ヲ以テ照シ置クベシ

前項ノ非常燈ハ照明用主機械ニ故障ヲ生

ジタル場合ニ於テ前條第三項ノ動源ニ依リ照明シ得ベキ裝置ノモノナルコトヲ要ス

第六十一條 長國際航海ニ從事スル旅客船ニ在リテハ汽笛又ハ汽角ニ依リ信號裝置ノ外旅客ヲ集合スル爲船橋ヨリ電氣裝置ニ依リ操作セラルル危急信號裝置ヲ適當ノ場所ニ備フベシ

第二章 消防設備

第一節 總則

第六十二條 本編第二章ノ規定ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

但シ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶及國際航海ニ從事セザル船舶ニ付管海官廳該規定ヲ適用スルコト實際上不可能ナリト認メタルトキハ船舶ノ大小、航路等ヲ考量シ適當ト認ムル程度迄其ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

本編第三章ノ規定ハ旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ之ヲ適用ス

第六十三條 船舶ニ備フベキ火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器及携帶用液体消火器ハ試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第六十四條 前條ニ掲グルモノ以外ノ消防裝置ニ付テハ本令ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

第六十五條 消防裝置ハ航海中何時ニテモ使用シ得ル状態ニ整備シ置クコトヲ要ス

第二章 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第六十六條 船舶ニハ巡視員ガ近寄り得ザル場所ニ於ケル火災ノ發生又ハ徵候ヲ乘組員ノ注意ヲ引キ易キ一箇所又ハ數箇所ニテ自動的ニ表示シ又ハ記録スル火災警報裝置ヲ設クベシ

第六十七條 船舶ニハ十分ナル數ノ携帶用液体消火器ヲ備ヘ各機關室ニハ少クトモ二箇ノ携帶用液体消火器ヲ配置スベシ

第六十八條 船舶ニハ防毒面一箇及安全燈一箇ヨリ成ル裝具二組ヲ隔リタル箇所ニ一組宛備フベシ

第六十九條 總噸數四千噸未滿ノ船舶ニハ二箇、總噸數四千噸以上ノ船舶ニハ三箇ノ消防用蒸氣「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備フベシ

前項ノ各「ポンプ」ハ船内何レノ部分ニモ

十分ナル水量ヲ二箇ノ強力ナル噴射ヲ以テ同時ニ放出シ得ベキモノナルコトヲ要シ且船舶ノ發港前何時ニテモ使用シ得ル状態ト爲シ置クコトヲ要ス

第七十條 前條ノ規定ニ依リ三箇以上ノ消防ポンプヲ備フル船舶ニ在リテハ該「ポンプ」ノ全部ヲ同一室内ニ備フルコトヲ得ズ

汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ニ在リテ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽罐室溢水道ヨリ汽機室ニ流ルル虞アル構造ノモノナルトキハ消防「ポンプ」中一箇ヲ軸路又ハ機關室外ノ場所ニ置クベシ

第七十一條 消防「ポンプ」ノ送水管ハ水密戸及防火戸ヲ閉ヂタル場合ニ於テ居住設備ヲ設ケタル甲板ノ何レノ部分ニモ同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様配置スベシ  
送水管ノ支管ハ各甲板上ニ於テ之ニ消防布管ヲ容易ニ連絡シ得ル様配置スベシ  
送水管及布管ハ十分ナル大サヲ有シ且適當ナル材料ヲ以テ製造シタルモノナルコトヲ要ス

第七十二條 貨物積載場所ニハ何レノ部分ニモ消防「ポンプ」ニ依リ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ

總噸數千噸以上ノ船舶ニ在リテハ遊離状態ニテ最大船ノ全容積ノ百分ノ三十以上ヲ占有シ得ル量ノ鎮火性瓦斯ヲ常設ノ管系ニ依リ貨物ヲ搭載スル各區畫室ニ迅速ニ送込ミ得ル様設備スベシ但シ蒸汽機關ヲ備フル船舶ニ在リテハ鎮火性瓦斯ニ代ヘ蒸汽ヲ用ウルコトヲ得

第七十三條 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ

二 各汽罐室及燃料油槽、燈油槽其ノ他燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ泡ヲ急速ニ放出撒布シ得ベキ裝置ヲ備フベシ  
本號ノ裝置ハ之ヲ備ヘタル室ノ外側ヨリ操作シ且調節シ得ルモノナルコトヲ要ス  
本號ノ裝置ハ各區畫室底面(二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ二重底内底板ノ上

面、二重底ヲ有セザル船舶ニ在リテハ底部外板ノ内面)ノ全面積ヲ一五・二四センチメートルノ深サ迄撒フニ十分ナル泡ヲ放出シ得ルモノナルコトヲ要ス若シ汽機室ト汽罐室トノ仕切ガ完全ナル鋼製隔壁ニ非ズシテ燃料油ガ汽機室溢水道ヨリ汽機室ト汽罐室トヲ併セタルルトキハ汽罐室ト汽機室トヲ併セタルモノヲ一區畫トシ泡ノ量ヲ定ムベシ

三 容量一三六リットル以上ノ泡消火器ヲ汽罐室ガ一室ナル汽船ニ在リテハ一箇、汽罐室ガ二室以上ナル汽船ニ在リテハ二箇備フベシ

本號ノ消火器ニハ汽罐室又ハ燃料油設備ヲ設置シタル場所ノ何レノ部分ニモ達シ得ル布管ヲ備ベ之ヲ卷車ニ卷附ケ置クベシ

四 油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ  
五 各焚火場ニハ砂、曹達ヲ飽和シタル鋸屑又ハ管海官廳ノ適當ト認ムル乾燥物質二八三立方デシメートルヲ容レタル容器一箇及撒布用具ヲ備フベシ

六 各汽罐室及燃料油設備ヲ設置シタル各機關室ニハ携帶用泡消火器二箇ヲ備フベシ

七 各容器及之ヲ操作スル弁ハ近寄り易ク且火災ノ發生ニ依リ容易ニ遮ラレザル場所ニ之ヲ備置クベシ

第七十四條 發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 消防「ポンプ」ニ依リ機關室ノ何レノ部分ニモ迅速且同時ニ二箇ノ強力ナル射水ヲ爲シ得ル様設備スベシ

二 油ノ表面ヲ甚シク攪亂セズシテ油上ニ撒水スル爲適當ナル送水管ヲ備フベシ

三 機關室内ニ副汽罐ヲ有スル場合ニ於テハ適當ナル布管ヲ備フル容量一三六リットルノ泡消火器一箇ヲ備フベシ

四 機關室内ニ副汽罐ヲ有セザル場合ニ於テハ容量四五リットルノ移動式泡消火器一箇ヲ備フベシ

五 容量九リットルノ携帶用泡消火器ヲ機關ノ軸馬力一千毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ備フベシ但シ其ノ總數ハ二箇ヨリ少

カラザルコトヲ要シ六箇ヨリ多キコトヲ要セズ

第三章 旅客船ニ非ザル船舶及沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ノ消防設備

第七十五條 沿海ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ四箇、平水ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ二箇ノ消防手桶ヲ備フベシ

消防手桶ハ常時水ヲ滿タシ消火ニ便利ナル場所ニ之ヲ備置クベシ

第七十六條 總噸數百噸以上ノ旅客船ニ在リテハ蒸汽「ポンプ」其ノ他ノ動力「ポンプ」ヲ備ヘ船内各部ニ射水シ得ル様送水管及消防布管ヲ備フベシ

總噸數三百五十噸以上ノ旅客船ニ在リテハ第七十七條又ハ第七十八條ノ規定ニ依リ機關室ニ備フルモノノ外十分ナル數ノ携帶用液体消火器ヲ備フベシ

第七十七條 主汽罐ニ油ヲ焚ク汽船ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 汽罐室ニハ動力「ポンプ」ノ送水管ヲ適當ノ位置ニ導キ布管ヲ容易ニ取附ケ得ル様裝置スベシ  
二 蒸汽ヲ汽罐室ノ下部ニ噴出セシメ得ベキ多孔管ヲ備フベシ

三 汽罐室ニハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

四 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ携帶用液体消火器ヲ備フベシ

第七十八條 發動機ニ依リ推進スル船舶ノ機關室ノ消防設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニハ二箇、其ノ他ノ船舶ニハ一箇ノ携帶用液体消火器ヲ備フベシ但シ瓦斯發動機ヲ備フル船舶又ハ旅客船ニ非ザル沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

二 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ二箇、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ一箇ノ砂三〇立方デシメートル以上ヲ容レタル箱ヲ備フベシ

第三編 居住及衛生設備  
第一章 旅客室  
第七十九條 左ニ掲グル旅客以外ノ旅客ニ對シテハ本章ノ規定ニ依リ旅客室ヲ設備スベシ

一 甲板旅客  
 二 航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル臨時旅客  
 三 沿海以下ノ航行區域ニシテ航行豫定時間三時間未滿ノ航路ニ於テ搭載スル旅客  
 管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ七月一日ヨリ八月末日ニ至ル期間ニ限リ前項第二號及第三號ノ規定ニ依ル航行豫定時間ヲ五時間迄延長スルコトヲ得  
 第八十條 旅客室ハ滿載吃水線ノ直下ノ甲板以上ニ之ヲ設クベシ  
 第八十一條 甲板間ニハ其ノ高サ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ノ場所ニ非ザレバ旅客室ヲ設クルコトヲ得ズ但シ船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨリ甲板ノ裏面迄ノ高サ一・二メートルナルトキハ之ヲ客席ト爲スコトヲ得  
 第八十二條 上甲板以上ニ於ケル旅客室ノ高サハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ノ場所ニ非ザレバ旅客室ヲ設クルコトヲ得ズ但シ船尾ノ如キ斜曲ノ場所ニ設ケタル腰掛様ノ平棚ニシテ其ノ上面ヨリ甲板ノ裏面迄ノ高サ一・二メートルナルトキハ之ヲ客席ト爲スコトヲ得

リテハ二・一メートル以上、近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・八メートル以上、沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ一・四メートル以上ナルコトヲ要ス  
 第八十三條 客席ヲ二層以上ト爲ス場合ニ於テハ客席ノ上面ヨリ甲板ノ下面又ハ上層客席ノ下面迄ノ高サハ移民ヲ搭載スル移民船ノ雜居客席ニ在リテハ一・一メートル以上、其ノ他ノ船舶ノ三等客席ニ在リテハ一・七六メートル以上ト爲スベシ  
 前項ノ場合ニ於テハ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サヲ一五センチメートル以上ト爲スベシ  
 第八十四條 旅客室ハ燃料油槽ノ隔壁又ハ頂板ニ隣接シテ之ヲ設クルコトヲ得ズ但シ油槽隔壁ト旅客室トヲ隔離スル爲通風十分ニシテ且通行シ得ル間隙ヲ以テ氣密ナル編製隔壁ヲ設ケタル場合又ハ人孔其ノ他ノ開口ナキ油槽頂板ノ上面ヲ厚サ三八ミリメートル以上ノ不燃性塗料ヲ以テ塗装シ且該場所ノ通風ヲ特ニ十分ト爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ  
 第八十五條 旅客室ハ假設ノ梁トニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

旅客甲板ハ梁ニ固著シ墮落シタルモノナルコトヲ要ス  
 旅客室直上ノ暴露鋼甲板及旅客ヲ搭載スル暴露鋼甲板ニハ木甲板ヲ張ルコトヲ要ス  
 第八十六條 臨時旅客ヲ搭載スル船舶又ハ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得  
 甲板旅客ヲ搭載スル船舶ハ管海官廳ニ於テ航路ノ狀況等ニ依リ差支ナシト認ムルトキハ前條第三項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得  
 第八十七條 雜居客室ニハ出入口ニ通ズル通路ヲ適當ニ設クベシ但シ客席ヲ一層ト爲ス場合ニ於テ客席ノ面積ノ六分ノ一ヲ通路ニ充ツルトキ又ハ長サ及幅三・七メートル以下ノ客席ニシテ他室ノ通路ニ當ラザルトキハ別ニ通路ヲ設ケザルモ妨ナシ  
 前項ノ通路ノ幅ハ遠洋ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ九〇センチメートル以上、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ八六〇センチメートル以上ト爲スベシ

第八十八條 左ニ掲グル場所ハ客室ニ充ツルコトヲ得ズ  
 一 外車汽船ノ車覆  
 二 船首隔壁アル船舶ニ在リテハ其ノ前部、船首隔壁ナキ船舶ニ在リテハ上甲板上面ニ於テ船首材ノ内面ヨリ船ノ最大幅ノ二分ノ一ニ當ル箇所ヨリ前部  
 三 幅又ハ長サ六〇センチメートル未滿ノ場所  
 四 汽罐室ノ周圍ニ防熱裝置ヲ施サザル場合ニ於テハ其ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所  
 五 其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ起臥動作ニ不適當ト認ムル場所  
 第八十九條 左ニ掲グル場所ハ客室ノ面積ニ算入セズ但シ湖川港内ノミヲ航行スル船舶又ハ發航港ヨリ到達迄直航スル船舶ニ在リテハ船口ノ上面、周圍及載貨門ノ内側ヲ客席ニ算入スルモ妨ナシ  
 一 通路  
 二 船口ノ上面  
 三 船口ノ周圍六〇センチメートル迄ノ場所  
 四 載貨門ノ前後各三五センチメートルノ箇所ヨリ其ノ幅ニテ船口ノ周圍六〇

センチメートル迄ノ場所  
 第九十條 上甲板其ノ他閉塞セザル場所ニ旅客ヲ搭載スル場合ト雖モ左ニ掲グル場所ハ之ヲ旅客搭載場所ニ充ツルコトヲ得ズ  
 一 船口、天窓、舷側水道其ノ他障害物ノ占ムル部分  
 二 甲板室、船口、天窓及舷側水道ノ間ニ於ケル幅六〇センチメートル未滿ノ場所  
 三 短船首樓甲板ノ場所  
 四 船首材ノ前面ヨリ船ノ長サノ八分ノ一ニアル上甲板及長船首樓甲板上ノ場所  
 五 其ノ他管海官廳ニ於テ旅客ノ搭載ニ適セズト認ムル場所  
 第九十一條 旅客室ノ容積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
 一 形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サ及高サヲ乘ズ  
 二 形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ各室毎ニ其ノ前後ノ三箇所ニ於テ上下ノ幅ヲ測リ前後ニ於ケル上下ノ幅ノ和ニ前後ノ中幅ノ四倍及中央ニ於ケル上下ノ幅ノ各四倍ヲ加ヘ且中央ノ中幅

ノ十六倍ト加ヘタルモノヲ三十六ニテ除シ之ニ長サ及平均ノ高サヲ乘ズ  
 三 船尾斜曲ナル場所(長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ノ箇所ヨリ後部)ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前部ノ幅ト高サトヲ乘ズ  
 四 前各號ノ規定ニ依リ定メタル容積ヨリ該容積内ニ於テ客室ニ充ツルコトヲ得ザル場所ノ容積ヲ減ズ  
 第九十二條 客席ノ面積又ハ第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ノ面積ノ算定ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
 一 形狀整正ナル場所ニ在リテハ平均ノ幅ニ長サヲ乘ズ  
 二 形狀整正ナラザル場所ニ在リテハ前後ノ三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ノ和ニ中央ノ幅ノ四倍ヲ加ヘ六ニテ除シ之ニ長サヲ乘ズ  
 三 船尾斜曲ナル場所(長サ(矢)ガ幅(弦)ノ二分ノ一ニ等シキ箇所ヨリ後部)ニ在リテハ長サノ三分ノ二ニ其ノ場所ノ前部ノ幅ヲ乘ズ  
 四 前各號ノ規定ニ依リ定メタル面積ヨリ第八十九條ノ規定ニ依リ客室ノ面積

ニ算入セザル場所及第九十條各號ニ掲  
 グル場所ノ面積ヲ減ズ  
 第二章 旅客定員  
 第九十三條 旅客室ノ定員ハ第九十一條

ノ規定ニ依リ定メタル旅客室ノ容積  
 立方メートルヲ左表ニ掲グル單位容積ニ  
 テ除シタル員數ト寢臺ヲ備フル旅客室ニ  
 在リテハ寢臺ノ數其ノ他ノ旅客室ニ在リ

テハ第九十二條ノ規定ニ依リ定メタル  
 客席ノ面積平方メートルヲ左表ニ掲グル單  
 位面積ニテ除シタル員數ト中小ナルモ  
 ノトス

航 行 區 域	等 級	上甲板以上ノ場所及 上甲板直下ノ場所		第二甲板ヨリ下方ノ場所	
		單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)	單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)
洋 遠	一 等 室	一人ニ付一. 〇平方メートル以上 一. 〇平方メートル以下ノ 寢臺ヲ備フベシ	三. 五〇	一人ニ付一. 〇平方メートル以上 一. 〇平方メートル以下ノ 寢臺ヲ備フベシ	三. 五〇
	二 等 室	同上	三. 五〇	同上	三. 五〇
	三 等 室	同上	二. 七五	同上	三. 〇〇
近 海	一 等 室	同上	三. 五〇	同上	三. 五〇
	二 等 室	同上	二. 〇五	同上	二. 五五
	三 等 室	同上	一. 五五	同上	二. 〇五
沿 海	一 等 室	同上	二. 〇五	同上	二. 五五
	二 等 室	同上	一. 五五	同上	二. 〇五
	三 等 室	同上	一. 一〇	同上	一. 五五
水 平	一 等 室	同上	一. 一〇	同上	一. 五五
	二 等 室	同上	〇. 八五	同上	一. 一〇
	三 等 室	同上	〇. 四五	同上	〇. 五五

備考

- 一 沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積ハ表ニ掲グルモノノ一.  
五倍トス
- 二 近海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ於テ雜居客室ノ客棚ヲ二段以上ト爲ストキハ該室ノ定員ノ算定ニ用ウル單位面積及單位容積ハ表ニ掲グルモノノ一.  
二倍トス
- 三 平水ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ一時間以内ニ航行シ得ベキ船舶ノ旅客室ノ定員ヲ算定スルニ當リテハ其ノ航路ノ狀況ニ依リ三等室單位面積ヲ上甲板以上ノ場所又ハ其ノ直下ノ場所ニ於テハ〇.  
三平方メートル迄第二甲板ヨリ下方ノ場所ニ於テハ〇.  
四五平方メートル迄減ズルコトヲ得

第九十四條 臨時旅客ヲ搭載スル室ノ定員ハ左表ニ掲グル單位面積及單位容積ニ依リ前  
 條ニ準ジ之ヲ定ム

航 行 豫 定 時 間	上甲板以上ノ場所及 上甲板直下ノ場所		第二甲板ヨリ下方ノ場所	
	單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)	單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)
一時間未満	〇. 三〇	一	〇. 四五	一
六時間未満	〇. 四五	一	〇. 五五	一
六時間以上 十二時間未満	〇. 五〇	一. 〇〇	〇. 七五	一. 四〇
十二時間以上 二十四時間未満	〇. 六五	一. 二〇	〇. 九五	一. 七〇
二十四時間以上	〇. 八五	一. 五五	一. 一〇	二. 〇五

第九十五條 第七十九條第一項第二號又ハ第三號ニ掲グル旅客ヲ搭載スベキ上甲板ニ其ノ他閉塞セザル場所ノ定員ハ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル甲板面積平方メートルヲ第九十三條又ハ前條ノ表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

第九十六條 甲板旅客ノ定員ハ其ノ運送區域ニ應ジ第九十二條ノ規定ニ依リ算定シタル面積平方メートルヲ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トス

區域	單位面積(平方米)	
	暴露上甲板	其ノ他ノ暴露甲板
甲區域	〇・八五	〇・八五
乙區域	〇・八五	〇・八五
丙區域	〇・八五	〇・八五
丁區域	一・二〇	一・二〇

前項ニ於テ甲區域トハ大小「スング」列島ノ西方ニ在ル南緯一度以北、北緯八度以南ノ印度洋ヲ謂ヒ乙區域トハ北緯八度以北ニ於ケル印度洋、「ベンガル」灣、「アラビヤ」海、「ペルシヤ」灣及紅海ヲ謂ヒ丙區域トハ南緯一度ノ線ニ依リ北緯八度

東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ大小「スング」列島及馬來半島ニ依リ限ラレタル區域ヲ謂ヒ丁區域トハ南緯八度、東經一三〇度以西ニ在リテハ北緯八度、東經一三〇度以東ニ在リテハ北緯二一度ノ線ニ依リ北ハ北緯三五度(黃海及渤海ヲ含ム)ノ線ニ依リ東ハ東經一八〇度ノ線ニ依リ西ハ亞細亞ノ沿岸ニ依リ限ラレタル船舶安全法施行地外ノ區域ヲ謂フ

乙區域及丁區域ニ於テハ上甲板以外ノ暴露甲板ニ甲板旅客ヲ搭載スルコトヲ得ズ但シ特ニ限定セラレタル區域内ニ於テ甲板旅客ヲ運送スル場合ニ於テ管海官廳ニ於テ差支ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テハ單位面積ヲ暴露上甲板其ノ他ノ暴露甲板ニ對シ何レモ〇・八五平方メートルトシ甲板旅客ノ定員ヲ算定ス

第九十七條 管海官廳ハ航路、季節、船舶ノ大小、乾舷、復原力、救命設備又ハ旅客ニ關スル設備等ヲ考量シ旅客定員ヲ第九十

三條乃至前條ニ依リ算定シタルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得

第三章 旅客ニ關スル設備

第九十八條 旅客室ニハ少クトモ、疊其ノ他旅客ノ坐臥ニ適スベキ敷物ヲ備フベシ

第九十九條 旅客室ニハ採光通風ノ爲相當ノ窓ヲ設クベシ

第一百條 甲板間ニ旅客室ノ設アルトキハ甲板上ニ出入シ得ベキ出入口ヲ設ケ之ニ梯子ヲ備フベシ

沿海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ前項ノ出入口ハ天氣ノ如何ニ拘ラズ何時ニテモ甲板上ニ出入シ得ベキ裝置ト爲シ又其ノ梯子ハ旅客定員五十人未滿ナルトキハ幅六〇センチメートル以上ノモノ一箇以上、五十人以上百人未滿ナルトキハ幅一〇〇センチメートル以上ノモノ一箇以上若ハ幅六〇センチメートル以上ノモノ二箇以上、百人以上ナルトキハ一人ニ付一センチメートルノ割合ニテ定メタル總幅ニ達スル迄幅六〇センチメートル以上ノモノヲ備フベシ

梯子又ハ勾配急ニシテ段面狹ク柵欄ニ依ラザレバ昇降シ難キ梯子ハ其ノ幅ノ

三分ノ二ヲ以テ、出入口ニ近ク梯子ヲ架ケタル場合ニ於テ出入口ノ幅方梯子ノ幅ヨリ狭キトキハ該出入口ノ幅ヲ以テ又梯子ノ下部ニ於テ之ニ面スル壁又ハ他ノ梯子迄ノ距離不十分ニシテ昇降ニ不便ナルトキハ管海官廳ノ適當ト認ムル實際ヨリ狭キ幅ヲ以テ梯子ノ幅ト看做ス

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル梯子ノ幅ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ前二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

梯子ハ成ルベク前後ノ方向ニ置キ且甲板ト六〇度以内ノ角度ニ据エ柵欄ヲ附シ其ノ後面ニ板ヲ張ルベシ

第一百一條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニハ通風管ヲ旅客甲板毎ニ各別ニ設ケ其ノ面積積ハ旅客定員一人ニ付出入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ機關室ノ兩側ニ於ケル雜居客室ニ於テハ通風管ノ面積積ハ二一平方センチメートルノ割合ト爲スベシ

屈曲セル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ屈曲ノ度ニ應ジ各屈曲ニ對シ前項ノ截面ノ百分ノ五乃至十ヲ増スベシ又屈折セ

ル通風管ヲ用ウルトキハ其ノ截面ヲ各屈折ニ對シ屈折ノ度ニ應ジ百分ノ十六乃至三十六ヲ増スベシ

船樓内又ハ甲板室内ニ在ル上甲板口ヲ通ジ雜居客室ニ通風シ得ル場合、機械的通風ノ裝置アル場合、雜居客室内ノ容積ニ餘剩アル場合又ハ雜居客室ト他室トノ空氣ノ流通シ得ル場合ニ於テハ管海官廳ノ見込ニ依リ通風管ノ截面ヲ適當ニ減少スルコトヲ得

臨時旅客ヲ搭載スル場所ニ對スル通風管ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ第一項及第二項ノ規定ニ適合セザルモ妨ナシ

第一百二條 移民ヲ搭載スル移民船ノ上甲板下ニ於ケル雜居客室ニ對シテハ適當ナル機械的通風裝置ヲ設クベシ

第一百三條 第九十六條第二項ニ掲グル甲、乙又ハ丁區域ニ付左ニ掲グル荒天季節ニ於テ甲板旅客ヲ搭載スルトキハ甲板旅客逃避ノ爲甲板旅客一人ニ對シ甲板面積一・二平方メートル容積一・〇五立方メートルノ割合ノ遮蔽場所ヲ甲板室内、船樓内又ハ甲板間ニ備フベシ但シ甲板旅客ヲ

搭載スル部分ノ天幕ヲ二重ト爲ストキハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

一 甲區域 四月十六日ヨリ十月三十一日迄

二 乙區域 五月一日ヨリ八月三十一日迄

三 丁區域 六月一日ヨリ十月十四日迄

第一百四條 旅客船ニ於テハ高サ一メートル以上ノ舷牆又ハ柵欄ヲ堅牢ニ取附クベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ舷牆若ハ柵欄ノ高サヲ減ズルカ又ハ他ノ方法ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得

柵欄ノ橫棒ハ其ノ間隔二三センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ之ニ帆布若ハ網ヲ取附クルカ又ハ管海官廳ニ於テ安全ト認ムル他ノ裝置ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百五條 旅客船ニハ適當ノ舷梯ヲ設ケ且堅牢ナル舷梯鈎ヲ備フベシ但シ沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ必要ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ絨梯ニハ柵欄ヲ附シ且其ノ裏面ニ板又ハ帆布ヲ張ルベシ

第六百六條 熱帶地方ヲ航行スル船舶ニハ旅客及船員ニ對スル適當ノ防熱設備ヲ爲スベシ

第七百七條 第七十九條第一項各號ニ掲グル旅客ヲ搭載スル場所ニハ天幕ヲ設備スベシ

第八百八條 移民ヲ搭載スル移民船ニ於テハ雜居室内ニ旅客ノ手廻品ヲ格納スル物入ヲ設備スベシ但シ甲板ノ上面ヨリ下層客席迄ノ高サ四〇センチメートル以上ニシテ其ノ間ノ場所ヲ物入ニ利用スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四章 船員室等  
第九百九條 船員室ノ定員ハ其ノ容積ニ立方メートルヲ左表ニ掲グル單位容積ニテ除シタル員數ト寢臺ヲ備フル船員室ニ在リテハ寢臺ノ數、其ノ他ノ船員室ニ在リテハ其ノ座席面積ニテ左表ニ掲グル單位面積ニテ除シタル員數トノ中小ナルモノトス

船船ノ航行區域	單位面積 (平方米)	單位容積 (立方米)
遠洋區域	一〇平方米以上ノ寢臺ヲ備フベシ	二・七五
近海區域	一・一〇	二・〇五
沿海區域	〇・五五	一・一五
平水區域	〇・四五	—

備考  
沿海ノ航行區域ヲ有シ最遠里程ヲ航行スル時間十二時間以上ヲ要スル船舶ノ船員室ノ定員ハ近海區域ニ對スル單位面積及單位容積ニ依リ算定スルモノトス

第九百十條 第八十條乃至第八十九條、第九十一條及第九十二條ノ規定ハ船員室ニ之ヲ準用ス但シ第八十八條第二號ニ掲グル場所ハ之ヲ船員室ニ充ツルコトヲ得  
第九百十一條 船員室其ノ他船員ニ供用スル室ニハ鑄鐵管ノ開口又ハ揚鑄機、捲揚機其ノ他ノ機具ヲ設置スルコトヲ得ズ

第九百十二條 船員室ニハ其ノ定員ニ相當ナル押入又ハ戸柵ヲ設クベシ但シ平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得  
第九百十三條 船員室ニハ釣床、寢臺又ハ船員ノ坐臥ニ適スル敷物ヲ備フベシ  
第九百十四條 船員室ニハ舷窓、甲板明取り又ハ天窓ヲ設クベシ  
第九百十五條 船員室ニハ適當ノ通風管ヲ設クベシ  
前項ノ通風管ノ截面積ハ近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ付テハ船員室定員一人ニ付出口入口トモ各一六平方センチメートルノ割合ヲ以テ之ヲ定ム  
第九百十六條 船員室ニハ旅客ノ何レニモ非ザル者ノ居室ニ付テハ旅客室ニ關スル規定ヲ準用ス

第五章 衛生設備  
第九百十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニハ船舶検査證書ニ掲グル旅客定員一人ニ付〇・四五平方メートルノ割合ヲ以テ上甲板以上ノ閉塞セラレザル場所ニ適當且安全ナル運動場ヲ設クベシ  
第九百十七條 旅客船ニハ最大搭載人員五十人ニ對シ一箇ノ割合ヲ以テ大便所ヲ設ク

ベシ但シ最大搭載人員三百人以上ノ船舶、沿海以下ノ航行區域ヲ有スル船舶又ハ臨時旅客ヲ搭載シテ其ノ航行豫定時間十二時間未滿ノ航海ヲ爲ス船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ其ノ割合ヲ斟酌スルコトヲ得

第九百十八條 移民船ニハ上甲板以上ノ場所又ハ上甲板直下ノ甲板間ノ場所ニ於テ成ルベク旅客室及船員室ヨリ隔離シタル箇所ニ病室ヲ設ク最大搭載人員二百人迄ハ四十人毎一箇、二百人ヲ超ユル人員ニ付テハ超過人員六十人毎一箇ノ割合ヲ以テ寢臺ヲ備フベシ病室ハ一・八三メートル以上ノ高サヲ有シ且收容人員一人ニ付四立方メートル以上ノ容積ヲ有スルコトヲ要ス

第九百十九條 前條ノ病室及寢臺ニ付テハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 病室ノ一部ハ之ヲ隔離室ト爲シ病室用寢臺ノ四分ノ一以上ヲ設備シ得ル構造ト爲スベシ  
二 病室ニハ規定ノ數ノ二分ノ一以上ノ寢臺ヲ常置スベシ  
三 寢臺ハ金屬製ニシテ長サ一・八三メートル

一トル以上幅六〇センチメートル以上ノモノトシ之ヲ上下ニ重ヌルコトナク其ノ一側ニ幅一メートル以上ノ通路ヲ存シ据附クベシ但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ寢臺ヲ上下ニ重ネテ配置スルコトヲ得

第九百二十條 移民船ニハ病室附屬ノ浴室、便所、診療室並ニ藥局ヲ設クベシ但シ藥局ハ之ヲ診療室ニ兼用スルモ妨ナシ  
第九百二十一條 移民船ハ船舶安全法施行地ニ於ケル最後ノ港ヲ發航セントスル際該港ヨリ初メテ到達スベキ外國ノ港迄ノ航行豫定時間ニ應ジ特殊船舶検査證書ニ掲グル旅客ニ對シ支給スベキ第二號表ニ定ムル食料及飲用水ヲ備フベシ  
第九百二十二條 移民船ニハ第三號表ニ定ムル醫藥其ノ他ノ衛生用品ヲ備フベシ

第四章 航海用具等  
第九百二十三條 鋼製汽船ニ於テ鐵裝數トハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ其ノ長サヲ乗ジタル數ニ船樓又ハ甲板室ノ種類ニ應ジ左ノ各號ニ掲グル數ヲ加算シタルモノヲ謂フ

一 低船首樓又ハ低船尾樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ該樓ノ長サト高サトヲ相乗ジタル數  
二 船首樓、船橋樓又ハ船尾樓等ヲ有スル船舶ニ在リテハ該樓ノ長サト高サトヲ相乗ジタル積ノ四分ノ三  
三 船ノ幅ノ二分ノ一ヲ超ユル長サ又ハ幅ヲ有スル甲板室其ノ他類似ノ構造物ヲ備フル船舶ニ在リテハ其ノ長サト高サトヲ相乗ジタル積ノ二分ノ一  
鋼製帆船ニ於テ鐵裝數トハ船樓ヲ有セザル場合ニ於テハ鋼船構造規程ニ依ル船ノ深サト幅トノ和ニ長サヲ乗ジタル數ヲ謂ヒ船樓ヲ有スル場合ニ於テハ該數ニ其ノ十五分ノ一ヲ加算シタルモノヲ謂フ  
前二項ノ長サ、幅、深サ及高サハ單位ヲメートルトシ單位以下第二位ニ止ム  
第九百二十四條 木船ニ於テ鐵裝數トハ船樓ヲ有セザル船舶ニ在リテハ上甲板下ノ積量ニ在リテハ該積量ニ立方メートルニ船樓ノ積量ニ立方メートルノ二分ノ一ヲ加ヘタルモノヲ謂フ

第二百二十五條 船舶ニハ其ノ艤裝數ニ應ジ  
第四號表又ハ第五號表ニ定ムル錨、錨鎖  
及索ヲ備フベシ

第二百二十六條 大錨ノ合量ガ表ニ掲グルモ  
ノヨリ減少セザル限リ大錨二箇ヲ備フベ  
キ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ七・五以内又  
三箇ヲ備フベキ船舶ニハ中一箇ハ百分ノ  
十五以内、一箇ハ百分ノ七・五以内表ニ掲  
グル單量ヨリ少量ナルモノト爲スモ妨ナ  
ク又各大錨ノ單量ヲ相等シキモノト爲ス  
モ妨ナシ

沿海以下ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ付テ  
ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキ  
ハ大錨三箇ヲ備フベキ場合ト雖モ其ノ數  
ヲ二箇ト爲スコトヲ得但シ中一箇ノ大錨  
ノ錨量ハ表ニ掲グル單量以上、他ノ一箇  
ハ該單量ノ百分ノ八十五以上ト爲スベシ  
第二百二十七條 有錨錨ノ錨鎖ノ重量ハ錨鎖  
ヲ除キタル錨ノ重量ノ四分ノ一以上ナル  
コトヲ要ス

無錨錨ノ錨柄ヲ除キタル重量ハ錨ノ全重  
量ノ五分ノ三以上ナルコトヲ要ス  
第二百二十八條 遠洋ノ航行區域ヲ有スル船  
舶、近海ノ航行區域ヲ有スル汽船ニ備フ

ル錨(錨鎖ヲ含ミタル重量七六・二キログ  
ラム以下ノモノヲ除ク)、錨鎖及鋼索ハ試  
驗規程ニ適合シタルモノナルコトヲ要ス  
第二百二十九條 近海以下ノ航行區域ヲ有ス  
ル帆船及總噸數五十噸未滿ノ汽船ニ在リ  
テハ日本形錨ヲ代用スルモ妨ナシ

前項ノ規定ニ依リ代用シタル日本形錨ニ  
對シテハ相當ノ錨索ヲ以テ錨鎖ニ代用ス  
ルモ妨ナシ  
日本形錨ノミヲ備フル帆船ノ錨、錨索及  
索ハ第五號表ニ代ヘ艤裝數ニ應ジ第六號  
表ニ定ムルモノヲ備フベシ

前項ノ船舶ニ備フル大錨索以外ノ錨索ノ  
長サハ第六號表ニ定ムル大錨索ノ長サニ  
等シクシ其ノ徑ハ其ノ錨量ニ應ジ第七號  
表ノ定ムル所ニ依ル  
第二百三十條 第四號表及第五號表ニ定ムル  
中錨ノ鎖又ハ鋼索ハ相當ノ大サノ麻索又  
ハ棕桐索ヲ以テ之ニ代用シ又同表中挽索  
ノ麻索ハ相當ノ大サノ棕桐索ヲ以テ之ニ  
代用スルモ妨ナシ

第二百三十一條 錨鎖ハ衰耗ノ最モ甚シキ箇  
所ニ於ケル平均ノ徑ガ其ノ原徑ニ應ジ第  
八號表ニ定ムルモノ以下トナリタルトキ  
ハ之ヲ使用スベカラズ

第二百三十二條 總噸數三十噸未滿ノ帆船、  
淺瀬船、總噸數二十噸以上ノ旅客船ヲ除  
キタル平水ノ航行區域ヲ有スル船舶及湖  
川港内ノミヲ航行スル船舶ニ付テハ錨  
數、錨量並ニ錨鎖、大索等ノ徑及長サハ管  
海官廳ニ於テ適當ト認ムル程度迄之ヲ減  
ズルコトヲ得

第二百三十三條 錨ハ常時使用セザルモノト  
雖モ取出シ易キ場所ニ備置クベシ  
重量一五〇キログラム以上ノ錨ヲ備フル  
船舶ニハ適當ナル揚錨ノ設備ヲ爲スベシ  
第二章 操舵設備

第二百三十四條 長サ六〇メートルヲ超ユル  
汽船ニハ動力ニ依ル操舵裝置ヲ備フベシ  
第二百三十五條 手用操舵具ヲ常用スル船舶  
ニハ豫備操舵索一揃ヲ備フベシ但シ平水  
ノ航行區域ヲ有スル船舶及總噸數五十噸  
未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依  
リ之ヲ備ヘザルモ妨ナシ

第二百三十六條 動力ニ依ル操舵機ヲ常用ス  
ル船舶ニハ舵柄ノ制動裝置又ハ制動索ヲ  
備ヘ且豫備トシテ手用操舵具又ハ動力ニ  
依ル操舵機ヲ用ウベシ  
小形船ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ前

項ノ舵柄制動索ヲ以テ豫備手用操舵具ニ  
兼用セシムルコトヲ得

第二百三十七條 動力ニ依ル操舵機ヲ有スル  
船舶ニハ其ノ操舵裝置ニ發條其ノ他ノ緩  
衝裝置ヲ備ヘ且舵柄ニ連絡スル部分ノ操  
舵鎖ノ豫備ヲ備フベシ但シ平水ノ航行區  
域ヲ有スル船舶及總噸數五百噸未滿ノ船  
舶ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ  
總噸數五百噸以上ノ船舶ニ備附クル操舵  
鎖又ハ操舵鋼索ハ試驗規程ニ適合シタル  
モノナルコトヲ要ス

第三章 航海用具其ノ他ノ屬具  
第二百三十八條 船舶ニ備フベキ航海用具其  
ノ他ノ屬具ハ第九號表ノ定ムル所ニ依  
ル  
本章ニ於テ船燈トハ橋燈、舷燈、船尾燈、  
碇泊燈、紅燈其ノ他海上衝突豫防法ニ規  
定スル燈ヲ謂フ

第二百三十九條 電氣船燈ヲ常用スル船舶ニ  
在リテハ第九號表ノ規定ニ依リ豫備燈ヲ  
要セザル場合ト雖モ各電氣船燈ニ對シ豫  
備ノ油船燈ヲ備フベシ  
第四百十條 船燈、油信號燈、霧中號角、火  
箭、榴彈及信號青焰ハ試驗規程ニ適合ス  
ルモノナルコトヲ要ス

船燈ニ付テハ其ノ船名及備附年月日ヲ記  
載シタル合格證明書又ハ檢定證明書ヲ船  
内ニ保管シ置クベシ  
第四百十一條 船燈ノ備附ニ付テハ左ノ規  
定ニ依ル

一 油船燈ヲ備フル船舶ニ於テハ船燈一  
種ニ付沿海ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ  
在リテハ三箇以上、近海以上ノ航行區  
域ヲ有スル船舶ニ在リテハ五箇以上ノ  
豫備燈筒ヲ備フベシ  
二 船燈ハ其ノ射光ニ妨ナキ適當ノ場所  
ニ於テ其ノ燈光ヲ甲板ニ發射セザル  
裝置ヲ爲スベシ  
三 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ  
在リテハ綠紅ノ挿入硝子ヲ使用スル舷  
燈ヲ備フルトキハ綠紅各二箇ノ豫備挿  
入硝子ヲ備フベシ  
四 舷燈ヲ常平架ニ裝置スルトキハ其ノ  
支點ハ透鏡ノ中心ト同一水平面内ニ在  
ルコトヲ要ス

五 油船燈二對ヲ備フル場合ニ於テハ該  
燈ハ何レモ同一ノ隔板ニ適合スルモノ  
ナルコトヲ要ス  
六 電氣舷燈及油船燈ニ對シテハ各別ノ  
隔板ヲ備フベシ

第四百十二條 舷燈隔板ノ形狀及寸法ハ船  
燈試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要  
ス

隔板ハ其ノ側板ガ垂直ニシテ且船ノ首尾  
線ニ平行ナル様之ヲ船舷又ハ其ノ他ノ固  
定物(橋ノ靜索ノ如キハ固定物ト看做サ  
ズ)ニ取附クルコトヲ要ス  
第四百十三條 汽船及機關ヲ有スル帆船ニ  
ハ適當ナル場所ニ汽笛若ハ汽角又ハ適當  
ノ音響信號器ヲ裝置スベシ

第四百十四條 沿海以上ノ航行區域ヲ有ス  
ル船舶ニハ其ノ航行スベキ區域及港灣ノ  
海圖ヲ備フベシ  
海圖ハ水路部ノ最近刊行ニ係ルモノヲ使  
用スベシ但シ最近ノ刊行ニ非ザルモ改正  
ノ廉ヲ記入シタルモノ又ハ外國出版ノ海  
圖ニシテ最近ノ刊行ニ係ルモノヲ使用ス  
ルモ妨ナシ

第四百十五條 帆船ニハ橋ニ相當スル帆一  
揃ヲ備フベシ  
近海以上ノ航行區域ヲ有スル帆船ニ於テ  
ハ前項ノ帆ノ外左表ニ依リ豫備帆ヲ備フ  
ベシ



區別	豫備帆ノ種類	數
橫帆ヲ備ヘザル船	「フォール・ステース」 「フォースル」	一
橫帆ヲ備フル船	「フォースル」又ハ 「メイソスル」 「フォール・ステース」 「トップスル」	一

第四百四十六條 總噸數五千噸以上ノ旅客船ニハ無線方位測定機ヲ備フベシ  
第五編 特殊貨物ノ積附設備

第一章 火藥庫

第四百四十七條 火藥庫ハ成ルベク熱氣ナク且旅客室又ハ船員室ニ接近セザル甲板間ノ場所ニ設置シ其ノ扉ハ船口ヨリ容易ニ接近シ得ル箇所ニ設クベシ  
管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ火藥庫ヲ甲板間以外ノ場所ニ設ケシムルコトヲ得  
第四百四十八條 鋼製火藥庫ノ内面ハ亞鉛鍍スルカ又ハ之ニ塗料ヲ施スベシ  
第四百四十九條 木製火藥庫ノ構造ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル  
一 庫壁ハ六一センチメートルヲ超エザル間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ

固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ内面ニ厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ取附ケタル構造ト爲スベシ  
二 各支柱ノ連結ヲ完全ナラシムル爲其ノ上部及下部ニ幅二三〇ミリメートル以上厚サ三〇ミリメートル以上ノ板ヲ固ク取附クベシ  
第四百五十條 鋼製又ハ木製火藥庫ノ内面ニハ鐵釘其ノ他ノ鐵材ヲ露出セザル様木板、革又ハ毛布ノ類ヲ以テ内張スベシ  
第四百五十一條 火藥庫ノ床ハ三〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレタル幅七五ミリメートル以上厚サ二五ミリメートル以上ノ横木ノ上ニ之ト同一寸法ノ内張板ヲ七五ミリメートル以下ノ間隔ニ取附ケタル網目格子ニシテ掃除ノ爲取外シ且持出シ得ベキ構造ト爲スベシ  
第四百五十二條 火藥庫ガ船側迄達スル場合ニ於テハ船側ニ二三センチメートルヲ超エザル間隔ニ内張板ヲ取附クルコトヲ要ス  
第四百五十三條 船ノ横ノ方向ニ於ケル幅一

二センチメートルヲ超ユル火藥庫ニハ縱通隔壁ヲ設クルコトヲ要ス

前項ノ隔壁ハ九〇センチメートル以下ノ間隔ニ配置セラレ上下兩端ヲ甲板ニ固著セラレタル七五ミリメートル角以上ノ支柱ノ兩側ニ厚サ二五ミリメートル以上ノ木板ヲ一五センチメートル以内ノ間隔ヲ以テ交互ニ取附ケタル構造ノモノト爲スベシ但シ船舶ノ常設支柱ガ適當ノ位置ニ在リテ其ノ間隔一八〇センチメートルヲ超エザルトキハ之ヲ縱通隔壁ノ支柱ニ代用スルコトヲ得  
第四百五十四條 火藥庫ノ扉ハ堅牢ナル構造トシ之ニ強固ナル錠ヲ備フベシ  
第四百五十五條 火藥庫ニハ適當ナル通風裝置ヲ備フベシ  
火藥庫ニ通ズル通風管ノ管口ニハ二枚ノ細目金網ヲ附スルカ又ハ他ノ適當ナル防火蓋ヲ備フベシ  
通風管ヲ備ヘザル鋼製火藥庫ニ於テハ側壁ノ成ルベク上部ニ十分ナル數ノ徑五〇ミリメートル以上ノ換氣孔ヲ穿ツベシ  
第四百五十六條 持運式火藥庫ハ容積一・二六立方メートル以下ニシテ其ノ床及側壁ハ厚サ七五ミリメートル以上幅五〇ミリメートル以上ノ支柱及厚サ三〇ミリメートル以上ノ木板ヲ用キテ構造シ其ノ蓋ハ

之ヲ取附ケタルトキ移動セザル様嵌込構造ト爲シ且堅牢ナル錠ヲ備フベシ  
第二章 甲板積木材貨物ノ積附  
第四百五十七條 甲板積木材貨物トハ上甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル木材貨物ヲ謂フ  
前項ノ木材貨物ニハ木質、バルブ又ハ之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ  
第四百五十八條 上甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ依リ蔽ハルルモノハ其ノ積附前ニ船口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ所定ノ位置ニ配置シ之ヲ完全ニ閉鎖スベシ  
甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分ノ保護スベシ  
第四百五十九條 船員ノ通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ妨グ爲隨時之ヲ閉チ且留メ得ル様木材貨物ヲ積附クベシ  
船員室ヘノ通路ニ當ル甲板積木材貨物ノ上面ハ步行ニ適スル様十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物上少クトモ一・二二メートルノ高サヲ有シ且三〇センチメートル以内ノ間隔ニ配置セラレタル横棒ヲ

備ヘタル保護欄干又ハ之ニ相當スル保護索ヲ設クルコトヲ要ス  
第四百六十條 操舵裝置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル様十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄り易キ様木材貨物ヲ積附クベシ  
第四百六十一條 甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル強力ヲ有スル木製又ハ金屬性ノ支杆ヲ心距三・〇五メートル以内ニ於テ木材ノ長サ及性質ニ應ジ適當ニ配置シ且之ヲ定著スル爲有效ナル裝置ヲ備フベシ  
第四百六十二條 甲板積木材貨物ヲ其ノ全長ニ互リ十分締附クル爲貨物ノ兩側ニ跨ル十分ナル強力ヲ有スル縛索及其ノ締附裝置ヲ備フベシ  
前項ノ縛索ニハ何時ニテモ近寄り得ル箇所ニ於テ解放裝置ヲ備フベシ  
第四百六十三條 甲板積木材貨物ヘ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動かザル様爲スベシ又其ノ積附ヘ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ増加竝ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船内ニ於ケル重量ノ變更

ヲ考量ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス  
第四百六十四條 木材滿載吃水線ヲ標示シタル船舶ガ普通ノ滿載吃水線ヲ超エ甲板積木材貨物ヲ搭載セントスルトキハ其ノ積附ニ付本章ノ規定ニ依ルノ外船舶滿載吃水線規程ノ定ムル所ニ依ルベシ  
第三章 穀類貨物ノ積附  
第四百六十五條 穀類貨物トハ米、麥、豆、堅果、果核、種子其ノ他之ニ類似ノ散粒狀貨物ヲ謂フ  
第四百六十六條 近海以上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ其ノ純噸數ノ三分ノ一ニ相當スル容積以上ノ容積ノ穀類貨物ヲ積積スル場合ニ於テハ其ノ積附ハ本章ノ規定ニ依ル  
穀類貨物ノ容積分明ナラザルトキハ其ノ重量二噸ヲ以テ船舶ノ純噸數一噸ニ相當スルモノト看做ス  
第四百六十七條 穀類貨物ハ上甲板ト第二甲板トノ間ノ場所ニ散積スルコトヲ得ズ但シ艙内ノ空積ヲ填充スル爲適當ナル構造ノ補給裝置ニ積載スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

逓信省令第六號 船舶設備規程

穀類貨物ヲ積載シタルトキハ十分ニ之ヲ荷均シ且填込ムベシ

第百六十八條 穀類貨物ヲ艙内ニ滿載スル場合ニ於テハ其ノ全高ニ互リ縦通隔壁又ハ適當ニ定著セラレタル荷止板ヲ設ケ適當ニ之ヲ區畫シ其ノ上部ニ於ケル梁ノ間ノ間隙ニハ填材ヲ施スベシ

第百六十九條 穀類貨物ヲ艙内ニ滿載セザル場合ニ於テハ其ノ積載スル穀類貨物ノ約四分ノ一ヲ袋入ト爲シ之ヲ散積貨物ノ上ニ設ケタル適當ナル踏板上ニ搭載スベシ但シ當該貨物ノ性質又ハ他ノ貨物ト積合セニ依リ穀類貨物ノ移動ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ規定ハ穀類貨物ヲ滿載スル場合ト雖モ艙内ノ空積ヲ填充スル爲ノ適當ナル補給裝置ノ備ナキ場合ニ之ヲ適用ス

第六章 電氣設備

第一章 總則

第一節 通則

第百七十條 本編ノ規定ハ推進以外ノ用途ニ供スル電氣設備ニ之ヲ適用ス

第百七十一條 供給電壓ハ直流ニ在リテハ五〇〇ヴォルト、交流ニ在リテハ二五〇

ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

電氣扇、電熱器、小形電動機其ノ他之ニ類スル小形ノ電氣器具(以下單ニ小形電氣器具ト稱ス)及白熱電燈ニ供給スル電路ノ電壓ハ直流ニ在リテハ二五〇ヴォルト、交流ニ在リテハ一五〇ヴォルト以下ナルコトヲ要ス

第百七十二條 供給電壓ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ成ルベク百分ノ四ヲ超ユル變動ヲ生ゼシメザルモノト爲スベシ

第百七十三條 電氣方式ハ左ノ各號ノ一ニ依ルコトヲ要ス

- 一 直流又ハ交流單相ノ二線式
- 二 直流又ハ交流單相ノ三線式
- 三 交流三相三線式
- 四 交流三相四線式

第百七十四條 電氣設備ニ關シ本編ニ規定セザル事項ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル船舶ノ種類、用途等ニ依リ本編ノ規定ニ依リ難キモノニ付亦同ジ

第二節 機械及器具

第百七十五條 發電機、電動機等ハ其ノ捲線ト大地トノ間ノ絶縁ガ其ノ最大使用電壓ノ一・五倍ノ電壓ニ依ル絶縁耐力試験ニ十分間以上耐フルコトヲ要ス

第百七十六條 計器用變成器以外ノ變壓器ハ適當ノ絶縁耐力試験ニ耐フルモノナルコトヲ要ス

前項ノ變壓器ハ其ノ最大使用電壓ガ第百七十一條ノ電壓ヲ超ユルモノナルトキハ兩捲線ノ混觸ヨリ生ズル危險ヲ防止スル爲之ニ適當ナル安全裝置ヲ備フベシ

第百七十七條 發電機、電動機、變壓器等ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外易燃性瓦斯、酸性瓦斯又ハ油蒸氣ノ鬱積セザル通風良好ナル區畫内ノ水、蒸氣、油若ハ熱ニ因ル障害又ハ他動的損傷ヲ受クル虞ナキ場所ニ之ヲ設置スベシ

第百七十八條 發電機、電動機等ノ鐵製ノ臺及變壓器ノ外面ハ接地スルコトヲ要ス但シ乾燥シタル木製ノ床其ノ他之ニ類スル絶縁性物ノ上ヨリ之ヲ取扱フ様設置シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第百七十九條 配電盤ハ不燃性物ヲ以テ製作シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十條 配電盤ノ各帶電部ハ之ヲ適當ニ離隔スルカ又ハ不燃性絶縁物ヲ以テ保護

護シ其ノ間ニ弧光ノ持續セザル様設置スベシ

配電盤ニ取附クル器具及電線(電纜及管ニ藏メタル電線ヲ除ク)ハ容易ニ點檢シ得ル様之ヲ設置スベシ

第百八十一條 主配電盤ニハ適當ナル計器ヲ備フベシ

第百八十二條 開閉器、自動遮斷器其ノ他充電スル導體ニ接スル器具ハ不易燃性物ヲ以テ絶縁シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十三條 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ其ノ使用電流及電壓ヲ表示シタルモノナルコトヲ要ス

第百八十四條 機械及器具ハ船舶ノ動搖ニ依リ支障ヲ生ゼザルモノナルコトヲ要ス

第三節 電線、電路及附屬設備

第百八十五條 絶縁電線ハ使用電流ニ因ル溫度上昇ノ爲絶縁物ヲ損傷セザルモノナルコトヲ要ス

第百八十六條 電纜及鉛被電線ハ電氣工作物規程ニ定ムル第四種絶縁電線(以下單ニ第四種電線ト稱ス)ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第百八十七條 電路中必要ナル箇所ニハ特

ニ定ムル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スベシ

第百八十八條 機械、器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自動遮斷器ヲ裝置スベシ

地線工事ノ接地線及多線式電路ノ中性線ニハ自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ得ズ

第百八十九條 電路中必要ナル箇所ニハ常ニ漏電ノ有無ヲ自動的ニ表示スル適當ナル裝置ヲ備フベシ

第百九十條 電路ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外其ノ全部ヲ十分大地ヨリ絶縁スベシ

第百九十一條 電線ニ接続點ヲ設クルトキハ左ノ各號ニ依ル

- 一 電線ノ電氣抵抗ヲ増加セシメザルコト
- 二 電線ノ強サヲ二割以上減少セシメザルコト
- 三 接続管又ハ特殊ノ方法ニ依リ接続スル場合ヲ除クノ外接続部分ハ之ヲ繼附スルコト

第二章 配線工事

第百九十二條 配線ハ電纜、鉛被電線又ハ

金屬製管、金屬製線種若ハ木製線種ニ藏メタル絶縁電線ナルコトヲ要ス

第百九十三條 配線ハ徑一・六ミリメートル以上ノ軟銅線ナルコトヲ要ス但シ使用場所又ハ工事ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第百九十四條 電纜ノ金屬被覆及鉛被電線ノ鉛被ハ接地スルコトヲ要ス

第百九十五條 他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニハ鎧裝電纜又ハ適當ナル保護裝置ヲ有スル鉛被電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第百九十六條 木製線種ヲ用ウル配線工事ハ乾燥セル場所ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 電線ハ第四種電線ナルコト
- 二 線種内ニ於テハ電線ニ接続點ヲ設ケザルコト
- 三 線種ハ乾燥シタル堅緻ナル木材ヲ以テ製作シ其ノ内外面ニ耐水性ノ塗料ヲ施スコト

第百九十七條 金屬製管又ハ金屬製線種ヲ用ウル配線工事ハ左ノ各號ニ依ル

- 一 電線ハ第四種電線ナルコト

二 電線ハ撚線ナルコト但シ短小ナル管若ハ種内ニ藏ムルモノ又ハ徑ニミリメートル以下ノモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 管又ハ種ノ接続ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ依リ破損セザルモノナルコト

四 管又ハ種ハ接地スルコト但シ短小ナル管又ハ種ニシテ乾燥シタル場所ニ設置スルモノハ此ノ限ニ在ラズ

五 管又ハ種ノ内部ニ於テハ電線ニ接続點ヲ設ケザルコト

六 鐵製ノ管又ハ種ハ酸化作用ヲ防止スル爲亞鉛鍍ヲ施スカ又ハ「エナメル」等ヲ以テ被覆スルコト

七 濕氣アル場所又ハ壁内ニ設置スル管又ハ種ハ其ノ内部ニ濕氣ノ浸入スル事ヲ防グ爲接手其ノ他ノ附屬品ニ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

第九十八條 電線又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ嵌輪ヲ備フベシ

第九十九條 電線又ハ鉛被電線ガ甲板又ハ水密隔壁ヲ貫通スル部分ニハ甲板管又ハ水密「グランド」ヲ備ヘ梁又ハ水密ナラザル隔壁ヲ貫通スル部分ニハ鉛其ノ他ノ軟質非鐵物質ノ嵌輪ヲ備フベシ

護スベシ

第九十九條 電氣使用場所ニ於ケル電線ハ適當ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ノ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スベシ

前項ノ各分岐回路ヨリ更ニ分岐スル二線式電路ニ備フル開閉器及自動遮斷器ハ單極ニ之ヲ裝置スルコトヲ得

第一百條 汽機室及汽罐室内ノ配線ハ各獨立ノ分岐回路ト爲スベシ

第一百一條 檣燈、舷燈、兩色燈、三色燈及船尾燈ニ對シテハ燈毎ニ獨立ノ配線ト爲シ別箇ノ開閉器及自動遮斷器ニ依リ制御シ得ル裝置ト爲スベシ

前項ノ開閉器及自動遮斷器ハ航海船橋上ニ之ヲ集合設置スベシ又船燈ガ電球ノ纜條ノ切斷其ノ他ノ原因ニ因リ減シタル場合ニハ之ヲ自動的ニ表示スル設備ヲ爲スベシ

管海官廳ハ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ前二項ノ規定ノ適用ヲ斟酌スルコトヲ得

第一百二條 應急送電裝置ヲ要スル船舶ニ在リテハ應急送電路ハ主電源ヨリ應急電源ニ急速ニ切換ヘ得ル裝置ト爲スベシ

第三章 特殊場所ニ於ケル設備

第二百三條 濕氣アル場所又ハ雨露ニ暴露スル場所ニ設置スル電氣設備ニハ適當ナル防濕又ハ防水裝置ヲ施スベシ

第二百四條 石炭庫其ノ他塵埃アル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鍍裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 開閉器、自動遮斷器其ノ他ノ器具ハ適當ナル防塵裝置ヲ有スルモノナルコト

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

第二百五條 腐蝕性ノ瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於ケル電氣設備ニハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレザル様適當ナル塗裝其ノ他ノ豫防方法ヲ施スコトヲ要ス

第二百六條 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ナル物質ヲ發生又ハ貯藏スル場所ニ於ケル電氣設備ハ左ノ各號ニ依ル

一 配線ハ鍍裝電纜又ハ金屬製管ニ藏メタル第四種電線ナルコト

二 自動遮斷器、開閉器、點滅器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ該場所内ニ設置セザルコト但

シ堅牢ナル氣密函若ハ油中ニ藏ムルカ又ハ其ノ他ノ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラズ

三 電球承口ハ無鍵承口ナルコト

四 電線ニハ氣密ナル外球ヲ裝置シ且堅固ナル外裝ヲ施スコト

五 電動機ハ火花ヲ發スル部分ヲ有セザルモノ又ハ火花ヲ發スル部分ニ適當ナル保安裝置ヲ施シタルモノニ限リ之ヲ使用スルコト

六 電線ト機械又ハ器具トノ接続ハ電氣的ニ完全ニシテ且振動ニ因リ弛緩セザル様堅固ニ取附ケタルモノナルコト

第二百七條 磁氣羅針儀ニ接近スル電氣設備ハ羅針儀ニ有害ナル影響ヲ及ボサザル様設置スルコトヲ要ス

附則

第二百八條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百九條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル端艇及端艇鈎ハ本令ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

前項ノ端艇ニ付テハ其ノ容積ハ船舶検査規程ニ依リ算定シタル容積ヲ立方メートル

ルニ換算シタルモノヲ以テ、其ノ定員ハ同規程ニ依リ算定シタルモノヲ以テ第五條又ハ第八條及第九條ノ規定ニ依リ算定シタル容積及定員ト看做ス

前二項ノ規定ハ昭和六年七月一日以後ニ龍骨ヲ据附ケタル國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノニ付テハ之ヲ適用セズ

第二十條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ昭和六年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタルモノニ付テハ發動機附救命艇及救命索發射器ノ備附、端艇及救命筏ノ附屬品ノ備附、端艇ノ積附及揚卸裝置、乘艇裝置並ニ消防設備ニ關シ本令ヲ適用スルコト實際上困難ナリト認ムルトキハ管海官廳ニ於テ之ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二十一條 本令施行ノ際沿海以下ノ航行區域ヲ有スル旅客船ニ現ニ備フル救命艇ニ非ザル端艇ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ救命艇ニ代用セシムルコトヲ得

第二十二條 國際航海ニ從事スル旅客船ニシテ近海以上ノ航行區域ヲ有スルモノヲ除キ本令施行前製造シタル船舶ニ付管海官廳本令ニ依リ救命設備ヲ備フルコト實際上困難ナリト認メタルトキハ近海以

上ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ在リテハ本令施行後二年、其ノ他ノ船舶ニ在リテハ四年以内ニ於テ行フ最後ノ中間検査又ハ定期検査ノ時期迄其ノ設備ニ付仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二十三條 本令施行ノ際現ニ存スル旅客船ニ付テハ左ニ掲グル事項ニ關シ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

一 室ノ高サ、通路及梯子ノ幅並ニ客席ト甲板又ハ上層客席トノ間ノ高サ

二 移民搭載場所トシテ使用スル旅客室ニ付テハ雜居客室ノ通風裝置及病室ノ設備

三 旅客定員ノ算定ニ用ウル單位容積及單位面積但シ旅客室ノ現狀其ノ他旅客定員ノ算定ニ關スル條件ニ變更ナキ場合ニ限ル

第二十四條 前條第一號ノ規定ハ船員室及船員又ハ旅客ニ非ザル者ノ居室ニ之ヲ準用ス

第二十五條 本令施行前製造シタル旅客船ノ舷牆又ハ柵欄ノ高サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第二十六條 本令施行ノ際現ニ船舶ニ備フル錨、錨鎖及索ノ數、重量、徑又ハ長サニ付テハ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

本令施行ノ際現ニ備フル船隻ニ付テハ之ヲ鋼索、操舵鎖又ハ操舵鋼索ニ付テハ之ヲ引續キ當該船舶ニ備フル場合ニ限リ第百二十八條又ハ第百三十七條第二項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第二百十七條 本令施行後一年以内ニ新ニ船舶ニ備付クル救命筏、救命浮器、救命索、發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帯用泡消火器、携帶用液体消火器及油信號燈ハ本令

ノ規定ニ適合セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ適當ト認ムルモノニ限リ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十八條 本令施行ノ際現ニ備フル船舶ニ備ヘタル救命筏、救命浮器、救命索發射器、信號紅焰、火災警報裝置、防毒面、安全燈、移動式泡消火器、携帶用泡消火器、携帶用液体消火器及油信號燈ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ引續キ當該船舶ニ

備フル場合ニ限リ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第二百十九條 第四百十六條ノ規定ニ依ル無線方位測定機ハ本令施行後二年ヲ限リ管海官廳ニ於テ其ノ備付ヲ猶豫スルコトヲ得

第二百二十條 本令施行ノ際現ニ備フル電氣設備ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルモノニ限リ仍從前ノ例ニ依ラシムルコトヲ得

第一號表 端艇表

船ノ長サ(米)	端艇鈎ノ最小組數				救命艇ノ最小容積(立方米)			
	(イ)	(ロ)	(ハ)	(ニ)	(ホ)	(ヘ)	(ト)	(チ)
三一未滿	二	二	一	一	一	一	一	一
三一以上 三七未滿	二	二	二	二	一	二	二	一
三七 四三	二	二	二	三	一	二	二	一
四三 四九	二	二	二	四	二	三	二	一
四九 五三	三	三	二	五	三	四	二	二
五三 五八	三	三	二	六	三	五	二	二
五八 六三	四	四	三	七	四	六	三	二
六三 六七	四	四	四	八	四	七	三	三

六七	七〇	七〇	七五	七五	七八	七八	七五	七〇	六七
一〇一	一〇七	一〇七	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一一三	一〇七
九六以上一〇一未滿	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六	九六
九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一	九一
八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七	八七
八二	八二	八二	八二	八二	八二	八二	八二	八二	八二
七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八	七八
七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五	七五
七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇	七〇
六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三	六三

一六八	一七七	一六	一二	一二	五七六	四六一
一七七	一八六	一八	一三	一二	六二〇	四九六
一八六	一九五	一八	一三	一二	六七一	五三七
一九五	二〇四	二〇	一四	一四	七七一	五七四
二〇四	二二三	二〇	一四	一四	七六六	六一三
二二三	二二三	二二	一五	一五	八〇八	
二二三	二二二	二二	一五	一五	八〇八	
二二二	二二二	二二	一五	一五	八五四	
二二二	二二二	二二	一五	一五	九〇八	
二四一	二五〇	二四	一七	一七	九七二	
二五〇	二六一	二六	一八	一八	一〇三二	
二六一	二七一	二六	一八	一八	一〇九七	
二七一	二八二	二八	一九	一九	一一六〇	
二八二	二九三	二八	一九	一九	一二四二	
二九三	三〇三	三〇	二〇	二〇	一三二二	
三〇三	三一四	三〇	二〇	二〇	一三八〇	

備考  
救命艇ノ容積ヲ求ムルニ當リ第二級救命艇ノ容積ニ立方メートルハ該救命艇ノ定員ニ〇・二八三ヲ乗ジタルモノヲ用ウベシ

第二號表 移民船ニ對スル食料及飲用水表

品名	量額
米	七四〇グラム
獸肉	一八八g
野菜類	適宜
漬物類	適宜
調味料(味噌、醬油、鹽、砂糖、酢ノ類)	適宜
飲料	三六リットル

備考  
一 本表ノ量額ハ一人一日ニ對シ支給スベキ最小額トス  
二 主食物中米ハ七分搗米又ハ胚芽米トシ成ルベク新鮮良質ナルモノヲ支給スベシ  
三 無砂搗白米 七五〇グラム、麵麴 八六三グラム又ハ麥粉若ハ乾麵麴 六九四グラムヲ以テ七分搗米 七四〇グラムニ代用スルコトヲ得  
四 無砂搗白米ヲ用ウルトキハ其ノ量額ノ十分ノ一迄麥ヲ混用スルコトヲ得  
五 鳥肉、魚肉ヲ以テ獸肉ニ代用スルコトヲ得但シ魚肉ヲ以テ代用スルトキハ鳥獸肉ノ用量ノ倍量以上ヲ用ウベシ  
六 蒸溜機ヲ備フル船舶ニハ水量ヲ半減スルコトヲ得

第三號表 移民船ニ對スル醫藥及衛生用品表

藥名		數	藥名	數
アスチリン	二五〇グラム	安息香酸ソーダカフエイン(安那加)	五〇グラム	
サルチル酸ソーダ	一〇〇g	カロン	二五g	
塩酸キニーネ	五〇g	プロムワレリル尿素(カルモチン又ハプロリン)	五〇g	
重碳酸ネシヤ	一〇〇g	ヨードカリ	一〇〇g	
次硝酸蒼鉛(ビスミット)	一〇〇g	サバド	五〇g	
ピオフェルミン	二五〇g	コペイバルサム	五〇g	
チアシタルビン	二五〇g	サミン	五〇g	
稀塩酸	二〇〇g	アミノピリン錠	五〇錠	
苦味チンキ	五〇g	炭酸グアヤコール	五〇錠	
薄味チンキ	五〇g	規鐵	五〇錠	
バルビタール(ペロナール)	五〇g	オロヂン	五〇錠	
セネガシロップ	一〇〇g	磷酸コデイン十倍末	五〇g	
杏仁水	一〇〇g	パントポン錠又ハナル	二〇錠	
硫酸マグネシヤ(硫酸)	二五〇g	炭末	二五〇g	
ヒカイヤラツパ油	二五〇g	炭末	二五〇g	
ロカイヤラツパ液	二五〇g	炭末	二〇〇g	
醋酸カリ液	二五〇g			
チガーレン又ハチギタ	一五立方種			

(二) 注射薬	
液名	數量
ク ラ ウ デ ン	一〇立方匣入五管 トロンボゲン五立方 匣入六管ヲ以テ代用スルコ トヲ得
パ ン ト ボ ン	一二管
カ ン フ ル オ レ フ 油	一立方匣ニ付二〇% ノモノ 二四本
液名	數量
グ イ タ カ ン フ ア ー	一〇本
リ ン ゲ ル 液 又 ハ ロ ク ク 液	六
生 理 的 食 塩 水	一、〇〇〇グラム

(三) 外用薬	
薬名	數量
ア リ バ ン モ ニ ア 水	一〇〇
青 酸 化 汞	一〇
ピ ン 酸 化 汞	一〇
イ ス ラ ビ ン 又 ハ ト リ パ ラ セ	二五
ヨ ー ド ホ ル ム	二五
デ ル マ ト ル	二五
硝 酸 亜 鉛	二五
硫 酸 亜 鉛	二五
醋 酸 鉛	五〇〇
磷 片 狀 礬 酸	五〇〇
薬名	數量
蒸 溜 水	五〇〇
グ リ セ リ ン	一〇〇
マ ル コ リ ン	一〇〇
ロ ー ト エ キ ス 十 倍 末	二五
ホ ミ カ エ キ ス 十 倍 末	二五
粉 末 芥 子 油	五〇〇
オ レ フ 油	五〇〇
過 酸 化 水 素 水	一〇〇
過 マン ガ ン 酸 カリ	二五
イ ヒ チ オ ー ル	五〇
ホ ニ ツ ク	五〇
ク レ オ ソ ー ト 又 ハ カ ン	二五
薬名	數量
ピ ッ ク 硬 膏	一〇
葡 萄 石 炭 液	五〇
石 炭 石 鹼 液	五〇
硫 酸 亜 鉛 水	五〇
亞 鉛 華 絆 創 膏	一〇

(四) 血精類	
薬名	數量
ワ セ リ ン 膏	二五〇
タ 鉛 華 軟 膏	二五〇
水 銀 軟 膏	一〇〇
砒 酸 軟 膏	一〇〇
單 軟 膏	二五〇
薬名 <td>數量</td>	數量
ピ ッ ク 硬 膏	一〇
葡 萄 石 炭 液	五〇
石 炭 石 鹼 液	五〇
硫 酸 亜 鉛 水	五〇
亞 鉛 華 絆 創 膏	一〇

(五) 醫療器械類	
薬名	數量
チ フ テ リ ヤ 血 精 (一、〇〇 〇國際免 疫單位)	二本
破 傷 風 血 精 (六、〇〇〇 國際免 疫單位)	一本

(五) 醫療器械類	
品名	數量
小 外 科 器 械 (内譯)	一 函
直 剪 刀	三 箇
反 剪 刀	三 箇
鑷 鉤	一 箇
有 頭 鉤	一 箇
兩 氏 鉗	一 箇
持 針 鉗	一 箇
消 息 針	一 箇
有 持 針 鉗	一 箇
縫 合 針	五 本
品名	數量
消 毒 合 糸	一 箇
膿 毒 盆	一 箇
注 射 器 (針 二 本 附)	一 〇〇 箇
グ リ セ リ ン 洗 腸 器	二 〇 立 方 匣
カ テ テ ル	二 〇 立 方 匣
尿 道 注 射 器	二 〇 立 方 匣
ス リ ン コ ッ プ ア ド	一 〇 立 方 匣
洗 眼 コ ッ プ ア ド	一 〇 立 方 匣
反 射 鏡	一 箇
卷 綿 棒 (咽 頭 用)	一 箇

同	消毒	食塩注射	器械	天平	液	硝子	藥	金	水	同	木	投	投	カ
	ガセ貯槽	用ゴム及針	消毒器	秤(上皿用)	量器	製乳鉢(乳棒共)		屬			栓	膏	藥	點
	(耳鼻用)													
丸	罐	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒
五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小	大	中	小
丸	丸	丸	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒	筒
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

Table with 20 columns and 30 rows. Columns include ship number, length, width, depth, and various equipment specifications. The table is organized into sections for different vessel types and sizes.

表第六及 鋼鐵 船 帆

Table with 20 columns and 30 rows. Columns include ship number, length, width, depth, and various equipment specifications. The table is organized into sections for different vessel types and sizes.



第九號表 器具表

器具名	規格	備註	計		備註	
			必要	備用	必要	備用
船中器具	...	...	...	...	...	...
船外器具	...	...	...	...	...	...
船中器具	...	...	...	...	...	...
船外器具	...	...	...	...	...	...

一、本表は、船舶の構造、設備、及び航行に必要な器具の規格、備用数、及び備註を示すものである。

二、本表は、船舶の構造、設備、及び航行に必要な器具の規格、備用数、及び備註を示すものである。

表六第 表索大及索錫、錫ノ船帆ルフ備ヲ錫形本日

索大	索錫	錫大	錫小	索大		索錫		錫大		錫小	
				徑	長	徑	長	徑	長	徑	長
40-55	2	1	3	75	905	24	32	55	110	28	—
55-70	2	2	4	95	920	28	40	65	110	32	—
70-100	2	2	4	115	995	32	45	75	110	35	—
100-140	2	3	5	130	565	35	45	80	135	35	—
140-210	2	3	5	170	750	45	60	90	135	40	14
210-285	2	4	6	205	1010	50	65	90	135	45	16
285-355	2	4	6	255	1240	55	75	110	135	45	16
355-425	2	4	6	300	1430	60	80	110	135	50	18
425-495	2	4	6	330	1610	65	—	125	135	55	18
495-565	2	4	6	360	1800	70	—	125	135	55	18

備考 索大及索錫ハ十二本線六ヲ備備用ノ使用シタル場合ノ寸法トス

第七號表 日本形錫ノ錫量下錫索對照表

錫量	索大	索錫
30	18	24
40	20	28
50	22	30
60	24	32
70	26	34
80	28	36
90	30	38
100	32	40
110	34	42
120	36	44
130	38	46
140	40	48
150	42	50
160	44	52
170	46	54
180	48	56
190	50	58
200	52	60
210	54	62
220	56	64
230	58	66
240	60	68
250	62	70

表八第 表度限耗索錫錫

徑原	徑平均	徑原	徑平均	徑原	徑平均
0	8	26	23	56	50
10	9	27	24	58	52
11	10	28	25	60	53.5
12	11	29	26	62	55.5
13	11.5	30	27	64	57
14	12.5	32	28.5	66	59
15	13	34	30	68	61
16	14	36	32	70	62.5
17	15	38	34	72	64
18	16	40	36	74	66
19	17	42	37.5	76	68
20	18	44	39	78	70
21	19	46	41	80	71.5
22	19.5	48	43	82	73
23	20.5	50	44.5	85	76
24	21.5	52	46.5	88	78.5
25	22	54	48	91	81.5

●逓信省令第七號(官報號外)

船舶滿載吃水線規程左ノ通定ム

昭和九年二月一日

逓信大臣 南 弘

船舶滿載吃水線規程

目次

- 第一編 總則
- 第一章 定義
- 第二章 乾舷ノ種類
- 第三章 滿載吃水線ノ標示
- 第四章 乾舷ノ決定
- 第二編 汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷
- 第一章 表定乾舷
- 第二章 船樓ニ關スル修正
- 第三章 深サ及梁矢ニ關スル修正
- 第四章 舷弧ニ關スル修正
- 第三編 鋼船ノ強力
- 第一章 縱抵抗率及肋骨抵抗率
- 第二章 標準強力
- 第三章 強力ニ依ル吃水ノ算定
- 第四編 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船、槽船及水汽船ノ乾舷ニ關スル特別規定
- 第一章 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船

- 第二章 槽船
- 第三章 水汽船
- 第五編 帆船ノ乾舷ニ關スル特別規定
- 第一章 鋼帆船
- 第二章 木帆船
- 第六編 船舶ノ構造及設備
- 第一章 通則
- 第二章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル船口其ノ他ノ甲板口
- 第三章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口、通風筒及空氣管
- 第四章 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口
- 第五章 船樓端ノ隔壁、船員ノ保護裝置及放水口
- 第六章 木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケル汽船
- 第七章 槽船
- 附則
- 船舶滿載吃水線規程
- 第一編 總則
- 第一章 定義
- 第一條 本令ニ於テ乾舷甲板トハ最上層ノ全通甲板ヲ謂フ但シ最上層ノ全通甲板ノ暴露部ニ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル開口ヲ

有スル船舶ニ在リテハ該甲板ノ直下ノ全通甲板ヲ謂フ

船首ト船尾トノ間ニ於テ一部分ノ甲板ト他ノ部分ノ甲板トガ連續セザル船舶ニ付乾舷甲板ヲ定ムル場合ニ於テハ上方ノ甲板ノ部分ニ於テ之ト平行シテ下方ノ甲板ノ延長面ヲ假定シ該下方ノ甲板及其ノ延長面ヲ全通甲板ト看做ス

第二條 本令ニ於テ船樓トハ船側ヨリ船側ニ達シ上部ニ甲板ヲ有スル乾舷甲板上ノ構造物ヲ謂フ

本令ニ於テ船樓ノ長サトハ船橋樓ニ在リテハ其ノ平均ノ長サ、其ノ他ノ船樓ニ在リテハ船ノ長サヲ測ル兩端點ニ於ケル垂直線ノ間ニ在ル部分ノ平均ノ長サヲ謂フ

第三條 本令ニ於テ平甲板船トハ船樓ヲ有セザル船舶ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ船ノ長サトハ計畫夏期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ舵柱ヲ有スル船舶ニ在リテハ其ノ後面迄、舵柱ヲ有セザル船舶ニ在リテハ舵頭ノ中心迄測リタル距離ヲ謂フ

巡洋艦形船尾ヲ有スル船舶ニ在リテハ船ノ長サハ前項ノ規定ニ依ル長サト計畫夏

期滿載吃水線又ハ計畫海水滿載吃水線上ニ於ケル船ノ全長ノ百分ノ九十六トノ中大ナルモノトス

船ノ長サハLヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第五條 本令ニ於テ船ノ幅トハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面ヨリ外面迄、木船ニ在リテハ外板ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ

船ノ幅ハBヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第六條 本令ニ於テ船ノ深サトハLノ中央ニ於テ鋼船ニ在リテハ龍骨ノ上面ヨリ、木船ニ在リテハ龍骨ノ溝ノ下線ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ船體中央橫截面ノ下部ガ凹形ヲ成ス船舶又ハ厚キ龍骨翼板ヲ有スル木船ニ在リテハ船底外板ノ外面ノ扁平部ノ延長ト龍骨ノ側面トノ交點ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

Lノ中央ニ於ケル船底勾配ガ八分ノ一ヨリ大ナル鋼帆船ノ深サハ第八條ノ規定ニ依ル

船ノ深サハDヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第七條 本令ニ於テ乾舷用深サトハDニ乾舷甲板ノ梁上側板ノ厚サト左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サトノ中大ナルモノヲ加ヘタルモノヲ謂フ

(F<sub>1</sub>-S)

Tハ船樓内及甲板口ノ部分ヲ除キタル乾舷甲板ノ平均ノ厚サニメートルトス

Sハ船樓ノ長サノ和ニメートルトス

乾舷用深サハDヲ以テ之ヲ示シ其ノ單位ハメートルトス

第八條 本令ニ於テ乾舷トハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ但シ乾舷甲板ニ舷側水道又ハ梁壓材ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ内側ニ於ケル甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ吃水トハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第十條 本令ニ於テ甲板積木材貨物トハ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ暴露部ニ積載スル

木材貨物ヲ謂フ

前項ノ木材貨物ニハ木質「バルブ」及之ニ類似ノ貨物ヲ包含セズ

第十一條 本令ニ於テ槽船トハ包裝セザル液体貨物ノ運送ノ爲特殊ノ構造ヲ爲シタル汽船ヲ謂フ

第十二條 本令ニ於テ北部季節冬期帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)

一 北亞米利加ノ東岸ヨリ北緯三十六度ノ線ニ沿ヒ西班牙國「タリファ」迄、朝鮮ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ本州ノ西岸迄、本州ノ東岸ヨリ北緯三十五度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ北緯五十度ニ於ケル「ヴァンクローヴァー」島ノ西岸迄引キタル線ヨリ北方ノ海面

二 地中海及黑海

釜山及橫濱ハ本帶域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十三條 本令ニ於テ北部季節冬期帶ニ於ケル冬期季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ(別紙附圖參照)

欄	區	域	冬期季節	夏期季節
一	西經五十度ニ於ケル「グリーンランド」ノ海岸ヨリ南ヘ北緯四十五度迄、其ノ地點ヨリ北緯四十五度ノ線ニ沿ヒ西經十五度迄、其ノ地點ヨリ北緯六十度迄及其ノ地點ヨリ北緯六十度ノ線ニ沿ヒ「威國」ノ西岸迄引キタル線内及其ノ北方ニ於ケル北亞米利加ト歐羅巴トノ間ノ區域		四月十六日ヨリ 四月十五日迄	四月十六日ヨリ 十月十五日迄
二	前欄ニ掲グル區域ヲ除キタル北緯三十六度以北ノ大洋及其ノ接續海（バルティック海ヲ含ム）		十一月一日ヨリ 三月三十一日迄	四月一日ヨリ 三月三十一日迄
三	地中海及黑海		十二月十六日ヨリ 三月十五日迄	三月十六日ヨリ 十二月十五日迄
四	北緯三十五度ト北緯五十度トノ間ノ日本海		十一月一日ヨリ 二月末日迄	三月一日ヨリ 十一月三十日迄
五	前欄ニ掲グル日本海ヲ除キ北緯三十五度以北ニ於ケル亞細亞ト亞米利加トノ間ノ區域		十月十六日ヨリ 四月十五日迄	四月十六日ヨリ 十月十五日迄

備考

第十四條 本令ニ於テ南部季節冬期帯トハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南緯四十度ノ線ニ沿ヒ西經五十六度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十四度西經五十度ノ點迄、其ノ地點ヨリ南緯三十四度ノ線ニ沿ヒ南阿弗利加ノ西岸迄、南緯三十度ニ於ケル南阿弗利加ノ東岸ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十五度ニ於ケル「オーストラリア」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「オーストラリア」ノ南岸ニ沿ヒ「エリッド」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「タスマニア」ノ「グリム」岬迄、其ノ地點ヨリ「タスマニア」ノ北岸ニ沿ヒ「エッヂストーン・ポイント」迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ東經百七十度ニ於ケル「ニュージブラント」ノ「サウス」島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「サウス」島ノ西岸、南岸及東岸ニ沿ヒ「ソーンダス」岬迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十三度西經百七十度ノ點迄及其ノ地點ヨリ南緯三十三度ノ線ニ沿ヒ南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ヨリ南方ノ海面ヲ謂フ（別紙附圖參照）

「ヴァルバイソ」、「ケープ・タウン」及「ダーバン」ハ本帶域ト夏期帯域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス

第十五條 本令ニ於テ南部季節冬期帯ニ於ケル冬期季節トハ四月十六日ヨリ十月十五日迄ノ期間ヲ謂ヒ、夏期季節トハ十月十六日ヨリ四月十五日迄ノ期間ヲ謂フ

第十六條 本令ニ於テ季節熱帶トハ左表ニ掲グル各區域内ノ海面ヲ謂ヒ、季節熱帶ニ於ケル熱帶季節又ハ夏期季節トハ其ノ區域ニ應ジ左表ニ掲グル期間ヲ謂フ（別紙附圖參照）

欄	區	域	熱帶季節	夏期季節
一	北大西洋ニ於テ北ハ「ユカタン」ニ於ケル「カトリ」岬ヨリ「キューバ」國ノ「サン・アントニオ」岬迄引キタル線、北緯二十度迄、其ノ地點ヨリ南緯二十度迄、西經二十度迄、北緯二十度ノ線ニ依リ、南ハ「南亞米利加」ノ東岸及北岸ニ依リ、南ハ西經二十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		七月一日ヨリ 七月十五日迄	七月十六日ヨリ 十月三十一日迄
二	北緯二十四度以北東經五十九度以東ノ「アラビヤ」海		八月一日ヨリ 十二月二十日迄	五月三十一日ヨリ 七月三十一日迄
三	北緯二十四度以南北緯八度以北ノ「アラビヤ」海ニシテ西ハ東經五十九度ノ線、西南ハ東經四十五度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		五月二十日ヨリ 九月十六日迄及 十月十六日ヨリ 十一月十五日迄	五月二十一日ヨリ 九月十五日迄及 十月十六日ヨリ 十一月三十日迄
四	北緯八度以北ノ「ベンガル」灣		四月十五日ヨリ 四月十五日迄	十二月十六日ヨリ 十二月十五日迄
五	支那海ニ於テ西及北ハ印度支那及香港迄ノ支那ノ海岸ニ依リ、東ハ香港ヨリ「スアル」港（「ルソン」島）迄ノ羅盤方位線ニ北緯十度迄、（「ルソン」島）「サマール」及「レイイト」ノ諸島ノ西岸ニ依リ、又南ハ北緯十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		四月二十一日ヨリ 四月三十日迄	五月一日ヨリ 五月二十日迄
六	北大西洋ニ於テ北ハ北緯二十五度ノ線ニ依リ、西ハ東經六十度ノ線ニ依リ、南ハ北緯十三度ノ線ニ依リ、又東ハ西經百三十度ノ線ニ依リ限ラレタル區域		四月三十一日ヨリ 四月三十一日迄	三月三十一日ヨリ 三月三十一日迄

七	八	九
北太平洋ニ於テ北及東ハカリフォルニア、メキシコ、國及中央、亞米利加ノ海岸ニ依リ、西ノ經度ニ依リ、北緯十三度、西經百二十度ノ點ヨリ、南緯十三度ノ點ニ依リ、限ラレタル區域	南太平洋ニ於テ北ハ南緯十一度ノ線ニ依リ、西ハ「オーストラリア」ノ東岸ニ依リ、南ハ南緯二十度ノ線ニ依リ、又東ハ東經百七十五度ノ線ニ依リ、限ラレタル區域	南太平洋ニ於テ西ハ西經百五十度ノ線ニ依リ、南ハ南緯二十度ノ線ニ依リ、又北及東ハ南緯十一度ノ線ニ依リ、限ラレタル區域
三月一日ヨリ 六月三十日迄及 同月三十日迄	四月一日ヨリ 十一月三十日迄	十一月三十日ヨリ 十二月末日迄
七月一日ヨリ 十二月末日迄及 十二月末日迄	十二月一日ヨリ 三月三十一日迄	十二月末日ヨリ 十二月末日迄

備考

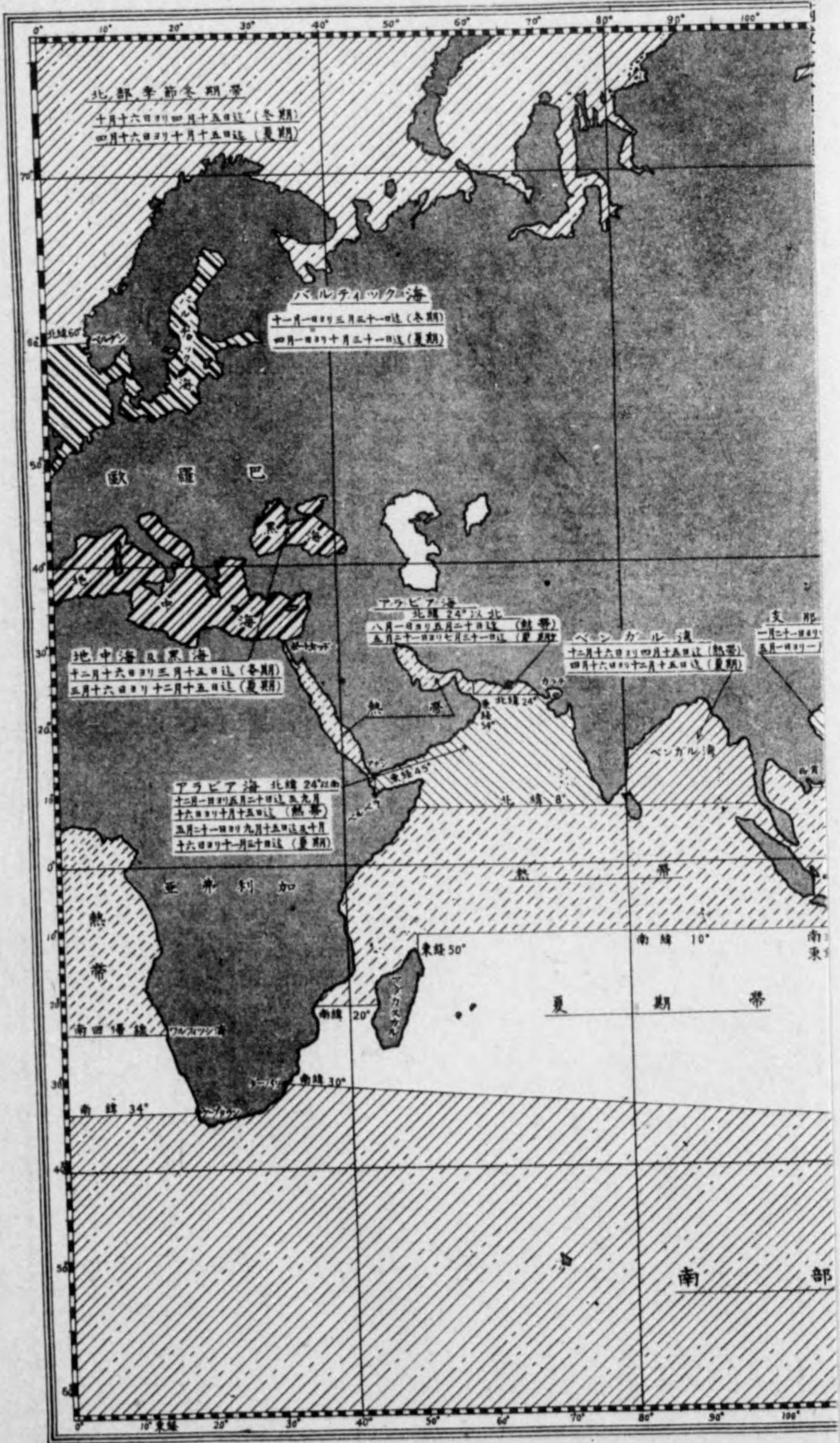
- 一 「カラチ」ハ第二欄ニ掲グル區域ト第三欄ニ掲グル區域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス
- 二 香港及「スアル」ハ第五欄ニ掲グル區域ト夏期帶域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス
- 三 西貢ハ第五欄ニ掲グル區域ト熱帶域トノ境界線上ニ又「アデン」及「ベルベラ」ハ第三欄ニ掲グル區域ト熱帶域トノ境界線上ニ在ルモノト看做ス

第十七條 本令ニ於テ熱帶トハ左ノ各號ニ掲グル海面ヲ謂フ(別紙附圖參照)

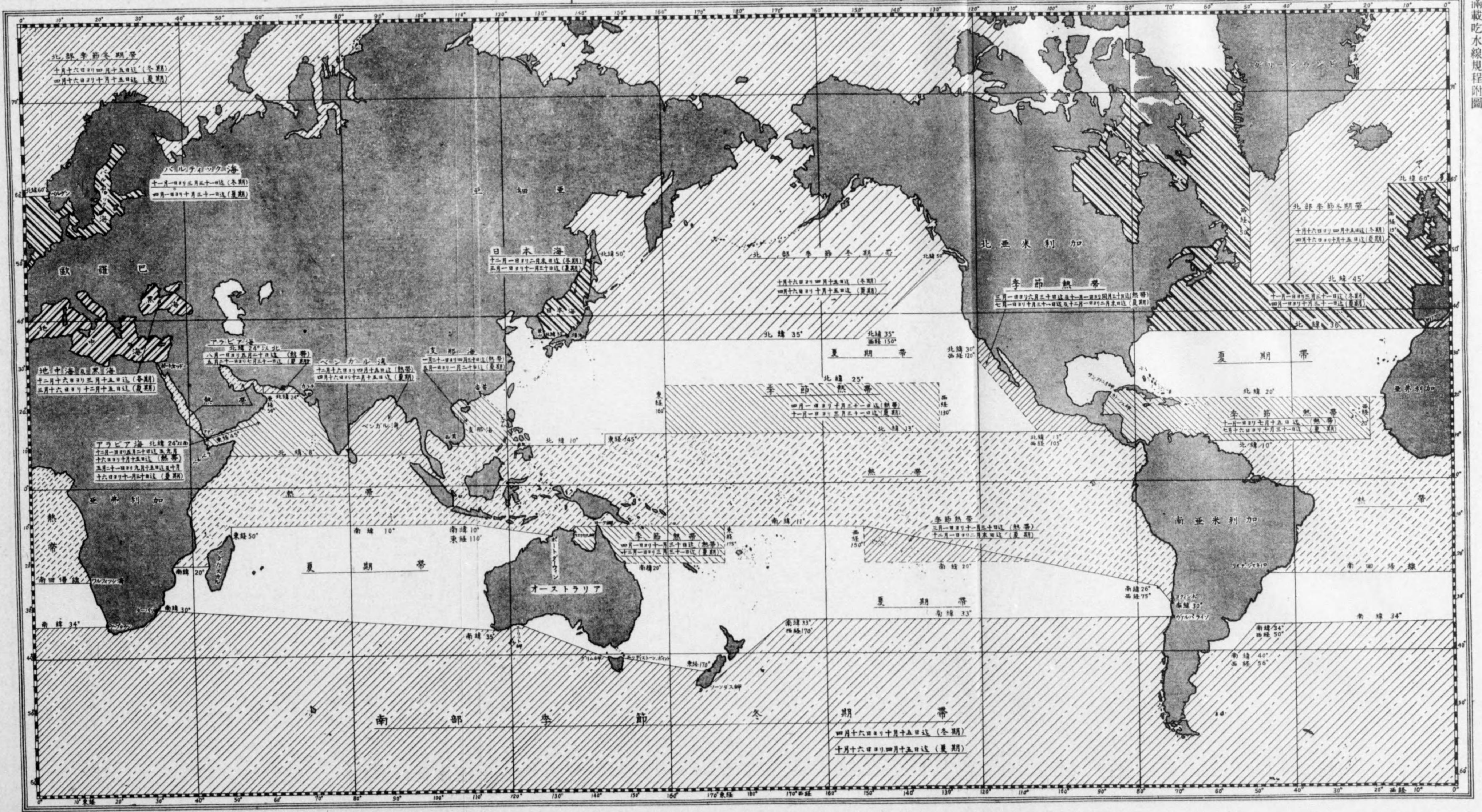
一 北ハ北緯十度ニ於ケル南亞米利加ノ東岸ヨリ北緯十度ノ線ニ沿ヒ西經二十度迄、其ノ地點ヨリ北ハ北緯二十度迄及其ノ地點ヨリ北緯二十度ノ線ニ沿ヒ阿弗利加ノ西岸迄引キタル線、阿弗利加

ノ東岸ヨリ北緯八度ノ線ニ沿ヒ馬來半島ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ馬來及暹羅國ノ海岸ニ沿ヒ北緯十度ニ於ケル交趾支那ノ東岸迄、其ノ地點ヨリ北緯十度ノ線ニ沿ヒ東經百四十五度迄、其ノ地點ヨリ北ハ北緯十三度迄及其ノ地點ヨリ北緯十三度ノ線ニ沿ヒ中央亞米利加

ノ西岸迄引キタル線ニ依リ限ラレ南ハ南亞米利加ノ東岸ヨリ南緯十度ノ線ニ沿ヒ阿弗利加ノ西岸迄、阿弗利加ノ東岸ヨリ南緯二十度ノ線ニ沿ヒ「マダガスカル」ノ西岸迄、其ノ地點ヨリ「マダガスカル」ノ西岸及北岸ニ沿ヒ東經五十度迄、其ノ地點ヨリ北ハ南緯十度迄、其ノ



船舶滿載吃水線用帶域圖



地點ヨリ南緯十度ノ線ニ沿ヒ東經百十度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ「オーストラリア」ノ「ポート、ダーウィン」迄、其ノ地點ヨリ東へ「オーストラリア」ノ海岸及「ウエツセル」島ニ沿ヒ「ウエツセル」岬迄、其ノ地點ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ「ヨーク」岬ノ西側迄、南緯十一度ニ於ケル「ヨック」岬ノ東側ヨリ南緯十一度ノ線ニ沿ヒ西經百五十度迄、其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯二十六度西經七十五度ノ點迄及其ノ地點ヨリ羅盤方位線ニ沿ヒ南緯三十度ニ於ケル南亞米利加ノ西岸迄引キタル線ニ依リ限ラレタル海面

二 「ポートセイド」ヨリ東經四十五度ノ線迄ノ「スエズ」運河、紅海及「アデン」灣

三 東經五十九度ノ線迄ノ「ベルシア」灣「コクインボ」、「リオ・デ・ジァネイロ」及「ポート・ダーウィン」ハ前項第一號ノ區

<p>域ト夏期帶域トノ限界線上ニ在ルモノト看做ス</p> <p>第十八條 本令ニ於テ夏期帶トハ第十二條、第十四條、第十六條及第十七條ニ掲グル帶域又ハ區域ニ屬セザル總テノ海面ヲ謂フ</p> <p>第十九條 前七條ニ掲グル帶域又ハ區域ノ</p>		<p>滿載吃水線</p> <p>夏期滿載吃水線</p> <p>冬期滿載吃水線</p> <p>冬期北大西洋滿載吃水線</p> <p>熱帶滿載吃水線</p> <p>夏期淡水滿載吃水線</p> <p>熱帶淡水滿載吃水線</p>	<p>乾</p> <p>夏期 乾</p> <p>冬期 乾</p> <p>冬期北大西洋 乾</p> <p>熱帶 乾</p> <p>夏期淡水 乾</p> <p>熱帶淡水 乾</p>	<p>舷</p> <p>夏期 舷</p> <p>冬期 舷</p> <p>冬期北大西洋 舷</p> <p>熱帶 舷</p> <p>夏期淡水 舷</p> <p>熱帶淡水 舷</p>	<p>摘</p> <p>冬期北大西洋滿載吃水線ハ擧船ニ非ザルL一〇・五八メートルヲ超ユル汽船近海ノ航行區域ヲ有スル汽船及北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ航行セザル漁船ニハ之ヲ標示スルコトヲ要セズ</p>
<p>滿載吃水線</p> <p>海水滿載吃水線</p> <p>冬期北大西洋滿載吃水線</p> <p>淡水滿載吃水線</p>	<p>乾</p> <p>海水 乾</p> <p>冬期北大西洋 乾</p> <p>淡水 乾</p>	<p>舷</p> <p>海水 舷</p> <p>冬期北大西洋 舷</p> <p>淡水 舷</p>	<p>摘</p> <p>冬期北大西洋滿載吃水線ハ近海ノ航行區域ヲ有スル帆船及北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ航行セザル漁船ニハ之ヲ標示スルコトヲ要セズ</p>	<p>要</p>	

限界線上ニ在ル港ハ各場合ニ應ジ船舶ガ該港ニ到着スル迄ニ航行シタル帶域若ハ區域又ハ該港ヲ發航シタル後航行スベキ帶域若ハ區域ノ内ニ在ルモノト看做ス

第二章 乾舷ノ種類

第二十條 汽船ニ標示スベキ滿載吃水線及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル六種トス

第二十一條 夏期乾舷ハ夏期帯ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帯及季節冬期帯ニ於テハ各其ノ夏期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十二條 冬期乾舷ハ季節冬期帯ニ於テ其ノ冬期季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十三條 冬期北大西洋乾舷ハ北緯三十六度以北ノ北大西洋ヲ其ノ冬期季節間ニ於テ横斷スル航海ノ場合ニ海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十四條 熱帯乾舷ハ熱帯ニ於テハ一年ヲ通ジ、季節熱帯ニ於テハ其ノ熱帯季節間海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十五條 海水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十六條 夏期淡水乾舷ハ第二十一條ニ掲グル區域及季節ニ、熱帯淡水乾舷ハ第二十四條ニ掲グル區域及季節ニ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第二十七條 淡水乾舷ハ第二十三條ニ掲グル場合ヲ除クノ外淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第三章 滿載吃水線ノ標示

第二十七條 滿載吃水線ハ兩舷側ニ幅二五ミリメートルノ線ヲ以テ之ヲ標示スベシ

第二十八條 乾舷甲板ノ位置ハLノ中央ニ於テ長サ三〇〇ミリメートルノ水平線ヲ以テ之ヲ標示シ其ノ上縁ノ中央點ヲ第八條ノ交點ニ一致セシムベシ

第二十九條 前條ノ水平線ノ下方ニ於テLノ中央ニ外徑三〇〇ミリメートルノ圓標ヲ畫キ其ノ中心ヨリ該水平線ノ上縁迄ノ垂直距離ヲ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ等シクスベシ

第三十條 圓標ヲ貫通シ長サ四六〇ミリメートルノ水平線ヲ畫キ其ノ上縁ノ中央點ヲ圓標ノ中心ニ一致セシメ夏期滿載吃水線又ハ海水滿載吃水線ノ標示ト爲スベシ

第三十一條 前項ノ水平線ノ上方ニ於テ圓標ノ外側ニ高サ一一五ミリメートル幅七五ミリメートルノ記號J及Gヲ標示スベシ

第三十二條 第七十一條但書ニ依リ舷弧ノ高サヲ測リタル船舶ニ在リテハLノ中央ヨリ前方Lノ四分ノ一ノ箇所ニモ前三項ノ標示ヲ爲スベシ

第三十三條 前條第一項ノ圓標ノ中心ヨリ前方五四〇ミリメートルノ箇所ニ後條ヲ有スル垂直線ヲ畫キ其ノ前縁ヨリ前方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ第二十條第一項又ハ第二項ニ掲グル海水ニ於ケル各滿載吃水線(海水滿載吃水線ヲ除ク)ヲ標示シ又其ノ後縁ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ淡水ニ於ケル各滿載吃水線ヲ標示スベシ

前項ノ滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

滿載吃水線ノ種類	記號
夏期滿載吃水線	W
冬期滿載吃水線	W A
冬期北大西洋滿載吃水線	W N A
熱帯滿載吃水線	H
夏期淡水滿載吃水線及淡水滿載吃水線	F
熱帯淡水滿載吃水線	H F

木材滿載吃水線ノ標示ニ付テハ第九十六條ノ規定ニ依ル

第三十一條 滿載吃水線ノ標示ハ鋼船ニ在リテハ外板ニ切込ムカ又ハ之ニ點刻シム

船ニ在リテハ外板ニ三ミリメートル以上ノ深サニ切込ミ且暗色ノ船側ニ於テハ白色又ハ黃色ニ塗リ白色ノ船側ニ於テハ黑色ニ塗リ之ヲ見易キモノト爲スベシ

第三十二條 滿載吃水線ノ標示ヲ見易キモノト爲ス爲ニ必要ナル場合ニ於テハ其ノ位置ヲ第二十八條及第二十九條ニ規定シタル位置ヨリ後方ニ變更スル等適當ノ手段ヲ執ルベシ

第四章 乾舷ノ決定

第三十三條 本章ノ規定ハ貨物及脚荷ノ性質及積附方船舶ノ復原性ヲ保持スルニ適當ナル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十四條 第三十五條乃至第四十二條ノ規定ハ船舶ノ構造及設備方第六編ノ規定ニ適合スル場合ニ付之ヲ定メタルモノトス

第三十五條 鋼汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ正シタルモノトス

強力ガ第三編ニ掲グル標準強力ニ達セザル鋼汽船ノ夏期乾舷ハ前項ノ規定ニ拘ラズ第三編第三章ノ規定ニ依リ算定シタル各吃水ノ中最小ナルモノニ相當スルモノトス

前項ノ規定ハ鋼船ノ構造ニ關スル規程又ハ船級協會ノ鋼船ノ構造ニ關スル規則ノ最高標準ニ適合シタル船舶ニハ之ヲ適用セズ

第三十六條 槽船又ハ木汽船ノ夏期乾舷ハ夫々第四編第二章又ハ第四編第三章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十七條 帆船ノ海水乾舷ハ第五編ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第三十八條 冬期乾舷ハ夏期乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ加ヘタルモノトス

第三十九條 冬期北大西洋乾舷ハL一〇〇五八メートル以下ノ汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ五ミリメートルヲ加ヘタルモノ、L一〇〇五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ冬期乾舷ニ七六ミリメートルヲ加ヘタルモノトス但シ槽船ニ在リテハ第五條ノ規定ニ依ル

第四十條 熱帯乾舷ハ夏期乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス

第四十一條 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ海水ニ於ケル各種木材乾舷ハ第四編第一章ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第四十二條 船舶所有者ニ於テ吃水ノ限度ヲ豫定シタル場合ニ於テハ前七條ノ規定

ニ依ル各種乾舷ニシテ該限度ニ對スル乾舷ヨリ小ナルモノハ之ヲ該限度ニ對スル乾舷ニ等シカラシムルコトヲ得

第四十三條 海水ニ於ケル滿載吃水線ハ本章前各條ノ規定ニ拘ラズ乾舷甲板ノ上面ノ延長ト外板ノ外面トノ交點ノ最低點ノ下方五ミリメートルヨリ小ナル距離ニ在ルコトヲ得ズ

第四十四條 夏期淡水乾舷、熱帯淡水乾舷又ハ淡水乾舷ハ夫々本章前各條ノ規定ニ依リ定メタル夏期乾舷、熱帯乾舷又ハ海水乾舷ヨリ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス

△ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量

Tハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニ於テ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル海水排水量

每一センチメートル海水排水量

前項ノ△及Tヲ確認シ得ザル場合ニ於テハ前項ノ修正高ハ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ト爲スベシ

甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船ノ夏期淡水木材乾舷及熱帯淡水木材乾舷ノ算定ニ付テハ第九十九條第一項ノ規定ニ依ル

前三項ノ規定ハ海水ノ一立方メートルノ重量ガ一〇二五トン、淡水ノ一立方メートルノ重量ガ一トンナル場合ニ相當スルモノトス

第四十五條 汽船ニ在リテハ第二十二條又ハ第二十三條ニ掲グル區域及季節又帆船ニ在リテハ第二十三條ニ掲グル區域及季節ニ於テハ當該乾舷ヨリ前條ノ規定ニ依リ修正高ヲ減シタルモノヲ淡水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第四十六條 L九一・四四メートルヲ超ユル汽船ニシテ構造上槽船ト類似ノ特徵ヲ有スルモノニ付テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第六編ニ規定スル槽船ニ對スル條件ニ適合スル程度及當該船舶ニ於ケル區畫ノ程度ヲ考慮シ槽船ニ對スル乾舷ノ振合ニ依リ其ノ乾舷ヲ定ムルコトヲ得但シ該乾舷ハ該船舶ヲ槽船ト看做シ指定スベキモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四十七條 管海官廳必要アリト認ムルトキハ船體ノ現狀、局部ノ構造、工事ノ良否又ハ船舶若ハ船員ノ安全ニ關スル設備ヲ考慮シ本令ニ定ムル乾舷ヲ増加スルコトヲ得

逓信大臣ハ船舶ノ構造、用途又ハ航路ノ難易ニ應ジ本令ニ該當セザル乾舷ヲ指定セシムルコトアルベシ

乾舷 (尺)	L	乾舷 (尺)	L
1870	124.0	200	24.0
1936	126.5	221	26.5
2001	129.0	242	29.0
2066	131.5	262	31.5
2131	134.0	283	34.0
2196	136.5	304	36.5
2260	139.0	325	39.0
2324	141.5	349	41.5
2388	144.0	375	44.0
2451	146.5	403	46.5
2514	149.0	432	49.0
2576	151.5	462	51.5
2637	154.0	493	54.0
2698	156.5	525	56.5
2758	159.0	559	59.0
2816	161.5	594	61.5
2874	164.0	630	64.0
2931	166.5	668	66.5
2988	169.0	716	69.0
3044	171.5	745	71.5
3100	174.0	784	74.0
3154	176.5	825	76.5
3208	179.0	869	79.0
3261	181.5	913	81.5
3313	184.0	958	84.0
3364	186.5	1005	86.5
3415	189.0	1053	89.0
3465	191.5	1103	91.5
3514	194.0	1155	94.0
3562	196.5	1208	96.5
3609	199.0	1261	99.0
3656	201.5	1316	101.5
3702	204.0	1373	104.0
3748	206.5	1432	106.5
3792	209.0	1491	109.0
3836	211.5	1553	111.5
3879	214.0	1615	114.0
3922	216.5	1678	116.5
3965	219.0	1741	119.0
4008	221.5	1805	121.5

第四十八條 特殊ノ船形ヲ有スル船舶ノ乾舷ノ算定ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 汽船ノ形狀ニ依ル夏期乾舷

第四十九條 肥瘠係數ハ左ノ算式ニ依リ算定ス

$$V = \frac{L \times B \times d_1}{100}$$

$d_1$  ハ Dノ百分ノ八十五  
 V ハ Dノ下端ヨリ  $d_1$ ノ距離ニ於ケル龍骨ニ平行ナル吃水線迄測リ鋼船ニ在リテハ肋骨ノ外面、木船ニ在リテハ外板ノ外面ニ對スル排水量(船舶尾管膨出部ノ排水量ヲ含マズ)ニ依リ算定ス

第五十條 汽船ノ表定乾舷ハ肥瘠係數ガ〇・六八以下ナルトキ Lニ應ジ左表ニ依リ求メタル乾舷トシ肥瘠係數ガ〇・六八ヲ超ユルトキハ該乾舷ニ左ノ算式ニ依リ算定シタル係數ヲ乘ジタルモノトス

第二章 船樓ニ關スル修正

第五十一條 船樓ノ高サハ船樓甲板ノ上面ヨリ乾舷甲板梁ノ上面迄ノ最小垂直距離ヨリ D。ト Dトノ差ヲ減ジタルモノトス

第五十三條 船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第一級閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル閉鎖裝置トス但シ出入口ノ緣材ノ甲板上ノ高サガ三八〇ミリメートル未満ナルトキハ該出入口ニ設ケル閉鎖裝置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ト雖モ之ヲ第一級閉鎖裝置ト認メズ

高ニ互リ左ノ算式ニ依リ算定シタル厚サヨリ小ナラザル厚サノ挿板ヲ爲シタル裝置

船樓ノ種類	L	船樓ノ標準ノ高サ(米)
前隔壁ニ開口ヲ有セザル	30.5 以下	0.91
低船尾樓	76.2 以上	1.22
其ノ他ノ船樓	76.2 以下	1.83
	122.0 以上	2.29

備考 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿板法ニ依リ船樓ノ標準ノ高サヲ算定ス

「トランク」ノ標準ノ高サハ前項ノ表ニ掲

第五十四條 船樓端ノ隔壁ノ出入口ニ於ケル第二級閉鎖裝置ハ左ノ各號ニ掲グル閉鎖裝置トス

三 前二號ニ掲グルモノト同一ノ效力ヲ有スル板戸ニシテ取外シ得ルモノ



四 船橋樓又ハ船尾樓ニ在リテハ其ノ内  
部ニ船員室、機關室、燃料庫其ノ他ノ  
作業場所アルトキハ隔壁ニ於ケル出入  
口トハ別ニ何時ニテモ此等ノ場所ニ出  
入シ得ル設備ヲ備フルコト

第五十六條 船橋ノ有效ノ長サノ算定ニ付  
テハ左ノ各號ニ依ル

一 船橋ノ端ニ於ケル暴露シタル隔壁ガ  
第四百一十一條及第四百一十二條ノ規定ニ  
適合セザルトキハ隔壁ハ之ヲ無キモノ  
ト看做シ又船橋ノ側外板ニ常設閉鎖裝  
置ヲ備ヘザル開口アルトキハ開口ノ前  
端ヨリ後端迄ノ船橋ノ部分ハ之ヲ無キ  
モノト看做ス

二 船橋ノ標準ノ高サヨリ小ナラザル高  
サノ船橋ニ在リテハ其ノ全部ガ蔽圍シ  
タルモノナルカ又ハ全部ガ蔽圍セザル  
モノナルトキハ船橋ノ種類及閉鎖狀態  
等ニ應ジ第五十七條乃至第六十一條ノ  
規定ニ依ル

三 前號ノ船橋ガ其ノ末端ヨリ内方ニ隔  
壁ヲ設ケタル爲蔽圍シタル部分ト蔽圍  
セザル部分トヨリ成ルモノナルトキハ  
各部分ニ付前號ノ規定ヲ準用シテ求メ  
タル有效ノ長サヲ相加フ

四 船橋ノ高サガ其ノ標準ノ高サヨリ小  
ナルトキハ前各號ニ依リ算定シタル長  
サニ船橋ノ高サト其ノ標準ノ高サトノ  
比ヲ乘ズ

第五十七條 蔽圍シタル船首樓ニ在リテハ  
其ノ長サヲ有效ノ長サトス

蔽圍セザル船首樓ニ在リテハ其ノ位置及  
舷弧ノ前半部ノ平均高ト其ノ標準平均高  
(第七十四條及第七十五條參照)トノ比ニ  
應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船橋ノ長サニ乘  
ジタルモノヲ有效ノ長サトス

船首樓ノ 位置	舷弧ノ前半部ノ平 均高ト其ノ標準平 均高トノ比 <sup>(a)</sup>	係數
前部垂線ヨ リ後方Lノ 十分ノ一ニ 相當スル箇 所迄	0.50 以下	0.50
前部垂線ヨ リ後方Lノ 十分ノ一ニ 相當スル箇 所迄	0.50 ヲ超エ 1.00 未滿	1.00
前部垂線ヨ リ後方Lノ 十分ノ一ニ 相當スル箇 所迄	1.00 以上	1.00

第五十八條 蔽圍シタル船橋樓ニ在リテハ  
隔壁ニ於ケル閉鎖狀態ニ應ジ左表ニ掲グ  
ル係數ヲ船橋ノ長サニ乘ジタルモノヲ有  
效ノ長サトス

前 端 隔 壁	後 端 隔 壁	係數	摘 要
出入口ナキカ又ハ出入口 ニ第一級閉鎖裝置ヲ有ス	出入口ナキカ又ハ出入口 ニ第一級閉鎖裝置ヲ有ス	1.00	* 後端隔壁ニ接続スル「トラン ク」アリテ第六十四條ノ規定 ニ依リ其ノ有效ノ長サヲ船橋 ノ有效ノ長サノ和ニ加算シタ ルトキハ「〇・〇〇」ノ代リニ 九〇ヲ用フ
出入口ニ第二級閉鎖裝置 ヲ有ス	出入口ニ第二級閉鎖裝置 ヲ有ス	0.90	

蔽圍セザル船橋樓ニ在リテハ前號ガ閉鎖セラレザルトキハ其ノ長サノ百分ノ五十、前  
端ガ閉鎖セラレ後端ガ閉鎖セラレザルトキハ百分ノ七十五ヲ有效ノ長サトス  
第五十九條 蔽圍シタル船尾樓ニ在リテハ隔壁ニ於ケル閉鎖狀態及船橋ノ長サトLトノ  
比ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ船橋ノ長サニ乘ジタルモノヲ有效ノ長サトス

出入口ニ第二級閉鎖裝置 ヲ有ス	蔽圍シタル船尾樓 ノ長サトLトノ比		係數	摘 要
	0.50 以下	0.60 以上		
0.70 以上	0.60	0.95	1.00	* 船尾樓ニ接続スル「トランク」アリテ 第六十四條ノ規定ニ依リ其ノ有效ノ 長サヲ船橋ノ有效ノ長サノ和ニ加算 シタルトキハ「〇・〇〇」又ハ「〇・九五」 ノ代リニ「〇・九〇」ヲ用フ
0.50 以下	0.70	0.90	1.00	

出入口ナキカ又ハ出入口  
ニ第一級閉鎖裝置ヲ有ス  
備考  
隔壁ニ於ケル出入口ニ第二級閉鎖裝置ヲ有スル蔽圍シタル船尾樓ニ於テ其ノ長サトLト  
ノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ係數ヲ算定ス

蔽圍セザル船尾樓ニ在リテハ其ノ長サノ  
百分ノ五十ヲ有效ノ長サトス

第六十條 低船尾樓ニ付テハ船橋端ニ開口  
ヲ有セザル隔壁アルトキハ該隔壁迄ノ船  
橋ノ長サヲ有效ノ長サトシ船橋端ノ隔壁  
ニ開口アルトキハ該船橋ヲ船尾樓ト看做  
シ前條ノ規定ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス  
第六十一條 常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル中心  
線甲板口ヲ有スル船橋ニ在リテハ左ノ各  
號ニ依リ有效ノ長サヲ算定ス

一 常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ニ第

六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖  
裝置ヲ備ヘザルトキ又ハ常設閉鎖裝置  
ヲ備ヘザル甲板口ノ幅ガ該甲板口ノ長  
サノ中央ニ於ケル船橋甲板ノ幅ノ百分  
ノ八十以上ナルトキハ甲板口ノ前部ヨ  
リ後端迄ノ間ハ船橋ナキモノト看做シ  
其ノ他ノ部分ニ付テハ其ノ位置ニ應ジ  
之ヲ船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ト看做シ  
第五十七條乃至第五十九條ノ規定ニ依  
リ求メタル有效ノ長サヲ相加フ

二 常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ニ第

六十二條ノ規定ニ適合スル一時的閉鎖  
裝置ヲ備ヘ且該甲板口ノ幅ガ甲板口ノ  
長サノ中央ニ於ケル船橋甲板ノ幅ノ百  
分ノ八十ヨリ小ナルトキハ左ノ算式ニ  
依リ算定シタル長サヲ有效ノ長サトス  
1 + (1 - P) x (L - P)  
ハ船橋甲板ト乾舷甲板トノ間ノ隔壁ニ  
於ケル第二級閉鎖裝置ヲ備フル出入口  
ハ之ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フルモノト  
看做スノ外前號ノ規定ヲ適用シテ算定  
シタル船橋ノ有效ノ長サノ和ニメー  
トル  
Pハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ幅  
ト該甲板口ノ長サノ中央ニ於ケル船橋  
甲板ノ幅トノ比但シ其ノ比ガ〇・五未滿  
ナルトキハ〇・五

第六十二條 前條ノ甲板口ノ一時的閉鎖裝  
置ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スルモノ又ハ  
之ト同一效力ノモノナルコトヲ要ス  
一 甲板ニ堅固ニ鑿著シタル高サ二二九  
ミリメートル以上ノ鋼製縁材ヲ備フル  
コト

二 第二百二十條ニ規定スル艙口蓋板ト同様ノ蓋板ヲ備ヘ且之ヲ麻索ニ依リ締付クル装置ヲ備フルコト

三 第六編第二章ノ規定ニ依リ船樓甲板ノ艙口ニ要スル艙口梁、縦材及其ノ承金又ハ索金ト同様ノ蓋板支持装置ヲ備フルコト

第六十三條 「トランク」ハ左ノ各號ノ條件ニ適合スル場合ニ於テハ之ヲ有效ナル「トランク」トス船側ヨリ船側迄達セザル類似ノ構造物ニ付亦同ジ

一 「トランク」ハ船樓ト同等以上ノ強力ヲ有スル構造ノモノナルコト

二 「トランク」ノ部分ニ於テハ艙口ハ「トランク」甲板ニ之ヲ設ケ其ノ構造及閉鎖装置ハ暴露セル船樓甲板ノ艙口ニ對スル第六編第二章ノ規定ニ適合シ又「トランク」甲板ノ梁上側板ハ通路トシテ十分ナル幅ヲ有シ且「トランク」ニ十分ナル橫抗力ヲ與フルモノナルコト

三 船樓及之ニ接続スル「トランク」ニ依リ又ハ船樓ニ分立「トランク」及之ヲ連結シタル有效ナル常設通路ニ依リ常設

縱通作業臺ヲ形成シ且該作業臺ニハ保護柵ヲ備フルコト

四 「トランク」ノ箇所ニ於ケル乾舷甲板ノ暴露部ニハ少クモ該部分ノ長サノ二分ノ一間ニ開放柵ヲ設ケアルコト

五 通風筒ハ「トランク」、水密蓋又ハ同一效力ノ装置ニ依リ之ヲ保護スルコト

六 機關室圍壁ハ「トランク」、標準ノ高さ以上ノ高さヲ有スル船樓又ハ之ト同一ノ高さ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコト

第六十四條 有效ナル「トランク」ヲ有スル船舶ニ於テ船尾樓及船橋樓ノ隔壁ニ出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ備フルトキハ第六十五條ノ規定ニ依リ算定シタル「トランク」ノ有效ノ長サ又該隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖装置ヲ備ヘザルトキハ該有效ノ長サノ百分ノ九十ト各船樓ノ有效ノ長サト和ヲ船樓ノ有效ノ長サノ和トス

第六十五條 「トランク」ノ有效ノ長サノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 「トランク」ノ實際ノ長サニ「トランク」ノ平均ノ幅ト船ノ幅トノ比ヲ乘ズ

二 「トランク」ノ實際ノ高さガ其ノ標準ノ高さヨリ小ナルトキハ前號ニ依リ求メタル長サニ「トランク」ノ實際ノ高さト標準ノ高さトノ比ヲ乘ズ但シ「トランク」甲板上ノ艙口縁材ノ高さガ規定ノ高さヨリ小ナルトキハ「トランク」ノ實際ノ高さヨリ縁材ノ規定ノ高さト其ノ實際ノ高さトノ差ヲ減ジタルモノト「トランク」ノ標準ノ高さトノ比ヲ乘ズ

第六十六條 船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハLニ應ジ左ノ各號ニ掲グル高さニ船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比及船型ニ應ジ左表ニ掲グル船樓係數ヲ乘ジテ得タル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ

一 Lガ二・四・四メートル以上八五・三メートル未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高さ

$$320 + \frac{308}{L-2.4} \text{ ヲメートル}$$

二 Lガ八五・三メートル以上一二二メートル未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ算定シタル高さ

$$864 + \frac{367}{L-85.3} \text{ ヲメートル}$$

三 Lガ一二二メートル以上ナルトキハ一〇六七ミリメートル

船型	係數				
	船尾樓ノミヲ有スル汽船	船橋樓ノミヲ有スル汽船	船橋樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	船首樓及船尾樓ノミヲ有スル汽船	船首樓、船橋樓及船尾樓ヲ有スル汽船
0	0	0	0	0	0
0.10	0.007	0.013	0.050	0.063	0.10
0.20	0.077	0.077	0.100	0.127	0.20
0.30	0.140	0.140	0.150	0.190	0.30
0.40	0.225	0.225	0.235	0.275	0.40
0.50	0.310	0.310	0.320	0.360	0.50
0.60	0.410	0.410	0.460	0.460	0.60
0.70	0.580	0.580	0.630	0.630	0.70
0.80	0.703	0.705	0.753	0.753	0.80
0.90	0.827	0.827	0.877	0.877	0.90
1.00	0.950	0.950	1.000	1.000	1.00

備考

一 低船首樓及低船尾樓ハ夫々船首樓及船尾樓トシテ取扱フベシ

二 第一條第一項但書ノ船舶ハ常設閉鎖装置ヲ備ヘザル甲板口ノ前部ヨリ後部迄ノ間ハ船樓ナキモノト看做ス

三 船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

四 船橋樓ト他ノ船樓トヲ有スル汽船ニ在リテハ船橋樓ノ有效ノ長サガLノ十分ノ二未滿ナルトキハ相當欄ニ掲グル係數ト船橋樓ナキモノト看做シタル場合ノ係數トノ間ニ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第三章 深サ及梁矢ニ關スル修正

第六十七條 DガLノ十五分ノ一ヲ超ユル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

一 Lガ一一・八・九メートル未満ナルトキ

$$2.104(D - \frac{L}{15}) \text{ ヲメートル}$$

二 Lガ一一・八・九メートル以上ナルトキ

$$240.9(D - \frac{L}{15}) \text{ ヲメートル}$$

第六十八條 中央部Lノ十分ノ六ニ互ル範圍シタル船樓ヲ有スル船舶ハ全通「トランク」ヲ有スル船舶又ハ開口ナキ隔壁ヲ有スル船舶ト「トランク」トガ連續シテ船首尾ニ全通スル船舶ニ於テDガLノ十五分ノ一ヨリ小ナルトキハ前條ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ノ絕對値ヲ表定乾舷ヨリ減ズベシ但シ船樓又ハ「トランク」ノ高さガ其ノ標準ノ高さヨリ小ナルトキハ修正高ハ前條ノ算式ニ依リ算定シタルモノニ船樓又ハ「トランク」ノ實際ノ高さト其ノ標準ノ高さトノ比ヲ乘ジタルモノト爲スベシ

第六十九條 Lノ中央ニ於テDノ下端ヨリ

乾舷甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サガD。ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

1000(D<sub>1</sub>-D<sub>0</sub>) / (D<sub>1</sub>+D<sub>0</sub>)

D<sub>1</sub>ハLノ中央ニ於テDノ下端ヨリ乾舷甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ實際ノ深サニメートル

サニメートル

第七十條 Lノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁

矢ガBノ五十分ノ一ニ等シカラザル船舶ニ在リテハ梁矢ノ高サニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ正負ノ符號ヲ附シタル儘表定乾舷ニ加フベシ

一 梁矢ガBノ二十五分ノ一以下ナルト

キ

1/4(1-r)(20B-r) / (1+r)

二 梁矢ガBノ二十五分ノ一ヲ超ユルト

キ

5(1-r)B / (1+r)

rハ蔽圍シタル船樓ノ長サノ和トLトノ比

RハLノ中央ニ於ケル乾舷甲板ノ梁矢ニミメートル

テ

第七十一條 舷弧ノ高サハLノ中央ニ於ケル舷弧上ノ點ヲ通過スル龍骨ニ平行ナル直線ヨリ垂直ニ之ヲ測ルモノトス但シ船尾吃水ガ船首吃水ヨリ大ナル状態ヲ以テ航行スル様計畫セラレタル船舶ニ在リテハ龍骨ニ平行ナル直線ノ代リニ計畫滿載吃水線ニ平行ナル直線ヨリ之ヲ測ルコトヲ得(第二十九條第四項參照)

第七十二條 平甲板船及分立船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ乾舷甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ

船樓ヲ蔽圍シタル隔壁ニ開口ナキ場合又ハ隔壁ニ於ケル出入口ニ第一級閉鎖裝置ヲ備フル場合ニ於テハ該船樓ノ蔽圍シタル部分ニ於ケル乾舷甲板ノ舷弧ノ高サハ乾舷甲板ノ暴露部ニ於ケル舷弧ノ延長線迄測ルコトヲ得但シ船樓甲板ガ乾舷甲板ノ暴露部ト同等以上ノ舷弧ヲ有セザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一條第一項但書ノ船舶ニ在リテハ舷弧ノ高サハ船樓甲板ニ於テ之ヲ測ルベシ此ノ場合船樓ノ高サガ標準ノ高サヲ超ユルトキハLノ中央ニ於テ乾舷甲板ノ上面ヨリ船樓ノ標準ノ高サニ相當スル箇所ヲ通ル直線ヲ基準トシテ舷弧ノ高サヲ測ルコトヲ得

第七十三條 標準舷弧ハLノ兩端點及其ノ六等分點ニ於テ夫々左表ニ掲グル高サヲ有スルモノトス

Table with 2 columns: 分長點ノ位置 and 舷弧ノ高サ(種). Rows include Lノ後端點, Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點, Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點, Lノ中央點, Lノ前端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點, Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點, Lノ前端點.

第七十四條 舷弧ノ標準平均高又ハ其ノ前半部若ハ後半部ノ標準平均高ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

C(0.833L+25.4) / (0.833L+50.8)

Cハ係數ニシテ左表ニ依ル

Table with 2 columns: 算定スベキ事項 and C. Rows include 舷弧ノ標準平均高, 舷弧ノ前半部ノ標準平均高, 舷弧ノ後半部ノ標準平均高.

第七十五條 舷弧ノ平均高ハ第七十六條ニ規定スル場合ヲ除クノ外第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ十八ニテ除シタルモノトシ舷弧ノ前半部又ハ後半部ノ平均高ハLノ前半部又ハ後半部ニ於ケル第七十三條ニ掲グル各分長點ニ於テ測リタル舷弧ノ高サニ分長點ノ位置ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乘ジタル積ノ和ヲ三十六ニテ除シタルモノトス

Table with 2 columns: 分長點ノ位置 and 係數. Rows include Lノ後端點, Lノ後端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點, Lノ後端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點, Lノ中央點, Lノ前端ヨリLノ三分ノ一ニ相當スル點, Lノ前端ヨリLノ六分ノ一ニ相當スル點, Lノ前端點.

第七十六條 舷弧ノ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ前半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナルトキハ後半部ノ舷弧ハ標準舷弧ニ等シキモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス

舷弧ノ前半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ニシテ後半部ノ平均高ガ其ノ標準平均高ノ百分ノ五十ヲ超エ百分ノ七十五未滿ナルトキハ前半部ノ舷弧ハ各分長點ニ於テ左ノ算式ニ依リ算定シタル高サヲ有スルモノト看做シ舷弧ノ平均高ヲ算定ス

S<sub>0</sub> + (1-S<sub>0</sub>) / (2S<sub>0</sub>) (S<sub>1</sub>-S<sub>0</sub>)

S<sub>0</sub>ハ前半部ノ當該分長點ニ於ケル舷弧ノ實際ノ高サ

S<sub>1</sub>ハS<sub>0</sub>ヲ測リタル點ニ於ケル標準舷弧ノ高サ

rハ舷弧ノ後半部ノ平均高ト其ノ標準平均高トノ比ニテ

第七十七條 舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ小ナル船舶ニ在リテハ左ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ニ加フベシ

(S<sub>0</sub>-D)(7.5-5r) / (7.5-5r)

S<sub>0</sub>ハ舷弧ノ標準平均高ニシテメートル

Dハ舷弧ノ平均高ニシテメートル

r<sub>1</sub>ハ平甲板船ニ在リテハ船樓ヲ有スル船舶ニ在リテハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

第七十八條 舷弧ノ平均高ガ其ノ標準平均高ヨリ大ナル船舶ニ在リテハ船樓ノ有無ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル修正高ヲ表定乾舷ヨリ減スベシ但シ該修正高ガ左表ニ掲グル限度ヲ超ユルトキハ之ヲ其ノ限度ニ止ム

7.5(S<sub>0</sub>-S<sub>0</sub>) / (7.5-5r)

S<sub>0</sub>ハ舷弧ノ標準平均高ニシテメートル

S<sub>1</sub>ハ舷弧ノ平均高ニシテメートル

r<sub>1</sub>ハ船樓ノ長サノ和トLトノ比

Eハ蔽圍シタル船樓又ハ其ノ一部ニシテ

中央部Lノ十分ノ二ノ間ニ在ルモノノ長サメートル	修正高ノ限度(耗)
L	三〇・五メートル以下ナルトキ
	三〇・五メートルヲ超ユルトキ
	1.25xL

第三編 鋼船ノ強力

第一章 縦抵抗率及肋骨抵抗率

第七十九條 本編ニ於テ強力甲板トハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於テ船體ノ主要部ヲ構造スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第八十條 本編ニ於テ縦抵抗率トハ中央部Lノ二分ノ一間ニ於ケル船體ノ各横截面ノ抵抗率中最大ナルモノヲ謂フ

第八十一條 船體横截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル  
 一 船體横截面ノ水平中性軸ニ對スル情率ヲ該軸ヨリ強力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテ除ス  
 二 強力甲板以下ニ在リテハ甲板梁ノ支持ヲ目的トスル梁下縦通材ヲ除クノ外中央部Lノ二分ノ一以上ニ達スルカ又

ハ同一ノ效力ヲ有スル總テノ縦通鋼材ヲ算入シ強力甲板ノ上方ニ在リテハ梁上側板ニ付スル縦通山形材及舷側厚板ノ延長部ヲ算入ス  
 三 鉸釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス  
 四 面積ノ單位ハ平方ミリメートルトシ距離ノ單位ハメートルトス  
 第八十二條 本編ニ於テ肋骨抵抗率トハLノ中央部ニ於ケル各種船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ヲ謂フ  
 第八十三條 船内肋骨ノ截面ノ抵抗率ノ算定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル  
 一 船内肋骨ガ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタルモノナルトキハ其ノ截面ノ中性軸ニ對スル情率ヲ該軸ヨリ截面ノ端ニ至ル距離ニテ除ス  
 二 船内肋骨ガ前號ニ掲グルモノニ該當セザル場合ニ於テハ船内肋骨ト同一ノ效力ヲ有シ正肋材及之ト同一寸法ノ副肋材ヲ以テ構造シタル肋骨ニ付前號ヲ適用ス

三 鉸釘孔及螺釘孔ハ之ヲ無キモノト看做ス  
 四 寸法ノ單位ハミリメートルトス  
 第二章 標準強力  
 第八十四條 本章ニ於テ強力甲板マデノ深サトハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下ニ在ル強力甲板ノ甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ  
 第八十五條 第八十六條、第八十八條及第八十九條ノ規定ハ平爐ニ依リ製造セラル毎平方ミリメートルノ抗張力四一キログラム以上五〇キログラム以下ニシテ標點間ノ長サ二〇三ミリメートルニ付伸長ノ割合百分ノ十六以上ナル鋼材ヲ以テ構造シタル鋼船ニ付之ヲ定メタルモノトス  
 第八十六條 標準縦抵抗率ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス  

$$f \times d \times B$$
 d ハ第二十五條第一項、第九十七條、第一百條又ハ第九條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形狀ニ基テ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニテ  
 f ハLニ應ジ定メタル係數ニシテ左表ニ依ル

f	L	f	L
19386	108	3777	30
21232	114	4193	36
23106	120	4892	42
25051	126	5621	48
27031	132	6533	54
29146	138	7470	60
31268	144	8669	66
33480	150	9920	72
35770	156	11253	78
38063	162	12774	84
40414	168	14335	90
42868	174	15897	96
45368	180	17615	102

備考 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ算定ス

第八十七條 前條ノ標準縦抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス  
 一 Lハ一八二・八メートル以下  
 二 BハLノ十分ノ一ニ一・五二メートルヲ加ヘタルモノ以上ニシテLノ十分ノ一ニ六・一〇メートルヲ加ヘタルモノ以下  
 三 Lト強力甲板迄ノ深サトノ比ハ一〇・〇〇以上ニシテ一三・五〇以下  
 第八十八條 標準肋骨抵抗率ハ第八十九條

ニ規定スル場合ヲ除クノ外左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス  

$$S(d-f)(f+f_1)$$
 S ハ肋骨ノ心距ニメートル  
 d ハ第三十五條第一項、第九十七條、第一百條又ハ第九條ノ規定ニ依リ定メタル船體ノ形狀ニ基テ夏期乾舷又ハ海水乾舷ニ相當スル吃水ニメートル  
 f ハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底板ノ外側ニ付スル肘板ノ上端トノ中央ヨ

f <sub>1</sub>	H
19050	0
23218	2.1
26234	2.7
31290	3.3
39355	3.9
49551	4.5
60877	5.1
74145	5.7
88564	6.3
104892	6.9
121552	7.5

備考 一 Hハ二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ船側ニ於ケル内底板ノ上面ト二重底板ノ外側ニ付スル肘板ノ上端トノ中央ヨリ普通肋骨ヲ有スル船舶ニ在リテハ中心線ニ於ケル肋骨ノ上面ト船側ニ於ケル肋骨ノ上端トノ中央ヨリ最下層梁ノ梁肘板ノ深サノ中央迄ノ垂直距離ニメートルトス  
 二 Hガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ算定ス

$f_2$	K
0	0
1041	1.5
2084	3.0
4133	4.5
6217	6.0
9275	7.5
13358	9.0
18467	10.5
24600	12.0

備考  
一 Kハ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面ヨリ乾舷甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ニテニ船樓アル部分ニ於テハ三・八一〇ヲ、船樓ナキ部分ニ於テハ二・二八六ヲ加ヘタルモノトス  
二 Kガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ $f_2$ ヲ算定ス

第九十條 前二條ノ標準肋骨抵抗率ハ左ノ各號ノ範圍内ニ在ル寸法ノ鋼船ヲ標準トシ之ヲ定メタルモノトス  
一 D<sub>0</sub>ハ四・五七メートル以上ニシテ一八・二一九メートル以下  
二 Kガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ $f_2$ ヲ算定ス

二 BハLノ十分ノ一ニ一・五二メートルヲ加ヘタルモノ以上ニシテLノ十分ノ一ニ六・一〇メートルヲ加ヘタルモノ以下  
三 Lト強力甲板迄ノ深サトノ比ハ一〇・〇以上ニシテ一三・五以下  
四 肋骨ノ外面ヨリ之ニ最モ近キ梁柱列ノ中心線迄ノ水平距離ハ六・一〇メートル以下  
第三章 強力ニ依ル吃水ノ算定  
第九十一條 縱抵抗率ニ依ル吃水ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

第九十二條 肋骨抵抗率ニ依ル吃水ハ各種船内肋骨ニ付各場合ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタル吃水中最小ナルモノトス  
一 一層甲板船ニ於テ第八十八條ノ規定ニ依ルHガ五・四九メートル未滿ナル場合  
二 前號ニ該當セザル場合

第九十三條 第八十五條ニ掲グル規格ニ合格セザル材料ヲ以テ船體ノ要部ヲ構造シタル船舶ノ強力ニ依ル吃水ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル  
第四編 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船、槽船及水汽船ノ乾舷ニ關スル特別規定  
第一章 甲板積木材貨物ヲ運送スル汽船  
第九十四條 船舶ニ標示スル木材滿載吃水線ノ種類及之ニ對スル乾舷ハ左表ニ掲グル六種トス

滿載吃水線	乾舷	摘要
夏期木材滿載吃水線	夏期木材乾舷	多期北大西洋木材滿載吃水線
冬期木材滿載吃水線	冬期木材乾舷	多期北大西洋木材滿載吃水線
多期北大西洋木材滿載吃水線	多期北大西洋木材乾舷	多期北大西洋木材滿載吃水線
熱帶木材滿載吃水線	熱帶木材乾舷	熱帶木材滿載吃水線
夏期淡水木材滿載吃水線	夏期淡水木材乾舷	夏期淡水木材滿載吃水線
熱帶淡水木材滿載吃水線	熱帶淡水木材乾舷	熱帶淡水木材滿載吃水線

第九十五條 前條ニ掲グル各種木材乾舷ハ船舶ガ第百條ノ規定ニ從ヒ甲板積木材貨物ヲ積附ケ運送スル場合ニ限リ夫々第二十一條乃至第二十四條又ハ第二十六條第一項ノ場合ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス  
第九十六條 海水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ハ第二十九條第一項ニ掲グル圓標ノ中心ヨリ後方五・四〇メートルノ箇所ニ前線ヲ有スル垂直線ノ後線ヨリ後方ニ向フ長サ二・五〇メートルノ水平線ノ上線ヲ以テ之ヲ標示シ又淡水ニ於ケル各種木材滿載吃水線ハ該垂直線ノ前線ヨリ前方ニ向フ長サ二・五〇メートルノ水平線ノ上線ヲ以テ之ヲ標示スベシ  
前項ノ木材滿載吃水線ノ標示ニハ左表ニ掲グル記號ヲ附スベシ

木材滿載吃水線ノ種類	記號
夏期木材滿載吃水線	L <sub>S</sub>
冬期木材滿載吃水線	L <sub>W</sub>
多期北大西洋木材滿載吃水線	L <sub>WNA</sub>
熱帶木材滿載吃水線	L <sub>T</sub>
夏期淡水木材滿載吃水線	L <sub>F</sub>
熱帶淡水木材滿載吃水線	L <sub>T<sub>F</sub></sub>

第九十八條 冬期木材乾舷ハ夏期木材乾舷ニ之ニ相當スル吃水ノ三十六分ノ一ヲ加ヘタルモノトス  
冬期北大西洋木材乾舷ハL<sub>1</sub>〇〇・五八メートル以下ノ汽船ニ在リテハ第三十九條ノ規定ニ依ル冬期北大西洋乾舷、L<sub>1</sub>〇〇・五八メートルヲ超ユル汽船ニ在リテハ第三十八條ノ規定ニ依ル冬期乾舷ニ等シキモノトス  
熱帶木材乾舷ハ夏期木材乾舷ヨリ之ニ相當スル吃水ノ四十八分ノ一ヲ減ジタルモノトス  
第九十九條 夏期淡水木材乾舷又ハ熱帶淡水木材乾舷ハ夫々夏期木材乾舷又ハ熱帶木材乾舷ヨリ第四十四條ノ規定ヲ準用シテ算定シタル修正高ヲ減ジタルモノトス  
第四十五條ノ規定ハ冬期淡水木材乾舷及冬期北大西洋淡水木材乾舷ニ之ヲ準用ス  
第百條 甲板積木材貨物ノ積附及積附設備ハ左ノ各號ニ適合スルコトヲ要ス  
一 乾舷甲板下ノ場所ニ通ズル甲板口ニシテ甲板積木材貨物ニ蔽ハルモノハ船口梁、縱材、蓋板等ノ閉鎖裝置ヲ夫々所定ノ位置ニ配置シテ固ク之ヲ閉チ且帶金ヲ以テ締附クベシ

船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比	船樓係數
0	0.2000
0.10	0.3075
0.20	0.4150
0.30	0.5225
0.40	0.6300
0.50	0.6925
0.60	0.7550
0.70	0.8150
0.80	0.8750
0.90	0.9375
1.00	1.0000

備考  
船樓ノ有效ノ長サノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ插間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

二 甲板積木材貨物ヲ積載スル場所ニ在ル通風管ハ十分ニ之ヲ保護スベシ

三 船員室區域、機關室其ノ他船員ノ作業ニ使用スル場所ヘノ通行ニ十分ナル通路ヲ存スベシ該通路ニ當ル開口ノ附近ニ於テハ各開口ヨリ浸水スルコトヲ防グ爲隨時之ヲ閉ヂ且留メ得ル様木材貨物ヲ積付クベシ又甲板積木材貨物ノ上面ハ步行ニ適スル様十分平坦ナラシメ且其ノ各側ニハ貨物ノ上方少クトモ一・二メートルノ高さ迄堅ニ三〇センチメートル以内ノ間隔ニ配置セラレタル保護欄干又ハ保護索ヲ設クルコトヲ要ス

四 操舵裝置ハ木材貨物ニ依リ損傷セラレザル様十分ニ之ヲ保護シ且成ルベク之ニ近寄り易キ様爲シ置クベシ

五 乾舷甲板積木材貨物又ハ甲板室ナキ部分ニハ少クトモ船橋樓ノ標準ノ高さニ等シキ高さ迄木材貨物ヲ滿載スベシ但シ船舶ガ冬期ニ於テ季節冬期帯域内ニ在ル場合ニ於テハ木材貨物ノ高さハ乾舷甲板上船舶ノ最大幅ノ三分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ズ

六 甲板積木材貨物ハ之ヲ密ニ積附ケ縛リ且動カザル様爲スベシ又其ノ積附方

ハ船舶ノ航行及必要ナル操作ニ支障ナク且水分ノ吸收ニ依ル木材ノ重量ノ増加並ニ燃料及倉庫品ノ消費ニ依ル其ノ重量ノ減少其ノ他船内ニ於ケル重量ノ變更ヲ考慮ノ上航海ノ全道程ヲ通ジ復原性ノ十分ナル餘裕ヲ保持シ得ルモノナルコトヲ要ス

七 甲板積木材貨物ノ性質ニ依リ支杆ヲ要スル場合ニ於テハ適當ナル強力ヲ有スル木製又ハ金屬製ノ支杆ヲ以テ甲板積木材貨物ヲ支持スベシ支杆ノ間隔ハ三・〇五メートル以内トシ木材ノ長さ及性質ニ應ジ之ヲ適當ニ配置スベシ支杆ハ梁上側板ニ固著シタル堅牢ナル山形材若ハ金屬製金又ハ同一效力ノ裝置ニ依リ之ヲ留ムルコトヲ要ス

八 甲板積木材貨物ハ三・〇五メートルヲ超エザル間隔毎ニ貨物ノ兩側ニ跨ル各別ノ縛索ニテ縛リ其ノ全長ニ亙リ十分ニ縮附クベシ木材ノ長さ三・六六メートル未滿ナルトキハ其ノ長さニ適應シテ縛索ノ間隔ヲ減ズルカ又ハ他ノ適當ナル方法ヲ講ズベシ

縛索ニハ徑一九ミリメートル以上ノ短環鎖又ハ之ト同等ノ強力ノ柔軟鋼索ヲ

使用シ何時ニテモ近寄り得ル箇所ニ於テ之ニ滑鈎及緊螺ヲ取附クベシ尙縛索トシテ鋼索ヲ用ウルトキハ其ノ長さヲ調節スル爲短キ長環鎖ヲ取附ケ置クベシ

縛索ヲ一・五二メートル以内ノ間隔ニ配置スルトキハ其ノ寸法ヲ前項ニ掲グルモノヨリ適當ニ減ズルコトヲ得但シ鎖ヲ用ウルトキハ徑一・七ミリメートル以上ノ索ヲ用ウルトキハ之ト同等以上ノ強力ヲ有スル寸法ノモノナルコトヲ要ス

九 縛索ヲ留ムルニ必要ナル裝置ハ縛索ノ強力ニ相當スル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

十 船橋甲板ニ設クル支杆ハ其ノ間隔ヲ約三・〇五メートルトシ十分ナル強力ノ横縛索ヲ以テ之ヲ動カザル様爲スベシ

第二章 槽船

第一百一條 槽船ノ夏期乾舷ハ第百二條乃至第百四條ニ規定スル事項ヲ除クノ外第三十五條第一項及第二項ノ規定ニ依リ之ヲ定ム

第一百二條 槽船ノ表定乾舷ヲ求ムルニハ第百五條ニ掲グル表ノ代リニ左表ヲ用ウルモノトス

乾舷 (呎)	L	乾舷 (呎)	L
1680	126.5	527	56.5
1732	129.0	560	59.0
1785	131.5	593	61.5
1839	134.0	626	64.0
1894	136.5	660	66.5
1948	139.0	695	69.0
2001	141.5	731	71.5
2053	144.0	767	74.0
2105	146.5	804	76.5
2155	149.0	842	79.0
2204	151.5	881	81.5
2253	154.0	921	84.0
2301	156.5	961	86.5
2348	159.0	1003	89.0
2394	161.5	1045	91.5
2440	164.0	1087	94.0
2484	166.5	1129	96.5
2528	169.0	1171	99.0
2572	171.5	1213	101.5
2613	174.0	1256	104.0
2653	176.5	1301	106.5
2693	179.0	1346	109.0
2732	181.5	1391	111.5
2771	184.0	1437	114.0
		1484	116.5
		1531	119.0
		1579	121.5
		1627	124.0

備考 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ乾舷ヲ算定ス

船樓ノ有效ノ長さノ和トLトノ比	船樓ノ有效ノ長さノ和トLトノ比
0	0
0.070	0.10
0.140	0.20
0.210	0.30
0.310	0.40
0.410	0.50
0.520	0.60
0.630	0.70
0.753	0.80
0.877	0.90
1.000	1.00

備考 船樓ノ有效ノ長さノ和トLトノ比ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ挿間法ニ依リ船樓係數ヲ算定ス

第百四條 舷弧ノ平均高方其ノ標準平均高ヨリ大ナル槽船ノ舷弧ニ關スル修正高ノ算定ニ付テハ第七十八條ニ掲グル算式ノ代リニ總テノ船型ニ對シ左ノ算式ヲ用ウルモノトス

(S-S<sub>0</sub>)(1.5-5L) / (S<sub>0</sub>)(1.5-5L) ヲ用メテ

S<sub>0</sub>ハ舷弧ノ標準平均高ニセントメートル

Sハ舷弧ノ平均高ニセントメートル

Lハ船樓ノ長さノ和トLトノ比

構造ノ種類	係數	
	甲 板 船	甲 板 船
輕	2.00	1.40

第百五條 槽船ノ冬期北大西洋乾舷ハ冬期乾舷ニ船ノ長さ一〇メートルニ付ハ三三ミリメートルノ割合ノ修正高ヲ加ヘタルモノトス

第三章 木汽船

第百六條 木汽船ノ夏期乾舷ハ第二編第一章ノ規定ニ依ル平甲板船ニ對スル表定乾舷ヲ必要ニ應ジ第六十七條ノ規定ニ依リ修正シタルモノニ船舶ノ構造ノ種類ニ應ジ左表ニ掲グル係數ヲ乗ジタルモノトス

管海官廳ハ船體ノ材料、構造、固著方、工事若ハ現狀ノ良否又ハ船齡ニ應ジ前項ノ係數ヲ適當ニ増減スルコトヲ得

第百七條 木汽船ノ夏期乾舷ハ前條ノ規定ニ拘ラズ第二編ノ規定ヲ適用シテ算定シタル夏期乾舷ヨリ小ナルコトヲ得ズ但シ第二編ノ規定ヲ適用スルニ當リテハ船樓ニ關スル修正ハ管海官廳ニ於テ船樓ノ構造及其ノ閉鎖裝置ヲ適當ト認メタル場合ニ限り之ヲ爲スモノトス



表 乙

船 口										
ノ 船 (R)	キ ト ル ザ ケ 設 ヲ 材 縦					球 板 又ハ平板ノ 上ニ重 又ハ平板ノ 下ニ重	球 板 又ハ平板ノ 上ニ重 又ハ平板ノ 下ニ重	材 縦 製 木		
	(R) 距 心	ノ 材 縦						(R) 距 心	ノ 材 縦	
幅 口	1.22	1.52	1.83	2.44	3.05			0.91	1.22	1.52
3.05	球 サ深 サ厚 203×10	サ深 サ厚 230×11	サ深 サ厚 241×11.5	サ深 サ厚 267×12.5	サ深 サ厚 291×13	球 板	(R)	サ深 サ厚 130×8.5	サ深 サ厚 140×8.5	サ深 サ厚 150×9
3.66	球	280×11	280×12.5	280×7.5	330×8.5	平	(R)	150×9.5	180×10	190×10.5
4.27	球	254×12.5	292×12.5	280×7.5	330×8	平	(R)	180×10.5	200×11.5	230×12.5
4.88	球	280×7.5	290×7.5	305×8	381×8.5	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
5.49	球	280×7.5	305×8	386×8.5	432×9	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
6.10	球	305×8	330×8.5	406×9	483×9.5	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
6.71	球	318×8	356×8.5	432×9	508×9.5	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
7.32	球	330×8.5	368×8.5	457×9	533×9.5	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
7.93	球	344×8.5	381×8.5	483×9.5	559×9.5	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
8.54	球	356×8.5	406×9	508×9.5	584×10	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5
9.14	球	381×8.5	432×9	533×9.5	610×10	平	(R)	180×11	200×11.5	230×12.5

表 甲

船 口										
ノ 船 (R)	キ ト ル ザ ケ 設 ヲ 材 縦					球 板 又ハ平板ノ 上ニ重 又ハ平板ノ 下ニ重	球 板 又ハ平板ノ 上ニ重 又ハ平板ノ 下ニ重	材 縦 製 木		
	(R) 距 心	ノ 材 縦						(R) 距 心	ノ 材 縦	
幅 口	1.22	1.52	1.83	2.44	3.05			0.91	1.22	1.52
3.05	球 サ深 サ厚 250×11.5	サ深 サ厚 264×12.5	サ深 サ厚 280×7.5	サ深 サ厚 305×8	サ深 サ厚 335×8.5	球 板	(R)	サ深 サ厚 130×9.0	サ深 サ厚 165×9.5	サ深 サ厚 180×9.5
3.66	球	280×12.5	305×12.5	305×8	356×8.5	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
4.27	球	305×12.5	305×8	356×8.5	432×9	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
4.88	球	305×8	356×8.5	406×9	483×9.5	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
5.49	球	356×8.5	406×9	487×9	533×9.5	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
6.10	球	381×8.5	457×9	508×9.5	610×10	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
6.71	球	406×9	483×9	559×9.5	660×10.5	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
7.32	球	432×9	508×9.5	584×10	711×10.5	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
7.93	球	457×9	533×9.5	610×10	736×10.5	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
8.54	球	483×9.5	559×9.5	635×10	787×11	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11
9.14	球	508×9.5	584×10	660×10.5	813×11	平	(R)	180×10.5	200×11	230×11



備考  
 一 艙口ノ幅艙口梁ノ心距又ハ縱材ノ長サ若ハ心距ガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ艙口梁又ハ縱材ノ寸法ハ挿間法ニ依リ之ヲ定ム  
 二 艙口梁ノ深サハ其ノ長サノ中央ニ於テ上部山形材ヨリ梁ノ下緣迄測リタルモノ、縱材ノ深サハ艙口蓋板ノ下面ヨリ縱材ノ下緣迄測リタルモノトス  
 Lガ三〇・五メートル以下ノ船舶ニ在リテハ平板及山形材ヲ以テ構造シタル艙口梁ノ深サハ艙口ノ種類ニ應ジ前項ノ甲表又ハ乙表ニ掲グルモノノ十分ノ六、球板及山形材ヲ以テ構造シタル艙口梁竝ニ球山形縱材ノ深サハ同表ニ掲グルモノノ十分ノ八ト爲シ平板、球板及球山形材ノ厚サハ其ノ深サニ對シ同表ニ掲グル厚サニ等シクシ又木製縱材ノ深サ及幅ハ同表ニ掲グルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得但シ平板、球板及球山形材ノ厚サハ七・五ミリメートルヨリ又中央木製縱材ノ幅ハ一六五ミリメートルヨリ小ナルコトヲ得ズ  
 Lガ三〇・五メートルヲ超エ六メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ艙口梁及縱材ノ寸法ハ艙口ノ種類ニ應ジ第一項ニ依ルモノトス

ノト前項ニ依ルモノトノ間ニ挿間法ニ依リ之ヲ定ムルコトヲ得  
 第二百二十二條 艙口梁ヲ構造スル球板ノ上部又ハ平板ノ上下兩部ニ附スル山形材ノ兩邊ノ幅相等シカラザルトキハ廣邊ヲ水平ニ置クベシ又上部ノ山形材ハ梁ノ全長ニ連續シテ通達セシメ縱材ヲ支フル爲之ヲ屈折セシムルコトヲ得ズ  
 木製縱材ハ其ノ支面ヲ銅板ニテ包ムベシ  
 第二百二十三條 艙口梁及縱材ヲ支フル承金又ハ電金ハ厚サ一二・五ミリメートル以上支面ノ幅七五ミリメートル以上ニシテ鋼製ノモノナルコトヲ要ス  
 第二百二十四條 暴露セル艙口ノ緣材ニハ其ノ外面ニ於テ六〇ミリメートル以上ノ堅牢ナル帶金承ヲ取附ケ且端末ノモノハ艙口ノ各隅ヨリ一五〇ミリメートル以内ノ箇所ニ之ヲ置クベシ  
 帶金及楔ハ艙口ヲ閉鎖スル爲有效ノモノニシテ良好ナル状態ニ在ルコトヲ要ス  
 第二百五條 暴露セル各艙口ニハ艙口覆布試驗規程ニ依ル甲種覆布二枚以上ヲ備フベシ

第二百二十六條 暴露セル艙口ニハ蓋板ヲ締附クル爲環附螺釘ヲ備フルカ又ハ其ノ他ノ裝置ヲ爲スベシ  
 艙口ノ箇所ニ於ケル甲板ノ幅ノ百分ノ六十ヲ超ユル幅ノ第一種艙口ニ在リテハ特別ノ締附裝置ヲ備フベシ  
 第二百二十七條 閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル艙口ニハ第二百二十條乃至第二百二十五條ニ規定スル閉鎖裝置ヲ備フベシ此ノ場合ニ於テハ艙口梁及縱材ノ寸法及心距ニ付テハ第二種艙口ニ對シテハ暴露セル第一種艙口、第三種艙口ニ對シテハ暴露セル第二種艙口ニ關スル規定ニ依ルニ之ヲ準用ス  
 第二百二十八條 本章前各條ノ規定ハ載炭口ニ之ヲ準用ス  
 第二百二十九條 船樓甲板ニハ平載炭孔ヲ設クルコトヲ得又特殊ノ航路ニ使用スル小形船ニ在リテハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ乾舷甲板ニモ之ヲ設クルコトヲ得  
 前項ノ平載炭孔ノ枠及蓋ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ堅牢ナル構造ノモノナルコトヲ要シ又蓋ハ螺込止又ハ挿込止ノモノトシ螺

番ニ依リ枠ニ取附クルカ又ハ鎖ヲ以テ枠ニ連結シ置クベシ  
 第二百三十條 乾舷甲板ノ暴露部又ハ蔽圍シタル船樓ノ甲板ノ暴露部ニ於ケル昇降口室ハ堅牢ナル構造ノモノナルコトヲ要シ船首ヨリLノ四分ノ一以内ノ箇所ニ在ルトキハ之ヲ鋼製トシ鉸釘ヲ以テ銅甲板ニ固著スルコトヲ要ス  
 前項ノ昇降口室ニ於ケル戸口ノ緣材ノ高サハ昇降口ノ位置ニ應ジ第十八條ニ定ムル艙口緣材ノ高サ以上ト爲シ戸ハ堅牢ニシテ其ノ兩側ヨリ閉鎖定著シ得ルモノト爲スコトヲ要ス  
 第三章 乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口、通風筒及空氣管  
 第三百三十一條 暴露セル乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル機關室口ハ之ヲ適當ニ構造シ且堅牢ナル鋼製圍壁ヲ以テ蔽圍スルコトヲ要ス  
 乾舷甲板又ハ低船尾樓甲板上ノ機關室圍壁ニシテ他ノ建設物ニ依リ保護セラレザルモノハ特ニ其ノ強力ヲ十分ナラシムベシ

機關室口圍壁ヲ設ケタル甲板ノ種類及位置	610
暴露セル乾舷甲板	457
暴露セル低船尾樓甲板	380
閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板	229

焚火室口、煙筒及通風筒ノ緣材ハ適當ニシテ且實際上可能ナル限り暴露甲板上高キ位置ニ之ヲ設ケ又焚火室口ニハ常設ノニ取附ケタル堅牢ナル鋼製蓋ヲ備フベシ  
 第三百三十二條 閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ於ケル機關室口ハ之ヲ適當ニ構造シ且鋼製圍壁ヲ以テ蔽圍スルコトヲ要ス  
 第三百三十三條 前二條ノ機關室口圍壁ニ設ケル戸口ノ緣材ノ高サハ左表ニ掲グルモノ以上ナルコトヲ要ス  
 前項ノ戸口ニ設ケタル戸ハ堅牢ナル構造トシ常設的ニ圍壁ニ取附ケタルモノナルコトヲ要シ暴露セル場所ニ設ケラルルトキハ之ヲ兩側ヨリ閉鎖定著シ得ルモノナルコトヲ要ス  
 第三百三十四條 暴露セル乾舷甲板又ハ船樓甲板ニ於ケル通風筒ニシテ乾舷甲板下ノ場所又ハ閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力以上ナル船樓内ノ場所ニ通ズルモノニハ鋼製ノ堅牢ナル緣材ヲ備ヘ鉸徑ノ四倍ノ心距ニ配置セラレタル鉸釘ニ依リ又ハ同一效力ノ方法ニ依リ之ヲ甲板ニ固著シ緣材ノ底部ニ當ル銅甲板ハ甲板梁ノ間ニ於テ十分ニ之ヲ防撓スルコトヲ要ス前項ノ通風筒ノ口ニハ有效ナル閉鎖裝置ヲ備フベシ  
 第三百三十五條 前條ノ通風筒ノ緣材ノ高サハ通風筒ノ閉鎖裝置ガ一時的ノモノナルトキハ暴露セル乾舷甲板又ハ船首ヨリLノ四分ノ一ノ箇所迄ノ船樓甲板ニ在リテハ九一五ミリメートル以上、其ノ他ノ暴露船樓甲板ニ在リテハ七六〇ミリメートル以上ナルコトヲ要ス  
 通風筒ノ緣材ハ其ノ高サガ九一五ミリメ

トトルヲ超ユルトキハ特別ニ之ヲ支持シ且固著セシムベシ

第三百三十六條 脚荷水槽其ノ他ノ槽ニ通ズル空氣管ガ乾舷甲板又ハ船樓甲板ノ上方迄達スル場合ニ於テハ管ノ暴露部ハ堅牢ナルモノナルコトヲ要シ且管口ヲ閉鎖スル爲十分ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス又「ウエル」ニ於テハ甲板ヨリ管口迄ノ高さハ乾舷甲板上ニ在リテハ九一五ミリメートル以上、低船尾樓甲板上ニ在リテハ七六〇ミリメートル以上、其ノ他ノ船樓甲板上ニ在リテハ四五七ミリメートル以上ト爲スベシ

第四章 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル開口

第三百三十七條 乾舷甲板下ノ船側ニ於ケル舷門、載貨門、載炭門等ニハ水密ナル戸又ハ蓋ヲ備フベシ此等ノ戸又ハ蓋ハ之ヲ定著スル装置ヲ有シ且十分ナル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

所ニ之ヲ設置スベシ但シ弁ガ容易ニ近寄り得ル場所ニ在リテ乾舷甲板上ノ場所ヨリ之ヲ閉チ得ル装置ヲ有シ且該場所ニ弁ノ開閉ヲ示ス装置ヲ備フルトキハ自働不還弁一箇ノミナルモ妨ナシ

第三百三十九條 閉鎖裝置ノ效力ガ第一級閉鎖裝置ノ效力ニ及バザル船樓内ノ乾舷甲板ニ排水管ヲ設ケタルトキハ乾舷甲板下ノ場所ニ不意ニ浸水スルコトヲ防グ爲適當ナル裝置ヲ爲スベシ

第四百四條 海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一五二ミリメートル未滿ノ箇所ニ下縁ヲ有スル舷窓ハ舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要シ又海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一・二メートル未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設ケル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

效力ト同等以上ナル船樓内ノ場所ニ設ケル舷窓ニハ蝶番ニ依リ取附ケタル内蓋ヲ備ヘ完全ニ水密トナル構造ト爲スベシ但シ雜居三等旅客ニ非ザル旅客又ハ船員ニ專用スル船樓内ノ容易ニ近寄り得ル場所ニ設ケル舷窓ノ内蓋ハ取外シ得ルモノト爲スコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テハ内蓋ヲ常ニ舷窓ノ近クニ備置ク爲ノ裝置ヲ爲スベシ

第二項ノ舷窓ノ枠ハ黃銅、鑄鋼其ノ他適當ナル金屬ヲ以テ堅牢ニ構造シタルモノナルコトヲ要シ之ヲ鑄鐵製ト爲スベカラズ又蝶番ノ軸針及締附螺釘ハ黃銅製ナルコトヲ要ス

第五章 船樓端ノ隔壁、船員ノ保護裝置及放水口

第四百四十一條 標準ノ高サヲ有スル船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ノ暴露セル端ニ於ケル隔壁ハ其ノ厚サヲ左表ニ掲グルモノ以上ト爲シ同表ニ掲グル寸法ノ防撓材ヲ七六センチメートル以内ノ心距ニ堅ニ取附ケ之ヲ防撓シタルモノナルコトヲ要ス

備考 Lガ表ニ掲グルモノノ中間ニ在ルトキハ隔壁板ノ厚サ及防撓材ノ寸法ハ插間法ニ依リ之ヲ定ム	樓ノ後端隔壁	船首樓及船橋	部分的ニ保護セラレタル船尾樓隔壁又ハLノ十分ノ四未滿ノ長サヲ有スル船尾樓ノ隔壁					
			サ 厚		サ 厚		サ 厚	
			L	L	L	L	L	
	(耗)	48.75	(耗)	48.75	(耗)	61.00	以下	
	5.0	以下	6.0	以下	7.5	115.80	以上	
	7.5	122.00	9.5	122.00	11.0			
		以上		以上				
法 寸 及 類 種 ノ 材 機 防								
	材 形 山	L	材 形 山	L	材 形 山 球	L		
	(耗)	45.70	(耗)	45.70	(耗)	48.75	未滿	
	65×65×6.5	未滿	75×65×7.5	未滿	140×75×7.5	未滿		
	75×65×7	45.70	90×65×8	45.70	150×75×8	48.75		
	90×75×7.5	76.20	100×75×8.5	61.00	165×75×8.5	61.00		
	100×75×8	106.70	115×75×9	76.20	180×75×9	73.20		
			130×75×9.5	91.45	190×75×9.5	85.35		
			140×75×10.5	106.70	205×75×10	97.55		
			150×75×11	121.90	215×75×10.5	109.75		
			165×90×11.5	137.15	230×75×11	121.90		
			180×90×12	152.40	240×90×11.5	134.10		
			180×90×12.5	167.65	255×90×12	146.30		
					256×90×12.5	158.50		
					280×90×13	170.70		

第四百四十二條 前條ノ規定ニ依リ船尾樓及船橋樓ノ前壁ニ設ケタル防撓材ノ上下兩端ハ短山形材ヲ以テ之ヲ甲板ニ固著セシムルコトヲ要シ又船首樓及船橋樓ノ後端隔壁ニ於ケル防撓材ハ隔壁ノ線山形材間ノ全距離ニ互リ之ヲ取附ケタルコトヲ要ス

各舷ニ於ケル舷柱ノ長サ(米)	各舷ニ設クベキ放水口ノ全面積(平方米)
4	0.726
6	0.787
8	0.846
10	0.909
12	0.970
14	1.031
16	1.092
18	1.153
20	1.220
20ヲ超ユルトキ	舷柱ノ長サ一米ニ付0.061平方 米ノ割合

備考

放水口ノ面積ハ舷柱ノ高さガ標準舷柱ノ高さヨリ小ナル船舶ニ在リテハ前項ニ規定スルモノヨリ適當ニ之ヲ増スコトヲ要シ又「ウエル」ノ長サガLノ十分ノ七ヲ超ユルトキハ適當ニ之ヲ減ズルコトヲ得第六十一條第一號ニ該當スル船樓内ニ於テハ常設閉鎖裝置ヲ備ヘザル甲板口ノ位置ニ適當ノ放水口ヲ設クベシ

第四百七條 放水口ハ甲板上成ルベク低キ位置ニ之ヲ設クルコトヲ要シ其ノ下縁ハ舷柱山形材ノ上縁ヨリ高カラザル様爲スベシ

放水口ニハ約二三センチメートルノ間隔ニ柵又ハ横棒ヲ取附クベシ又戸ヲ取附ケタルトキハ梗塞ノ虞ナキ構造ト爲シ且蝶番ハ黃銅製軸針ヲ有スルモノト爲スベシ

第六章 木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船

第四百八條 本章ノ規定ハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受クル汽船ニ之ヲ適用ス

第四百九條 船體ノ構造ハ甲板積木材貨物ノ重量ニ對シ十分ナル強力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第五十條 船舶ハ標準ノ高さ以上ノ高さ及Lノ百分ノ七以上ノ長さノ船首樓ヲ有シ且船尾樓又ハ堅牢ナル鋼製ノ「フィード」若ハ甲板室ヲ後部ニ備フル低船尾樓ヲ有スルコトヲ要ス

第五十一條 乾舷甲板上ノ機關室圍壁ハ其ノ側ニ木材貨物ヲ積載スルニ十分ナル強力及高さノモノナルカ又ハ標準ノ高さ以上ノ高さノ船舶ヲ以テ保護セラルルモノナルコトヲ要ス

第五十二條 中央部Lノ二分ノ一間ニ二重底ヲ備フル船舶ニ在リテハ該部分ノ二重底槽ハ適當ナル縦區畫ヲ有スルコトヲ要ス

第五百十三條 木材貨物ヲ積載スル甲板ハ高さ九センチメートル以上ニシテ上縁ニ於テ特ニ防撓セラレ且十分ナル放水口ヲ有スル舷柱ヲ備フルカ又ハ之ト同一ノ高さニシテ特ニ堅牢ナル構造ノ欄干ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ舷柱ニハ梁ノ箇所ニ於テ甲板ニ固著シタル堅牢ナル支柱ヲ取附クベシ

第五百十四條 船舶ニハ有效ナル補助操舵裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第五百十五條 甲板積木材貨物ノ兩側ニ跨ル縛索ヲ留ムル眼附板ハ三〇五メートル以内ノ間隔ニテ且船樓端ノ隔壁ヨリ最初ノ眼附板迄ノ距離ガ一・九八メートルヲ超エザル様配置シ鉸釘ヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムベシ但シ追加ノ眼附板ハ之ヲ梁上側板ニ取附クルモ妨ナシ縛索用眼附板ハ縛索ノ強力ニ相當スル強力ヲ有スルモノト爲スベシ

第七章 槽船

第五百十六條 本章ノ規定ハ槽船ニ之ヲ適用ス

第五百十七條 槽船ハ標準ノ高さ以上ノ高さ及Lノ百分ノ七以上ノ長さノ船首樓ヲ有スルコトヲ要ス

第五百十八條 乾舷甲板上ノ機關室圍壁ハ

標準ノ高さ以上ノ高さノ圍壁ニシタル船橋樓若ハ船尾樓又ハ之ト同一ノ高さ及同等ノ強力ヲ有スル甲板室ニ依リ之ヲ保護スルコトヲ要シ又該圍壁ノ開口ニハ鋼製ノ戸ヲ備フルコトヲ要ス

前項ノ船橋又ハ甲板室ハ其ノ端ニ於テ第四百四十一條及第四百四十二條ニ規定スル船橋樓前壁同様に構造ノ隔壁ヲ備ヘ之ニ設クル出入口ニハ甲板上四五七ミリメートル以上ノ高さノ縁材ヲ設ケ且有效ナル閉鎖裝置ヲ備フルコトヲ要ス

第五百十九條 船尾樓ト船橋樓トノ間ニハ甲板下ノ通路ヲ利用シ得ル場合又ハ同一效力ノ通路設備ヲ備フル場合ヲ除クノ外船橋甲板ト同一ノ高さヲ有スル堅牢ナル常設通路ヲ備フルコトヲ要ス船員室ヲ船首ニ設ケタル槽船ニ在リテハ船橋樓ト船首樓トノ間ニ付亦同ジ

前項ノ通路ト船員室區域、機關室其ノ他船舶ノ操作ニ必要ナル場所トノ間ニハ何時ニテモ利用シ得ル安全ナル通路ヲ設クベシ但シ乾舷甲板ヨリ直接出入スル「ボンブ」室ニシテ第五十三條ノ規定ニ適合スル閉鎖裝置ヲ備フルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十條 乾舷甲板及膨脹「トランク」甲板上ノ開口ニハ有效ナル鋼製蓋ヲ以テ水密ニ閉鎖スル裝置ヲ備フベシ

第六十一條 乾舷甲板ニ設クル通風筒ハ十分ナル強力ヲ有スルモノト爲スカ又ハ船橋若ハ同一效力ノ設備ニ依リ之ヲ保護スベシ

第六十二條 甲板ノ暴露部ニ於テハ該部分ノ長さノ二分ノ一以上ノ間ヲ開放欄干ニ有效ナル放水裝置ヲ備フベシ

船橋ト「トランク」トガ連續シタル槽船ニ在リテハ乾舷甲板ノ暴露部ノ全長ニ互リ開放欄干ヲ設クルコトヲ要ス

第六十三條 舷側厚板上縁ハ實際ニ差支ナキ限リ低キコトヲ要シ成ルベク舷柱山形材ノ上縁ヨリ高カラシメザルコトヲ要ス

附則

第六十四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

第六十五條 昭和七年六月三十日以前ニ龍骨ヲ据附ケタル船舶ノ滿載吃水線ノ指定ニ付テハ左ノ各號ニ依ル

一 開口ノ保護、保護欄干、放水口及船員室區域ヘノ通路ニ關スル構造及設備ニ付第六編ノ規定ニ適合セザル船舶ト雖モ實質上該規定ニ略適合シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ於テハ之ヲ同章ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

二 第五百十條ニ規定スル船橋ヲ有セザル汽船ト雖モ實質上同條ニ規定スル船橋ト略同一ノ效力アル船橋ヲ有シ且第六編第六章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ木材滿載吃水線ノ指定ヲ受ケ之ヲ標示スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第五百十條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ増加ス

三 第五百十七條、第五百十八條及第六十二條ノ規定ニ適合セザル槽船ト雖モ實質上同條ノ規定ニ依ル構造及設備ト略同一ノ構造及設備ヲ有シ且第六編第七章ニ規定スル他ノ條件ヲ具備スルトキハ管海官廳ハ第四編第二章ノ規定ニ依リ該船舶ノ乾舷ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ管海官廳ハ當該船舶ガ第五百十七條、第五百十八條及第六十二條ノ規定ニ適合セザル程度ヲ考慮シ適當ニ其ノ乾舷ヲ増加ス

第六十六條 船舶滿載吃水線法ニ依リ船舶ニ標示シタル滿載吃水線ノ位置ヘ之ヲ本令ニ依リ定メタルモノト看做ス但シ本法ニ依リ汽船ニ標示シタル淡水滿載吃水線ノ位置ハ本令ニ依ル夏期淡水滿載吃水線ノ位置トス

●逓信省令第八號 (官報號外)

船舶區畫規程左ノ通定ム

昭和九年二月一日

逓信大臣 南 弘

船舶區畫規程

目次

- 第一章 總則
- 第二章 浸水率
- 第三章 可浸長
- 第四章 區畫室ノ長サ
- 第五章 區畫ニ關スル特別條件
- 第六章 區畫滿載吃水線
- 第七章 水密隔壁ニ於ケル開口
- 第八章 限界線下ノ船側ニ於ケル開口
- 第九章 二重底
- 第十章 水密隔壁等ノ構造及最初ノ試驗
- 第十一章 耐火隔壁、水密區畫室ヨリノ出口
- 第十二章 「ポンプ」排水裝置
- 第十三章 特殊ノ航路又ハ特殊旅客ノ運送ニ使用スル船舶ニ對スル特別規定

附則

船舶區畫規程

第一條 本令ニ於テ區畫滿載吃水線トハ第

三章乃至第五章ノ規定ニ依リ船舶ノ區畫ヲ決定スルニ用ウル吃水線ヲ謂ヒ最高區畫滿載吃水線トハ區畫滿載吃水線中最大吃水ニ對スルモノヲ謂フ

第二條 本令ニ於テ船ノ長サトハ最高區畫滿載吃水線ノ兩端ニ於ケル垂線間ノ距離ヲ謂フ但シ首尾ニ於テ特殊ノ形狀ヲ有スル船舶ニ付テハ逓信大臣ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第三條 本令ニ於テ船ノ幅トハ最高區畫滿載吃水線以下ニ於テ肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ最大幅ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ隔壁甲板トハ横置水密隔壁ノ達スル最上層ノ甲板ヲ謂フ

第五條 本令ニ於テ限界線トハ隔壁甲板ノ船側ニ於ケル上面ト船側外板トノ交線ニ平行ニ其ノ下方七六ミリメートルノ位置ニ引キタル線ヲ謂フ

前項ノ上面ハ船側ニ於ケル隔壁甲板ノ厚サ一様ナラザル船舶ニ在リテハ其ノ最小ノ厚サニ依リ又特ニ申請アリタル場合ニ於テハ隔壁甲板ノ全長ニ付算定シタル平

均ノ厚サニ依リ之ヲ定ム但シ平均ノ厚サノ算定ニ付テハ實際ノ厚サガ最小ノ厚サニ五〇ミリメートルヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ實際ノ厚サハ之ヲ最小ノ厚サニ五〇ミリメートルヲ加ヘタルモノト看做ス

第六條 本令ニ於テ吃水トハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ區畫滿載吃水線迄測リタル垂直距離ヲ謂フ

第七條 本令ニ於テ或場所ノ浸水率トハ該場所中水ニ依リ占メラレ得ル容積ト該場所ノ全容積トノ百分率ヲ謂フ

限界線ノ上下ニ互ル場所ノ浸水率ハ限界線以下ノ容積ニ付之ヲ定ムモノトス

第八條 本令ニ於テ機關室區域トハ主機關、補機關及常設石炭庫ニ専用スル場所ヲ限ル横置水密隔壁ノ間ノ限界線下ノ部分ヲ謂フ

本令ニ於テ前輪區域トハ機關室區域ノ前方ノ限界線下ノ部分ヲ謂ヒ後輪區域トハ機關室區域ノ後方ノ限界線下ノ部分ヲ謂フ

第九條 本令ニ於テ旅客室又ハ船員室トハ手荷物室、倉庫、食料品庫及郵便物室ヲ除

キ旅客又ハ船員ノ居住若ハ使用ニ充テラルル場所ヲ謂ヒ居室トハ旅客室及船員室ヲ包含スルモノヲ謂フ

第十條 或場所ノ容積ハ外板又ハ隔壁板ノ内面迄測リテ之ヲ算定ス

第二章 浸水率

第十一條 蒸汽機關ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ機關室區域ノ浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$80 + 12.5 \left( \frac{B-C}{V} \right)$$

ハ機關室區域ニ在ル居室ノ容積  
 B 機關室區域ニ在ル貨物石炭又ハ倉庫品ニ供用セラルル甲板間ノ場所ノ容積

ハ機關室區域ノ全容積  
 V 發動機ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ機關室區域ノ浸水率ハ前項ノ算式ニ依リ算定シタル數ニ五ヲ加ヘタルモノトス

第十二條 管海官廳ハ特ニ申請アリタルトキハ前條ノ規定ニ拘ラズ機關室區域ノ現狀ニ應ジ適當ト認ムル方法ニ依リ該區域ノ浸水率ヲ算定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ居室ノ浸水率ハ九五、貨物艙、石炭庫又ハ倉庫ノ浸水率ハ六〇ト爲スベシ

第十三條 前輪區域又ハ後輪區域ノ浸水率ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$80 + 30 \frac{L}{V}$$

ハ當該區域ノ全容積  
 V 當該區域ニ在ル居室ノ容積

第十四條 二箇ノ横置水密隔壁ノ間ノ甲板間ノ場所ニ常設ノ鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ圍繞セラレザル居室アルトキハ前三條ノ規定ニ依ル浸水率ノ算定ニ付テハ該場所中常設ノ鋼製隔壁ヲ以テ完全ニ區分セラレ且他ノ用途ニ供用セラルル場所ヲ除キタル殘餘ノ全部ヲ居室ト看做ス

第三章 可浸長

第十五條 Lノ或點ニ於ケル可浸長トハ該點ヲ中心トスル船舶ノ部分ノ長サニシテ該船舶ガ區畫滿載吃水線ニ對スル吃水及第二章ノ規定ニ依ル浸水率ヲ有スル場合ニ於テ之ニ浸水セシムルモ限界線ヲ超エ沈下スルコトナキ最大限度ノモノヲ謂フ

第十六條 連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ在リテハ浸水後ノ沈下及縱傾斜並ニ關係水密隔壁ノ達スル箇所ヲ考慮シテ連續ノ限界線ヲ假定シ之ニ付可浸長ヲ定ムルモノトス

第十七條 可浸長ハ船舶ノ形狀其ノ他ノ特性ヲ考慮シ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ之ヲ定ム

第四章 區畫室ノ長サ

第十八條 船舶ニ於ケル區畫室ノ長サハ其ノ中央ニ於ケル可浸長ニ第二十四條乃至第二十四條ノ規定ニ依ル區畫係數ヲ乘ジテ得タル長サ(以下可許長ト稱ス)ヲ超ユルコトヲ得ズ但シ本令ニ於テ別段ノ定アル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 船舶ノ用途ノ標準數(以下單ニ標準數ト稱ス)ハ第二項ノ規定ニ依ル假想容積(P)ト限界線下ニ在ル居室ノ容積(P)トノ割合ニ應ジ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

$$P_1 \text{ガ} P \text{ヨリ大ナルトキ}$$

$$P_1 \text{ガ} P \text{ヨリ大ナルトキ}$$

$$P_1 \text{ガ} P \text{ヨリ大ナルトキ}$$

M 機關室區域ノ容積ニ前輪區域又ハ後輪區域ニ於テ二重底内底板ノ上方ニ常設燃料油槽ヲ設ケタルトキハ其ノ容積ヲ加算シタルモノ

P<sub>1</sub>ハ假想容積

V<sub>1</sub>ハ限界線下ノ全容積

假想容積P<sub>1</sub>ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス  
但シ算定シタル容積ガ限界線下ニ在ル居室ノ容積ト限界線以上ニ在ル旅客室ノ容積トノ和ヨリ大ナルトキハ之ヲ該和及算定シタル容積ノ三分ノ二ノ中大ナルモノト爲スコトヲ得

$$0.056L \times N \quad N \text{ハ旅客定員}$$

連續セル隔壁甲板ヲ有セザル船舶ニ在リテハ前二項ノ各容積ハ可浸長ノ決定ニ用キタル限界線迄測リテ之ヲ算定ス

第二十條 L<sub>1</sub>一三メートル以上ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ之ヲ算定ス

一 標準數一三以下ナルトキ

$$\frac{58.2}{L-10} + 0.18$$

二 標準數一三以上ナルトキ

$$\frac{30.3}{L-42} + 0.18$$

三 標準數一三ヲ超ヘ一三三未満ナルトキ

$$A - \frac{(A-B)(C_s-23)}{100}$$

C<sub>1</sub>ハ標準數

A<sub>1</sub>ハ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數

B<sub>1</sub>ハ第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數

前項ニ依リ算定シタル係數ガ〇・四〇ヨリ小ナル船舶ニ付管海官廳ニ於テ該係數ニ依リ機關室區域ヲ區畫スルコト實際ト不可能ナリト認ムルトキハ該區域ニ對スル區畫係數ヲ〇・四〇ト爲スコトヲ得

第二十一條 L<sub>1</sub>七九メートル以上一三三メートル未満ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ應ジ左ノ各號ニ依リ之ヲ定ム

一 標準數ガ左ノ算式ニ依リ算定シタル數以下ナルトキハ區畫係數ハ之ヲ一トス

$$\frac{35.74-25.1}{L-18}$$

二 標準數ガ一三三以上ナルトキハ前條第一項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヲ區畫係數トス

三 標準數ガ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヲ超ヘ一三三未満ナルトキハ左ノ算式ニ依リ區畫係數ヲ算定ス

$$1 - \frac{(L-B)(C_s-S)}{128-S}$$

C<sub>2</sub>ハ標準數  
S<sub>1</sub>ハ第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數

B<sub>1</sub>ハ前條第一項第二號ノ算式ニ依リ算定シタル數

第二十二條 旅客定員ガ左ノ算式ニ依リ算定シタル數及五〇ノ中小ナルモノヲ超エザル船舶ノ區畫係數ハ前二條ノ規定ニ拘ラズ之ヲ一トス

$$L^2$$

〇・50

第二十三條 L<sub>1</sub>七九メートル未満ノ船舶ノ區畫係數ハ標準數ニ拘ラズ之ヲ一トス

第二十四條 左ノ各號ノ船舶ニ付前三條ニ定ムル區畫係數ニ依リ區畫スルコト實際ト不可能ナリト認ムル部分アルトキハ管海官廳ハ該部分ノ區畫係數ニ付適當ニ斟酌スルコトヲ得

一 前二條ニ掲グル船舶

二 L<sub>1</sub>七九メートル以上一三三メートル未満ニシテ標準數ガ第二十一條第一號ノ算式ニ依リ算定シタル數ヨリ小ナル船舶

第五章 區畫ニ關スル特別條件

第二十五條 船首隔壁ハ船舶ノ前部垂線ヨリLノ百分ノ五ノ箇所ト同箇所ヨリ二・〇五メートル後方ノ箇所トノ間ニ之ヲ設クベシ

船首部ニ於テ長キ船樓ヲ有スル船舶ニ付テハ船首隔壁ヲ隔壁甲板ノ直上ノ甲板迄延長シ其ノ部分ヲ風雨密ノ構造ト爲スベシ

前項ノ延長部ハ船舶ノ前部垂線ヨリLノ百分ノ五以上ノ箇所ニ設クルトキハ之ヲ下方ノ隔壁ノ直上ニ設ケザルモ妨ナシ此ノ場合ニ於テハ階段ヲ形成スル隔壁甲板ノ部分ヲ風雨密ノ構造ト爲スベシ

第二十六條 甲區畫室ト之ニ隣接セル乙區畫室トノ合長及甲區畫室ト之ニ隣接セル丙區畫室トノ合長ガ何レモ合長ノ中央ニ於ケル可浸長ヲ超ユルコトナク且可許長ノ二倍ヲ超エザルトキハ甲區畫室ノ長サハ可許長ヲ超ユルモ妨ナシ

甲區畫室ノ浸水率ト乙又ハ丙區畫室ノ浸水率トガ相等シカラザルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ各區畫室ノ浸水率ノ平均ヲ兩區畫室ヲ通ズル浸水率ト看做ス  
甲區畫室ノ區畫係數ト乙又ハ丙區畫室ノ區畫係數トガ相等シカラザルトキハ第一項ノ規定ノ適用ニ付テハ可許長ノ二倍ノ代リニ左ノ算式ニ依リ算定シタル長サヲ用ウルモノトス

$$L + \frac{(2L-1)}{2} \frac{F_1}{F_2}$$

L<sub>1</sub>ハ兩區畫室ノ中ノ任意ノ一區畫室ノ長サ

F<sub>1</sub>ハ長サL<sub>1</sub>ナル區畫室ニ對スル區畫係數

F<sub>2</sub>ハ他ノ區畫室ニ對スル區畫係數

ハハ兩區畫室ニ對スル區畫係數ヲF<sub>1</sub>ト看做シタル場合ノ可許長

第二十七條 L<sub>1</sub>一三メートル以上ノ船舶ニ付テハ船首隔壁ノ次ノ橫置隔壁ヨリ前部垂線ニ至ル距離ハ可許長ヲ超ユルコトヲ得ズ

第二十八條 橫置隔壁ヲ屈折セシメタル場合ニ於テハ屈折部ハ如何ナル部分ニ於テモ最高區畫滿載吃水線ノ水平面ニテ該部分ノ橫截面ニ於ケル外板ヨリ中心線ニ直線ニ測リ船ノ幅ノ五分ノ一ニ相當スル箇所ヲ通ル縱通垂直面ヨリ内方ニ在ルコトヲ要ス但シ區畫ガ第二十九條各號ノ一ニ該當スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十九條 橫置隔壁ハ區畫ガ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ非ザレバ之ヲ階段アルモノト爲スコトヲ得ズ

一 當該隔壁ニ依リ仕切ラレタル二區畫室ノ合長ガ可浸長ノ百分ノ九十七ヲ超エザルトキ

二 隔壁ガ一平面ナル場合ト同一ノ安全

程度ヲ保ツ様當該箇所ニ區畫ヲ増設シタルトキ

第三十條 橫置隔壁ニ屈折又ハ階段アル場合ニ於テハ區畫室ノ長サハ同一ノ效力ヲ有スル平面隔壁迄之ヲ測ルモノトス

第三十一條 相隣レル二箇ノ橫置隔壁間ノ距離ガ三・〇五メートルニLノ百分ノ二ヲ加ヘタルモノヨリ小ナルトキハ區畫室ノ長サノ決定ニ付テハ當該二隔壁中何レカ一箇ハ之ヲ無キモノト看做ス

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ屈折アル隔壁ニ在リテハ前條ニ依ル同一ノ效力ヲ有スル平面隔壁ヲ橫置隔壁ト看做シ、階段アル隔壁ニ在リテハ該隔壁ヨリ次ノ隔壁ニ至ル最短距離ヲ橫置隔壁間ノ距離ト看做ス

第三十二條 橫置水密區畫室ガ局部的ノ區畫ヲ有スル場合ニ於テ三・〇五メートルニLノ百分ノ二ヲ加ヘタル長サニ互ル如何ナル損傷ヲ船側ニ受クルモ該區畫室ノ全容積ニ浸水スル虞ナキトキハ管海官廳ハ該區畫室ノ長サヲ浸水ノ虞ナキ部分ノ容積ニ應ジ局部的區畫ナキ場合ノ可許長ヨリ適當ニ増スコトヲ得

前項ノ規定ノ適用ニ付テハ損傷ヲ受ケザル船側ニ付假定スル有效浮力ノ容積ハ損傷ヲ受ケタル船側ニ付假定スル有效浮力ノ容積ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第三十三條 水密甲板又ハ縦通隔壁若ハ内側外板ヲ設ケル場合ニ於テハ之ヲ設ケタル部分ヲ浸水ニ依リテ生ズル船舶ノ傾斜其ノ他ノ原因ニ因リ船舶ノ安全ヲ害セザル様適當ナル配置ト爲スベシ

第三十四條 船尾隔壁ハ船舶ノ區畫ニ依ル安全ノ程度ヲ減少セザル限リ之ヲ隔壁甲板ノ下方ニ止ムルコトヲ得

第三十五條 船尾管ハ水密ナル場所ニ設置スルコトヲ要シ船尾管帶ハ水密ナル軸路其ノ他ノ場所ニシテ船尾管帶ヨリ浸水スル場合ニ於テモ船舶ノ限界線ヲ超エ沈下スルコトナキ程度ノ容積ヲ有スルモノ内ニ之ヲ設置スルコトヲ要ス

第三十六條 區畫滿載吃水線ハ船舶滿載吃水線規程ニ定ムル圓標ノ前方ニ於ケル垂直線ノ後縁ヨリ後方ニ向フ長サ二五〇ミリメートル、幅二五ミリメートルノ水平線ノ上縁ヲ以テ之ヲ標示スベシ

區畫滿載吃水線ガ船舶滿載吃水線規程ニ依ル當該船舶ノ海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ上方ニ在ルトキハ該最高滿載吃水線ノ位置ニ在ルモノトス

第三十七條 區畫滿載吃水線ノ標示ハ主タル旅客搭載状態ニ對應スルモノニハC<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>、C<sub>3</sub>等ノ記號ヲ附スベシ

第三十八條 區畫滿載吃水線ニ對スル乾舷ハ船舶滿載吃水線規程ニ依ル乾舷甲板ヲ標示スル水平線ノ上縁ヨリ當該區畫滿載吃水線迄之ヲ測ルモノトス

前項ノ乾舷ハ船舶ガ之ニ對應スル旅客搭載状態ニ於テ國際航海ニ從事スル場合海水ニ於テ保持スベキ最小乾舷トス

第七條 水密隔壁ニ於ケル開口 第三十九條 水密隔壁ニ設ケル開口ノ數ハ出來得ル限リ之ヲ少クシ又各開口ニハ之

ヲ水密ニ閉ヅル爲適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス

水密隔壁ヲ貫通シテ管、電燈線等ヲ設ケタルトキハ該隔壁ノ水密ヲ保ツ爲適當ナル方法ヲ講ズベシ

第四十條 水密隔壁ニハ支水弁ヲ設ケルコトヲ得ズ

左ニ掲グル隔壁ニハ人孔又ハ出入口ヲ設ケルコトヲ得ズ

一 限界線下ノ船首隔壁 二 貨物艙ト貨物艙又ハ常設若ハ豫備ノ石炭庫トヲ仕切ル水密橫置隔壁但シ甲板間ニ於ケル貨物艙ト貨物艙トヲ仕切ル隔壁ヲ除ク

官廳差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

前項ノ出入口ノ下縁ハ出來得ル限リ高キ位置ニ在ルコトヲ要ス

第四十三條 隔壁ノ開口ニ設ケル水密戸ハ左ニ掲グルモノヲ除クノ外之ヲナルコトヲ要ス

一 船側ニ於ケル最低點ノ下方ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方二・一三メートル以上ノ箇所ニ在ル甲板ノ上方ニ於ケル旅客室、船員室及作業場所ニ設ケル水密螺番戸

二 甲板間ニ於ケル貨物艙ヲ仕切ル隔壁ニ於テ船側ニ載貨門ノ設置ヲ許サルル高サノ箇所ニ設ケル水密螺番戸

三 機關室內ニ於ケル隔壁ニ螺釘ヲ以テ固定スル取外シ得ル板戸

前項第二號ノ水密螺番戸ハ其ノ設置ヲ特別ニ必要トスル事由アル場合ニシテ其ノ構造及配置ニ付管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ設ケ得ルモノトス

第四十四條 螺番戸ニハ隔壁ノ各側ヨリ操作シ得ル掛金ヲ備フルコトヲ要ス

之戸ハ水平ニ動クモノナルモ又ハ垂直ニ動クモノナルモ妨ナシ

手動ノ閉閉裝置ノミヲ備フル之戸ノ閉閉裝置ハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル場所ニ於テ之ヲ操作シ得ル場所ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノナルコトヲ要ス

水密戸ガ自己又ハ他ノ重量物ノ落下作用ニ依リ閉ヅルモノナルトキハ之ニ閉鎖運動ヲ調節スル爲適當ナル裝置ヲ備フルコトヲ要ス閉鎖裝置ハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル場所ニ於テ之ヲ放動セシメ得ルモノトシ且落下作用ニ依ラザル手動閉閉裝置ヲ備フルコトヲ要シ該裝置ハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ニ於テ之ヲ操作シ得ルモノトシ且落下閉鎖ノ爲該裝置ヲ外シタル後各操作場ニ於テ迅速ニ再ビ之ヲ仕掛ケ得ルモノト爲スベシ

水密戸ガ中央操作場ヨリ動力ニ依リ操作セラルル裝置ナルトキハ戸ノ箇所ニ於テモ動力ニ依リ之ヲ操作シ得ルモノト爲スベシ

前項ノ動力閉閉裝置ハ中央操作場ヨリ閉チラレタル後局部操作場ニ於テ開カレタル戸ガ自働的ニ閉鎖セラレ又戸ガ中央操

作場ヨリ開カルコトヲ局部操作場ニ於テ防ギ得ルモノナルコトヲ要ス

第五項ノ動力閉閉裝置ニハ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ノ近寄り得ル場所ニ於テ操作シ得ル手動閉閉裝置ヲ備フルコトヲ要ス

各水密戸ニ付テハ戸ノ箇所ヲ除クノ外總テノ操作場ニ其ノ閉閉ヲ示ス表示器ヲ備フベシ

第四十五條 橫置隔壁ニ設ケル之戸ニシテ其ノ下縁ガ最高區畫滿載吃水線ノ下方ニ在リ且船舶ノ航行中開クコトアルモノノ閉閉裝置ニ付テハ左ノ各號ニ依ルベシ但シ軸路ノ入口ニ在ル水密戸ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

一 戸ノ數ガ五箇ヲ超ユルトキハ閉閉裝置ハ動力操作ノモノニシテ船橋上ノ操作場ヨリ同時ニ各之戸ヲ閉チ得ルモノナルコトヲ要シ且閉鎖ニ先チ警戒音響信號ヲ發スル裝置ト爲スベシ

二 戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ六〇ヲ超ユルトキハ各之戸ノ閉閉裝置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

三 戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ三〇ヲ超ユルトキハ各之戸ハ

落下式ニシテ戸ノ箇所及隔壁甲板ノ上方ヨリ操作シ得ル放動装置ヲ備ヘ且手動閉鎖装置ヲ備フルモノナルモ妨ナシ

四 戸ノ數ガ五箇以下ニシテ標準數ガ三〇ヲ超エザルトキハ各戸ノ閉鎖裝置ハ手動ノモノナルモ妨ナシ

第四十六條 船舶ノ航行中石炭線ノ目的ヲ以テ開クコトアル水密戸ヲ隔壁甲板下ノ甲板間ニ於テ石炭庫ヲ仕切ル隔壁ニ設クルトキハ其ノ閉鎖裝置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

第四十七條 二箇以上ノ横置隔壁ヲ貫キテ冷藏貨物艙ニ通ズル圍壁路ヲ設クル場合ニ於テ開口ノ下緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方二・三メートル未滿ノ箇所ニ在ルトキハ該開口ニ於ケル水密戸ノ閉鎖裝置ハ動力操作ノモノナルコトヲ要ス

第四十八條 船員室ヨリ焚火場ヘノ通行ノ爲、管ヲ通ス爲又ハ其ノ他ノ目的ノ爲横置隔壁ヲ貫キテ圍壁路又ハ隧道ヲ設クルトキハ該圍壁路又ハ隧道ハ水密ニシテ第六十四條ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

前項ノ圍壁路又ハ隧道ガ船舶ノ航行中通路トシテ使用セラルルモノナルトキハ少

クトモ各圍壁路又ハ隧道ノ一端ニハ限界線ノ上方ニ達シ得ル様水密ニ構造セラレタル圍壁ヲ設クルコトヲ要ス

圍壁路又ハ隧道ハ船首隔壁ノ次ノ隔壁ヲ貫キテ之ヲ設クルコトヲ得ズ

強壓通風ノ爲必要アルトキハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り横置隔壁ヲ貫キテ圍壁路又ハ隧道ヲ設クルコトヲ得

第四十九條 石炭庫ニ於ケル水密戸ニ付テハ石炭ガ戸ノ閉鎖ヲ妨グルコトヲ防グ爲障板其ノ他ノ適當ナル裝置ヲ設クベシ

第四十六條ニ規定スルモノヲ除クノ外常設及豫備ノ石炭庫間ニ設クル水密戸ニ對シテハ常ニ之ニ近寄り得ル様圍壁路又ハ隧道ヲ設クベシ

第八章 限界線下ノ船側ニ於ケル閉鎖場

第五十條 限界線下ノ船側ニ於ケル開口ノ閉鎖裝置ハ開口ノ用途及位置ニ適應スルモノニシテ管海官廳ノ適當ト認メタルモノナルコトヲ要ス

貨物又ハ石炭ノ搭載ニ専用スル場所ニハ舷窓ヲ設クルコトヲ得ズ

自動通風用舷窓ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ヲ除クノ外之ヲ限界線下ノ船側ニ設クルコトヲ得ズ

第五十一條 甲板間ニ於ケル何レカノ舷窓ノ下緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ於テ船ノ幅ノ千分ノ二十五ノ距離ニ最低點ヲ有シ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ノ舷窓ハ總テ開キ得ザル型ノモノト爲スベシ

前項ノ舷窓ヲ除クノ外甲板間ニ於ケル何レカノ舷窓ノ下緣ガ最高區畫滿載吃水線ノ上方ニ於テ三・六メートルニ船ノ幅ノ千分ノ二十五ヲ加ヘタル距離ニ最低點ヲ有シ船側ニ於ケル隔壁甲板ニ平行ニ引キタル線ノ下方ニ在ルトキハ該甲板間ノ舷窓ハ總テ錠前附ノモノナルコトヲ要ス

前二項ノ舷窓以外ノ舷窓ハ普通ノ開キ得ル型ノモノト爲スコトヲ得

第五十二條 左ニ掲グル舷窓ニハ有效ナル蝶番附内蓋ヲ備ヘ容易ニ之ヲ閉ジ且水密ニ保チ得ル裝置ト爲スベシ

一 第五十一條第一項又ハ第二項ノ舷窓

二 前部垂線ヨリLノ八分ノ一以内ノ場所ニ設クル舷窓

三 航行中近寄り難キ場所ニ設クル舷窓

四 水夫、火夫又ハ下級旅客ノ居住場所ニ設クル舷窓

前項ニ掲グルモノヲ除クノ外隔壁甲板下ニ設クル舷窓ニハ有效ナル内蓋ヲ備フベシ

前項ノ内蓋ハ之ヲ附近ニ備ヘ置ク裝置ヲ有スルトキハ取外シ得ルモノト爲スコトヲ得

第五十三條 船側ニ設クル機關用ノ吸水孔及放水孔竝ニ其ノ他ノ開口ニハ船内ヘノ不慮ノ浸水ヲ防ギ得ル裝置ヲ設クベシ

船側ニ設クル排水孔、衛生排出孔其ノ他類似ノ開口ノ數ハ出來得ル限り之ヲ少クスベシ

第五十四條 限界線下ノ船側ヲ貫キテ設クル排出管ニハ船内ヘノ浸水ヲ防グ爲左ノ各號ノ一ニ依ル裝置ヲ爲スベシ

一 隔壁甲板ノ上方ニシテ容易且迅速ニ近寄り得ル場所ヨリ閉鎖シ得ル積極裝置ヲ有スル自働不還弁一箇ヲ各排出管

ニ取附ケ且弁ノ開閉ヲ表示スル裝置ヲ操作場ニ備フルコト

二 前號ノ裝置ナキ自働不還弁二箇ヲ各排出管ニ取附ケ其ノ中上方ノモノハ船舶ノ就航状態ニ於テ檢査ノ爲常ニ近寄り得ル最高區畫滿載吃水線ノ上方ノ場所ニ之ヲ設置スルコト

第五十五條 限界線下ニ設クル舷門、載貨門及載貨門ハ十分ナル強力ヲ有スル構造ト爲スベシ

一部又ハ全部ガ最高區畫滿載吃水線下ニ在ル載貨門又ハ載貨門ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ニ限り之ヲ設置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ構造ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第五十六條 灰棄筒、芥棄筒其ノ他類似ノモノノ船内ニ於ケル開口ニハ有效ナル蓋ヲ備フベシ

前項ノ開口ガ限界線下ニ在ルトキハ該開口ノ蓋ハ水密ニ閉鎖シ得ルモノト爲シ且最高區畫滿載吃水線ノ上方ニシテ容易ニ近寄り得ル場所ニ於テ筒ニ自働不還弁ヲ取附クベシ

第九章 二重底

第五十七條 L六一メートル以上ノ船舶ニ付テハ左ノ各號ノ部分ニ二重底ヲ設クベシ

一 L七六メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ機關室前部隔壁ヨリ船首隔壁迄

二 L七六メートル以上一〇〇メートル未滿ノ船舶ニ在リテハ機關室前部隔壁ヨリ船首隔壁ヨリ船尾隔壁迄

三 L一〇〇メートル以上ノ船舶ニ在リテハ船首隔壁ヨリ船尾隔壁迄

前項ノ船舶ニ於テ船首隔壁又ハ船尾隔壁迄二重底ヲ達セシムルコト實際上不可能ナルトキハ出來得ル限り其ノ近ク迄之ヲ達セシムベシ

第五十八條 前條ニ依リ設クル二重底ニ在リテハ二重底緣板ト彎曲部外板トノ交線ハ何レノ部分ニ於テモLノ中央ニ於テ船底基線上船體中心線ヨリ船ノ幅ノ二分ノ一ノ距離ニ在ル點ヲ通リ該基線ニ對シテ十五度ノ傾斜ヲ以テ引キタル横斜線ト肋骨線トノ交點ヲ通ル水平面ノ上方ニ在ルコトヲ要ス

第五十九條 排水ノ目的ノ爲ニ重底ニ設クル海水溜ハ必要ナル程度ヲ超エテ其ノ深サヲ大ナラシムルコトヲ得ズ且如何ナル場合ト雖モ縁板ノ内縁又ハ外板ヨリ〇・四五メートル未滿ノ箇所ニ在ルコトヲ得ズ但シ螺旋推進器ヲ備フル船舶ニ付テハ軸路ノ後端ニ於テ外板迄達スル一箇ノ海水溜ヲ設クルコトヲ得

第十章 水密隔壁等ノ構造及最初ノ試験

第六十條 水密隔壁ハ鋼船構造規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

隔壁ノ階段部及屈折部ハ水密ニシテ且其ノ箇所ニ在ルベキ隔壁ト同一ノ強力ヲ有スル構造ト爲スベシ

第六十一條 本令ニ掲グル水密戸、舷窓、舷門、載貨門、載炭門、弁、管、灰棄筒及芥棄筒ノ設計、材料及構造ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第六十二條 隔壁ニ設クル水密戸ハ之ヲ設クル箇所ニ於ケル限界線迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ

前項ノ試験ハ船舶ノ就航前ニ於テ戸ノ取附前又ハ取附後ニ之ヲ行フベシ

第六十三條 二重底(溝形龍骨ヲ含ム)及内側外板ハ限界線迄ノ水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ

液体ヲ容ルル槽ニシテ水密區畫ノ一部ヲ成スモノハ最高區畫滿載吃水線迄ノ高さ、龍骨ノ上面ヨリ槽ノ箇所ニ於ケル限界線迄ノ高さノ三分ノ二及槽ノ頂板上〇・九メートル迄ノ高さノ中最大ナルモノニ相當スル水高壓力ヲ以テ之ヲ試験スベシ

第六十四條 甲板、圍壁、隧道、溝形龍骨又ハ通風筒ニシテ水密ナルコトヲ要スルモノハ其ノ箇所ニ在ルベキ水密隔壁ト同一ノ強力ヲ有スル構造ト爲シ圍壁及通風筒ハ少クとも限界線迄水密ニ構造セラレタルモノナルコトヲ要ス

前項ノ甲板、圍壁、隧道等ノ水密ナルコトヲ要スル構造及之ニ設クル開口ノ閉鎖裝置ニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ルベシ

第六十五條 水密甲板ハ漲水又ハ射水ニ依リ、水密ナル圍壁、隧道及通風筒ハ射水ニ依リ之ヲ試験スベシ

第十一章 耐火隔壁、水密區畫室ヨリノ出口

第六十六條 船舶ニハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依リ隔壁甲板ヨリ上部ニ於テ船側ヨリ船側迄達スル耐火隔壁ヲ設クベシ

船樓内ニ於ケル耐火隔壁ノ間隔ハ四〇メートルヲ超ユルコトヲ得ズ但シ管海官廳差支ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第六十七條 耐火隔壁ハ隔壁ニ於テ八一度ノ溫度ヲ生ズル火ノ蔓延ヲ一時間阻止シ得ベキ金屬其ノ他ノ耐火材料ヲ以テ適當ニ之ヲ構造スルコトヲ要ス

銅製隔壁ニシテ隔壁甲板直下ノ甲板間ニ於ケル水密隔壁ノ構造ト同一ノ構造ヲ有スルモノガ可燃性材料ノ内張ヲ有セザルトキハ之ヲ前項ノ規定ニ適合スル耐火隔壁ト看做ス

第六十八條 耐火隔壁ニ於ケル階段部及屈折部ハ隔壁ト同一ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要シ又開口ノ閉鎖裝置ハ耐火性ニシテ且焰ノ侵入ヲ防ギ得ルモノナルコトヲ要ス

第六十九條 船舶ニハ旅客室又ハ船員室ノ

在ル各水密區畫室ヨリ其ノ居住者ガ非常ノ際上甲板以上ノ開放セル場所ニ退去シ得ル爲適當ナル設備ヲ爲スベシ

各機關室、軸路其ノ他ノ作業場所ニハ非常ノ際ニ於ケル船員ノ避難ノ爲水密戸ト別箇ニ適當ナル設備ヲ備フベシ

第十二章 「ポンプ」排水裝置

第七十條 船舶ニハ主機關ニ依リ動作スル正溢水「ポンプ」又ハ之ニ代ル獨立機關ニ依リ動作スル正溢水「ポンプ」ノ外獨立ノ動力ニ依リ操作セラルル二箇ノ副溢水「ポンプ」ヲ備フベシ但シ九一・五メートル未滿ニシテ標準數三〇未滿ノ船舶ニ在リテハ船舶ノ前部及後部ニ各一箇ノ「クランク」型手動「ポンプ」ヲ備フルカ又ハ移動式動力「ポンプ」一箇ヲ備フルトキハ副溢水「ポンプ」ハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得

標準數三〇ヲ超ユル船舶ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ル副溢水「ポンプ」ノ外獨立ノ動力ニ依リ操作セラルル副溢水「ポンプ」一箇ヲ増備スベシ

衛生、脚荷又ハ雜用ノ「ポンプ」ガ溢水吸出管ニ適當ニ連結セラルルトキハ之ヲ前二項ノ副溢水「ポンプ」ト看做ス

第七十一條 前條ニ依リ二箇以上ノ副溢水「ポンプ」ヲ要スル船舶ニ在リテハ中一箇ハ潛水型ノ非常用「ポンプ」トシ隔壁甲板ノ上方ニ設置シタル動源ニ依リ非常ノ際ニ之ヲ動作シ得ル裝置ト爲スベシ

第七十二條 動力溢水「ポンプ」ハ成ルベク同一ノ損傷ニ依リ迅速ニ浸水スル處ナキ別々ノ水密區畫室ニ之ヲ設置スベシ若シ機關室ガ二箇以上ノ水密區畫室ヨリ成ルトキハ溢水「ポンプ」ヲ出來得ル限リ各室ニ分布スルコトヲ要ス

第七十三條 各溢水「ポンプ」ハ船首尾艙ニノミ使用スルモノヲ除キ手動ノモノナルト動力操作ノモノナルトヲ問ハズ船舶ノ各艙又ハ機關室ヨリ排水シ得ル樣裝置スベシ

第七十四條 各副溢水「ポンプ」ハ溢水主管ヲ通ル水ニ一分間一二メートル以上ノ速度ヲ與ヘ得ルモノナルコトヲ要シ且之ヲ設置シタル區畫室ニ對シ溢水主管ノ徑ヨリ小ナラザル徑ノ直接吸水管ヲ備フベシ

直接吸水管ハ船内ノ各側ヨリ吸水シ得ル樣之ヲ配置スベシ

第七十五條 溢水「ポンプ」ニ連結スル溢水主管及各水密區畫室ニ對スル溢水主管ノ内徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノ以上ト爲スベシ

一 溢水主管ノ徑ノ算式

$$\sqrt{\frac{1}{36}(B+D) + 2.5} \times 25.4 \text{ mm}$$

二 溢水主管ノ徑ノ算式

$$\sqrt{\frac{1}{36}(B+D) + 2.5} \times 25.4 \text{ mm}$$

但ハ船ノ幅ニメートル

DハLノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ隔壁甲板ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深サニメートル

ハ當該支管ニ依リ排水スベキ區畫室ノ長サニメートル

前項ノ規定ニ拘ラズ溢水主管ノ内徑ハ六センチメートルヨリ、溢水支管ノ内徑ハ五センチメートルヨリ小ナラザルコトヲ要シ又溢水支管ノ内徑ハ一〇センチメートルヨリ大ナルコトヲ要セズ

第七十六條 蒸汽機關ニ依リ推進スル船舶ニ在リテハ主海水吸入管ノ徑ノ三分ノ二以上ノ徑ヲ有スル不還弁付直接吸水管ヲ



主循環「ポンプ」ニ取附ケ之ヲ機關室内ノ  
 海水ノ最低吸水位置迄導クベシ又燃料ト  
 シテ石炭ヲ使用シ若ハ使用スルコトアル  
 船舶ニ於テ汽機室ト汽罐室トノ間ニ水密  
 隔壁ナキトキハ少クトモ一箇ノ循環「ボ  
 ンプ」ヨリ復水器ヲ通過セズシテ直接船  
 外へ排水スル爲別箇ノ排水管ヲ取附クル  
 カ又ハ循環水排出管ニ連結セル支管ヲ設  
 クベシ

サルルコトナキ様特別ノ設備ヲ爲スベ  
 シ  
 第七十九條 或區畫室ノ排水ニ使用スル溢  
 水管ガ船舶ノ衝突又ハ乗揚等ニ因リ該區  
 畫室外ノ場所ニ於テ損傷ヲ受ケ該區畫室  
 ニ浸水スル虞アルモノナルトキハ之ヲ防  
 止スル爲適當ノ設備ヲ爲スベシ溢水管ノ  
 何レカノ部分ガ船側ニ近ク設置セラルル  
 カ又ハ溝形龍骨内ニ設置セラルルトキハ  
 此ノ目的ノ爲管ノ開放端ノ在ル區畫室ニ  
 於テ之ニ不還弁ヲ取附クルカ又ハ隔壁甲  
 板ノ上方ノ場所ヨリ操作シ得ル螺締弁ヲ  
 取附クベシ

「ポンプ」ニ依リ浸水状態ニ在ル何レノ區  
 畫室ヨリモ吸水シ得ル様装置スベシ  
 第十三章 特殊ノ航路又ハ特殊旅客  
 ノ運送ニ使用スル船舶ニ  
 對スル特別規定  
 第八十一條 管海官廳短國際航海ニ從事ス  
 ル旅客船ニ付特ニ必要アリト認ムルトキ  
 ハ第七章乃至第九章及第十二章ニ規定ス  
 ル事項ニ付適當ニ斟酌スルコトヲ得  
 第八十二條 管海官廳ハ天候又ハ交通ノ狀  
 況ニ因リ特ニ危険多キ航路ニ於テ専ラ旅  
 客ノ運送ニ從事スル船舶ニ付必要アリト  
 認ムルトキハ其ノ區畫ヲ第四章及第五章  
 ニ規定スルモノヨリ更ニ細密ナラシムル  
 コトヲ得

第七十七條 貨物倉又ハ機關室ノ排水ニ用  
 ウル管ハ水槽又ハ油槽ニ對スル管ト區別  
 スベシ  
 石炭庫若ハ燃料油庫ノ下部、汽罐室又ハ  
 汽機室内ニハ排水用管トシテ鉛管ヲ使用  
 スルコトヲ得ズ沈澱油槽又ハ燃料油「ボ  
 ンプ」ヲ設置シタル發動機室内ニ於ケル  
 排水用管ニ付亦同ジ

第八十條 溢水排出装置用ノ配流箱、「コッ  
 ク」及弁ハ船舶ガ通常ノ状態ニ在ル場合  
 ニ於テ常ニ近寄り得ル場所ニ之ヲ設ケ且  
 非常用溢水「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ在リ  
 テハ之ニ依リ何レノ區畫室ヨリモ吸水シ  
 得ル様配置スベシ若シ各溢水「ポンプ」ニ  
 共通ナル一管系ノ「ミ」備フルトキハ該  
 「コック」又ハ弁ハ隔壁甲板ノ上方ヨリ之  
 ヲ操作シ得ルモノナルコトヲ要シ又主溢  
 水管系ノ外非常用溢水管系ヲ備フルトキ  
 ハ之ヲ主管系ヨリ獨立セシメ且非常用

第八十三條 管海官廳一定區域ノ航路ニ於  
 テ臨時旅客又ハ甲板旅客ヲ運送スル船舶  
 ニ付本令ノ規定ヲ適用スルコト實際上不  
 可能ナリト認ムルトキハ當該航路及旅客  
 ノ種類ヲ考慮シ適當ト認ムル程度迄之ヲ  
 斟酌スルコトヲ得  
 附則  
 第八十四條 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ  
 之ヲ施行ス

第八十五條 昭和六年六月三十日以前ニ龍  
 骨ヲ据附ケ旅客船トシテ製造シタル船舶  
 又ハ同日以前旅客船ニ變更シタル船舶ニ  
 付テハ管海官廳ニ於テ其ノ水密區畫其ノ  
 他ノ設備ヲ考慮シ實行不可能ニシテ且不  
 適當ナリト認ムル限リ本令ニ依ラシメザ  
 ルコトヲ得

第八章 梁及梁ノ配置  
 第九章 梁曲材  
 第十章 梁柱  
 第十一章 甲板、舷牆及内張板  
 第十二章 甲板  
 第十三章 船首肘材及船尾肘材  
 第十四章 適當比例ノ船舶  
 第十五章 甲板口及船側口  
 第十六章 固著釘及固著法  
 第十七章 填架及船底包板  
 第十八章 機關室  
 第十九章 船樓及甲板室  
 第二十章 檣、帆架及斜檣  
 第二十一章 通風間隙及溢水路  
 第二十二章 排水装置及諸管  
 第二十三章 操舵機具及揚錨、揚貨、繫船  
 等ノ装置  
 第二十四章 油運搬船

第二條 本令ニ於テ重甲板船トハ其ノ上甲  
 板下ニ重量ノ貨物ヲ積載シ得ル船舶ヲ謂  
 フ  
 本令ニ於テ輕甲板船トハ二層以上ノ甲板  
 ヲ有シ其ノ第二甲板以上ニハ専ラ船員、  
 旅客又ハ輕量ノ貨物ヲ搭載スルニ適スル  
 構造輕裝ナル汽船ニシテ其ノ上甲板上ニ  
 ハ船首樓、船尾樓又ハ全甲板面積ノ十分  
 ノ一ヲ超ユル船橋樓若ハ甲板室ヲ設置ス  
 ルニ適セザルモノヲ謂フ  
 第三條 本令ニ於テ船ノ長サトハ上甲板梁  
 上ニ於テ船首材ノ前面ヨリ推進器孔ヲ有  
 スル船舶ニ在リテハ舵柱ノ後面迄、之ヲ  
 有セザル船舶ニ在リテハ船尾材ノ後面迄  
 ノ水平距離ヲ謂フ但シ上部突出ノ船首材  
 ヲ有スル船舶ニ付テハ該材下部ノ前面ニ  
 沿ヒ延長シタル直線ヲ以テ船首材ノ前面  
 トシ、外舷ト内舷トヲ併有スル船舶ニ付  
 テハ内舷前面ヲ以テ船首材ノ前面トシ又  
 舵柱ヲ有セズ且舵ヲ船尾材ニ取附ケザル  
 船舶ニ付テハ舵頭ノ中心ヲ以テ舵柱ノ後  
 面トス  
 本令ニ於テ船ノ幅トハ船體最廣部ニ於テ  
 肋骨ノ外面ヨリ外面迄ノ水平距離ヲ謂フ  
 但シ舷端突出ノ肋骨ヲ有スル船舶ニ付テ

逓信省令第九號 (官報號外)  
 木船構造規程左ノ通定ム  
 昭和九年二月一日  
 逓信大臣 南 弘

木船構造規程  
 目次  
 第一章 總則  
 第二章 材料  
 第三章 龍骨、船首材、船尾材、舵柱、カ  
 材、船尾縱翼材、船尾橫翼材及船  
 尾管銅材  
 第四章 舵  
 第五章 肋骨  
 第六章 內龍骨、側内厚板、側内龍骨及彎  
 曲部縱通材  
 第七章 船鏢、梁壓材、副梁壓材、梁受板、  
 副梁受板、船側縱通材及內部腰  
 板

第一條 本令ニ於テ上甲板トハ最上層ノ甲  
 板ヲ謂ヒ第二甲板トハ第二層ノ甲板ヲ謂  
 フ

木船構造規程  
 第一章 總則

第一條 本令ニ於テ上甲板トハ最上層ノ甲  
 板ヲ謂ヒ第二甲板トハ第二層ノ甲板ヲ謂  
 フ

ハ肋骨下部ノ外面ニ沿ヒ延長シタル直線ヲ肋骨ノ外面ト看做ス

本令ニ於テ船ノ深サトハ船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離ヲ謂フ

第四條 本令ニ於テ第一數トハ重甲板船ニ在リテハ船ノ深サト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂ヒ輕甲板船ニ在リテハ船側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ト第二甲板梁ノ上面トノ中央迄ノ深サト幅ノ二分ノ一トヲ加ヘタル數ヲ謂フ

本令ニ於テ第二數トハ重甲板船ニ在リテハ船ノ長サト幅ト深サトヲ相乘シタル數ヲ謂ヒ輕甲板船ニ在リテハ長サト幅ト船側ニ於ケル上甲板梁ノ上面ト第二甲板梁ノ上面トノ中央迄ノ深サトヲ相乘シタル數ヲ謂フ

第五條 本令ハ特定アル場合ヲ除クノ外船ノ長サガ深サノ十倍ヲ超ユルコトナク且幅ノ六倍ヲ超エザル船舶ノ構造ヲ示シ又寸法及箇數ハ最小ノ限度ヲ、距離ハ最大ノ限度ヲ示シタルモノトス

第六條 船ノ長サ三〇メートル以上ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムル場合ノ外其ノ長サヲ深サノ十三倍以上ト爲スコトヲ得ズ

第七條 肋骨ノ寸法及心距ハ第一數ニ依リ、船首材、龍骨、船尾材、舵柱、船尾縱翼材、船尾橫翼材、舵心材、舵針、蝶番、内龍骨、側内厚板、側内龍骨、彎曲部縱通材、船側縱通材、内部腰板、梁受板、副梁受板、梁壓材、副梁壓材、船鏢、木甲板、内張板、外板及固著釘等ノ寸法ハ第二數ニ依リ、梁、梁曲材、船首材及船尾材等ノ寸法ハ船ノ幅ニ依リ之ヲ定ムベシ

第八條 船體各部ノ工事ハ良好且有效ナルコトヲ要ス

第九條 本令ノ規定ニ該當セザル船體ノ構造ニ材料及其ノ寸法ハ管海官廳ニ於テ本令ニ定ムルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノニ限リ本令ニ適合スルモノト看做ス

第十條 管海官廳ハ船舶ノ用途、航路ノ狀況又ハ載貨ノ種類ニ應ジ本令ノ規定ニ拘ラズ船體ノ構造及材料寸法ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第十一條 第三級船及第四級船ノ船體ノ構造

造竝ニ材料及其ノ寸法ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル但シ第百八條、第百十四條及第百二十二條ニ規定スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第二章 材料

第十二條 船體ノ構造ニ使用スル木材ハ有害ナル節瘤其ノ他ノ缺點ヲ有セズシテ十分乾燥シタルモノナルコトヲ要ス

第十三條 船體ノ構造ニ使用スル木材ハ天然ノ屈曲材ニシテ木理ノ通りタルモノナルコトヲ要ス

第十四條 船體構造材料ノ等級ハ第一號表ニ依ル

本令ニ規定スル縱梁、梁柱、梁下縱通材、櫓孔板竝ニ船口ノ蓋板、縱材及船口梁ノ寸法ハ乙材ヲ用キタルトキノ寸法トシ船口緣材、副龍骨、副内龍骨及第百四條ニ規定スル添材内龍骨ノ寸法ハ甲材ヲ用キタルトキノ寸法トス

第十五條 別表ニ掲グル木材ハ第一號表ニ掲グル同一等級ノ他ノ木材ヲ以テ代用スルコトヲ得

若ハ赤楡ヲ甲材ノ代リニ用ウルトキハ百分ノ十、丙材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十又丁材ヲ用ウルトキハ百分ノ三十以上其ノ面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ増スコトヲ要ス

二 乙材ノ代リニ丙材ヲ用ウルトキハ百分ノ十又丁材ヲ用ウルトキハ百分ノ二十以上其ノ面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ増スコトヲ要ス

三 乙材ノ代リニ甲材ヲ用ウルトキハ百分ノ十以下其ノ面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ減ズルコトヲ得

四 一チーク若ハ赤楡ヲ甲材ノ代リニ用ウルトキハ百分ノ十、乙材ノ代リニ用ウルトキハ百分ノ二十以下其ノ面積ヲ別表ニ掲グルモノヨリ減ズルコトヲ得

第十六條 第一級船ニ在リテハ本令ニ依リ甲材又ハ乙材ヲ使用スベキ場合ニ於テ丙材又ハ丁材ヲ使用スルコトヲ得ズ

第十八條 本令ニ規定スル堅材トハ楡、チーク、樺、楡、山毛榉、栗、櫻桃、椴、赤楠、椎、鹽地又ハ之ニ類似ノ木材ヲ謂ヒ柔材トハ松、杉、檜、米松、榿、赤松、桂、姫子松、横、赤身杉、檜、杉、蝦夷松、樺又ハ之ニ類似ノ木材ヲ謂フ

第三章 龍骨、船首材、船尾材、舵柱、力材、船尾縱翼材、船尾橫翼材及船尾管調材

第十九條 龍骨、船首材、船尾材及舵柱ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第二十條 龍骨ヲ構成スル各材ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外一〇・五メートル以上ナルコトヲ要ス

前項ノ長サヨリ短キ材ヲ龍骨ニ使用スルトキハ其ノ下面ニ副龍骨ヲ附スベシ此ノ場合ニ於ケル龍骨ノ深サハ規定ノ深サノ三分ノ二以上、副龍骨ノ深サハ龍骨ノ規定ノ深サノ二分ノ一以上ト爲シ肋骨心距ヨリ大ナラザル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

前二項ノ規定ハ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

龍骨ニハ龍骨翼板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿テ且溝ノ上部ニハ適當ナル緣ヲ殘シ置クベシ

第二十一條 龍骨ノ接手ハ鈎形水平嵌接ト爲スコトヲ要ス但シ嵌接ノ中央ニ大ナル木栓ヲ打込ムトキハ平面水平嵌接ト爲スコトヲ得

龍骨ノ嵌接ハ其ノ長サヲ用材ノ深サノ五倍以上、其ノ端末ノ深サヲ用材ノ深サノ四分ノ一以上ト爲シ其ノ兩端ニ一ニ箇宛、其ノ中間ニ三〇センチメートルノ心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

龍骨ノ嵌接ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防グ爲水留栓ヲ打込ムベシ

龍骨ノ嵌接ハ副龍骨及龍骨翼板ノ嵌接ト一・五メートル以上相避距セシメ且櫓根及船口ト適當ニ避距セシムベシ

第二十二條 船首材ノ寸法ハ滿載吃水線ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ漸次減少シテ其ノ頂上ニ於ケル面積ハ規定ノ面積ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

船首材ハ一材ヲ以テ作ルベシ但シ長サ三〇メートル以上ノ船舶ニシテ其ノ船首材ノ嵌接ノ長サヲ用材ノ深サノ三倍半以上

ト爲シ且適當ノ副船首材ヲ設クル場合ニ於テハ二材ヲ以テ作ルコトヲ得  
船首材ト龍骨トノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ四倍以上ト爲シ且前條ニ規定スル龍骨ノ嵌接ニ等シキ構造ト爲スベシ  
船首材ノ下部屈曲セズシテ龍骨ニ衝接スルトキハ箱ニテ相嵌込ミ兩面ニ適當ナル金具ヲ附シ且内部ニ根曲材ヲ設ケ其ノ衝接部ヲ緊著スベシ又接合部ニハ適當ノ位置ニ浸水ヲ防グ爲水留栓ヲ打込ムベシ  
第二十三條 車軸孔ヲ有セザル船尾材ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り其ノ上部ヲ上甲板梁ニ固著シ其ノ下部ニ於ケル龍骨トノ固著ハ前條第四項ノ規定ニ依ルベシ  
前項ノ船尾材ノ寸法ハ龍骨管ノ下部ヨリ漸次減少シテ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノ截面積ノ四分ノ三ト爲スコトヲ得

前項ノ船尾材ノ車軸孔ノ各側ニ於テハ其ノ截面積ヲ船尾材ノ規定ノ截面積ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ厚サヲ規定ノ厚サノ二分ノ一以上ト爲スベシ  
第二十五條 舵柱ハ眞直ナル一材ヲ以テ作り上甲板迄達セシメ其ノ下部ニ於テハ箱ニテ龍骨ニ嵌込ミ且船尾材、龍骨及舵柱ニ跨ル黃銅製金具ヲ兩面ニ取附ケ三材ノ結合ヲ堅固ナラシムベシ但シ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ付テハ管海官廳ニ於テ固著方ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得  
龍骨ヲ船尾材ニ止ムルトキハ第三號表ニ掲グル龍骨ノ寸法ノ五分ノ一ヨリ小ナラザル厚サヲ有スル黃銅製連結材ヲ設ケ之ヲ船尾材、龍骨及舵柱ニ堅牢ニ固著スベシ  
第二十六條 船尾材ト舵柱トハ其ノ上部空間ニ堅材ヲ挿入シ其ノ兩面ニ第三號表ニ掲グル船尾縱翼材ヲ設ケ之ヲ緊著セシムベシ  
船尾縱翼材ハ舵柱ノ接面ヨリ上部ニ至ルニ從ヒ其ノ截面積ヲ減ジ其ノ頂上ニ於ケル截面積ハ規定ノモノノ三分ノ二ト爲スコトヲ得

舵柱ヲ有セザル船舶ニ在リテハ前二項ノ規定ニ準ジ船尾縱翼材ヲ設クルカ又ハ船尾材前面ニ船尾縱翼材ヲ設ケ之ヲ船尾材ニ緊著シ且其ノ兩端ヲ横曲材ヲ以テ船側ニ固著スベシ  
船尾縱翼材ハ成ルベク一材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ第三號表ニ依ルベシ但シ其ノ兩端ニ於ケル截面積ハ規定ノモノノ四分ノ三ト爲スコトヲ得  
第二十七條 船首材及船尾材ニハ外板ヲ受クルニ適當ナル溝ヲ穿ツベシ  
第二十八條 船ノ首尾ニハ斜肋骨ヲ取附クルニ十分ナル高サ及長サヲ有シ龍骨ノ厚サヨリ小ナラザル厚サヲ有スル力材ヲ設クベシ  
第二十九條 船尾管胴材ハ堅材ヲ以テ作り其ノ寸法ハ船尾管ノ徑ノ二倍以上ト爲スベシ  
船尾管胴材ハ成ルベク上下二材ヲ以テ構成シ孔ノ兩側ニ於テ三〇センチメートルヲ超エザル心距ニ截釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ  
船尾管胴材上部ニハ堅曲材ヲ設ケ船尾材及管胴材ヲ緊著スベシ

船尾管ノ外面ハ少クトモ其ノ前後部ニ於テハ船尾管胴材及船尾材ノ孔面ニ密接セシムルコトヲ要ス

第四章 舵

第三十條 舵心材ノ徑ハ第三號表ニ依ル航海速度一時間ニ付十海里以上ノ汽船及船體ノ大サニ比シ特ニ大ナル舵ヲ有スル船舶ノ舵心材ハ適當ニ其ノ徑ヲ増加スベシ  
第三十一條 舵心材ハ舵頭迄一材ヲ以テ作り之ヲ矧材ト緊著セシムベシ  
矧材ノ厚サハ之ヲ舵心材ノ厚サト等シクシ其ノ後端ニ至ルニ從ヒ適當ニ其ノ厚サヲ減ズルコトヲ得  
舵心材頂部ノ舵柄取附部ハ成ルベク角形ト爲シ且其ノ截面積ヲ適當ニ増加スベシ  
舵心材筆先部ノ長サハ舵心材ノ徑ノ二倍半ヨリ大ナルコトヲ要ス  
第三十二條 舵針及壺金ノ材料、寸法及螺番ノ數ハ第三號表ニ依ル  
最上ノ螺番ハ成ルベク舵頭管ニ近ク之ヲ設クベシ  
第三十三條 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ有ス

ル船舶ノ螺番及舵針ハ黃銅製ナルコトヲ要ス

第五章 肋骨

第三十四條 肋骨ハ天然ノ曲材ヲ以テ構成シ其ノ寸法及心距ハ第二號表ニ依ル肋骨ノ心距ハ肋骨ノ寸法ヲ規定ノ寸法ヨリ大ト爲ストキハ其ノ寸法ニ應ジ第二號表ニ掲グルモノヨリ大ト爲スコトヲ得  
肋骨心距ガ第二號表ニ掲グル肋骨心距ノ一倍四分ノ一ヲ超ユルトキハ適當ノ斜帶板ヲ肋骨外面ニ取附クベシ  
第三十五條 肋根材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ累接シ長短肢配置ト爲ストキハ船ノ中央部ニ於テハ各肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ五分ノ二以上ト爲シ且累接ノ長サヲ船ノ幅ノ七分ノ一以上ト爲スベシ  
第三十六條 肋根材及半肋根材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ四分ノ一以上六半肋根材ノ總長ヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲スベシ  
半肋根材ノ衝接ハ龍骨ノ中心線ヲ交互ニ五センチメートル以上左右ニ隔離セシムルコトヲ要ス

第三十七條 長肋根材ト短肋根材トヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ長肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ二分ノ一以上、短肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ七分ノ一以上ト爲シ龍骨ノ上面ニ於テ相累接セシムベシ  
第三十八條 二材合セ肋骨ノ肋材衝接ノ避距ハ第一號七以下ノ船舶ニ於テハ船ノ幅ノ八分ノ一以上、第一號七ヲ超ユル船舶ニ於テハ船ノ幅ノ九分ノ一以上ト爲スベシ  
肋材ノ衝接ハ總テ密接セシメ木栓ヲ以テ相嵌合セシムベシ但シ第一號七以下ノ船舶ニ付テハ木栓ヲ省略スルコトヲ得  
肋骨ヲ構成スル肋材ハ其ノ衝接ノ兩側ニ於テ截釘又ハ木釘ヲ以テ他ノ肋材ニ緊著セシメ且衝接ノ中間ニ於テ心距四五センチメートル以内ニ木釘又ハ打込釘ヲ以テ固著セシムベシ  
第三十九條 衝接又ハ嵌接シタル單材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ船ノ中央部ニ於テハ肋根材ノ長サヲ船ノ幅ノ五分ノ三以上ト爲シ其ノ他ノ肋材ノ長サヲ船ノ幅ノ三分ノ一以上ト爲スベシ

單材肋骨ノ銜接又ハ嵌接ハ之ヲ其ノ隣接肋骨ノ銜接又ハ嵌接ト船ノ幅ノ七分ノ一以上相避距セシムベシ

單材肋骨ノ銜接部ニハ用材ノ面積積以上ノ面積積ヲ有シ用材ノ深サノ四倍以上ノ長サヲ有スル添材ヲ取附ケ銜接ノ兩側ニ於テ二箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ又其ノ嵌接部ハ嵌接ノ長サヲ用材ノ深サノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ但シ肋根材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ銜接又ハ嵌接スルトキハ船ノ幅ノ五分ノ一以上ノ長サヲ有スル添材ヲ設クルコトヲ要ス

第四十條 蒸曲材ヲ以テ肋骨ヲ構成スルトキハ第二號表ニ掲グルモノヨリ其ノ寸法ヲ減ズルコトヲ得但シ此ノ場合ニ於テハ肋骨ノ心距ヲ適當ニ減ズベシ

第四十一條 船ノ幅ガ深サノ三倍以上ナル船ニ於テハ中央部船ノ長サノ三分ノ二間ハ底部肋骨ノ寸法ヲ增加スベシ

船底彎曲部ノ彎曲半徑小ナル船ニ於テハ彎曲部肋骨ヲ適當ニ補強スベシ

第四十二條 斜肋骨ノ踵部ハ力材ニ植込ミ敲釘ヲ以テ堅牢ニ緊著セシムベシ

第四十三條 船首肋材及錨鎖孔材ハ各一材

ヲ以テ作り其ノ厚サヲ肋骨ノ厚サノ二倍以上ト爲スベシ

船首材ヨリ錨鎖孔材ノ後方適當ナル距離迄船首肋材、錨鎖孔材及肋骨ノ間隙ニハ填材ヲ挿入スベシ

第四十四條 船尾肋材ハ其ノ心距ヲ頂部ニ於テ第二號表ニ掲グル心距以下、踵部ニ於テ二分ノ一以下ト爲シ其ノ面積積ヲ踵部ニ於テ規定ノ單材肋骨ノ頂材ノ面積積ノ一倍三分ノ一以上、頂部ニ於テ四分ノ三以上ト爲スベシ

船尾肋材ハ船尾縱翼材又ハ船尾橫翼材ニ植込ミ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第六章 內龍骨、側內厚板、側內龍骨及彎曲部縱通材

第四十五條 內龍骨、側內厚板及側內龍骨ノ寸法並ニ彎曲部縱通材ノ厚サハ第三號表ニ依ル

第四十六條 內龍骨ヲ構成スル各材ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ使用スルモノヲ除クノ外九メートル以上ナルコトヲ要ス

前項ノ長サヨリ短キ材ヲ以テ內龍骨ヲ構成スルトキハ其ノ上面ニ副內龍骨ヲ附ス

ベシ此ノ場合ニ於ケル內龍骨ノ深サハ規定ノ深サノ三分ノ二以上、副內龍骨ノ深サハ內龍骨ノ規定ノ深サノ二分ノ一以上ト爲シ肋骨心距ヨリ大ナラザル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

前二項ノ規定ハ長サ三〇メートル未滿ノ船ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

第四十七條 內龍骨ノ嵌接ハ水平嵌接ト爲シ其ノ長サハ用材ノ深サノ五倍以上、其ノ端末ノ深サハ四分ノ一以上ト爲シ其ノ兩端ニ二箇宛、其ノ中間ニ三〇センチメートルノ心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ

內龍骨ノ嵌接ハ龍骨及副內龍骨ノ嵌接ト一・五メートル以上相避距セシム又機關ト適當ニ避距セシムベシ

第四十八條 內龍骨ト船ノ首尾ニ於ケル力材トハ二肋骨心距以上相累ネ龍骨迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第四十九條 檣ハ檣座ニ嵌込ミ直接內龍骨ニ嵌込ムコトヲ得ズ

第五十條 側內厚板ハ成ルベク肋根材ト第一肋材トノ接合部ニ之ヲ設クベシ

第五十一條 側內龍骨ハ第二號四五〇以上ノ船ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ船ノ首尾兩端ニ於テハ適當ニ減少スルコトヲ得

側內龍骨ノ嵌接ノ長サハ用材ノ深サノ四倍以上ト爲シ四箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第五十二條 船底彎曲部ニハ船ノ首尾ニ通ズル彎曲部縱通材ヲ設ケ其ノ各側ニ於ケル總幅ハ船ノ幅ノ六分ノ一以上ト爲スベシ但シ船ノ首尾ニ於テハ總幅ヲ適當ニ減ズルコトヲ得

第五十三條 側內厚板及彎曲部縱通材ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ成ルベク三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ

第七章 船鰐、梁壓材、副梁壓材、梁受板、副梁受板、船側縱通材及內部腰板

第五十四條 船鰐ハ船ノ長サ二〇メートル以上ノ船ニ之ヲ設クベシ但シ第二號四五〇未滿ノ船ニ於テハ梁壓材ノ幅ヲ第三號表ニ掲グルモノノ一倍半以上ト爲シ之ヲ船鰐ニ兼用スルモ妨ナシ

第五十五條 船鰐ノ厚サハ第三號表ニ依リ其ノ幅ハ外板及梁壓材ニ固著スルニ十分ナルモノト爲スコトヲ要ス

船鰐ヲ貫キテ舷柱ヲ設クルトキハ船鰐ハ二材ヲ以テ構成スルコトヲ得

第五十六條 梁壓材ハ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船梁ニ設クルモノハ同表ニ掲グル二段上級ノモノト爲スコトヲ要ス

梁トノ接合部ニ於ケル梁壓材ノ幅ハ第四號表ニ掲グル梁ノ幅以上ナルコトヲ要ス

第五十七條 副梁壓材ハ第二號八〇〇以上ノ船ニ各層甲板梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第五十八條 梁受板ハ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船梁ニ設クルモノハ同表ニ掲グル二段上級ノモノト爲スコトヲ要ス

第五十九條 副梁受板ハ第二號三七五ヲ超ユル船ニ各層梁ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十條 船側縱通材ハ船ノ長サノ中央ニ於テ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深サガ三メートル以上ナル船ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十一條 內部腰板ハ第二甲板梁又ハ船梁ノ梁壓材上ニ之ヲ設ケ其ノ寸法ハ第三號表ニ依ル

第六十二條 船鰐、梁壓材、副梁壓材、梁受板、副梁受板、船側縱通材及內部腰板ノ嵌接ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ但シ副梁壓材、副梁受板及內部腰板ノ嵌接ニ付テハ敲釘ノ代リニ打込釘ヲ用ウルコトヲ得

前項ニ掲グル各材ノ嵌接ハ適當ニ相互ニ避距セシムベシ

第八章 梁及梁ノ配置

第六十三條 甲板梁及船梁ノ寸法ハ第四號表ニ依ル但シ輕甲板船ノ甲板梁ノ寸法ハ同表ニ掲グル二段下級ノモノト爲スコトヲ得

船ノ首尾ニ於テ甲板ノ幅ガ中央部ニ於ケル船ノ幅ノ四分ノ三ヨリ小ナル部分ニ附スル梁ハ其ノ面積積ヲ前項ニ掲グルモノノ四分ノ三迄減ズルコトヲ得

第六十四條 甲板梁ノ心距ハ肋骨心距ノ二倍ト爲スベシ但シ二〇センチメートルヲ超過スルコトヲ得ズ

第六十五條 梁ハ其ノ中央ヨリ兩端ニ至ルニ從ヒ漸次其ノ深サヲ減少シテ梁端ニ於テハ中央ノ深サノ十分ノ九ト爲スコトヲ得

第六十六條 上甲板矢ハ梁ノ梁ノ長サノ五十分ノ一、第二甲板梁ノ梁矢ハ梁ノ長サノ百分ノ一ト爲スベシ

第六十七條 各層ニ於ケル梁ハ成ルベク肋骨ノ位置ニ設ケ肋骨ニ密接セシメ且梁受板上ノ鳩尾形溝ニ嵌込ムベシ

第六十八條 甲板口ノ端梁ノ面積ハ甲板梁ノ規定ノ面積ニ左ノ係數ヲ乗ジタルモノト爲スベシ但シ機關室口ノ端梁ノ寸法ハ第四號表ニ掲グル輪梁ノ寸法以上ナルコトヲ要ス

甲板口ノ長サ(米)	係數
二・五未満	一・一
二・五以上 三・五未満	一・二
三・五以上 四・五未満	一・三
四・五以上	一・四

甲板口ノ位置ニ特設梁ヲ設ケタル場合ニ

於テハ甲板口ノ端ヨリ特設梁迄ノ距離ヲ甲板口ノ長サニ充テ前項ノ規定ヲ適用スベシ

第六十九條 甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ノ面積ハ甲板梁ノ四分ノ三ト爲シ其ノ心距ハ甲板梁ノ心距ニ等シク爲スベシ但シ船ノ幅ノ四分ノ一以下ノ長サヲ有スル半梁ノ寸法ハ適當ニ之ヲ減ズルコトヲ得

第七十條 甲板口及橋孔ノ兩側ニハ縱梁ヲ設クベシ

第七十一條 船ノ長サノ中央ニ於テ最下甲板梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ深サガ四メ

縱梁ノ長サ(米)	係數
二・五未満	〇・八
二・五以上 三・五未満	一・〇
三・五以上 四・五未満	一・二
四・五以上	一・三

機關室口ノ縱梁ハ堅材ナルコトヲ要ス

一トル以上五メートル未満ナル船舶ニ於テハ船ノ長サノ中央部二分ノ一間ハ上甲板梁一本置ニ輪梁ヲ設クベシ

第七十二條 前條第一項ノ船舶ニ在リテハ船ノ長サノ中央部二分ノ一間ニ於テ船側肋骨、船底肋骨及甲板梁ノ面積ヲ規定ノ面積ノ五分ノ一以上、彎曲部肋骨ノ面積ヲ規定ノ面積ノ三分ノ一以上増加シ且第六十條ニ規定スル船側縱通材ノ面積ヲ輪梁ノ規定ノ面積以上ト爲ストキハ輪梁ヲ設ケザルモ妨ナシ

第七十三條 船口、機關室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハザルトキハ適當ノ補強構造ヲ爲スベシ、揚錨機、斜橋等ヲ支フル梁ハ其ノ寸法ヲ適當ニ増加スベシ

半ト爲ストキハ梁一本置ニ梁柱ヲ省略スルコトヲ得

第九章 梁曲材

第七十四條 各層甲板梁ニハ梁毎ニ第四號表ニ掲グル堅梁曲材ヲ取附クベシ但シ船ノ幅五メートル未満ノ船舶ニ付テハ堅梁曲材ノ寸法ヲ同表ニ掲グル二段上級ノモノト爲ストキハ甲板梁一本置ニ之ヲ取附クルコトヲ得

第七十五條 輪梁ニハ梁毎ニ第四號表ニ掲グル三段上級ノ堅梁曲材ヲ取附クベシ

第七十六條 堅梁曲材ノ代リニ鋼製肘板及山形材ヲ用ウルトキハ其ノ寸法ハ第四號表ニ依ル但シ梁腕及側腕ニ於ケル山形材ノ長サハ堅梁曲材ノ腕ノ長サト等シクスベシ

第七十七條 橋孔前後ノ梁又ハ長サ一・五メートルヲ超ユル甲板口ノ縱梁及端梁ノ兩端ニハ橫梁曲材ヲ取附クベシ

橫梁曲材ノ厚サ及幅ハ第四號表ニ掲グル堅梁曲材ノ厚サ及幅ノ四分ノ三以上ト爲スベシ

第七十八條 甲板口ノ兩側ニ設クル半梁ハ堅梁曲材ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムルノ外其ノ兩端ニハ橫梁曲材ヲ設ケ之ヲ船側及縱梁ニ固著セシムベシ但シ船ノ幅ノ四分ノ一以下ノ長サヲ有スル半梁ニ於テハ堅梁曲材ハ之ヲ梁毎ニ附セザルモ妨ナク又長サ二・五メートル未満ノ甲板口ニ於ケル半梁ニ付テハ管海官廳ニ於テ橫梁曲材ノ取附ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第七十九條 肋骨間ニ於テ堅梁曲材ヲ固著セシムルトキハ該部ニ填材ヲ挿入スベシ

第十章 梁柱

第八十條 梁柱ハ梁毎ニ之ヲ設クベシ但シ船ノ首尾ニ於テ上甲板ノ幅ガ船ノ幅ノ二分ノ一以下ナル部分ニ設クル梁ニハ之ヲ設ケザルモ妨ナシ

第八十一條 甲板梁ノ規定ノ面積以上ノ面積ヲ有スル梁下縱通材ヲ設ケ且梁柱ノ面積ヲ第八十三條ニ依ルモノノ一倍

第八十二條 船ノ幅五メートル未満ノ船舶ニ於テハ梁及之ニ附スル堅梁曲材ノ寸法ヲ表ニ掲グル三段上級ノモノト爲ストキハ梁柱ヲ設ケザルモ妨ナシ

第八十三條 船内ニ於ケル木製梁柱ノ各邊ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

S = 15(N+2)  
Sハ各邊ノ寸法ニミリメートル  
Nハ第一數  
鐵製中實梁柱ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ  
D = 0.2(N+1)  
Dハ徑ニミリメートル  
Nハ第一數

第八十四條 梁ノ心距ガ規定ノモノヨリ大ナルトキハ梁柱ノ寸法ハ前條ノ規定ニ依ルモノヨリ適當ニ其ノ寸法ヲ増加スベシ

第八十五條 梁柱ガ木製ナルトキハ適當ナル金具ヲ以テ又鐵製ナルトキハ二箇以上ノ螺釘又ハ捻込釘ヲ以テ十分ニ其ノ兩端ヲ固著セシムベシ

第八十六條 甲板室、斜橋、揚貨機及揚貨機等ヲ支フル梁其ノ他必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ設クベシ

第十一章 外板、舷壁及内張板  
第八十七條 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ寸法ハ第三號表ニ依ル但シ船ノ首尾兩端ニ於テ船ノ長サノ五分ノ一間ハ車軸覆板ノ附近ニ於ケル外板ヲ除キ漸次其ノ厚サヲ減ジ船ノ首尾ニ在リテハ同表ニ掲グル寸法ノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第八十八條 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ長サハ船ノ首尾兩端ニ用ウルモノヲ除クノ外五・五メートル以上ト爲シ外板及外部腰板ノ幅ハ三〇センチメートル以下ト爲スベシ

第八十九條 外板、外部腰板、舷側厚板及龍骨翼板ノ横縁ハ上下ニ隣接スルトキハ三肋骨心距以上、一條ヲ隔ツルトキハ二肋骨心距以上、二條ヲ隔ツルトキハ一肋骨心距以上、二條ヲ隔ツルトキハ一肋骨

木甲板ノ長サハ五・五メートル以上ト爲スベシ但シ船ノ首尾兩端及甲板口間ニ於ケルモノハ此ノ限ニ在ラズ

第九十六條 木甲板ノ横縁ハ相隣接スル木甲板ニ付テハ梁心距ノ二倍以上相互ニ避距セシムルコトヲ要シ又木甲板三條ヲ隔ツルニ非ザレバ同一ノ梁上ニ之ヲ置クコトヲ得ズ

第九十七條 艙口、機關室口其ノ他大ナル甲板口ガ相接近スルトキハ該口間ノ木甲板ハ其ノ厚サヲ適當ニ増加シ之ヲ特ニ堅牢ニ梁ト固著セシムベシ

第九十八條 揚貨機、揚貨機、繫船機具等ノ下部ニ於ケル甲板ニハ適當ナル補強構造ヲ爲スベシ

第十三章 船首肘材及船尾肘材  
第九十九條 最下層梁ノ下方ニ於テハ左表ニ定ムル數ノ船首肘材及船尾肘材ヲ設ケ層梁間ニ於テハ一箇以上ノ船首肘材ヲ設クベシ

心距以上相互ニ避距セシムルコトヲ要シ又三條ヲ隔ツルニ非ザレバ同一ノ肋骨上ニ之ヲ置クコトヲ得ズ但シ船ノ首尾兩端ニ於テハ之ヲ適用セザルコトヲ得

第九十條 龍骨翼板ノ兩舷ニ於ケル横縁ハ相互ニ三肋骨心距以上且龍骨ノ嵌接ト一・五メートル以上避距セシムベシ

龍骨翼板ノ横縁ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ但シ長サ三〇メートル未滿ノ船舶ニ於ケル龍骨翼板ノ嵌接ニ付テハ敲釘ノ代リニ龍骨迄達スル長サヲ有スル打込釘ヲ用ウルコトヲ得

第九十一條 外部腰板ハ吃水線附近ニ取附ケ其ノ總幅ハ左表ニ依ル

第九十二條 舷側厚板ハ其ノ幅三〇センチ

船ノ長サノ深サニ對スル割合	外部腰板ノ總幅ト船ノ深サトノ割合
六倍以下	百分ノ二十五
六倍ヲ超エ八倍以下	百分ノ三十
八倍ヲ超エ十倍以下	百分ノ三十五
十倍ヲ超ユルトキ	百分ノ四十

メートルヲ超ユルトキハ二材ヲ以テ之ヲ構成スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ各材ハ肋骨ノ間ニ於テ二肋骨心距ヨリ大ナラザル心距ニ敲釘ヲ用キテ相互ニ緊著セシムベシ  
舷側厚板ノ横縁ハ梁壓材及梁受板ノ嵌接ト適當ニ避距セシムベシ  
舷側厚板ノ横縁ハ嵌接ト爲スコトヲ要シ其ノ長サハ用材ノ幅ノ三倍以上ト爲シ三箇以上ノ敲釘ヲ以テ相互ニ緊著セシムベシ  
第九十三條 重甲板船ノ暴露上甲板ニハ適當ナル高サヲ有スル舷壁ヲ設クベシ  
前項ノ舷壁ハ之ヲ堅牢ニ構造シ若シ舷門ヲ設クル爲之ヲ切斷スルトキハ其ノ兩側ノ舷壁柱ヲ適當ニ補強スベシ  
第九十四條 内張板ノ厚サハ第三號表ニ依ル但シ船ノ首尾兩端ニ於テハ同表ニ掲グル厚サノ十分ノ八ト爲スコトヲ得  
第十二章 甲板  
第九十五條 木甲板ノ厚サハ第三號表ニ依ル木甲板ノ幅ハ二五センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ又其ノ端末ニ於ケル幅ハ填絮ヲ施スニ十分ナルコトヲ要ス

種類	船ノ長サノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ最下層梁ノ船側ニ於ケル上面迄ノ垂直距離		
	以下ノトキ	三メートル以下	五メートルヲ超ユルトキ
船首肘材ノ數	一箇	二箇	三箇
船尾肘材ノ數	一箇	二箇	三箇
第一百條 船首肘材及船尾肘材ノ寸法ハ第四號表ニ依ル	各層梁受板ノ端末ニハ別ニ肘材ヲ設クベシ		
第一百一條 船首肘材及船尾肘材ハ成ルベク縦通材ノ位置ニ之ヲ設ケ下部ニ用ウルモノハ其ノ部分ニ於ケル内張板ニ四五度ノ角度ヲ以テ之ヲ交叉セシムベシ	第十四章 適當比例ノ船舶		
長サガ深サ又ハ幅トノ比	梁壓材ノ增加舷側厚板ノ增加内龍骨ノ增加	舷側厚板ノ增加内龍骨ノ增加	計
長サガ深サノ十倍ヲ超エ十一倍以下	百分ノ十五	百分ノ十五	百分ノ二十五
長サガ深サノ十一倍ヲ超エ十二倍以下	百分ノ三十	百分ノ三十	百分ノ五十
長サガ深サノ十二倍ヲ超エ十八倍以下	百分ノ五十	百分ノ五十	百分ノ八十

第一百五條 第二數八〇〇ヲ超ユル過當比例ノ船舶ニ付テハ船ノ首尾ヲ通シ鋼製斜帯板ヲ肋骨ノ外面ニ取附クベシ

第六條 斜帯板ハ肋骨ニ四五度ノ角度ニ取附ケ船首ニ於テハ其ノ頭部ヲ後方ニ向ハシメ船尾ニ於テハ之ヲ前方ニ向ハシムル様配置シ船體ノ下部ヨリ肋根材迄達セシメ其ノ心距ハ左表ニ依ル

長サト深サ又ハ幅トノ比	心距(種)
長サガ深サノ十倍ヲ超エ十一倍以下又ハ幅ノ六倍ヲ超エ七倍以下	二四〇
長サガ深サノ十一倍ヲ超エ十二倍以下又ハ幅ノ七倍ヲ超エ八倍以下	二一〇
長サガ深サノ十二倍ヲ超ユルモ又ハ幅ノ八倍ヲ超ユルモノ	一八〇

船舶ノ種類	第一級船又ハ長サ六〇メートルヲ超ユル第二級船	第三級船
重甲板船ノ上甲板	四五種	一五種
輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板	三〇種	一五種
船尾樓甲板ヲ除ク	二三種	一〇種

第七條 斜帯板ハ船ノ中央部ニ於テハ三本以上相交セシメ其ノ交叉部ハ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル鉸釘一箇ヲ以テ固著セシムベシ

第十五章 甲板口及船側口  
第八條 暴露甲板ニ設クル船口、機關室口、載炭口、出入口、天窓、通風器等ノ諸口及甲板口ヲ蔽圍スル甲板室ニハ縁材ヲ設ケ其ノ甲板上ノ高サハ左表ニ依ルベシ但シ第三級船ノ上甲板ニ設クル大ナル船口ニ於テ挿板等ヲ以テ之ヲ蔽圍スル構造ト爲スモノニ付テハ其ノ水密裝置適當ナラザル限り船口縁材ノ甲板上ノ高サヲ四五センチメートル以上ト爲スベシ

長サ六〇メートル以下ノ第二級船	第三級船
四五種	一五種
三〇種	一五種
二三種	一〇種

船樓甲板又ハ第三級船以下ノ船舶ノ上甲板ニ於テハ平載炭孔ヲ設クルコトヲ得前項ノ平載炭孔ノ枠及蓋ハ黃銅製又ハ鋼製ニテ堅牢ニ之ヲ構造シ其ノ蓋ハ螺込又ハ挿込接合ト爲シ若シ蝶番ニ依リ取附ケラレザルトキハ鎖ヲ以テ常ニ枠ニ連結シ置クコトヲ要ス

第九條 帆船ニ付テハ上甲板及檣ヲ楔止メト爲ス甲板ニ於ケル檣ノ前後ノ梁ノ間ニハ檣ノ兩側ニ縱梁ヲ設ケ填材及橫梁曲材ヲ以テ固メ且其ノ上面ニ甲板ノ厚サノ一倍三分ノ一ノ厚サト檣徑ノ二倍ヨリ少カラザル幅トヲ有スル檣孔板ヲ設クベシ但シ小ナル檣孔ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第十條 長サ二・五メートル以上ノ船口ニハ中央ニ堅牢ナル取外シ得ベキ梁ヲ設

ケ縱梁ニ堅固ニ取附ケラレタル堅材ノ受臺ニ嵌込ムベシ

長サ三・五メートル以上ノ船口ニハ前項ノ梁ノ代リニ第四號表ニ掲グル船梁ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一箇及橫梁曲材二箇ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムベシ

長サ四・五メートルヲ超ユル船口又ハ船ノ幅ノ三分ノ一ヲ超ユル幅ヲ有スル船口ニ在リテハ管海官廳ノ適當ト認ムル方法ニ依リ船體ノ強力ヲ補強スベシ

第一百一條 船口ニハ蓋板ヲ備ヘ縱材又ハ船口梁ヲ以テ之ヲ支フル裝置ト爲スベシ船口ノ縱材又ハ船口梁ノ心距ハ一・五メートル以內ト爲シ其ノ兩端ハ縁材ニ堅牢ニ取附ケラレタル堅材ノ受臺ニ嵌込ムベシ

縱材又ハ船口梁ノ心距	縱材又ハ船口梁ノ外面ニ
長サ(米)	一・五メートル以下ノトキ
一・五	一三種角
二・五	一八種角
三・五	二二種角
四・五	二六種角

長サ三〇メートル未滿ノ船舶又ハ輕甲板船ノ上甲板、低船首樓甲板及低船尾樓甲板ニ於ケル船口ノ蓋板、縱材又ハ船口梁ノ寸法ハ前二項ニ依ルモノノ十分ノ八ト爲スコトヲ得

第十二條 暴露甲板ノ船口縁材ノ外面ニハ七五センチメートル以內ノ心距ニ及船口ノ四隅ヨリ二〇センチメートルヲ超エザル距離ニ堅牢ナル帶金受ヲ取附ケ覆布、帶金又ハ帶板及楔ヲ以テ密閉シ得ベキ裝置ト爲スベシ但シ小ナル船口ノ密閉裝置ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル近海以上ノ航行區域ヲ有スル總噸數一五〇噸以上ノ船舶ノ暴露セル各船口ニハ船

口覆布試驗規程ニ依ル甲種覆布二枚ヲ備ヘ且船口ノ長サ三メートル以上ナルトキハ適當ナル壓材ヲ以テ之ヲ締附クル裝置ヲ備フベシ

第十三條 長サ三・五メートル以上ノ機關室口ノ中央ニハ第四號表ニ掲グル船梁ノ寸法以上ノ寸法ヲ有スル堅材ノ特設梁ヲ設ケ其ノ兩端ハ堅梁曲材一箇及橫梁曲材二箇ヲ以テ之ヲ船側ニ固著セシムベシ

第十四條 機關室口ハ成ルベク小サク之ヲ作り其ノ周圍ニハ縁材ヲ取附ケ甲板間ニ圍壁ヲ設クベシ

船舶ノ種類	第一級船又ハ長サ六〇メートルヲ超ル以下ノ第二級船			第三級船
	重甲板船ノ上甲板	輕甲板船ノ上甲板	輕甲板船ノ上甲板及低船首樓甲板及低船尾樓甲板(低船首樓甲板及低船尾樓甲板ヲ除ク)	
第一級船又ハ長サ六〇メートルヲ超ル以下ノ第二級船	一五〇種	一二〇種	九〇種	六〇種
第三級船	六〇種	六〇種	六〇種	六〇種

舷窓試驗規程ニ適合スル甲種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノ又海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一二センチメートル未滿ノ箇所ニ下面ノ最低點ヲ有スル甲板ノ下方ニ設ケル舷窓ハ同規程ニ適合スル乙種舷窓又ハ之ト同等以上ノモノナルコトヲ要ス

第十六章 固著釘及固著法

第二百十條 堅梁曲材ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第四號表ニ依リ其ノ他重要ナル部分ニ用ウル固著釘ノ徑ハ第五號表ニ依ル但シ用材ノ寸法ガ規定ノ寸法ヨリ大ナルトキハ固著釘ノ徑ヲ適當ニ増加スベシ

打込釘ノ徑ハ第五號表ニ掲グル敲釘ノ徑ヨリ三ミリメートル減ジタルモノト爲スコトヲ得

圓釘ノ代リニ角釘ヲ用ウルトキハ其ノ邊ハ圓釘ノ徑ノ十分ノ九ト爲スベシ

敲釘ヲ打込ムベキ釘孔ノ徑ハ釘徑ヨリ一・五ミリメートル以上小ナルモノト爲スベシ

敲釘ハ總テ同金屬ノ座金ノ上ニテ敲著セシムベシ

螺釘ハ敲釘ノ代リニ之ヲ用ウルコトヲ得

暴露甲板ニ設ケル通風器ニハ有效ナル閉鎖裝置ヲ備フベシ

第十七條 船側ニ載貨門又ハ載炭門其ノ他大ナル開口ヲ設ケルトキハ其ノ周圍ニ適當ノ補強構造ヲ爲シ其ノ枠ハ堅材ヲ使用シ其ノ戸ハ堅牢ニ作り適當ノ締具ヲ備ヘ閉鎖シタルトキ水密トナルベキ構造ト爲スベシ

第十八條 船側口ハ舷側厚板、梁受板、副梁受板及内部腰板ヲ切缺ギテ之ヲ設ケルコトヲ得ズ但シ特ニ相當ノ補強構造ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 滿載吃水線ヲ標示スル船舶ノ上甲板下ニ設ケル舷窓ニシテ海水ニ於ケル最高滿載吃水線ヨリ一五センチメートル未滿ノ箇所ニ其ノ下緣ヲ有スルモノハ

暴露甲板ニ設ケル機關室口ノ圍壁ニハ第八百八條第一項ニ規定スル縁材ノ高サ以上ノ高サニ於テ出入口ヲ設ケルコトヲ得但シ之ヲ設ケタルトキハ堅牢ナル戸ヲ備フベシ

第十五條 機關室口圍壁ノ頂部ニハ天窓ヲ設クベシ

前項ノ天窓ニハ縁材ヲ設ケ且適當ナル覆蓋ヲ備フベシ

汽罐室圍壁ノ頂部ニ開口ヲ設ケルトキハ螺番ヲ以テ固著シタル鋼製ノ蓋板ヲ備フベシ

第十六條 暴露甲板ニ設ケル載炭口其ノ他ノ諸口ニハ覆蓋、覆布及適當ノ締具ヲ備フルカ其ノ他水密トナルベキ裝置ヲ備フベシ

第二百一十一條 打込釘ノ長サハ固著スベキ材料ノ厚サニ應ジ成ルベク長キモノヲ用ウベシ

板ヲ肋骨又ハ梁等ニ固著スル打込釘ノ長サハ板ノ厚サノ二倍四分ノ一以上ト爲スベシ

第二百二十二條 木釘ヲ用ウルトキハ其ノ兩端ハ固著セラルル用材ノ木理ニ直角ノ方向ニ之ヲ切開シテ楔止メト爲スベシ但シ外板及外部腰板ヲ固著スル木釘ノ外端ハ楔止メ代リニ填絮ヲ施スベシ

頭部ヲ三ミリメートル以上太メタル勾配木釘ヲ用ウルトキハ其ノ頭端ニ付テハ前項ノ施工ヲ爲スコトヲ要セズ

木釘ハ固著セラルル用材ノ厚サノ和ヨリ適當ニ長キモノヲ使用スベシ

木釘ヲ打込ムベキ孔ノ徑ハ釘徑ヨリ一ミリメートル以上小ナルモノト爲スベシ

第二百二十三條 銅又ハ黃銅ノ船底包板ヲ施スベキ外板等ノ固著釘ニ銅又ハ亞鉛鍍鋼ヲ使用スルトキハ其ノ頸部ニ填絮ヲ卷附ケタル儘之ヲ打込ミ且其ノ頸部ヲ緊密ニ打込ミタル木栓等ヲ以テ保護スベシ

外板及甲板等水密ヲ要スル場所ニ使用ス

ル敲釘又ハ打込釘ニ付テハ前項ニ該當セザルモノト雖モ成ルベク前項ノ施工ヲ爲スベシ

第二百二十四條 船ノ首尾ニ於ケル力材又ハ内龍骨ト船首材、船尾材又ハ龍骨トハ此等ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ四五センチメートル以内ノ心距ニ於テ固著セシムベシ但シ内龍骨ト力材トガ相累接スル箇所ニ於テハ敲釘ハ内龍骨ヲ貫通セシムルコトヲ要ス

舵柱ハ推進器孔ノ上部ニ於テ四五センチメートル以内ノ心距ニ船尾材迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第二百二十五條 舵心材ト翎材トハ四五センチメートル以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第二百二十六條 肋骨ハ打込釘ヲ以テ之ヲ龍骨ニ固著セシムベシ

第二百二十七條 龍骨ト内龍骨トハ肋骨毎ニ肋骨ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ固著セシムベシ

第二百二十八條 側内厚板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

第二百二十九條 側内龍骨ハ肋骨毎ニ敲釘ヲ

以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

第二百三十條 彎曲部縱通材ハ其ノ幅一五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ、幅一五センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ其ノ幅二〇センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ用ウベキ固著釘ノ數ヲ適當ニ増加スベシ

前項ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第二百三十一條 梁受板及副梁受板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

梁受板ノ敲釘ハ外板迄貫通スルコトヲ要ス

第二百三十二條 梁壓材ノ固著ハ左ノ各號ノ規定ニ依ル

一 肋骨トノ固著 船鈔ニ兼用セザル梁壓材ハ肋骨毎ニ梁壓材、肋骨及外板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ但シ第二甲板又ハ艙梁ニ於ケル梁壓材ノ敲釘ハ外板ヲ貫通セザルモ妨ナシ



二 梁トノ固著 梁壓材ハ梁毎ニ打込釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

三 梁受板トノ固著 船鏝ニ兼用スル梁壓材又ハ第二甲板若ハ船梁ノ梁壓材ハ梁毎ニ梁及梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ但シ第二數四五〇未満ノ船船ニ付テハ管海官廳ニ於テ適當ニ之ヲ斟酌スルコトヲ得

四 舷側厚板トノ固著 船鏝ニ兼用スル梁壓材ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムベシ

五 舷柱トノ固著 船鏝ニ兼用スル梁壓材ヲ貫キテ舷柱ヲ設クルトキハ舷柱毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ

第三百三十三條 副梁壓材ハ梁毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第三百三十四條 船鏝ハ肋骨ノ間ニ於テ交互ニ敲釘ト打込釘トヲ以テ之ヲ舷側厚板ニ固著セシムベシ

船鏝ハ梁毎ニ梁壓材、梁及梁受板ヲ貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシム且梁ノ間ニ於テ打込釘ヲ以テ之ヲ梁壓材ニ固著セシムベシ

船鏝ヲ貫キテ舷柱ヲ設クルトキハ船鏝ハ舷柱毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ緊著セシム且船鏝ヲ二材合セト爲ストキハ舷柱ノ間ニ於テモ敲釘ヲ以テ之ヲ相互ニ緊著セシムベシ但シ肋骨毎ニ肋材ヲ延長シテ舷柱ト爲ス場合ニ於テ船鏝ガ一材ヨリ成ルモノナルトキハ舷柱毎ニ用ウル敲釘ハ舷柱一木置ニ十分ナル長サヲ有スル打込釘ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得又船鏝ガ二材合セナル場合ニ於テ舷柱ノ心距ガ肋骨心距以下ナルトキハ舷柱ノ間ニ於ケル敲釘ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第三百三十五條 船側縦通材ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ第七十二條第一項又ハ第二項ヲ適用シタル場合ノ船側縦通材ニ在リテハ肋骨毎ニ外板ヲ貫通スル敲釘二箇ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

第三百三十六條 内部腰板ハ肋骨毎ニ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ

第三百三十七條 堅梁曲材ニ用ウル敲釘ノ心距ハ木製梁曲材ニ在リテハ二三センチメートルヲ、鋼製梁曲材ニ在リテハ三〇センチメートルヲ超ユルコトヲ得ズ又敲釘ノ數ハ側腕ニ於テハ咽喉部釘ヲ含ミ三箇以上、梁腕ニ於テハ二箇以上ナルコトヲ要ス

柔材ヲ以テ肋骨ヲ構成シタル船舶ニ於ケル堅梁曲材ノ側腕ニ用ウル敲釘ハ總テ外板迄貫通セシムルコトヲ要ス

橫梁曲材ノ各腕ニ於ケル敲釘ノ數ハ二箇以上ナルコトヲ要ス

第三百三十八條 外板、外部腰板、龍骨翼板及舷側厚板ハ其ノ幅二〇センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ二箇、幅二〇センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ三箇、幅二五センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ四箇ノ固著釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ肋骨單材ナルトキハ幅二五センチメートルヲ超ユル場合ト雖モ固著釘ノ數ヲ三箇ト爲スコトヲ得

三〇センチメートルヲ超ユル幅ヲ有スル龍骨翼板及舷側厚板ニ在リテハ之ヲ肋骨

每ニ固著セシムベキ固著釘ノ總數ハ幅七・五センチメートル毎ニ及其ノ端數ニ付一箇ノ割合ヲ以テ之ヲ定ムベシ但シ肋骨單材ナルトキノ固著釘ノ總數ハ之ヨリ一箇ヲ減ズルコトヲ得

龍骨翼板及舷側厚板ニ於テハ前二項ノ固著釘ノ中其ノ幅三五センチメートル以下ナルトキハ肋骨毎ニ一箇以上、幅三五センチメートルヲ超ユルトキハ肋骨毎ニ二箇以上ノ敲釘ヲ用ウベシ

外板及外部腰板ニ於テハ第一項ノ固著釘ノ中肋骨一本置ニ一箇以上ノ敲釘又ハ木釘ヲ用ウベシ但シ肋骨毎ニ敲釘又ハ木釘一箇以上ヲ用ウルトキハ固著釘四箇ヲ要スル場合ト雖モ之ヲ三箇ト爲スコトヲ得

船底彎曲部ノ彎曲半徑小ナル船舶ノ彎曲部外板ニ於テハ肋骨毎ニ一箇以上ノ敲釘ヲ用ウベシ

第三百三十九條 外板及外部腰板ハ肋骨ノ間ニ於テ衝接シ横線ノ兩側ニ於テハ敲釘及打込釘ヲ以テ之ヲ肋骨ニ固著セシムベシ但シ該肋骨ニ隣接スル肋骨ニ敲釘ヲ以テ固著セシメタル外板及外部腰板ニ付テ

ハ其ノ横線ノ兩側ニハ打込釘ノミヲ用ウルモ妨ナシ

第四百十條 第二數一、五〇〇ヲ超ユル船舶ノ中央部船ノ長サノ五分ノ三間ニ於テハ龍骨翼板ヲ肋骨ノ間ニ於テ二肋骨心距以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ之ヲ龍骨ニ固著セシムベシ

第四百十一條 木甲板ハ幅一五センチメートル以下ナルトキハ一箇以上、幅一五センチメートルヲ超ユルトキハ二箇以上ノ打込釘ヲ以テ之ヲ梁毎ニ固著セシムベシ

第四百十二條 船首材又ハ船尾材ハ其ノ咽喉部ヲ船首材又ハ船尾材ニ敲釘ヲ以テ固著セシメ其ノ兩腕ハ四五センチメートル以内ノ心距ニ成ルベク肋骨ノ箇所ニ於テ外板迄貫通スル敲釘ヲ以テ之ヲ固著セシムベシ

船首材又ハ船尾材ノ各腕ニ於ケル敲釘ノ數ハ咽喉部釘ヲ除キ二箇以上ナルコトヲ要ス

第四百十三條 斜板ハ板ノ厚サノ二倍以上ノ徑ヲ有スル敲釘ヲ以テ之ヲ肋骨毎ニ固著セシムベシ

第四百十四條 甲板口ノ縁材ハ四五センチメートル以内ノ心距ニ敲釘ヲ以テ端梁又ハ縱梁ニ固著セシムベシ

第十七章 填架及船底包板

第四百十五條 水密ト爲スベキ接合部ニハ填架ヲ施スベシ

第四百十六條 填架ヲ施シタル部分ハ射水又ハ漲水ニ依ル水密試驗ニ堪フルモノナルコトヲ要ス

第四百十七條 船底ニハ滿載吃水線附近ノ所迄船底包板ヲ張詰ムベシ但シ適當ノ防腐劑ヲ塗布スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十八章 機關室

第四百十八條 機關室ノ前後ニハ少クトモ第二甲板ニ達スル隔壁ヲ設クベシ

第二數一、五〇〇ヲ超ユル船舶ニ付テハ前項ノ隔壁及石炭庫ノ圍壁ヲ鋼製ト爲スベシ

第四百十九條 機關室ノ甲板間ニ於ケル部分ノ周圍ニハ圍壁ヲ設ケ之ヲ暴露甲板迄達セシムベシ

第四百十條 機關ノ下部ニ於ケル内龍骨ハ成ルベク堅材ヲ使用シ且汽罐ノ下部ト内龍骨ノ上部トヲ三〇センチメートル以上

隔離スルカ又ハ該部ニ適當ノ防熱工事ヲ施スベシ

第一百五十一條 隔壁、圍壁其ノ他船體ノ部分ガ木製ニシテ發動機又ハ汽罐ニ接近シ燃焼ノ虞アルモノナルトキハ之ニ金屬板ヲ張ルカ又ハ其ノ他ノ方法ニ依リ燃焼ヲ豫防シ且汽罐ニ接近スル場合ニハ防熱ノ爲金屬板ノ下ニ石棉若ハ毛紙ヲ敷クカ又ハ適當ノ間隔ヲ置クベシ

第一百五十二條 機關室ニ付テハ第三百十三條ニ依ル機關室口ノ補強ヲ爲スノ外機關ノ種類及馬力ニ應ジ肋骨及縱通材ニ適當ノ補強ヲ爲スベシ

第一百五十三條 機關臺ハ成ルベク長キ堅材ヲ以テ適當ニ構造シ肋骨毎ニ敲釘ヲ以テ之ヲ固著スルノ外必要ニ應ジ肋骨ノ位置ニ於テ機關臺ノ兩側ニ堅固材ヲ取附ケ之ヲ堅牢ニ船底ニ固著セシムベシ

第一百五十四條 第二數一、〇〇〇ヲ超ユル船舶ニ付テハ機關室ヨリ船尾管ニ達スル通行シ得ベキ軸路ヲ設クベシ但シ甲板ヨリ各軸受及船尾管ニ達シ得ベキ昇降路ヲ

設クルトキハ軸路ハ通行シ得ザルモノナルモ妨ナシ

第十九章 船樓及甲板室  
第一百五十五條 輕甲板船ニ在リテハ甲板室又ハ船橋樓ノ高サハ一・一メートルヲ超ユルコトヲ得ズ又船ノ首尾ニ於テ船ノ長さノ五分ノ一間ニハ甲板室ヲ設クルコトヲ得ズ

第一百五十六條 船首樓、船橋樓及船尾樓ノ各材ノ截面積ハ上甲板下ノ各材ノ截面積ノ四分ノ三以上ト爲スベシ  
船首樓、船橋樓又ハ船尾樓ヲ設クルトキハ上甲板ニ於ケル肋骨間ノ空隙ハ船鏝ヲ以テ閉塞シ之ヲ水密ト爲スベシ

低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クルトキハ上甲板ノ梁壓材及梁受板ヲ該船樓内ニ五肋骨心距以上延長スベシ但シ第二數四五〇未満ナルトキハ四肋骨心距以上、第二數二五〇未満ナルトキハ三肋骨心距以上、第二數一二五未満ナルトキハ二肋骨心距以上之ヲ延長スルニ止ムルモ妨ナシ  
低船首樓又ハ低船尾樓ヲ設クル船舶ニ付テハ上甲板ノ高サニ於テ船ノ首尾ヲ通ジ舷側厚板ヲ設クベシ  
第一百五十八條 甲板室ハ堅牢ニ構造シ少クトモ其ノ四隅ハ甲板室頂部ヨリ梁下面迄貫通スル螺釘ヲ以テ之ヲ緊著セシムベシ  
第二十章 橋、帆架及斜橋  
第一百五十九條 帆船ノ橋、帆架、斜橋等ノ寸法ハ左表ニ依ル

斜橋	名		稱	材料	徑
	シッパ	ブリック			
斜橋	シッパ	ブリック	前橋、正橋、前上橋及正上橋並ニシッパノ後上橋	杉	長サ一メートルニ付 三センチメートル
	頂橋	後橋	後上橋並ニシッパノ後上橋	杉	長サ一メートルニ付 三センチメートル
	ケント	ブリック	ケント並ニシッパノ後上橋	杉	長サ一メートルニ付 三センチメートル
	ヤード	ブリック	ヤード並ニシッパノ後上橋	杉	長サ一メートルニ付 三センチメートル

前項ノ橋ノ長サハ上橋ニ在リテハ上橋索具帶金ヨリ下部固定帶金迄、下橋ニ在リテハ下橋索具帶金ヨリ内龍骨上面迄ノ長さトシ其ノ徑ハ上橋ニ在リテハ下橋上端部、下橋ニ在リテハ上甲板楔止部ニ於ケル徑ト爲スベシ

前二項ノ規定ハ一材橋ノ寸法ヲ定ムル場合ニ之ヲ準用ス但シ内龍骨ノ上面ヨリ下橋索具ヲ取附クル帶金迄ノ長サヲ下橋ノ長さトシ其ノ上部上橋索具ヲ取附クル帶金迄ノ長サヲ上橋ノ長さトス

第一百六十條 下橋ノ上端ノ徑ハ上橋ノ下端ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

第二十一章 通風間隙及溢水路  
第一百六十一條 各層甲板梁ノ梁受板又ハ副梁受板ノ直下ニハ通風ノ爲船ノ首尾ヲ通ジ間隙ヲ設クベシ

船首艙又ハ船尾艙ニ於テハ前項ノ間隙ノ外梁受板ト内龍骨トノ間ニ通風間隙ヲ設クベシ  
第一百六十二條 龍骨ノ兩側ニ於ケル肋骨ノ下面ニハ船ノ首尾ヲ通ジ適當ノ溢水路ヲ設クベシ但シ外板ノ縱線上ニ之ヲ設クルコトヲ得ズ

第二十二章 排水装置及諸管  
第一百六十三條 舷壁ニハ甲板上ノ水ヲ排除スル爲適當ナル排水口ヲ設クベシ

舷壁甲板上ニハ船外ニ通ズル適當ナル排水口ヲ設クベシ  
第一百六十四條 第二甲板以下ノ甲板及蔽圍セラレタル船樓内ノ上甲板ニハ適當ノ排水管ヲ設ケ之ヲ溢水道ニ導クベシ

第一百六十五條 手動溢水「ポンプ」及測水管ハ各艙ニ之ヲ設クベシ但シ管海官廳ノ見込ニ依リ手動溢水「ポンプ」ノ數ヲ減ジ又平水ノ航行區域ヲ有スル船舶ニ限リ手動溢水「ポンプ」及測水管ヲ設ケザルコトヲ得

前項ノ手動溢水「ポンプ」ハ滿載吃水線以上ノ高サニ於テ何時ニテモ近寄り得ベキ場所ニ之ヲ裝置スベシ

第一百六十六條 手動溢水「ポンプ」ノ吸水管ノ内徑ハ四センチメートル以上ニシテ船ノ大サニ應ジ適當ノモノト爲スベシ但シ一〇センチメートルヨリ大ナルコトヲ要セズ  
手動溢水「ポンプ」ノ内徑ハ吸水管ノ内徑ノ二倍以上ト爲スベシ  
溢水吸水管ノ端末ニハ適當ナル芥除箱ヲ設クベシ

第一百六十七條 動力ニ依ル溢水「ポンプ」ヲ備フル船舶ニ付テハ各艙ニ其ノ吸水管ヲ導キ各艙ノ溢水ヲ排除シ得ベキ裝置ト爲スベシ但シ第二數一、五〇〇以下ノ船舶ニ在リテハ管海官廳ノ見込ニ依リ溢水吸水管ヲ各艙ニ導カザルモ妨ナシ

第一百六十八條 艙内又ハ石炭庫ヲ通過スル諸管ニハ貨物又ハ石炭ノ積載等ニ依リ破損セザル様堅固ナル覆箱又ハ覆板ヲ設クベシ

汽管其ノ他高内壓力ヲ受クル諸管ハ艙内又ハ石炭庫ヲ通過セシムルコトヲ得ズ但シ適當ノ圍壁又ハ隧道ヲ設クルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百六十九條 滿載吃水線ヲ標示スル船舶ニ在リテハ滿載吃水線下ニ開口ヲ有スル各排泄管ニハ自働不還弁二箇ヲ備ヘ中一箇ハ何時ニテモ近寄り得ル場所ニ之ヲ設クベシ但シ滿載吃水線以上ノ高サニ於ケル甲板上ノ何時ニテモ近寄り得ベキ場所ヨリ弁ヲ閉チ得ル裝置ト爲ストキハ自働不還弁ハ之ヲ一箇ト爲スコトヲ得

滿載吃水線下ニ於テ取附クル弁ハ鑄鐵製ナルコトヲ得ズ

第二十三章 操舵機具及揚錨、揚貨、繫船等ノ裝置

第七十條 舵柄又ハ舵柄弧ニ對シテハ甲板ニ堅牢ナル回轉止ヲ取附クベシ但シ舵柄又ハ舵柄弧ニ適當ノ制動裝置ヲ備フルカ又ハ操舵機ヲ直接舵柄弧ニ連結スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第七十一條 舵柄又ハ舵柄弧ノ半徑ハ成ルベク第三號表ニ掲グル舵心材ノ徑ノ四倍以上ト爲スベシ

第七十二條 舵柄ノ寸法ハ舵頭固定部ニ於テハ帶金ノ深サ及腕ノ幅ヲ第三號表ニ掲グル舵心材ノ徑ノ三分ノ一以上、腕ノ厚サヲ其ノ幅ノ二分ノ一以上ト爲シ腕ノ端末ニ於テハ舵頭部ニ於ケル寸法ノ三分ノ二ト爲スベシ

第七十三條 操舵鎖ノ徑ハ第三號表ニ掲グル舵心材ノ徑ノ百分ノ五以上ト爲シ操舵圓材ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ一倍四分ノ一以上ト爲スベシ

第七十四條 導鎖滑車ハ操舵鎖ヲ小角度ニ屈曲セシメザル様之ヲ配置シ其ノ徑ハ

操舵鎖ノ徑ノ十五倍以上ト爲シ其ノ車針ノ徑ハ操舵鎖ノ徑ノ一・七倍以上ト爲スベシ

第七十五條 操舵、揚錨、揚貨、繫船等ノ諸機具、錨鈎、端艇鈎其ノ他ノ鑿裝品ハ其ノ用途ニ應ジ之ヲ適當ニ構造スベシ但シ管海官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ適當ノ試驗ヲ執行スルコトアルベシ

第七十六條 本章ノ規定ハ艙内ニ鋼製槽ヲ据附ケ油類ヲ積載スル船舶ニ之ヲ適用ス

第七十七條 油槽ハ堅牢ナル臺上ニ据附ケ船體ノ動搖ニ依リ移動セザル様支柱ヲ以テ之ヲ支持スベシ

第七十八條 油槽ハ現場ニ於テ其ノ周圍及上下ヲ檢査シ得ベキ十分ナル餘地ヲ保ツ様之ヲ据附クルカ又ハ艙口ヨリ取出シ得ル寸法ノモノナルコトヲ要ス

第七十九條 油槽ハ適當ナル排氣管ヲ備ヘ之ヲ上甲板ニ適當ノ高サニ達セシメ其ノ開口ニハ取外シ得ベキ細目金網ヲ備フベシ

第八十條 油槽ヲ据附ケタル艙内ニボンブ(室其ノ他瓦斯ノ發生スル場所ニハ有效ナル通風裝置ヲ設クベシ)

油槽ヲ据附ケタル艙内ニ於ケル通風間隙及溢水路ハ之ヲ他ノ艙内ノモノト連絡ナキ構造ト爲スベシ

油槽ヲ据附ケタル艙ニハ艙内ノ溢水及漏油ヲ排除スルニ十分ナル「ボンブ」ヲ備フベシ

第八十一條 油槽ヲ据附ケタル艙内ニハ他ノ貨物ヲ搭載スルコトヲ得ズ

附則 本令ハ昭和九年三月一日ヨリ之ヲ施行ス 本令施行前製造シ又ハ製造ニ著手シタル船舶ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ルコトヲ得

表一第 材

部	材名	甲	乙	丙	丁
舵心材	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴、山手樺、山手椴、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
舵柄	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
舵柄弧	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
操舵鎖	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
導鎖滑車	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
揚錨機	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
繫船機	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴
揚貨機	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴	山手棗、山手松、山手杉、山手栗、山手桐、山手楓、山手樺、山手椴

表二第 肋骨ノ面裁

材	肋骨ノ心距	材二		材一	
		材頂	材曲	材頂	材曲
材	材	材	材	材	材
3-3.5	35	7.5	6.5	5	9.5
3.5-4	37	8.5	7.5	6	10.5
4-4.5	39	10	8.5	7	12.5
4.5-5	41	11	10	8	14
5-5.5	43	12.5	11	9	15.5
5.5-6	45	14	12	9.5	17.5
6-6.5	47	15.5	13.5	10.5	19.5
6.5-7	49	17	14.5	11	21.5
7-7.5	51	18.5	16	12	23.5
7.5-8	54	20	17	12.5	25.5
8-8.5	56	21.5	18	13	27
8.5-9	58	23	19	14	28.5
9-9.5	60	24.5	20	15	30.5
9.5-10	62	26	21.5	16	32.5



材 質	船 體		機 關		外 板		内 板	
	材 質	厚 度	材 質	厚 度	材 質	厚 度	材 質	厚 度
鋼 材	船殼板	19	船殼板	16	船殼板	11	船殼板	8
	肋骨板	17	肋骨板	15	肋骨板	10	肋骨板	7
	舷側板	18	舷側板	16	舷側板	11	舷側板	8
	甲板板	17	甲板板	15	甲板板	10	甲板板	7
	舷側板	18	舷側板	16	舷側板	11	舷側板	8
	甲板板	17	甲板板	15	甲板板	10	甲板板	7
	舷側板	18	舷側板	16	舷側板	11	舷側板	8
	甲板板	17	甲板板	15	甲板板	10	甲板板	7
	舷側板	18	舷側板	16	舷側板	11	舷側板	8
	甲板板	17	甲板板	15	甲板板	10	甲板板	7
鋁 材	船殼板	20	船殼板	17	船殼板	12	船殼板	9
	肋骨板	18	肋骨板	16	肋骨板	11	肋骨板	8
	舷側板	19	舷側板	17	舷側板	12	舷側板	9
	甲板板	18	甲板板	16	甲板板	11	甲板板	8
	舷側板	19	舷側板	17	舷側板	12	舷側板	9
	甲板板	18	甲板板	16	甲板板	11	甲板板	8
	舷側板	19	舷側板	17	舷側板	12	舷側板	9
	甲板板	18	甲板板	16	甲板板	11	甲板板	8
	舷側板	19	舷側板	17	舷側板	12	舷側板	9
	甲板板	18	甲板板	16	甲板板	11	甲板板	8
銅 材	船殼板	21	船殼板	18	船殼板	13	船殼板	10
	肋骨板	19	肋骨板	17	肋骨板	12	肋骨板	9
	舷側板	20	舷側板	18	舷側板	13	舷側板	10
	甲板板	19	甲板板	17	甲板板	12	甲板板	9
	舷側板	20	舷側板	18	舷側板	13	舷側板	10
	甲板板	19	甲板板	17	甲板板	12	甲板板	9
	舷側板	20	舷側板	18	舷側板	13	舷側板	10
	甲板板	19	甲板板	17	甲板板	12	甲板板	9
	舷側板	20	舷側板	18	舷側板	13	舷側板	10
	甲板板	19	甲板板	17	甲板板	12	甲板板	9
鐵 材	船殼板	22	船殼板	19	船殼板	14	船殼板	11
	肋骨板	20	肋骨板	18	肋骨板	13	肋骨板	10
	舷側板	21	舷側板	19	舷側板	14	舷側板	11
	甲板板	20	甲板板	18	甲板板	13	甲板板	10
	舷側板	21	舷側板	19	舷側板	14	舷側板	11
	甲板板	20	甲板板	18	甲板板	13	甲板板	10
	舷側板	21	舷側板	19	舷側板	14	舷側板	11
	甲板板	20	甲板板	18	甲板板	13	甲板板	10
	舷側板	21	舷側板	19	舷側板	14	舷側板	11
	甲板板	20	甲板板	18	甲板板	13	甲板板	10

●逓信省令第十號 (官報號外)

船舶機關規程ノ通定ム

昭和九年二月一日

逓信大臣 南 弘

船舶機關規程

目次

第一章 總則

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗片

第二節 壓延鋼材

第三節 鍛鋼材

第四節 鑄鋼材

第五節 管

第六節 雜則

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽機

第二節 筒形汽機及直立汽機

第三節 水管汽機及過熱器

第四節 汽機附屬品

第五節 汽機ニ關スル雜則

第六節 給水裝置

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

第八節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

逓信省令第十號 船舶機關規程

一五九

第十節 燃油裝置

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發動機

第二節 油槽、油管、潤滑油裝置等

第三節 廢氣裝置及空氣壓縮機

第四節 氣槽

第五節 排水、吸水及冷却水ニ關スル裝置

第六節 水壓試驗

第七節 補汽罐

第五章 艙裝品及備品

附則

船舶機關規程

第一章 總則

第一條 本令ニ於テ汽機又ハ發動機トハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外推進軸系ニ連接スル汽機又ハ發動機ヲ謂フ

本令ニ於テ汽機トハ補汽罐ヲモ包含ス

本令ニ於テ第一種螺旋軸トハ一體被金ヲ有スルカ又ハ之ト同等ノ耐蝕性ヲ有スル螺旋軸ヲ謂ヒ第二種螺旋軸トハ其ノ他ノ螺旋軸ヲ謂フ

適當ナル船尾管內潤滑油裝置ヲ備フル螺旋軸ハ前項ノ規定ニ拘ラズ之ヲ第一種螺旋軸ト看做ス

第二條 船舶ノ推進機關ヲ分チテ甲種、乙種及丙種ノ三種トス

乙種機關ハ第一級船又ハ第二級汽船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

丙種機關ハ第一級船又ハ第二級船ノ推進機關トシテ之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三條 汽機ニ付テハ第三章第二節又ハ第三節ノ規定ニ依リ算定シタル汽機各部ノ強力ニ對スル制限汽壓中最小ノモノヲ以テ其ノ制限汽壓トス但シ該汽機ニ連絡スル汽機、汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第四條 本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ監督ヲ受ケ之ヲ執行スベシ

試驗機ハ船用品試驗機試驗規程ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

本令ニ依ル試驗ハ管海官廳ノ適當ト認ムル證明書アルモノニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

第五條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ノ規定ニ該當セザルモノト雖モ管海官廳ニ於テ本令ノ規定ニ該當スルモノト同一ノ效力ヲ有スト認ムルモノ又ハ機關ノ用途ニ依リ差支ナシト認ムルモノニ限り之ヲ本令ニ適合スルモノト看做ス

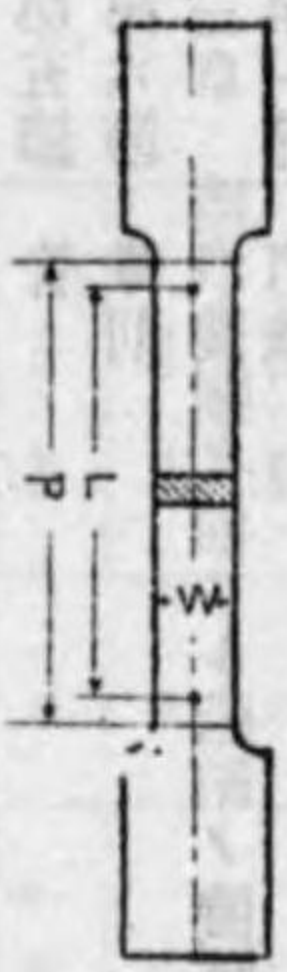
第六條 機關ノ構造若ハ寸法又ハ機關ニ關スル設備ニシテ本令ニ規定ナキモノニ付テハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二章 材料及材料試驗

第一節 試驗片

第七條 抗張試驗ニ用ウル標準試驗片ハ左ノ形狀及寸法ト爲スベシ但シ其ノ兩端ハ試驗機ニ應ジ之ニ適合スル形狀ニ仕上グルモノトス

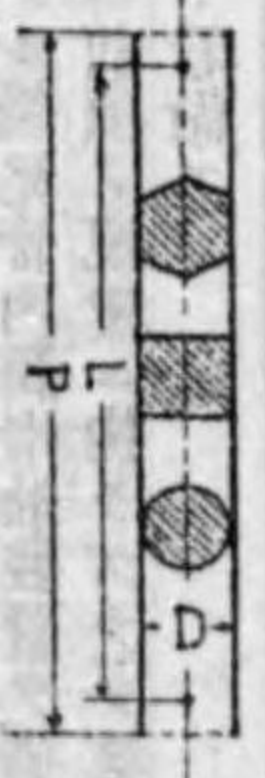
一 第一號試驗片 主トシテ鋼板、平鋼及形鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離L 二〇〇耗  
平行部ノ長サP 約二二〇耗  
幅 W 左表ニ依ル

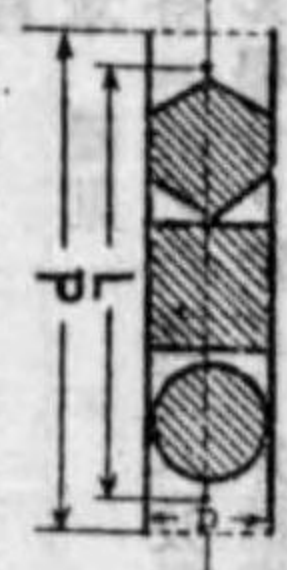
試驗片ノ厚サ(耗)	試驗片ノ幅W(耗)
二・三ヲ超ユルモノ	四〇以下
九以上二三以下	五〇以下
九未満	六〇以下

二 第二號試驗片 主トシテ徑(又ハ對邊距離)二五耗以下ノ棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離Lハ徑(又ハ對邊距離)Dノ八倍兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サPハDノ約九倍  
平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニ依リ之ヲ作製スルコトヲ得

三 第三號試驗片 徑(又ハ對邊距離)二五耗ヲ超ユル棒鋼ニ對シテ用ウルモノ



標點距離Lハ徑(又ハ對邊距離)Dノ四倍、兩端ヲ太クスルモノニ在リテハ平行部ノ長サPハDノ約四五倍  
平行部ハ壓延セル儘トシ又ハ機械仕上ニ依リ之ヲ作製スルコトヲ得

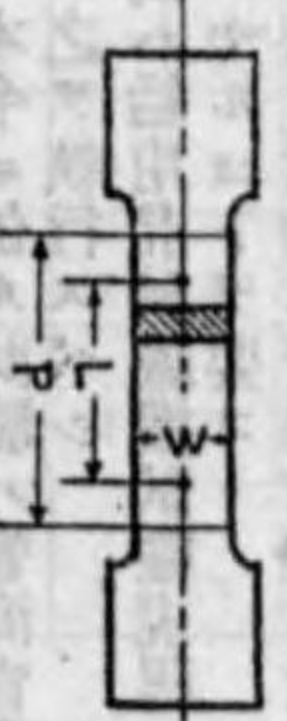
四 第四號試驗片 主トシテ鍛鋼材、鑄鋼材並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)棒ニ對シテ用ウルモノ



標點距離L 五〇耗

平行部ノ長サP 約六〇耗  
徑 D 一四耗  
材料ノ都合ニ依リ右ノ寸法ト爲シ得ザルトキハ左ノ算式ニ依リ標點距離ヲ定ムルコトヲ得

五 第五號試驗片 主トシテ管類並ニ非鐵金屬(又ハ其ノ合金)板ニ對シテ用ウルモノ



標點距離L 五〇耗  
平行部ノ長サP 約七〇耗  
厚サ W 二五耗  
原厚サノ儘トス

第八條 壓延鋼材ノ抗張試驗片ニハ成ルベク壓延肌ヲ殘スベシ

前項ノ規定ニ拘ラズ徑又ハ對邊距離七五耗以下ノ棒鋼ノ試驗片ニ付テハ適宜機械仕上ヲ爲シ又七五耗ヲ超ユル棒鋼ニ在リテハ左圖ニ於テ小圓ヲ以テ示ス位置ヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得  
前項ニ依リ作成スル試驗片ノ徑ハ之ヲ一四耗以下ト爲スコトヲ得ズ



第九條 壓延鋼材ノ屈曲試驗片ノ幅、徑又ハ對邊距離ハ三五耗以上ナルコトヲ要ス但シ「フランジ」ノ幅五〇耗未満ノ形鋼ヨリ採取セル試驗片ノ幅ハ三五耗未満ナルモ妨ナク又徑又ハ對邊距離三五耗未満ノ棒鋼ニ對シテ用ウル試驗片ハ壓延セル儘ノ材料ヲ使用スベシ

「フランジ」ノ幅五〇耗未満ノ形鋼ニ在リテハ之ニ壓力ヲ加ヘ若ハ鎚打シテ扁平ト爲シタルモノヨリ試驗片ヲ採取スルコトヲ得  
壓延鋼材ノ屈曲試驗片ニハ左ノ加工以外ノ加工ヲ爲スコトヲ得ズ  
一 剪斷ノ爲生ジタル稜角又ハ縁ノ不整ヲ鑄又ハ研磨機ニ依リ削除スルコト  
二 厚サ二五耗以上ノモノニ付剪斷面ヲ機械仕上ト爲スコト  
三 厚サ一五耗未満ノ燒入屈曲試驗片ニハ前項各號ノ加工ト雖モ之ヲ爲スコトヲ得ズ

第十條 鍛鋼材又ハ鑄鋼材ノ屈曲試驗片ハ幅二五耗厚サ一五耗ノ截面ヲ有シ角隅ニハ半徑一・五耗ノ丸味ヲ附シタルモノトス  
第十一條 抗張試驗片及屈曲試驗片ノ數ハ特ニ規定スル場合ヲ除クノ外左表ニ依ル

種類	種類	抗張試驗片ノ數	屈曲試驗片ノ數
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火焔ニ接觸スル鋼板	同右	但シ壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ一箇キハ其ノ兩端ヨリ各一箇	壓延シタル儘ノ鋼板一箇毎ニ燒入二・五耗ヲ超ユルモノトキハ兩端ヨリ各一箇
其ノ他ノ鋼板	同右	同	同
形鋼、鑄鋼又ハ鉄	同	同	同
鍛鋼材	同	同	同
鑄鋼材	同	同	同

第十二條 壓延鋼材ノ試験片ハ鋼板ニ在リテハ横又ハ縦ノ方向ヨリ形鋼又ハ棒鋼ニ在リテハ長サノ方向ヨリ之ヲ採取シ矯正ノ必要アルトキハ常温ノ儘矯正スベシ  
壓延鋼材ノ試験片ハ鋼材ト共ニスル場合ノ外之ニ焼鈍其ノ他ノ熱處理ヲ爲スコトヲ得ズ

第十三條 鍛鋼材ノ試験片ハ鍛鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲シタル後其ノ主体ヨリ小ナラザル截面ヲ有スル部分ヨリ縦ニ切取ルモノトス但シ鍛鋼品ノ形状又ハ用途ニ依リ横ニ切取ルモ妨ナシ

第十四條 鑄鋼材ノ試験片ハ之ヲ鑄鋼材ニ附著又ハ連結シテ鑄造シ鑄鋼材ト共ニ熱處理ヲ爲シタル後切取ルベシ

第十五條 機關ノ重要部分ニ用ウル壓延鋼材ハ酸性又ハ鹽基性ノ平爐ニ依リ製造セラレ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

第十六條 前條ノ壓延鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ同一ノ汽爐又ハ氣槽ニ於テ同一ノ用途ニ供スル鋼板又ハ縦支柱用棒鋼ノ抗張力ノ差ノ範圍ハ每平方耗七疋ヲ超ユルコトヲ得ズ

一 抗張試験 抗張力及標點間伸長百分率ハ左表ニ依ルコト

種類	抗張力(每平方耗疋)	標點間伸長百分率
加工ノ爲加熱スル鋼板又ハ使用中火箱ニ接觸スル鋼板	四一以上四八以下	第一號 厚サ九耗以上 二〇以上
其ノ他ノ鋼板	四四以上五〇以下	第一號 厚サ九耗以上 二〇以上
形鋼	四四以上五〇以下	第一號 厚サ九耗以上 二〇以上
鋼材	四一以上四八以下	第一號 厚サ九耗以上 二〇以上
汽爐ノ燃燒室又ハ火爐ノ支柱用棒鋼	四一以上四八以下	第二號 厚サ九耗以上 二〇以上
其ノ他ノ棒鋼	四四以上五五以下	第三號 厚サ九耗以上 二〇以上

二 屈曲試験 燒入屈曲試験ニ於テハ試験片ヲ濃紅色(日光ノ直射セザル室内ニ於テ判定スルモノ)ニシテ約六五〇度ニ熱シテ約二八度ノ水中ニ急冷シタル後常温屈曲試験ニ於テハ常温ノ儘試験片ニ壓力ヲ加ヘ又ハ鎚打ニ依リ左表ノ内側半徑ニテ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト

種類	内側半徑
鋼板	試驗片ノ厚サノ一・五倍以内
形鋼	試驗片ノ厚サノ一・五倍以内
棒鋼	試驗片ノ徑又ハ對邊距離ノ一・五倍以内
鋼材	密著

第十七條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ其ノ試験ヲ無効トシ更ニ最初ニ試験片ヲ採取シタル鋼材ニ付再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ガ不合格ト爲リタルトキハ其ノ試験片一箇ニ付更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験

片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鋼材ハ總テ不合格トス

第十八條 機關ノ重要部分ニ用ウル鉄ハ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス但シ第十六條各號ノ試験ニ合格シタル鉄材ヨリ製作シタル鉄ニ付テハ抗張試験ヲ省略スルモ妨ナシ

一 抗張試験 抗張力ハ每平方耗四一疋以上四八疋以下ナルコト

二 屈曲試験 常温ノ儘脚部ヲ一八〇度屈曲シテ密著セシムルモ屈曲部ノ外側ニ裂疵ヲ生ゼザルコト

三 打展試験 頭部ヲ赤熱シテ脚部ノ徑ノ二・五倍迄扁平ニ打展スルモ其ノ縁ニ裂疵ヲ生ゼザルコト

前項第三號ノ試験ニ用ウル鉄ノ數ハ同一ノ徑ノモノノ重量四分ノ一應又ハ其ノ端數毎ニ一箇トス

第十九條 厚サ六耗未滿ノ壓延鋼材及抗張力ヲ重要トセザル部分ニ使用スル壓延鋼材ニハ抗張試験及燒入屈曲試験ヲ省略スルコトヲ得

第二十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鍛鋼材ハ平爐、坩堝爐又ハ電氣爐ニ依リ製造シタル鋼塊ヨリ鍛造シ品質均一ニシテ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鍛鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第二十一條 主機ノ軸、ピストン桿、十字頭、連接桿、推進軸系ノ軸類其ノ他強力ヲ重要トスル部分ニ用ウル鍛鋼材ノ主体ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ四分ノ一以内ニ、主体以外ノ部分ハ其ノ截面積ヲ原鋼塊ノ平均截面積ノ三分ノ二以内ニ鍛鍊スベシ但シ一體型又ハ半組成型ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニ用ウル鍛鋼材ニ付テハ其ノ截面積ノ割合ハ二分ノ一以内トス

前項ノ規定ハ船舶ノ推進ニ關係ヲ有スル補機ノ「クランク」軸ニ用ウル鍛鋼材ニ之ヲ準用ス

第二十二條 前條第一項ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ニシテ大サ又ハ形狀ニ依リ其ノ截面積ノ割合ガ前條第一項ノ規定ニ依

リ難キモノニ付テハ其ノ割合ハ管海官廳ノ適當ト認ムル所ニ依ル

第二十三條 第二十一條ニ掲グル部分ニ用ウル鍛鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ各號ノ試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

一 抗張試験 抗張力ガ每平方耗四四疋以上五五疋以下ニシテ其ノ數値ト標點間伸長百分率ノ一・五八倍トノ和ガ九〇以上ナルコト

二 屈曲試験 常温ノ儘六耗以下ノ内側半徑ヲ以テ一八〇度屈曲スルモ裂疵ヲ生ゼザルコト但シ抗張力每平方耗五〇疋以上ノモノニ付テハ屈曲ノ内側半徑ヲ一〇耗迄増スコトヲ得

軸ノ計畫仕上徑二五〇耗以上ノ一體型「クランク」軸又ハ半組成型「クランク」軸ノ「クランク」部ハ該鍛造物ノ成ルベク中心部ニ於テ五ニ直角ナル三方向ニ採取シタル試験片ニ付抗張試験及屈曲試験ヲ執行シ左表ノ規格ニ適合スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ前項ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

試験片採取方向	抗張力(毎平方耗瓦)	標點間伸長百分率	裂疵ヲ生ゼザルコトヲ要スル屈曲角度
軸ノ中心線ニ平行ナル方向	四二・五以上五三・五以下	二七以上	一八〇
「クランク」腕ノ中心線ニ平行ナル方向	四二・五以上五三・五以下	二七以上	一五〇
前二方向ニ直角ナル方向	四一・〇以上五三・五以下	一九以上	一二五

備考 屈曲試験ニ於ケル屈曲ノ内側半徑ハ軸ノ中心線ニ平行ナル方向ノ抗張力ガ毎平方耗四九瓦ニ滿ナルトキハ六耗以下四九瓦以上ナルトキハ一〇耗以下ト爲スベシ

鍛造ノ割合ニ關シ前條ノ規定ニ依リタル鍛鋼材ハ第一項又ハ第二項ノ規定ニ依リ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二項ノ「クランク」軸ノ「クランク」部ニシテ鍛造ノ方法其ノ他ノ事山ニ因リ同項ノ規定ニ依リ難キモノハ第一項ノ試験ノ外管海官廳ノ適當ト認ムル試験ニ合格シタルモノナルコトヲ要ス

第二十四條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

前條ノ材料試験ニ合格セザルトキハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ

表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ當該試験ニ對シ更ニ二箇ノ試験片ヲ採取シテ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ之ニ依リ試験ヲ行ヒタル鍛鋼材ハ不合格トス

第二十五條 第二十三條ノ材料試験ガ不合格トナリタルトキハ更ニ鍛鋼材ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ新ニ抗張試験及屈曲試験ノ全部ヲ行フモノトス

第四節 鑄鋼材

第二十六條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ平爐、轉爐、電氣爐又ハ坩堝爐ニ依リ

鑄造シ其ノ品質均一ニシテ有害ナル疵、鑄巢其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス

前項ノ鑄鋼材ニハ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

鑄鋼材ノ疵等ニシテ強力ニ對スル影響輕微ナリト認ムルモノニ付テハ管海官廳ハ鑄掛、電氣銻接又ハ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ補修セシムルコトヲ得

前項ノ補修ヲ爲シタル場合ニ於テ管海官廳必要アリト認ムルトキハ補修後更ニ該鑄鋼材ニ適當ナル熱處理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十七條 機關ノ重要部分ニ用ウル鑄鋼材ハ其ノ試験片ガ左ノ第一號及第二號ノ試験ニ合格シ且該鑄鋼材ガ左ノ第三號及第四號ノ試験ニ合格スルコトヲ要ス但シ強力ヲ重要トセザル部分ニ用ウル鑄鋼材ニ付テハ第一號及第二號ノ試験ヲ省略スルコトヲ得

一 抗張試験 抗張力ハ毎平方耗四一瓦以上五五瓦以下ニシテ標點間伸長百分率ハ二〇以上ナルコト

二 屈曲試験 常溫ノ儘ニ五耗以下ノ内側半徑ヲ以テ一〇度以上屈曲スルモノ裂疵ヲ生ゼザルコト

三 落下試験 鑄鋼材ヲ約三米ノ高さヨリ硬質ノ地面ニ落下シ裂疵其ノ他ノ缺點ヲ生ゼザルコト

四 錘打試験 前號ノ試験執行後鑄鋼材ヲ吊シ其ノ重量ニ應ジ三疋乃至七疋ノ錘ヲ以テ其ノ表面ヲ打ツモ有害ナル裂疵、鑄巢、偏肉其ノ他ノ缺點ヲ認メザルコト

形狀特ニ複雜又ハ長大ニシテ落下試験ヲ執行スルトキハ變形ノ虞アリト認ムルモノニ付テハ該鑄鋼材ノ成ルベク隔リタル兩端ヨリ採取シタル各二箇ノ試験片ガ前項第一號及第二號ノ試験ニ合格スルトキハ落下試験ヲ省略スルコトヲ得此ノ場合ト雖モ錘打試験ハ之ヲ省略スルコトヲ得ズ

第二十八條 前條ノ抗張試験ニ於テ試験片ガ標點間ノ中心ヨリ標點距離ノ四分ノ一以外ニ於テ切斷シタルトキハ再試験ヲ行フコトヲ得

抗張試験又ハ屈曲試験ニ合格セザルトキ

ハ管海官廳ニ於テ試験片ノ成績ガ材質ヲ適當ニ表明セザルモノト認メタル場合ニ限リ更ニ之ト同數ノ試験片ヲ採取シ再試験ヲ行フコトヲ得

前項ノ再試験ヲ行ヒタル場合ニ於テ試験片中一箇ト雖モ合格セザルモノアルトキハ其ノ試験片ニ依リ代表セザルル鑄鋼材ハ之ヲ不合格トス

鑄鋼材ニハ再試験用試験片採取前更ニ熱處理ヲ爲スコトヲ得

前項ノ熱處理ヲ爲シタル場合ニ於テハ既ニ合格シタル試験ニ付テモ更ニ試験ヲ行フコトヲ要ス

第五節 管

第二十九條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ良質ノ平爐鋼又ハ電爐鋼ヲ用キ常溫引拔法又ハ高溫仕上法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ鍛接合管又ハ銲接合管ナルモ妨ナシ

水管汽罐ノ水管ニ用ウル鋼管ニシテ外徑四〇耗未滿ノモノ又ハ汽罐ノ給水管ニ用ウル鋼管ハ前項ノ規定ニ拘ラズ常溫引拔

法ニ依リ製造シタルモノナルコトヲ要ス

常溫引拔無接合鋼管及鍛接合鋼管ハ製造後之ニ適當ナル熱處理ヲ爲スベシ

第三十條 機關ノ重要部分ニ用ウル鋼管ハ常溫引拔法ニ依リ無接合ニ製造シ裂疵其ノ他ノ缺點ナキモノナルコトヲ要ス但シ毎平方耗五瓦以上ノ壓力ヲ受ケザルモノハ鑄附管ナルモ妨ナシ

毎平方耗一二・五瓦以上ノ壓力ヲ受ケル外徑一三五耗以上ノ汽管ニハ鋼管ヲ用ウルコトヲ得ズ

第六節 雜則

第三十一條 管、特殊鋼材、黃銅材、可鍛鑄鐵材又ハ鑄鐵材ニ付テハ管海官廳ニ於テ特ニ必要アリト認ムル場合ニ限リ其ノ指示スル所ニ依リ材料試験ヲ行フ

第三十二條 乙種機關又ハ丙種機關ニ用ウル材料ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ材料試験ヲ省略スルコトヲ得但シ軸ノ一部ニ用ウル鑄鋼材ノ材料試験及汽罐又ハ每平方耗一〇瓦以上ノ壓力ヲ受ケル氣槽ニ用ウル鋼板ノ屈曲試験ニ付テハ此ノ限ニ在ラス



第三十三條 管海官廳ハ材料規格ニ適合セザル材料ト雖モ其ノ使用ノ方法若ハ箇所ヲ限り又ハ其ノ他ノ條件ヲ附シテ之ヲ使用セシムルコトヲ得

第三章 蒸汽機關ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 汽機

第三十四條 汽機ハ容易ニ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

第三十五條 軸ノ寸法ハ汽機及軸ノ種類ニ應ジ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 往復動汽機ニ用ウル鍛鋼製ノ「クラシク」軸、中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{P D^2 S}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

D<sup>2</sup> ハ一推進軸系ニ於ケル低壓汽筒ノ數又ハ單式汽機ノ汽筒ノ數ニ筒ナルトキハ其ノ徑(耗ニテ)ノ二乗、二筒ナルトキハ各汽筒ノ徑(耗ニテ)ノ二乗ノ和  
P ハ復水器ヲ備ヘザルトキハ汽機ノ制限汽壓(每平方寸ニテ)復水器ヲ備フルトキハ汽機ノ制限汽壓(每平方寸ニテ)ニ一ヲ加ヘタルモノ  
S ハ行長(耗ニテ)  
K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

往復動汽機ノ種類	「クランク」ノ數	「クランク」軸又ハ推力軸	中間軸	軸
單式汽機	一 二(クランクノ角九〇度ノモノ) 二(クランクノ角一八〇度ノモノ)	一 一四九 一三八	一 一四二 一三一	一 一三五 一二五
二聯成汽機	二(クランクノ角九〇度ノモノ) 二(クランクノ角一八〇度ノモノ)	一 一〇七 一二〇	一 一〇二 一二四	一 〇九六 一〇八
三聯成汽機	三又ハ四	一 〇八八 一〇三	一 〇九八 一〇三	一 〇九三 一〇八
四聯成汽機	四	一 〇八六 〇八八	一 〇八二 〇八四	一 〇七九 〇七八

二 鋼製クランク腕ノ厚サ及幅  
組成型クランク軸又ハ半組成型クランク軸ナルトキ  
t = 0.025 I  
w = 0.436 I  
I = 0.417 P  
b<sub>2</sub> = 0.417 P  
t<sub>1</sub> = 0.025 I  
w<sub>1</sub> = 0.436 I  
I<sub>1</sub> = 0.417 P  
b<sub>1</sub> = 0.417 P

三 「クランク」軸ノ厚サ(耗ニテ)  
b<sub>1</sub> = 0.417 P  
b<sub>2</sub> = 0.417 P

四 「クランク」軸ノ幅(耗ニテ)  
t<sub>1</sub> = 0.025 I  
t<sub>2</sub> = 0.025 I

五 鍛鋼製螺旋軸ノ徑  
ds = d +  $\frac{P}{C}$   
d<sub>s</sub> ハ螺旋軸ノ徑(耗ニテ)  
d ハ汽機ノ種類ニ應ジ第一號、第三號前號又ハ第二項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)  
P ハ螺旋推進器ノ徑(耗ニテ)  
C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)  
T ハ計畫軸馬力  
R ハ軸ノ計畫每分回轉數  
K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸	軸	推力軸	軸
甲種機關又ハ乙種機關	一〇〇	九五	甲種機關又ハ乙種機關	一〇五
丙種機關			丙種機關	一〇〇

四 三聯成汽機ト「タービン」汽機ト同一推進軸系ニ聯動スル汽機ノ鍛鋼製ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑

$$d = K \sqrt[3]{\left( \frac{68,000 \times T}{R} \right) + 0.032 P D^2 S \times \left( 1 + \frac{14,500 D^2 S}{W (I^2 R^2)} \right)}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)  
P ハ汽機ノ制限汽壓(每平方寸ニテ)  
D ハ低壓汽筒ノ徑(耗ニテ)  
S ハ行長(耗ニテ)  
T ハ「タービン」汽機ノ計畫軸馬力  
R ハ當該推進軸系ノ計畫每分回轉數  
W ハ聯動裝置ノ親齒車ノ重量(耗ニテ)  
G ハ聯動裝置ノ親齒車ノ心圓ノ徑(耗ニテ)  
K ハ定數ニシテ左表ニ依ル

軸ノ種類	中間軸	軸	推力軸	軸
甲種機關又ハ乙種機關	二・四三	二・三二	甲種機關又ハ乙種機關	二・五五
丙種機關			丙種機關	二・四二

五 鍛鋼製螺旋軸ノ徑  
前項第四號ノ汽機ノ中間軸又ハ推力軸ノ徑ハ前項ノ規定ニ拘ラズ夫々同項第一號ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸又ハ推力軸ノ徑ヨリ小ナルコトヲ得ズ

螺旋軸ハ前部軸ノ附近ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一號第一號、第三號、第四號又ハ前項ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑ノ一・〇五倍トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

推力軸ハ推力受臺ノ前部又ハ後部ニ於テハ其ノ徑ガ汽機ノ種類ニ應ジ第一號第一號、第三號、第四號又ハ第二項ノ規定ニ依

第一種螺旋軸ナルトキ 一四四  
第二種螺旋軸ナルトキ 一〇〇

リ算定シタル中間軸ノ徑トナル迄漸次之ヲ減ズルコトヲ得

$$d = 0.75 \sqrt{\frac{D \cdot P}{N}}$$

d ハ螺釘ノ徑(耗ニテ) N ハ螺釘ノ數 d<sub>1</sub> ハ螺釘心圓ノ徑(耗ニテ) D ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタル中間軸ノ徑(耗ニテ)

第三十七條 船尾管後端ノ軸受部ノ長サハ第三十五條第一項第五號ノ算式ニ依リ算定シタル軸ノ徑ノ四倍未滿ト爲スコトヲ得

船尾管後端ノ軸受上部ノ内面ト螺旋軸トノ間隙(耗ニテ)ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ大ナルコトヲ得ズ

$$C = 0.015 \cdot d + 2.5$$

d ハ螺旋軸ノ該部分ニ於ケル被金上ノ徑(耗ニテ) 第三十八條 甲種機關又ハ乙種機關ニ在リテハ往復動汽機ニハ各汽筒ノ兩端及汽筒間ノ蒸汽通路ニ「タービン」汽機ニハ適

當ノ箇所ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ該部ニ於ケル最大汽壓ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃汽スル様之ヲ調整スベシ

三 三聯成汽機 高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタル壓力 中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・七五ヲ乗ジタル壓力 低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・三〇ヲ乗ジタル壓力

第四十條 汽機ノ動作部ニ對シテハ適當ナル圍障又ハ柵欄ヲ設クベシ

四 四聯成汽機 高壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタル壓力

第四十一條 汽筒又ハ之ニ附屬スル弁匣等ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ夫々左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ但シ内外全面ヲ削仕上ゲタル内筒ニ付テハ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ省略スルコトヲ得

第一中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・第二中壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乗ジタル壓力 低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・二五ヲ乗ジタル壓力

一 單式汽機ノ汽筒 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六疋以上ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ニ每平方糎六疋ヲ加ヘタル壓力 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎六疋未滿ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

五 「タービン」汽機ノ汽筒 各膨脹階段ノ初壓力ノ一・五〇倍及每平方糎二疋ノ中大ナル壓力 六 高壓「タービン」汽機ノ配汽室 汽罐ノ制限汽壓ノ一・五〇倍ノ壓力但シ適當ナル逃出弁ヲ備フルモノハ配汽室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

二 二聯成汽機 高壓汽筒 單式汽機ノ汽筒ニ同ジ 低壓汽筒 汽罐ノ制限汽壓ニ〇・五〇ヲ乗ジタル壓力

七 中壓又ハ低壓「タービン」汽機ノ配汽室 該室内蒸汽壓力ノ一・五〇倍ノ壓力

八 收汽室、收汽管、汽包室、汽筒蓋、弁匣及弁匣蓋 其ノ附屬スル汽筒ニ對スル壓力ト同一ノ壓力

第四十二條 復水器管ノ管板間ノ長サガ管ノ外徑ノ一・二〇倍以上ナルトキハ一・二〇倍毎ニ一箇ノ割合ヲ以テ支板ヲ設クベシ

第四十三條 復水器ノ器胴、通水室又ハ蓋ハ之ヲ製造シタルトキ每平方糎一・五疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

復水器管ヲ取附ケタルトキハ二米以上ノ水高壓力ヲ以テ漏否試驗ヲ執行スベシ

ルベク該鋼板ヲ假接合シタル後鑽孔スベシ 鋼板ノ鑽孔ハ鑽孔シタルモノト爲スベシ 第四十六條 胴板ニ設クル階圓形ノ孔ハ短徑ヲ縱ノ長サニ平行セシムベシ 胴板ニ設クル人孔又ハ他ノ孔ノ徑ガ胴板ノ厚サノ二・五倍ニ七〇耗ヲ加ヘタルモノヨリ大ナルトキハ適當ナル補強環ヲ附シ該部分ノ強率ヲ胴板ノ縱接合ニ於ケル強率ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

第四十八條 胴板ノ縱接合ニ用ウル覆板ハ胴板ト同質ノ板ヲ用キ其ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$\text{外覆板 } T = \frac{P \cdot (R - d)}{S} \times 1.3$$

$$\text{內覆板 } T = \frac{P \cdot (R - d)}{S} \times 1.3$$

$$\text{內覆板 } T = \frac{P \cdot (R - d)}{S} \times 1.3$$

$$\text{外覆板 } T = \frac{P \cdot (R - d)}{S} \times 1.3$$

一 各列ノ鉄數ガ同一ナル場合  
 千鳥形鉄  
 $V_1 = 0.33p + 0.67d$   
 接合ナルトキ  
 竝列鉄接  
 $V_1 = 2d$   
 合ナルトキ  
 二 外列ノ鉄數ガ其ノ他ノ列ノ鉄數ノ半  
 數ナル場合  
 千鳥形鉄  
 $V = 0.3p + 1.15d$   
 接合ナルトキ  
 $V_1 = 0.165p + 0.67d$   
 竝列鉄接  
 $V = 0.33p + 0.67d$   
 $V_1 = 2d$   
 合ナルトキ  
 $V_1 = 2d$   
 二 外列ノ鉄數同一ナル各鉄列ノ距離(耗ニテ)  
 $V_1$ ハ外列ト其ノ次ノ列トノ距離(耗ニテ)  
 $V_2$ ハ外列ニ於ケル鉄ノ心距(耗ニテ)  
 $V_3$ ハ鉄孔ノ徑(耗ニテ)  
 第五十條 胴板ノ縦接合ニ於ケル鉄ノ心距  
 ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ大  
 ナルコトヲ得ズ  
 $P = C \times T + 10$   
 $P$ ハ鉄ノ心距(耗ニテ)  
 $T$ ハ板ノ厚サ(耗ニテ)  
 $C$ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

Pナル心距ニ於ケル鉄數	累接合ナルトキ	兩覆板面接合ナルトキ
一	一・三一	一・七五
二	二・六二	三・五〇
三	三・四七	四・六三
四	四・一四	五・五二
五	五・〇〇	六・〇〇

第五十一條 胴板ト鏡板トノ接合ハ接合強  
 率ヲ〇・四二以上ト爲シ胴板ノ厚サ一六  
 耗ヲ超ユルトキハ接合鉄列數ハ二以上ト  
 爲スベシ  
 筒形汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ片面型  
 汽罐ニ在リテハ接合強率ヲ〇・六〇以上  
 ト爲シ接合鉄列數ヲ胴板ノ厚サ一六耗ヲ  
 超ユルトキハ二以上、三五耗ヲ超ユルト  
 キハ三以上ト爲シ兩面型汽罐ニ在リテハ  
 接合強率ヲ〇・六二以上ト爲シ接合鉄列  
 數ヲ胴板ノ厚サ一三耗ヲ超ユルトキハ二  
 以上、三〇耗ヲ超ユルトキハ三以上ト爲  
 スベシ  
 直立汽罐ノ胴板相互ノ周圍接合ハ接合強  
 率ヲ〇・四二以上ト爲シ其ノ接合ガ全周

ニ互ラザルトキ又ハ胴板ノ厚サ一六耗ヲ  
 超ユルトキハ接合鉄列數ヲ二以上ト爲ス  
 ベシ  
 第五十二條 胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓  
 ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス  
 $P = \frac{(T-a) \times S \times C \times J}{D}$   
 $P$ ハ制限汽壓(每平方極廷ニテ)  
 $T$ ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)  
 $S$ ハ胴板ノ最小抗張力(每平方極廷ニテ)  
 $D$ ハ胴ノ最大内徑(耗ニテ)  
 $J$ ハ縦接合ノ強率ニシテ第二項ニ依リ定  
 メタルモノ  
 $a$ ハ胴板ノ厚サ四五耗未滿ナルトキハ  
 一・五、四五耗以上ナルトキハ零  
 $C$ ハ定數ニシテ左表ニ依ル  
 縦接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板  
 ノ厚サ四五耗未滿ナルトキ 五・二  
 縦接合ガ兩覆板ヲ有シ胴板  
 ノ厚サ四五耗以上ナルトキ 五・〇  
 縦接合ガ累接三列鉄ナルトキ 五・〇・五  
 縦接合ガ累接二列鉄ナルトキ 四・九三  
 縦接合ガ累接一列鉄ナルトキ 四・三三  
 縦接合ノ強率ハ左ノ各號ノ強率中最小ノ  
 モノトス

一 接合ニ於ケル胴板ノ強率  
 $J_1 = \frac{P-d}{P}$   
 二 接合ニ於ケル鉄ノ強率  
 $J_2 = \frac{P \times T}{P \times T + K}$   
 三 外列ノ鉄ノ心距ガ其ノ他ノ列ノ鉄ノ  
 心距ノ二倍ナルトキノ鉄及胴板ノ聯合  
 強率  
 $J_3 = \frac{P-2d}{P} + \frac{J_1}{J_2}$   
 $T$ ハ胴板ノ厚サ(耗ニテ)  
 $P$ ハ外列ニ於ケル鉄ノ心距(耗ニテ)  
 $d$ ハ鉄孔ノ徑(耗ニテ)  
 $K$ ハ兩覆板ヲ有スル場合ニ於テハ一・二  
 一其ノ他ノ場合ニ於テハ〇・六四  
 第四十四條第二項ニ依リ鍛合又ハ鑄接シ  
 タル胴板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ管海  
 官廳ノ定ムル所ニ依ル  
 三箇以上ノ螺旋支柱ノ取附孔ガ胴ノ中心  
 線ニ平行又ハ略平行ニ配置セラルルトキ  
 ハ孔ノ間隔ハ該支柱間ニ於ケル胴板ノ強  
 率ガ縦接合ノ強率ヨリ小ナラザル様之ヲ  
 定ムベシ

第五十三條 平板ノ強力ニ對スル制限汽壓  
 ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノ  
 ノ中最小ノモノトス  
 一 螺旋支柱又ハ其ノ他ノ支柱ヲ以テ支  
 持セラル部分  
 $P = C_1 \times \frac{a^2 + b^2}{a^2 + b^2 + Kw^2}$   
 $P$ ハ制限汽壓(每平方極廷ニテ)  
 $T$ ハ板ノ厚サ(耗ニテ)  
 $C_1$ ハ定數ニシテ左表ニ依ル

支 點	種 類	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキ	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキ
支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ絞締シタルトキ	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケザルモノナルトキ	四二〇〇	三七一〇
支柱ヲ板ニ振込ミ外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキ	六三二〇	五五二〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキ	七〇〇〇	六一五〇
支柱ヲ板ニ挿込ミ外面ニハ座金、條板又ハ二重張板ヲ當テ内外ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキ	七三六〇	六四五〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ攪張シ且外面ヨリ母螺締ト爲シタルトキ	板ガ火焔ノ接觸ヲ受ケタルモノナルトキ	三八二〇	五二八〇

$a$ ハ支柱各列中心線ノ距離(耗ニテ)  
 $b$ ハ各列ニ於ケル支柱心距(耗ニテ)  
 $W$ ハ座金、條板又ハ二重張板ノ厚サ(耗ニテ)  
 $K$ ハ定數ニシテ左表ニ依ル但シ座金、條板又ハ二重張板ヲ取附ケザルトキ又ハ板ニ固著セザル座金ヲ備フル場合ニ於テ其ノ厚サ又ハ徑ガ表ニ掲グル寸法ニ適合セザルトキハ零

二 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢相互間又ハ焰管巢ト胴板トノ間ノ部分

$$P = C_2 \times \frac{(T-1)^2 + kw^2}{a^2 + b^2}$$

P 及 T ハ前號ニ同ジ

a ハ管支柱ノ水平心距(耗ニテ)

b ハ管支柱ノ縦心距(耗ニテ)

w ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ其ノ厚サ(耗ニテ)

k ハ二重張板ヲ取附ケタルトキハ〇・五五、之ヲ取附ケザルトキハ零

C<sub>2</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル

端列ノ管支柱ノ外端ヲ母螺絲ト爲サザルトキ	三八二〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ一箇置ニ母螺絲ト爲シタルトキ	四六三〇
端列ノ管支柱ノ外端ヲ總テ母螺絲ト爲シタルトキ	五二八〇

三 管支柱ヲ以テ支ヘラレタル管板ノ焰管巢ニ於ケル部分

$$P = C_3 \times \frac{(T-1)^2}{P_1}$$

P 及 T ハ第一號ニ同ジ

P<sub>1</sub> ハ當該部分ニ於ケル四箇ノ管支柱ノ中心點ノ構成スル四邊形ノ四邊ノ平均ノ長サ(耗ニテ)

C<sub>3</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル

管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ緊著シタルトキ	二八〇〇
管支柱ヲ管板ニ振込ミ其ノ端ヲ擴張シ且外面ヨリ母螺絲ト爲シタルトキ	三六〇〇

前項ノ算式ヲ適用スルニ當リ當該部分ニ於ケル支點ノ種類ガ同一ナラザルトキハ定數 C<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>、C<sub>3</sub> 及 K ハ各種類ノ支點ノ數ニ對スル定數ヲ乘ジタルモノノ和ヲ支點ノ總數ニテ除シタルモノトス

前二項ノ規定ヲ支點ノ配置不規則ナル部分又ハ曲線シタル板ノ曲線ニ近キ部分ニ適用スルニ當リテハ左ノ規定ニ依ル

- 一 曲線ノ彎曲起點ハ之ヲ支點ト看做シ其ノ彎曲内半径ガ板ノ厚サノ二・五倍ヨリ大ナルトキハ曲線ノ外面ヨリ板ノ厚サノ三・五倍ノ距離ノ點ヲ彎曲起點ト看做ス
- 二 少クトモ三支點ヲ通り内部ニ支點ヲ有セザル最大圓ノ徑ヲ d トシ第一項ノ算式中 C<sub>1</sub>、C<sub>2</sub>、C<sub>3</sub> 代リニ d<sup>2</sup> ヲ用ウ
- 三 曲線ノ彎曲起點ガ支點ナル場合ノ定數 C<sub>1</sub> ハ板ガ火焰ノ接觸ヲ受ケザルモ

ノナルトキハ八〇六〇、板ガ火焰ノ接觸ヲ受クルモノナルトキハ七〇四〇トス

第五十四條 支柱ヲ板ニ振込ミ其ノ端ヲ絞

縮スル場合ニ於ケル板ノ厚サハ支柱ノ螺米底ニ於ケル徑ノ二分ノ一ヨリ小ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板及側板ニ於テ後管板又ハ背板ニ最モ近キ支柱列ト後管板又ハ背板ノ曲線ノ彎曲部起點トノ距離ハ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ前條第一項第一號ノ算式ニ用キ算定シタルヨリ大ナルコトヲ得ズ

燃燒室ノ頂板ヲ側板ト接合スル爲ノ彎曲部ノ彎曲外半径ガ第三條本文ノ規定ニ依リ定メタル汽罐ノ制限汽壓ヲ第五十七條ノ算式ニ用キ算定シタル支梁ノ心距 D ノ二分ノ一ヨリ小ナルトキハ側板ノ内面ト之ニ最モ近キ支梁ノ中心トノ距離ハ D ヨリ大ナルコトヲ得ズ又右ノ彎曲外半径ガ D ノ二分ノ一ヨリ大ナルトキハ支梁ノ中心ヨリ彎曲起點迄測リタル平坦部ノ幅ハ D ノ二分ノ一ヨリ大ナルコトヲ得ズ

第五十五條 焰管巢ヲ形成スル焰管ガ水平ナル直立汽罐ノ管板ノ強力ニ對スル制限

汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ最小ノモノトス

$$P = \frac{49.2 \times (T-1.5) \times B \times (G-d)}{D \times P_1}$$

P ハ制限汽壓(每平方英尺ニテ)

T ハ管板ノ厚サ(耗ニテ)

S ハ管板ノ抗張力(每平方英尺ニテ)

D ハ胴ノ中心ヨリ縱端列ニ於ケル管板ノ中心迄ノ距離ノ二倍(耗ニテ)

P<sub>1</sub> ハ管ノ縦心距(耗ニテ)

d ハ管板ニ於ケル管板ノ徑(耗ニテ)

前項ノ管板ノ縱端列ニ於ケル管ハ少クトモ一箇置ニ管支柱ト爲スベシ

第五十六條 筒形汽罐ノ後管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ第五十三條ノ規定ニ拘ラズ同條ノ算式及左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ最小ノモノトス

$$P = \frac{2,100(D-1)T}{W \times D}$$

P ハ制限汽壓(每平方英尺ニテ)

T ハ管板ノ厚サ(耗ニテ)

D ハ焰管ノ水平心距(耗ニテ)

d. ハ普通焰管ニ對スル管板ノ徑(耗ニテ)

W ハ燃燒室上部ノ奥行(耗ニテ)

第五十七條 燃燒室ノ頂板ヲ支フル鋼製支梁ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{0.002 \times T \times S}{(L-P) \times D \times L}$$

P ハ制限汽壓(每平方英尺ニテ)

d ハ支梁中央部ノ深サ(耗ニテ)

T ハ支梁ノ厚サ但シ二板合セ支梁ナルトキハ各板ノ厚サノ和(耗ニテ)

L ハ燃燒室上部ノ内側ニ於テ測リタル奥行(耗ニテ)

P ハ支梁ノ支フル支柱ノ心距(耗ニテ)

D ハ支梁ノ心距(耗ニテ)

S ハ支梁ニ用ウル鋼材ノ最小抗張力(每平方英尺ニテ)

C<sub>1</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル

各支梁ノ支フル支柱ノ數 N ガ奇數ナルトキ	$\frac{N}{2} + 1$	× 25.3
各支梁ノ支フル支柱ノ數 N ガ偶數ナルトキ	$\frac{N}{2} + 1$	× 25.3

第五十八條 燃燒室ノ筒形底部ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザル部分ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

P =  $\frac{C_1 \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$

P =  $\frac{C_1 \times (325(T-1)-L)}{D}$

P ハ制限汽壓(每平方英尺ニテ)

T ハ燃燒室底部ノ鋼板ノ厚サ(耗ニテ)

D ハ燃燒室底部ノ外徑(耗ニテ)

L ハ燃燒室底部ノ奥行ニシテ該部ヲ形成スル鋼板ヲ他ノ鋼板ト接合スル鋼ノ中心線ヨリ測リタルモノ(耗ニテ)

C<sub>1</sub> 及 C<sub>1</sub> ハ定數ニシテ左表ニ依ル

縦接合ノ種類	C	C <sub>1</sub>
鍛合	104,000	22,500
鉄接合	96,000	21,600

第五十九條 筒形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

$$P = \frac{C \times (T-1)^2}{(L+610) \times D}$$

$$P = \frac{C_1 \times (325(T-1)-L)}{D}$$

P、C 及 C<sub>1</sub> ハ前條ニ同ジ

T ハ火爐鋼板ノ厚サ(耗ニテ)

D ハ火爐ノ外徑(耗ニテ)

Lハ火爐ノ長サニシテ火爐鋼板ヲ曲線ト爲シ板ノ補強環等ト接合スル場合ニ於テハ曲線ノ彎曲起點ヨリ又火爐鋼板ヲ他ノ鋼板ノ曲線ト接合スル場合ニ於テハ紙ノ中心線ヨリ測リタルモノ(耗ニテ)

第六十條 皺形火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C(F-1)}{D}$$

- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
- Tハ火爐ノ皺形部ニ於ケル鋼板ノ最小厚サ(耗ニテ)
- Dハ火爐ノ皺形部ニ於ケル最小外徑(耗ニテ)
- Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

火爐ノ種類	C
「モリソン」式「デイトン」式又ハ之ニ類スルモノ	一〇九〇
「リイズ」フオージ「バルブ」式又ハ之ニ類スルモノ	一一六〇

第六十一條 支柱又ハ其ノ他ニ依リ補強セラレザル半球狀火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{0.57(F-1)}{R}$$

- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
- Tハ火爐鋼板ノ厚サ(耗ニテ)
- Rハ火爐ノ球面外半徑(耗ニテ)

第六十二條 截頭圓錐形直立火爐ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ記號ヲ用キ第五十九條ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ中小ナルモノトス

Dハ火爐板ト頂板トノ接合部ノ中心線ニ於テ測リタル外徑ト火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所ニ於テ測リタル外徑トノ平均(耗ニテ)

Lハ火爐板ト頂板トノ接合部ノ中心線ヨリ火爐底部ノ補強部ニ接合スル箇所迄ノ距離(耗ニテ)

火爐底部ト胴板トヲ螺旋支柱列ニ依リ連結シタル場合ニ於テ螺旋支柱ノ心距ガ其ノ端ヲ絞縮シタルモノニ在リテハ火爐板ノ厚サノ一四倍ヲ、母螺縮ト爲シタルモノニ在リテハ一六倍ヲ超ユルコトナク且螺旋支柱ノ螺系上ノ徑ガ火爐板ノ厚サノ二二五倍以上ナルトキハ前項ノLハ螺旋支柱列ノ中心迄測ルコトヲ得

第六十三條 直立汽罐ノ火爐底部ト胴板トヲ接合スル「オジー」環ノ強力ニ對スル制

限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{10,300(F-1)^2}{D \times (D-d)}$$

- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
- Tハ「オジー」環ノ厚サ(耗ニテ)
- Dハ胴ノ内徑(耗ニテ)
- dハ火爐底部ノ外徑ニシテ「オジー」環トノ接合部ニ於テ測リタルモノ(耗ニテ)

第六十四條 火爐板ノ厚サハ二一耗以上ナルコトヲ得ズ

第六十五條 胴ノ内徑ヨリ大ナラザル内半徑ヲ有シ外方ニ突出スル球面狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{21.5 \times S \times (F-1)}{R}$$

- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
  - Tハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)但シ鏡板ニ人孔ヲ設ケタル場合ニ於テハ其ノ厚サヨリ三耗ヲ減ジタルモノ
  - Rハ鏡板ノ球面内半徑(耗ニテ)
  - Sハ鏡板ノ抗張力(每平方釐珎ニテ)
- 前項ノ鏡板ニ在リテハ其ノ周圍ノ曲線部

ニ於ケル曲線ノ彎曲内半徑ハ鏡板ノ厚サノ四倍未滿ナルコトヲ得ズ

第六十六條 二枚以上ノ板ヨリ成リ外方ニ突出スル半球狀鏡板ニシテ支柱其ノ他ニ依リ補強セラレザルモノノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{C \times (F-1.6) \times S \times J}{R}$$

- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
- Tハ鏡板ノ厚サ(耗ニテ)
- Sハ鏡板ノ最小抗張力(每平方釐珎ニテ)
- Jハ鏡板相互ノ最小接合強率
- Rハ鏡板ノ球面内半徑(耗ニテ)
- Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

鏡板相互ノ接合ガ一列鏡ナルトキ	〇・四三
鏡板相互ノ接合ガ二列鏡ナルトキ	〇・四九
鏡板相互ノ接合ガ三列鏡ナルトキ	〇・五〇

第六十七條 螺旋支柱又ハ縦支柱ノ螺糸底又ハ其ノ他ノ部分ニ於ケル最小ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d = 0.7 \sqrt{PA + 3}$$

- dハ螺旋支柱又ハ縦支柱ノ最小ノ徑(耗ニテ)
- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
- Aハ平板中該支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方釐珎ニテ)
- Cハ定數ニシテ左表ニ依ル

螺旋支柱ナルトキ	〇・四三
縦支柱ナルトキ	〇・五〇

前項ノ算式ヲ斜向支柱ニ適用スル場合ニ於テハ算式中ノCノ代リニ左ノC'ヲ用ウベシ

$$C' = C \times \sqrt{\frac{L}{H}}$$

- C'ハ前項ニ同シ
- Lハ斜向支柱ノ長サ(耗ニテ)
- Hハ斜向支柱ノ一端ニ於ケル平板ヨリ他端迄ノ距離(耗ニテ)

第六十八條 管板ヲ支持スベキ管支柱ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{527.2A}{A}$$

- Pハ制限汽壓(每平方釐珎ニテ)
- Aハ管支柱ノ最小橫截實面積(平方釐珎ニテ)
- A'ハ管板中該管支柱ノ支持スベキ部分ノ實面積(平方釐珎ニテ)

管支柱ノ厚サハ管支柱ガ焰管集ノ外周列ニ在ルモノナルトキハ六〇耗以上、其ノ他ノモノナルトキハ四・五耗以上ナルコトヲ要ス

管支柱ハ兩管板ニ挿込ミタル上之ヲ適當ニ擴張シ緊著スベシ

管支柱ノ燃燒室端ニハ母螺ヲ附スベカラズ

第六十九條 前二條ノ支柱ノ螺糸ハ成ルベク左表ニ依ルベシ

支柱ノ種類	螺距(耗)
螺旋支柱	二・〇以上 三・〇以下
縦支柱	四・〇以上 六・五以下
管支柱	二・五以上 三・五以下

第七十條 焰管ノ厚サハ成ルベク左ノ算式

ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナラザルモノト爲スベシ

$$T = \frac{PD}{700} + 2$$

- T ハ 烟管ノ厚サ(耗ニテ)
- D ハ 烟管ノ外徑(耗ニテ)
- P ハ 制限汽壓(毎平方厘疋ニテ)

第三節 水管汽罐及過熱器

第七十一條 水管汽罐ノ構造ハ本節ニ特ニ規定シタルモノノ外前節ノ規定ニ依ルベシ

第七十二條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ縦接合ハ胴ノ縦接合部ニ於ケル内徑ガ該接合部ニ於ケル胴板ノ厚サノ一〇〇倍未滿ナルトキハ累接ト爲スコトナク該部ノ横截内面ヲ圓形ナラシムベシ

第七十三條 水管汽罐ノ汽胴又ハ水胴ノ一部ヲ成ス管板ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = \frac{47.2 \times S \times (T-3)}{D} \times \frac{P-1}{P}$$

- P ハ 制限汽壓(毎平方厘疋ニテ)
- D ハ 胴ノ内徑(耗ニテ)
- T ハ 管板ノ厚サ(耗ニテ)
- S ハ 管板ノ抗張力(毎平方厘疋ニテ)

P ハ 胴ノ中心線ニ平行ニ測リタル管孔ノ心距(耗ニテ)

$$P = \frac{1,400(T-a)}{D} - 32$$

第七十四條 水管汽罐ノ胴、管寄等ニ設クル管孔ハ管ヲ緊密ニ取附ケ得ルモノト爲スベシ

第七十五條 水管汽罐ノ水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = C \times \left( \frac{T-2.5}{B} \right)^2$$

- P ハ 制限汽壓(毎平方厘疋ニテ)
- T ハ 水管ノ厚サ(耗ニテ)
- D ハ 水管ノ外徑(耗ニテ)
- a ハ 定數ニシテ左表ニ依ル

火焔若ハ高熱瓦斯ノ通路ニ直面スル管ニニ。巢端列又ハ其ノ次ノ列ノ管ナルトキ

其ノ他ノ管ナルトキ

水管ノ厚サハ八耗ヲ超ユルコトヲ得ズ水管ハ總テ擴張其ノ他ノ適當ナル方法ニ依リ之ヲ管板ニ緊密ニ取附ケ管端ハ管座ヨリ六耗以上突出セシムベシ

水管ハ脫出セザル様其ノ兩端ヲ固定スベシ單ニ其ノ端部ヲ喇叭形ニ擴張シテ固定シタル場合ニ於テハ端部ノ外徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノノ以上ト爲スベシ

$$D = 1.03d + 1.5$$

D ハ 水管端部ノ外徑(耗ニテ)

第七十六條 管寄其ノ他之ニ類似ノモノノ管ヲ取附ケザル平面部ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス

$$P = C \times \left( \frac{T-2.5}{B} \right)^2$$

- P ハ 制限汽壓(毎平方厘疋ニテ)
- T ハ 平面部ノ厚サ(耗ニテ)
- B ハ 内側支點間ニ於テ測リタル平面部ノ幅(耗ニテ)

C ハ 定數ニシテ左表ニ依ル

鍛鋼ナルトキ	五八三〇
鑄鋼ナルトキ	四六〇〇

管寄ノ管ヲ取附クル平面部ノ厚サハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$T = 0.47 \sqrt{Pd} + 0.5$$

T ハ 平面部ノ厚サ(耗ニテ)

d ハ 管孔ノ徑(耗ニテ)  
過熱器ノ管寄其ノ他火焔ノ放射熱ニ暴露シ又ハ高熱瓦斯ノ衝擊ヲ受ケ且使用中内部ニ蒸氣ノミヲ有スル管寄ノ厚サハ前二項ニ依リ算定シタルモノノ一・一二五倍ヨリ小ナルコトヲ得ズ

管寄ノ視孔部ハ蓋ヲ有效ニ取附ケ得ル様機械仕上ト爲スベシ此ノ場合該部分ノ厚サハ第一項ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ二・五耗ヲ減ズルコトヲ得但シ八耗未滿ト爲スコトヲ得ズ  
視孔ノ蓋ハ堅牢ナル構造ト爲シ取外及取附作業ヲ繰返スモ安全ヲ害スル虞ナキコ

トヲ要シ蓋ヲ螺釘ニ依リ取附クル構造ト爲ストキハ該取附螺釘ノ折損シタル場合ニ於テモ危險ナキモノト爲スベシ

第四節 汽罐附屬品

第七十七條 汽罐ニ接続スル管ニハ罐板ト接合スル部分ニ於テ接近シ易キ箇所ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第七十八條 汽罐ニハ徑四〇耗以上ノ發條式安全弁二箇以上ヲ備ヘ汽罐ノ制限汽壓毎平方厘二〇疋以下ナルトキハ其ノ合計面積ヲ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ヨリ小ナラザルモノト爲スベシ但シ安全弁ハ左ノ算式ニ依リ算定シタル面積ガ一九・五平方厘未滿ナルトキハ徑五〇耗以上ノ

K ハ 定數ニシテ左表ニ依ル

筒形汽罐又ハ直立汽罐	機關室密閉式強壓通風ヲ使用セズシテ石炭ノミヲ手焚スルモノ	六・一
水管汽罐	自然通風ニ依リ石炭ノミヲ手焚スルモノ	五・三
	其ノ他ノモノ	七・三
	其ノ他ノモノ	六・一

モノ一箇、一・二・五平方厘未滿ナルトキハ徑四〇耗以上ノモノ一箇ト爲スコトヲ得又先驅弁ヲ有スルモノノ徑ハ適當ニ之ヲ減ズルコトヲ得

$$A = K \times \frac{P+1}{H}$$

A ハ 安全弁ノ合計面積(平方厘ニテ)

H ハ 汽罐ノ受熱面積(平方米ニテ)ニシテ一面ガ火焔又ハ燃燒瓦斯ニ暴露シ反對ノ面ガ水ニ接觸スル部分ノ火焔又ハ燃燒瓦斯ニ暴露スル面ノ面積トス但シ筒形汽罐又ハ直立汽罐ニ在リテハ前管板ハ之ヲ除外シ且烟管ハ外徑ヲ基トシテ算定シ水管汽罐ニ在リテハ汽胴及水胴ハ之ヲ除外スルモノトス  
P ハ 汽罐ノ制限汽壓(毎平方厘疋ニテ)

汽罐ノ制限汽壓ヲ低下シタル爲安全弁ノ面積ガ前項ノ規定ニ適合セザルモノト爲リタル場合ニ於テ安全弁ガ第八十條第二項ノ規定ニ適合スルモノナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラズ管海官廳ノ見込ニ依リ之ヲ合格ト爲スコトヲ得

第七十九條 安全弁ノ弁匣ハ汽罐ニ直接取附ケ他ノ弁ニ共用スルコトヲ得ズ

安全弁ノ弁匣ノ蒸汽進入路ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ二分ノ一以上ト爲シ廢汽路及廢汽管ノ横截面積ハ安全弁ノ合計面積ノ一・二倍以上ト爲スベシ

廢汽路ニハ適當ナル排水装置ヲ設クベシ

安全弁ニハ弁ヲ同時ニ弁徑ノ四分ノ一以上開キ得ル揚弁装置ヲ設ケ其ノ把手ハ之ヲ適當ノ位置ニ導クベシ

安全弁發條ハ汽罐ノ制限汽壓ニ相當スル壓力ヲ加ヘタルトキ其ノ長サガ弁徑ノ四分ノ一以上短縮シ更ニ之ヲ弁徑ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノナルコトヲ要ス

第八十條 安全弁ハ汽罐ノ制限汽壓ノ一・

〇三倍以下ノ壓力ニ於テ自然ニ噴汽スル様調整スベシ  
安全弁ハ蒸汽弁ヲ閉チ充分ニ焚火シ水管汽罐ニ在リテハ數分間、其ノ他ノ汽罐ニ在リテハ一五分間以上噴汽セシムルモ汽壓ノ昇騰尙汽罐ノ制限汽壓ノ十分ノ一ヲ超エザルモノナルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ汽罐ニ適當ナル水準ヲ維持セシムルニ必要ナル程度ヲ超エ給水ヲ爲スコトヲ得ズ

汽罐ノ種類	裝置ノ種類及數	備
直立汽罐	硝子示面計一箇及驗面「コック」一組	徑五米未満ノ汽罐ニ在リテハ中一箇ヲ驗面「コック」ヲ以テ代用スルコトヲ得
筒形片面汽罐	硝子示面計二箇	一組ヲ以テ代用スルコトヲ得
筒形兩面汽罐	硝子示面計二箇及驗面「コック」二組	硝子示面計及驗面「コック」ハ夫々汽罐ノ各面ニ於テ他面ニ於ケル反對ノ位置ニ取附クベシ
水管汽罐	硝子示面計二箇	長サ四米ヲ超エル汽罐ニ對シテハ船體ニ對シテ配置シタル場合ニ於テハ兩端ニ近ク取附クベシ

前項ノ驗面「コック」ハ三箇ヲ以テ一組ト爲スベシ但シ徑一・五米未満ノ筒形汽罐又ハ高サ二・五米未満ノ直立汽罐ニ在リテハ二箇ヲ以テ一組ト爲スコトヲ得

第八十一條 蒸汽過熱器ト汽罐トノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置アルトキハ蒸汽過熱器ニ適當ナル逃出弁ヲ備ヘ之ヲ容易ニ操縱シ得ル揚弁装置ヲ設クベシ

第八十二條 汽罐ニハ左表ニ依リ罐内ノ水準面ヲ容易ニ知り得ベキ裝置ヲ互ニ近接セザル位置ニ備ヘ且筒形汽罐及直立汽罐ニハ燃燒室頂部ノ高サヲ適當ニ標示スベシ

第八十三條 汽罐ニハ焚口面ノ見易キ位置ニ壓力計一箇ヲ備フベシ焚口ガ汽罐ノ兩面ニ在ル場合ニ於テハ各焚口面ニ之ヲ備フベシ

第八十四條 汽罐ニハ正副二組ノ給水制限弁ヲ備フベシ

第八十五條 汽罐ニハ適當ノ位置ニ檢査弁又ハ檢査「コック」ヲ備フベシ但シ湖沼ノミヲ航行スル船舶ノ汽罐ニ在リテハ之ヲ備ヘザルコトヲ得

第八十六條 汽罐ノ放水弁又ハ放水「コック」ヨリ船外ニ通ズル放水管ハ内徑二〇釐以上ナルコトヲ要ス

二箇以上ノ汽罐ヲ備フル船舶ニ在リテ各汽罐ノ放水管ヲ一箇ノ共通管ニ接続セシムル場合ニ於テハ換縮不還弁ニ依リ各汽罐ノ連絡ヲ遮斷シ得ル裝置ト爲スベシ

第五節 汽罐ニ關スル雜則

第八十七條 汽罐ハ移動セザル様之ヲ船體ニ据附クベシ

第八十八條 汽罐ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ノ周圍ニハ相當ノ空積ヲ存スベシ

第八十九條 汽罐ハ之ヲ製造シタルトキ左

ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

一 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疋以下ナルトキハ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

二 汽罐ノ制限汽壓ガ每平方糎七疋ヲ超ユルトキハ其ノ一・五倍ニ每平方糎三・五疋ヲ加ヘタル壓力

第九十條 蒸汽過熱器ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第九十一條 汽罐ニ取附ケル弁「コック」、第八十二條末項ノ導管又ハ筒ハ之ヲ製造シタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第六節 給水裝置

第九十二條 主汽罐ノ給水裝置ハ正給水裝置及副給水裝置ヨリ成リ各裝置ハ汽機ヲ全力ニ於テ運轉スル場合ニ必要ナル給水能力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

第九十三條 正給水裝置ノ「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ該「ポンプ」ハ發條逃出弁ヲ備ヘタルモノニシテ其ノ數ハ二箇トシ各「ポンプ」ハ必要

ナル全給水ヲ爲シ得ルモノニシテ其ノ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ルモノト爲スベシ但シ長サ五〇米未満ノ船舶ノ機關ニ在リテハ正給水裝置ノ「ポンプ」ヲ一箇ト爲スコトヲ得

二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ於テ前項ノ給水「ポンプ」ヲ各主機ニ一箇宛配置シタルトキハ各「ポンプ」ガ雙方ノ温水溜ヨリ吸水シ得ル様裝置スベシ

正給水裝置ノ「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ之ニ自動調整裝置ヲ備フベシ

第九十四條 副給水裝置ノ「ポンプ」ハ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノニシテ温水溜及清水槽ヨリ吸水シ得ルモノナルコトヲ要ス但シ受熱面積二〇平方米未満ノ汽罐ノ副給水裝置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

給水「ポンプ」ノ吸水管中酸汽ノ際汽罐内ノ水ヲ循環セシムル爲汽罐ノ底部ヨリ吸

水スル管ハ之ヲ他ノ吸水管ト別箇ノモノト爲スベシ

第九十五條 補汽罐ニハ適當ナル正副二重ノ給水装置ヲ備フベシ但シ受熱面積二〇平方米未滿ノ補汽罐ノ副給水装置ハ之ヲ給水注射器ト爲スコトヲ得

第七節 排水、吸水、循環水及潤滑油ニ關スル裝置

第九十六條 正淦水「ポンプ」ガ主機ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ其ノ數ハ二箇トシ一箇ヲ使用中ト雖モ他ヲ解放シ得ル裝置ト爲スベシ但シ長サ五〇米未滿ノ船舶ノ機關ニ在リテハ一箇ト爲スコトヲ得

二箇ノ主機ヲ備フル船舶ニ在リテハ前項ノ淦水「ポンプ」ノ數ヲ各主機ニ付一箇ト爲スコトヲ得

正淦水「ポンプ」ガ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルルモノナルトキハ其ノ數ヲ一箇ト爲スコトヲ得

第九十七條 長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ前條ノ正淦水「ポンプ」ノ外獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル副淦水「ポンプ」ヲ備ヘ之ヲ淦

水管系ニ接続セシムベシ但シ副給水「ポンプ」ヲ以テ副淦水「ポンプ」ニ充ツルコトヲ得之ニ充ツル場合ニ於テハ第九十四條第一項ノ吸水管ト淦水吸引管トハ別箇ノモノト爲スベシ

第九十八條 淦水排水裝置ハ左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 各淦水「ポンプ」ハ手動「ポンプ」ノミニテ差支ナキ箇所ヲ除クノ外各艙、機關室及軸路ヨリ吸水シ得ル配置ト爲スコト

二 各獨立動力「ポンプ」ハ通常ノ操作狀態ニ於テ淦水管ノ最大徑ノ箇所ノ流速ガ毎分二二米以上トナル吸水能力ヲ有スルコト

三 獨立動力「ポンプ」中少クトモ一箇ハ他ノ淦水「ポンプ」ガ船體ノ他ノ箇所ヨリ吸水中ト雖モ直接機關室ヨリ排水シ得ル裝置ト爲スコト

四 機關室ニ於ケル淦水吸引管ハ之ヲ泥芥箱ニ接続シ泥芥箱ハ淦水溜ニ通スル成ルベク眞直ナル尾管及急速ニ閉閉シ得ル構造ノ蓋ヲ有シ且成ルベク機關室

床上ノ近寄り易キ場所ニ之ヲ設置スルコト但シ管海官廳ニ於テ船體ノ構造、吸引管ノ配置其ノ他ニ依リ差支ナシト認ムル箇所ニ限り吸引管端ニ附シタル芥除箱ヲ以テ泥芥箱ニ代用シ得ルコト

五 各艙及軸路ニ於ケル吸水管端ニハ吸水管ノ接合部ヲ取外サザルモ容易ニ掃除シ得ル構造ノ芥除箱ヲ備フルコト芥除箱ノ各孔ノ徑ハ一〇耗以下ニシテ孔ノ總面積ハ吸水管ノ横截面積ノ二倍以上ナルコト

第九十九條 循環水「ポンプ」ハ不還弁ヲ經テ機關室ノ成ルベク最低部ヨリ直接水淦ヲ吸引シ得ル裝置ト爲シ其ノ吸水管ノ內徑ハ該「ポンプ」ノ海水吸引管ノ內徑ノ三分ノ二以上ト爲スベシ

前項ノ不還弁ニハ其ノ鑄著キタル場合ニ備フル爲成ルベク適當ナル揚弁裝置ヲ備フベシ

第一百條 長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ海水ヲ吸引シテ甲板ニ送水シ且同時ニ船體ノ前後部ニ配水シ得ル獨立動力「ポンプ」ヲ備フベシ但シ副給水「ポンプ」又ハ副淦水「ポンプ」ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第一百一條 海水又ハ水槽ノ水ガ艙内又ハ機關室ニ流入シ若ハ一區畫ヨリ他區畫ニ流入スルコトヲ防止スル爲海水ヲ吸引シ得ル「ポンプ」ト淦水管系トノ連絡ハ不還弁又ハ淦水管系ト海水若ハ水槽ト同時ニ開口シ得ザル「コック」ニ依リ之ヲ爲スベシ

淦水配流箱ニ於ケル弁ハ總テ不還弁ト爲スベシ

淦水吸引管ヲ連絡スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板以上ノ近寄り易キ場所ニ之ヲ取附クベシ

淦水管ハ總テ水槽ノ充水又ハ排水ニ使用スル管ト區別スベシ

第一百二條 二重底又ハ水槽ヲ有スル船舶ハ獨立動力「ポンプ」ニ依リ二重底又ハ水槽ノ排水ニ適スル裝置ヲ備フベシ

第一百三條 長サ四〇米以上ノ船舶又ハ長サ三〇米以上ノ旅客船ニ在リテハ循環水「ポンプ」ニ依ラズシテ海水ヲ復水器ニ送り得ル裝置ヲモ備フベシ但シ獨立ノ動力ニ依リ動作セラルル循環水「ポンプ」二箇以上ヲ備ヘ其ノ吐出口ニ於テ互ニ連絡スル裝置アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第一百四條 相當ノ壓力ヲ以テ潤滑油ヲ循環

セシムルコトヲ要スル汽機ヲ備フル船舶ニ在リテハ常用動力潤滑油「ポンプ」ノ外該「ポンプ」中最大能力ノモノト同等ノ能力ヲ有シ且遲滯ナク使用シ得ル配置ト爲シタル豫備動力潤滑油「ポンプ」ヲ備ヘ且油冷却器ヲ備フルトキハ二様ノ冷却水送水裝置ヲ備フベシ

前項ノ豫備潤滑油「ポンプ」ハ管海官廳ニ於テ差支ナシト認ムルトキハ之ヲ手動「ポンプ」ト爲スモ妨ナシ

第一百五條 船外ヨリ吸水スル管ハ海水弁又ハ海水「コック」ニ連結シ海水弁又ハ海水「コック」ハ機關室床板以上ニ於テ之ヲ外板ニ取附クルカ又ハ床板上ニ達セシムル高サヲ有スル堅牢ナル脚筒ニ之ヲ取附クベシ

第一百六條 鋼船ノ最大吃水線ノ下部及其ノ附近ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ外板ニ取附クル螺釘ハ之ヲ外板ニ振込ムカ又ハ埋頭ト爲スベシ

第一百七條 第八十六條ノ放水管ハ外板ニ取附ケタル弁又ハ「コック」ニ連結スベシ前項ノ弁又ハ「コック」ハ其ノ閉閉狀態ヲ見易キモノト爲シ且「コック」ナルトキハ

之ヲ閉鎖スルニ非ザレバ其ノ閉閉把手ヲ取放チ得ザル裝置ト爲シ成ルベク之ヲ二重ニ備フベシ

鋼船ニ在リテハ前項ノ弁又ハ「コック」ハ外板ヲ貫通スル突出口ヲ備ヘ外面ニハ黃銅製又ハ青銅製ノ環ヲ取附クベシ

第一百八條 排水管ハ成ルベク近寄り易キ場所ニ於テ外板ニ取附ケタル排水弁又ハ排水「コック」ニ連結スベシ但シ長サ三〇米未滿ノ船舶ニ在リテハ最大吃水線以上ニ於テ船外ニ通ズル排水管ニ限り管海官廳ノ見込ニ依リ弁又ハ「コック」ヲ備ヘザルコトヲ得

第八節 管

第一百九條 汽管又ハ給水管ノ強力ニ對スル制限汽壓ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノトス但シ小徑ノ過熱汽管ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

$$P = \frac{(T-a)}{D} \times K$$

P ハ制限汽壓(每平方釐ニテ)  
D ハ管ノ內徑(釐ニテ)  
T ハ管ノ厚サ(釐ニテ)



及Kハ定數ニシテ左表ニ依ル

管ノ種類		K	
引拔鋼管	一・〇	四四〇	
鐵附鋼管	一・〇	三三〇	
常溫引拔鋼管	二・五	八四四	
高溫仕上無接合鋼管	三・〇	八四四	
鐵合鋼管	三・〇	六三三	
引拔鋼管	一・〇	三三三	
鐵附鋼管	一・〇	二六六	
常溫引拔鋼管	二・〇	七〇三	

第八十二條末項ノ導管中汽側ノモノノ強カニ對スル制限汽壓ハ前項汽管ノ例ニ依リ水側ノモノ及第八十六條ノ放水管ノ強カニ對スル制限汽壓ハ前項給水管ノ例ニ依ル

第一百十條 銅管ハ之ヲ彎曲スル場合ニ於テハ前條ニ依リ算定シタル厚サヨリ大ナル厚サノモノヲ用キ且管ノ中心線ニ於テ測リタル彎曲半徑ヲ管ノ外徑ノ二倍以上ト爲スベシ

第一百十一條 汽管、給水管、第八十二條末項ノ導管又ハ第八十六條ノ放水管ニ用ウル銅管ハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ

鋼管ニシテ工事ノ爲加熱シタルモノハ之ヲ取附クル前適當ニ熱處理ヲ爲スベシ

第一百十二條 汽管ハ伸縮ノ影響ヲ緩和スル樣適當ニ裝置スベシ

汽管ニハ適當ナル排水裝置ヲ備フベシ

減壓弁ヲ備フル場合ニ於テハ減壓蒸汽ノ側ニ適當ナル逃出弁ヲ備フベシ

第一百十三條 汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ少クトモ二箇ノ汽罐ヨリ汽笛、操舵汽機及發電汽機ニ送汽シ得ル裝置ト爲スベシ

第一百十四條 二二〇度以上ノ蒸汽ヲ通ズル弁匣、膨脹接手等ハ鑄鋼其ノ他ノ適當ナル材料ヲ以テ製造スルコトヲ要ス

第一百十五條 管ハ振動ヲ防止スル爲帶金其ノ他ノ方法ニ依リ適當ニ之ヲ取附クベシ

第九節 給水、排水其ノ他ノ裝置ノ水壓試驗

第一百十六條 給水「ポンプ」ノ水筒ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ汽罐ノ制限汽

壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル弁、「コック」給水加熱器、給水濾器等ニシテ給水ノ壓力ヲ受クル部分ハ之ヲ製造シ仕上ゲタルトキ汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

給水「ポンプ」ノ送水側ニ於ケル管ハ鑄ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ二・五倍ノ壓力

鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ四・〇倍ノ壓力

第一百十七條 主汽管ハ鑄ヲ附シ仕上ヲ爲シタルトキ左ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

銅管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ二倍ノ壓力

鋼管ナルトキ 汽罐ノ制限汽壓ノ三倍ノ壓力

第一百十八條 循環水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎四疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百十九條 抽氣「ポンプ」ノ氣筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百二十條 潤滑油「ポンプ」ノ油筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力ヲ以テ試驗スベシ

第一百二十一條 浚水「ポンプ」ノ水筒又ハ扇車匣ハ之ヲ製造シ削仕上ヲ爲シタルトキ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第一百二十二條 最大吃水線以下ノ外板ニ取附クル弁匣、「コック」又ハ第八十五條ノ脚筒ハ之ヲ製造シタルトキ每平方糎二疋ノ壓力ヲ以テ水壓試驗ヲ執行スベシ

第十節 燃油裝置

第一百二十三條 本節ノ規定ハ「エーベル」式密閉試驗ニ依リ引火點六五度以上ノ燃料油ヲ汽罐ニ於テ燃燒スル裝置ヲ有スル船舶ニ之ヲ適用ス

第一百二十四條 汽罐ニハ適當ナル防熱裝置ヲ施シ且之ト油槽ノ側壁又ハ二重底頂板トハ適當ノ間隔ヲ保タシムベシ

第一百二十五條 油ノミヲ燃燒スル汽罐ニ在リテハ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ設クルコトヲ得ズ

隨時ニ石炭又ハ油ヲ燃燒シ得ル裝置ヲ備フル汽罐ニ在リテ煙突又ハ煙路内ニ堰板ヲ有スルトキハ該堰板ヲ全開シ得ル構造ト爲シ且全開シタルトキハ不慮ニ開度ヲ變更スル虞ナキモノト爲スベシ

第一百二十六條 噴油「ポンプ」、油濾器及燃料油加熱器ハ充分ナル能力ヲ有シ且隨時使用シ得ルモノニ組以上ヲ備フベシ但シ補汽罐ニ在リテハ之ヲ一組ニ止ムルコトヲ得

噴油「ポンプ」ハ吸油側及送油側ニ弁又ハ「コック」ヲ附シ且送油側ニ有效ナル逃出弁ヲ備ヘ之ヨリ逃シタル油ヲ該「ポンプ」ノ吸油側ニ導入スル裝置ト爲スベシ

燃油裝置ヲ有スル汽罐二箇以上ヲ備フル船舶ニ在リテハ噴油「ポンプ」ノ送油管ヲ配油弁匣ニ接続スルカ又ハ各汽罐ニ對スル送油管ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

噴油器、噴油「ポンプ」、加熱器及油濾器等ヨリノ漏油ニ對シテハ適當ナル油受ヲ設クベシ

第一百二十七條 噴油「ポンプ」及之ニ接続スル管系ハ給水「ポンプ」、浚水「ポンプ」又ハ脚筒水「ポンプ」及此等ニ接続スル管系ト兼用スルコトヲ得ズ

油管ハ總テ清水管ト兼用スルコトヲ得ズ

第一百二十八條 噴油「ポンプ」ノ送油側ニ於ケル油管ハ無接合鋼管トシ其ノ管鑄ハ之ヲ機械仕上ト爲シ且成ルベク直接接合ト爲シ接合材ヲ用ウル場合ニ於テハ高溫ノ油ノ滲透セザル薄キモノヲ用ウベシ

前項以外ノ油管ハ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ

油管ハ機關室ニ於テハ檢査及修繕ニ便宜ナル位置ニ之ヲ取附クベシ

第一百二十九條 噴油「ポンプ」ノ動力裝置ハ其ノ所在區畫室ニ於テ又該區畫室ノ失火ノ際ニハ接近シ得ベキ他ノ場所ニ於テ之ヲ操縱シ得ルモノナルコトヲ要ス

第一百三十條 油槽ニハ硝子製示面計ヲ取附クルコトヲ得ズ但シ厚硝子板ヲ備フルモノ又ハ自働閉塞式ノ弁若ハ「コック」及適當ノ硝子保護裝置ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

第三百一十一條 燃料油槽ト脚筒水槽トニ兼

用スル區畫室二箇以上ヲ有スル船舶ニ在リテハ移油「ポンプ」ニテ該區畫室中ノ一室ヨリ吸油中脚荷水「ポンプ」ニテ他室ノ排水ヲ爲シ得ル装置ト爲スベシ但シ容積大ニシテ屢補充スルヲ要セザル澄油槽又ハ常用油槽ヲ備フルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラズ

深水槽ヲ貨物艙、脚荷水槽又ハ燃料油槽ニ兼用スル船舶ニ在リテハ該槽ニ貨物ヲ積載スル場合脚荷水及燃料油ノ注入管並ニ吸出管ニ、該槽ヲ燃料油槽又ハ脚荷水槽トシテ使用スル場合溢水吸出管ニ盲蓋ヲ取附ケ得ル装置ト爲スベシ

第百三十二條 移油管ニハ機關室又ハ「ポンプ」室隔壁ノ内側ニ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ移油「ポンプ」ニハ之ヲ解放スル場合移油管ト遮斷シ得ル様其ノ吸油側ニ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第百三十三條 二重底ヲ除クノ外燃料油槽ヨリ吸油スル管ニハ槽壁ニ於テ弁又ハ「コック」ヲ備ヘ其ノ所在區畫ノ失火ノ際接近シ易キ他ノ場所ヨリ開閉シ得ル装置ト爲スベシ

燃料油ヲ積載スル船首艙又ハ船尾艙ヨリ吸油スル管ニ在リテハ前項ノ弁又ハ「コック」ハ之ヲ該艙ノ内壁ニ附スベシ

第百三十四條 二重底ヲ有スル船舶ニ在リテハ成ルベク澄油槽及常用油槽ノ底部附近ヨリ燃料油ヲ二重底ニ導ク管ヲ設ケ槽ニ接続スル箇所ニ於テ之ニ前條ノ弁又ハ「コック」ヲ備フベシ

第百三十五條 機關室内ノ油槽ノ底面又ハ側壁ニ附スル充油管ニハ底面又ハ側壁ニ於テ第百三十三條ノ弁若ハ「コック」ヲ備フルカ又ハ不還弁ヲ備フベシ但シ充油管ヲ側壁ノ頂部ニ附スルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第百三十六條 機關室内ノ油管ニ附スル弁又ハ「コック」ハ機關室床板以上ニ於テ開閉シ得ルモノト爲スベシ

汽中ニ於ケル油ノ有無ヲ検査シ得ル様之ヲ驗水槽ニ導クベシ  
燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管ハ之ヲ鋼管又ハ鐵管ト爲スベシ  
第百三十九條 機關室ニ於ケル溢水吸入管ニハ鉛管ヲ使用スルコトヲ得ズ  
第百四十條 燃油裝置ノ各部分ハ左ノ壓力ヲ以テ之ヲ試驗スベシ  
一 噴油「ポンプ」ノ油筒又ハ之ニ附屬スル弁ハ常用最大壓力ノ二倍ノ壓力  
二 噴油「ポンプ」ノ送油弁ヨリ噴油器ニ至ル管、燃料油加熱器及其ノ附屬具ハ常用最大壓力ノ二倍ト毎平方糎二八瓩トノ中大ナル壓力  
三 前號以外ノ油管ニシテ機關室ニ在ルモノハ毎平方糎二瓩  
四 燃料油ト接觸スル加熱用蒸氣管ハ常用最大汽壓ノ二倍ノ壓力  
前項第一號ニ掲グルモノノ試驗ハ製造シ前仕上ヲ爲シタルトキ、第二號乃至第四號ニ掲グルモノノ試驗ハ船内取附後之ヲ執行スベシ

第四章 發動機ヲ備フル船舶ノ機關

第一節 發動機

第百四十一條 發動機ハ容易ニ推進器ヲ反轉セシメ且船舶ニ充分ナル後退力ヲ有セシメ得ルモノナルコトヲ要ス

軸馬力三〇〇ヲ超ユル發動機ハ成ルベク自己反轉式ノモノト爲スベシ

軸馬力六〇ヲ超ユル發動機ニシテ「クラツチ」ヲ用キ推進器ヲ反轉スルモノニハ適當ナル整速裝置ヲ備フベシ

第百四十二條 徑二五〇糎以上ノ氣筒ニシテ最大壓力毎平方糎三五瓩以上ノモノニハ取扱者ニ危害ヲ及ボス虞ナキ位置ニ適當ナル安全弁又ハ逃出弁ヲ備ヘ最大壓力ノ一・四倍以下ノ壓力ニ於テ逃氣スル様調整スベシ

第百四十三條 輕油、燈油、揮發油又ハ瓦斯ヲ燃料トスル單動發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎一八瓩以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$d = \sqrt[3]{\frac{P \cdot D}{S}}$   
d ハ軸ノ徑(糎ニテ)  
D ハ氣筒ノ徑(糎ニテ)  
S ハ行長(糎ニテ)  
C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

機動發程衝	二				四				種類ノ機動發
	一	二	三	四	一	二	三	四	
八	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	氣筒數
七	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	「クランク」軸
六	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	甲種機關
五	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	乙種機關
四	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	丙種機關
三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	甲種機關
二	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	乙種機關
一	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	〇・三三三	丙種機關
									中間軸
									第一種螺旋軸
									第二種螺旋軸

第四百四十四條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎一八疋ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乘ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$K = \sqrt{\frac{P}{10}}$$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(毎平方糎疋ニテ) 第四百四十五條 重油ヲ燃料トスル燒球式ニ衝程單働發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎二五疋以下ノモノノ鍛鋼製ノ軸ノ寸法ハ左ノ各號ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

一 「クランク」軸ノ徑

$$d_c = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (AS + BL)}{100}}$$

d<sub>c</sub> ハ「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離(耗ニテ)

A 及 B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置						甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關	
	一	二	三	四	五	六	A	B	A	B
一			人	+	*	*	二七五	二六九	二三六	二三一
二		L	人	+	*	*	二七五	二六九	二三六	二三一
三	人	人	人	+	*	*	三〇三	二六八	二六〇	二三〇
四			人	+	*	*	三〇三	二六八	二六〇	二三〇
五			*	*	*	*	三八八	二五〇	三三三	二一四
六			*	*	*	*	三八八	二五〇	三三三	二一四

二 一体型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サ

$$b \geq 0.417d_c$$

d<sub>c</sub> ハ前號ノ規定ニ依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)

b ハ腕ノ幅(耗ニテ)

t ハ腕ノ厚サ(耗ニテ)

三 推力軸、中間軸又ハ螺旋軸ノ徑

$$d = C \sqrt[3]{D^2 S}$$

d ハ軸ノ徑(耗ニテ)

D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)

S ハ行長(耗ニテ)

C ハ定數ニシテ左表ニ依ル

氣筒數	「クランク」ノ配置		C		第一種螺旋軸		第二種螺旋軸	
	一	二	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關	甲種機關又ハ乙種機關	丙種機關
一			〇・二二〇	〇・二一八	〇・二五五	〇・二四一	〇・二六九	〇・二五五
二	L		〇・二二〇	〇・二一八	〇・二五五	〇・二四一	〇・二六九	〇・二五五
三	L	L	〇・二二九	〇・二二六	〇・二八六	〇・二七二	〇・三〇三	〇・二八八

三		四		五		六	
人	+	+	+	+	+	+	+
0.287	0.304	0.321	0.338	0.355	0.372	0.389	0.406
0.272	0.289	0.306	0.323	0.340	0.357	0.374	0.391
0.257	0.274	0.291	0.308	0.325	0.342	0.359	0.376
0.242	0.259	0.276	0.293	0.310	0.327	0.344	0.361
0.227	0.244	0.261	0.278	0.295	0.312	0.329	0.346
0.212	0.229	0.246	0.263	0.280	0.297	0.314	0.331
0.197	0.214	0.231	0.248	0.265	0.282	0.299	0.316
0.182	0.199	0.216	0.233	0.250	0.267	0.284	0.301
0.167	0.184	0.201	0.218	0.235	0.252	0.269	0.286
0.152	0.169	0.186	0.203	0.220	0.237	0.254	0.271
0.137	0.154	0.171	0.188	0.205	0.222	0.239	0.256
0.122	0.139	0.156	0.173	0.190	0.207	0.224	0.241
0.107	0.124	0.141	0.158	0.175	0.192	0.209	0.226
0.092	0.109	0.126	0.143	0.160	0.177	0.194	0.211
0.077	0.094	0.111	0.128	0.145	0.162	0.179	0.196
0.062	0.079	0.096	0.113	0.130	0.147	0.164	0.181
0.047	0.064	0.081	0.098	0.115	0.132	0.149	0.166
0.032	0.049	0.066	0.083	0.100	0.117	0.134	0.151
0.017	0.034	0.051	0.068	0.085	0.102	0.119	0.136

第四百四十六條 前條ノ發動機ニシテ氣筒内ノ最大壓力毎平方糎二五冠ヲ超ユルモノノ鍛鋼製ノ軸ノ徑ハ前條ノ規定ニ依リ算定シタルモノニ左ノ係數Kヲ乗ジタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$K = \frac{1}{1 + (0.02P - 0.5)}$

P ハ氣筒内ノ最大壓力(毎平方糎冠ニテ) 前項ノ發動機ノ鍛鋼製ノ一體型「クランク」軸ノ腕ノ幅又ハ厚サハ前項ノ規定ニ

依リ算定シタル「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)ヲdcニ充テ前條第二號ノ算式ヲ用キ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

第四百四十七條 「ディーゼル」式發動機ノ鍛鋼製ノ「クランク」軸ノ徑ハ左ノ算式ニ依リ算定シタルモノヨリ小ナルコトヲ得ズ

$$d_o = \sqrt[3]{\frac{D^2 \times (A_1 P + B_1 P)}{1,000}}$$

d<sub>o</sub> ハ「クランク」軸ノ徑(耗ニテ)  
 D ハ氣筒ノ徑(耗ニテ)  
 S ハ行長(耗ニテ)  
 L ハ「クランク」ノ兩側ニ於ケル軸受金内側間ノ距離(耗ニテ)  
 P ハ氣筒内ノ最大壓力(毎平方糎冠ニテ)  
 P ハ氣筒内平均有效圖示壓力(毎平方糎冠ニテ)  
 A 及 B ハ定數ニシテ左表ニ依ル

一二衝程單働式ナルトキ							
氣筒數	「クランク」ノ配置	甲種機關又ハ乙種機關		丙種機關			
一	二	三	四	A	B	A	B
一	一	一〇・八六	一〇・八六	一六〇	一六〇	九・三三	一・三三
二	人	一二・六〇	一二・六〇	一五二	一六〇	九・三三	一・三三
三	+	一三・八三	一三・八三	一四八	一五二	一〇・八〇	一・三〇
四	+	二二・三三〇	二二・三三〇	一二二	一四八	一九・九六	一・二七
五	*	一四・五一	一四・五一	一四五	一四八	一二・四五	一・二四
六	*	一五・二二	一五・二二	一四三	一四五	一二・九七	一・二三
七	*	二〇・〇〇	二〇・〇〇	一三一	一四三	一七・一五	一・一一
	人	二四・一〇	二四・一〇	一二二	一四三	二〇・六七	一・〇四
	*	一五・八〇	一五・八〇	一四二	一四三	一三・五五	一・一一